

令和2年度 港北区 区民意識調査 報告書



©横浜市港北区ミズキー

令和2年 11 月
横浜市港北区役所

はじめに

港北区は、全国の 20 政令指定都市の全ての行政区の中で最も多い約 35 万人の人口で、横浜市全体では人口減少が見込まれる中、今後もさらに人口が増える見込みとなっています。また、区内では相鉄・東急直通線の開通や新綱島駅（仮称）周辺の再開発をはじめとした大きなまちの変化が予定されています。

こうした中、新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延が、これまでの状況を大きく変化させました。市民生活への影響は長期化しており、「新たな生活様式」の実践が求められています。

さらに、生産年齢人口の減少や超高齢化社会の進展による社会保障経費の増加、公共施設の保全・更新費への更なる対応など、財政状況は今後一層厳しさを増していくなかで、将来的な課題を踏まえた持続可能な行政運営を行っていく必要があります。この危機的状況において、地域の総合行政機関として区役所が果たすべき役割は、より一層高まっていると言えます。

そこで、より多様化する行政ニーズを的確に把握するために、四年に一度となる区民意識調査を今年 5 月から 6 月にかけて実施いたしました。本調査は、将来を見据えた課題の把握やデータに基づく効率的・効果的な事業を組み立てる基礎材料となってきます。

今回の調査では、区民の生活意識や生活構造を明らかにするという視点で、区民の日常生活を意識と行動の両面から捉える設問としたほか、設問数を厳選するなど、回答のしやすさにも配慮しました。

ご多用中のところ、調査にご協力いただきました皆様には、厚くお礼申し上げます。

令和 2 年 11 月

横浜市港北区役所

令和2年度 港北区 区民意識調査 報告書 目次

1. 調査の概要	1
2. 調査回答者の主な属性	5
3. 調査結果の概要・分析	19
(1) 港北区内での継続居住意向について	
(2) 公共サービスについて	
(3) 区役所の情報発信について	
(4) 地域でのつながり・助け合いなどについて	
(5) 子育てについて	
(6) 学校について	
(7) 多文化共生について	
(8) 防災について	
(9) 健康について	
(10) 買い物について	
(11) ペットについて	
(12) 自由記述について	
4. 調査結果の地区別概要・分析	85
(1) 大倉山地区	
(2) 大曽根地区	
(3) 篠原地区	
(4) 菊名地区	
(5) 城郷地区	
(6) 日吉地区	
(7) 新吉田・新吉田あすなろ地区	
(8) 高田地区	
(9) 樽町地区	
(10) 綱島地区	
(11) 新羽地区	
(12) 師岡地区	
5. 調査票	137

1. 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、港北区民の皆様の港北のまちや区政に対する意識や期待、生活に関する考え方などを伺い、港北区のこれからの施策を策定する資料にするなど、今後の区政運営に役立てることを目的としています。

(2) 調査方法

本調査は、「① 郵送調査（郵送依頼郵送回収と郵送依頼ネット回答のいずれか）」と「② インターネット登録モニターによるWEB調査」の、異なる調査方法の併用で実施しました。

(3) 調査期間

① 郵送調査（郵送依頼郵送回収と郵送依頼ネット回答のいずれか）

令和2年5月20日(水)から令和2年6月19日(金)まで

（但し、ネット回答は6月17日(水)までで締め切り）

② インターネット登録モニターによるWEB調査

令和2年6月10日(水)から令和2年6月12日(金)まで

(4) 調査対象者

① 郵送調査（郵送依頼郵送回収と郵送依頼ネット回答のいずれか）

港北区内在住の18歳以上の男女、3,000名を抽出して、調査票を郵送して調査依頼。

（住民基本台帳から、コンピューターにより無作為抽出）

② インターネット登録モニターによるWEB調査

ネットリサーチ会社の登録モニターの中から、港北区内在住の18歳以上の男女を対象に、最終的な有効回答者が400名以上確保できるよう、調査画面を配信して調査依頼。

(5) 有効回答数

① 郵送調査（郵送依頼郵送回収と郵送依頼ネット回答のいずれか）

1,819件（郵送回収分：1,382件、ネット回答分：437件）

※有効回収率60.6%（郵送回収分：46.1%、ネット回答分：14.6%）

*郵送回収分では、「無回答返送」等の票を有効回答から除外しました。

*ネット回答分では、「同一整理番号による重複回答」の票を有効回答から除外しました。

*なお、同一回答者による「郵送回収分」と「ネット回答分」の重複回答は出現しませんでした。

② インターネット登録モニターによるWEB調査

412件

*モニターWEB調査においては、無効票に値するものは出現せず、回答票全てを有効票としています。

※なお、全体集計は、上記①と②を合算した有効回答数「計2,231件」で実施しており、本報告書に掲載しているデータやコメントも、この全体集計の結果をベースに作成されています。

※各項目の比率(%)は、四捨五入されています。そのため、内訳と合計が一致しない場合があります。

2. 調査回答者の主な属性

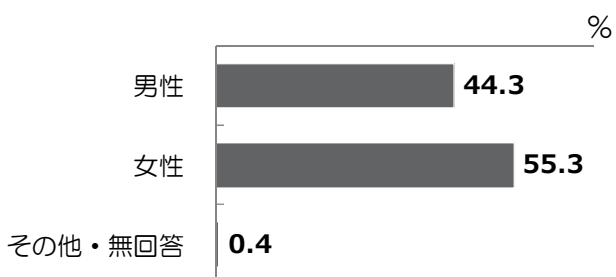
2 調査回答者の主な属性

<フェイスシート関連項目>

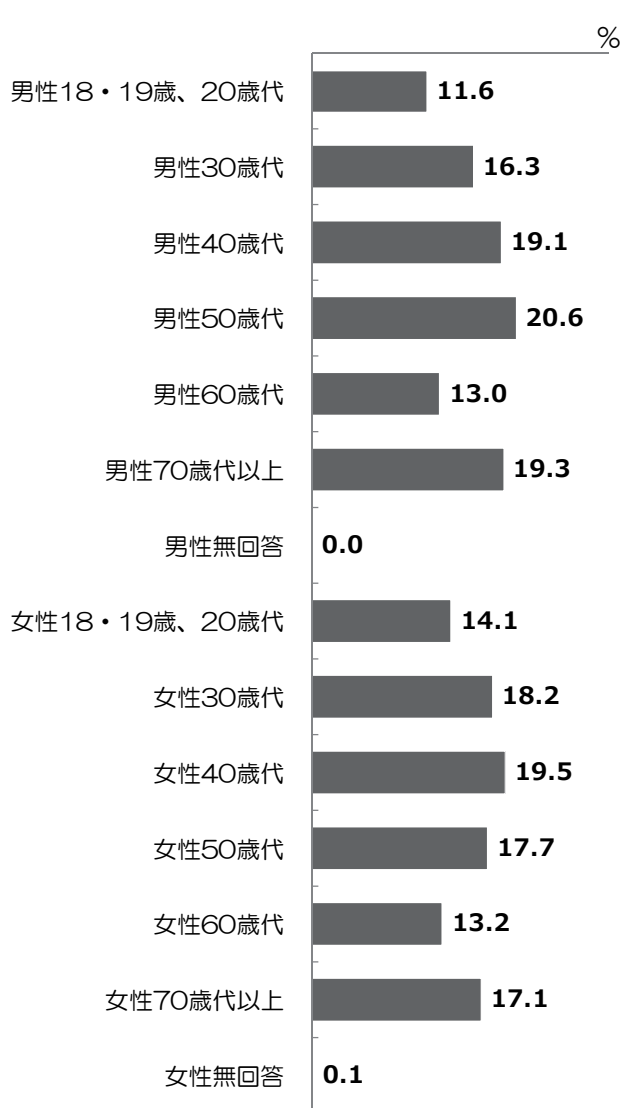
【性別と年代、及び性別×年代】（問 24&問 25、問 24×問 25）

- ・女性が 55.3%と半数を超えています。
- ・年代別にみると、「40 歳代」と「50 歳代」の回答が多く、30 歳代から 50 歳代までの回答が約半数を占めています。

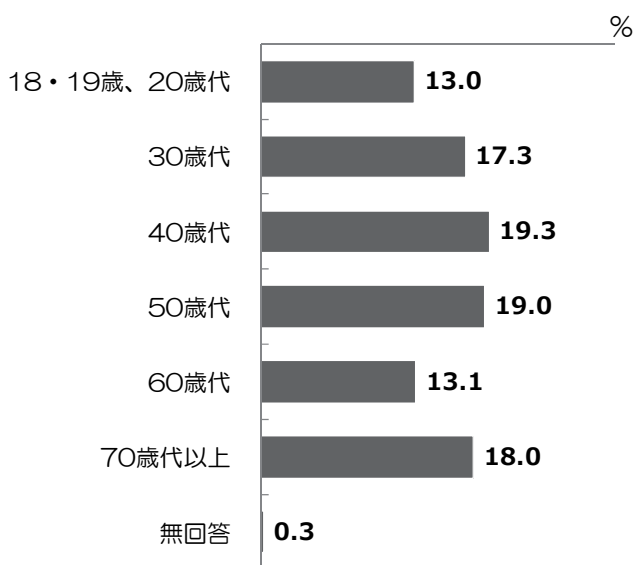
問 24. 性別（〇は1つだけ） [N=2,231]



問 24.性別×問 25.年代 [N=2,231]

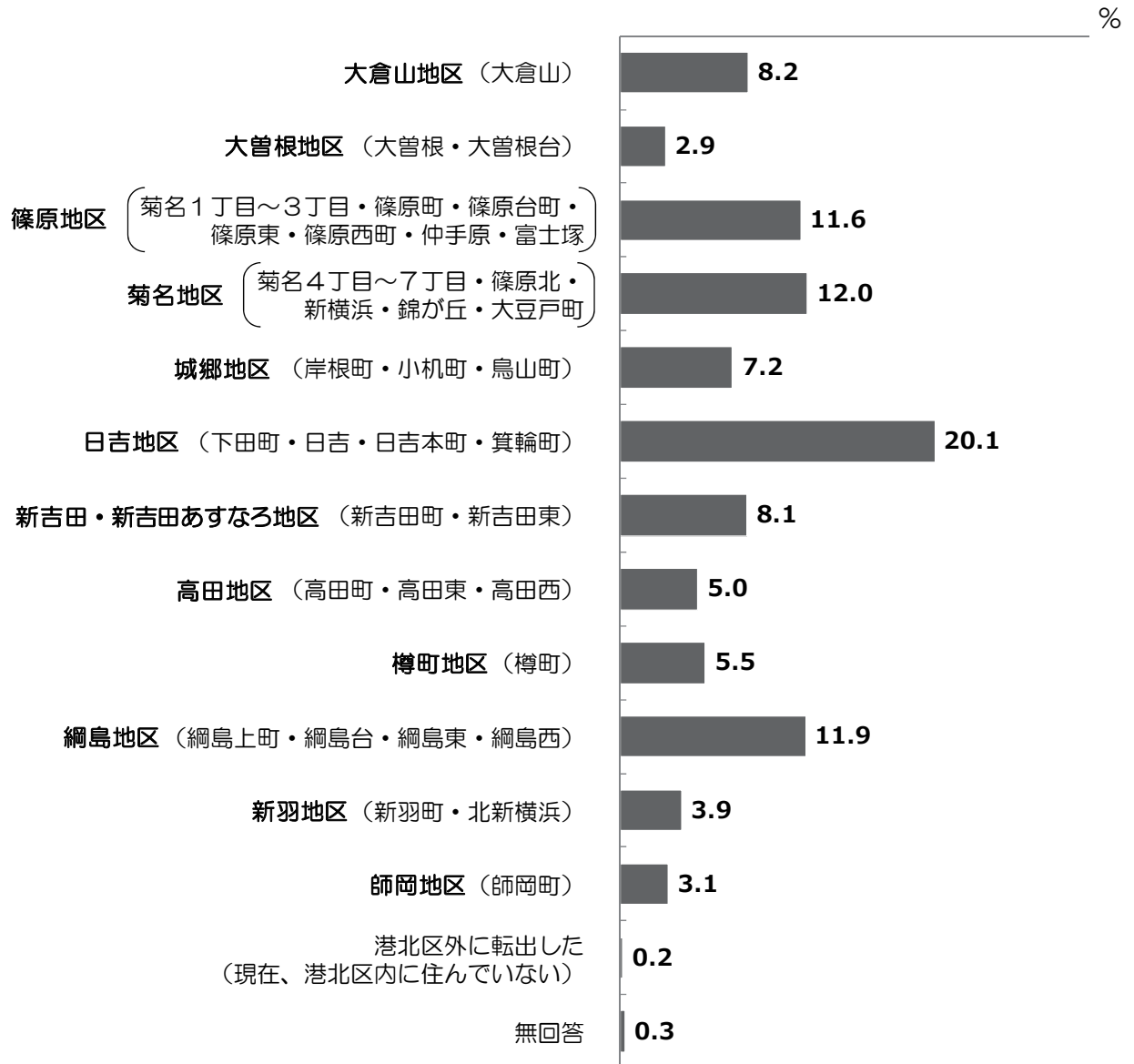


問 25. 年代（〇は1つだけ） [N=2,231]



【居住地区（居住町丁名から分類）】（問 26）

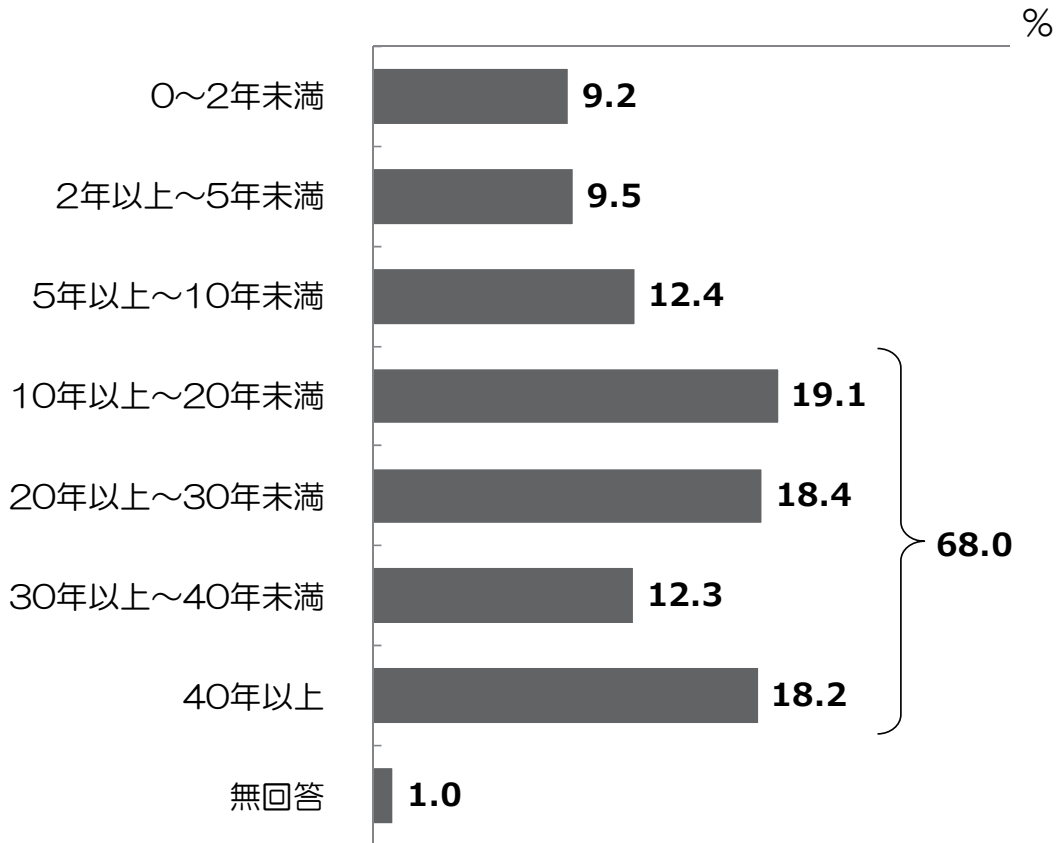
問 26. お住まいの町名（○は1つだけ） [N=2,231]



【港北区内居住年数】（問1）

- 港北区の居住年数は、「10年以上～20年未満」が19.1%で最も多く、「20年以上～30年未満」が18.4%、「40年以上」が18.2%でそれに次いでいます。
- 10年以上の居住年数は、68.0%と約7割となり、居住年数の長い人が多いです。

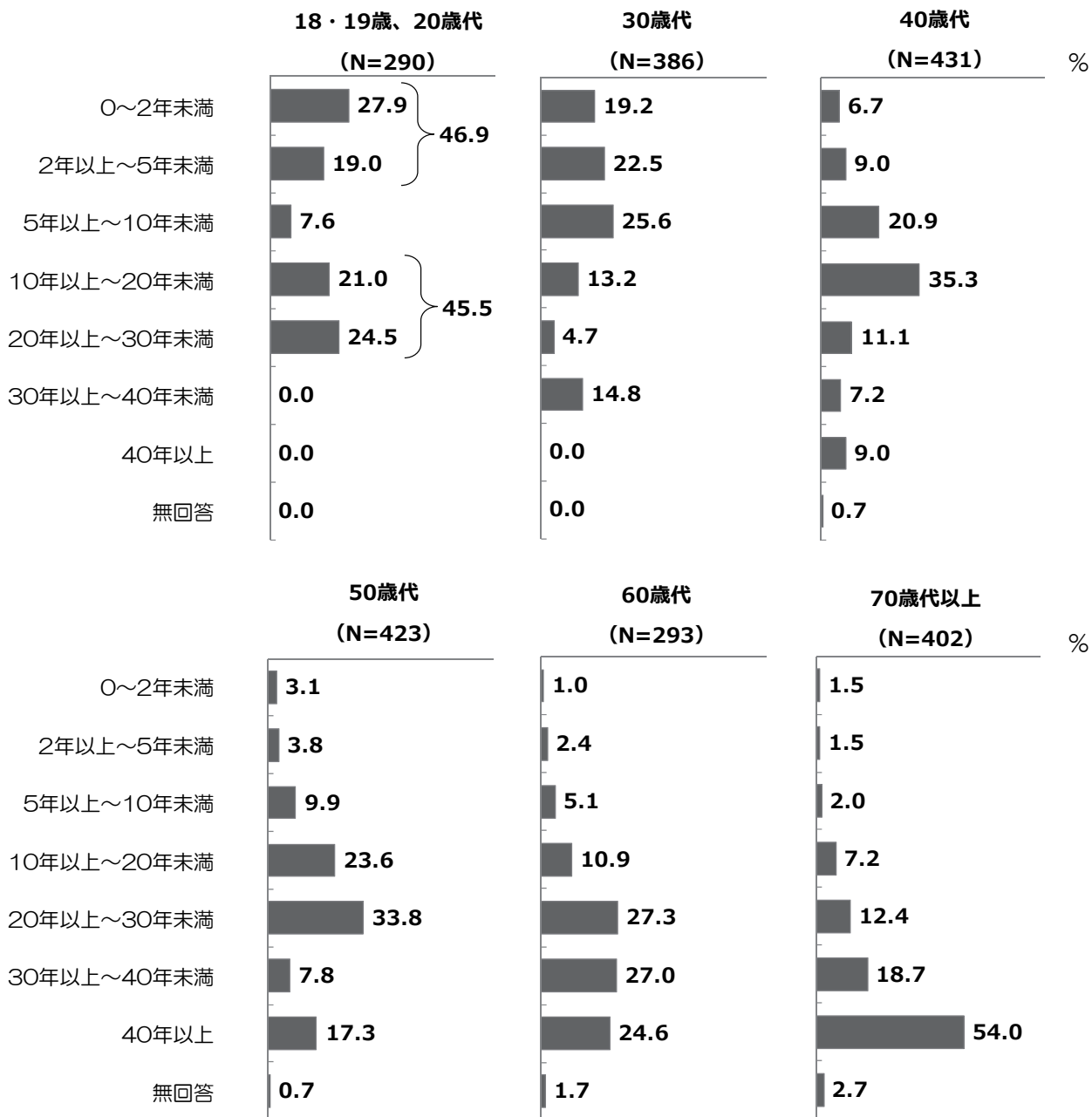
問1. あなたは、港北区内に何年くらいお住まいですか。（〇は1つだけ） [N=2,231]



[港北区内居住年数（問1）×年代]

- 18・19歳、20歳代は、居住年数が「5年未満」と「10年以上」が、それぞれ4割半ばいます。
- 30歳代以上は年代が上がるにつれて、居住年数が長くなっています。

年代別



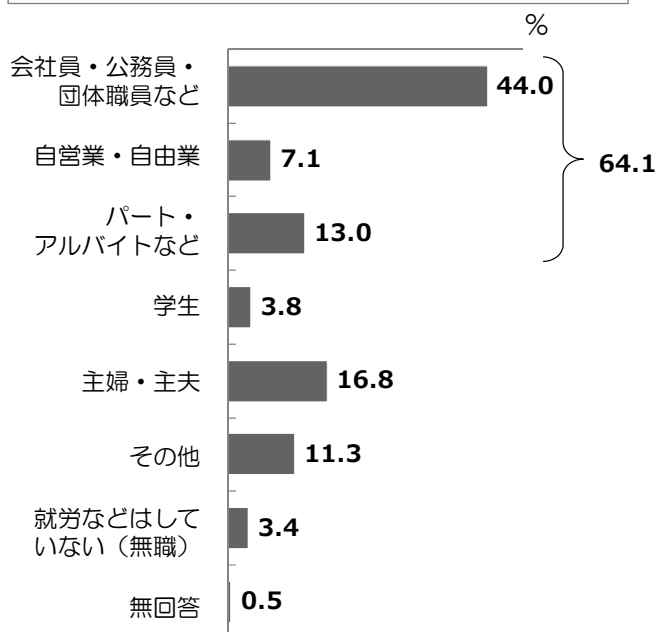
【対象者本人の職業】（問 27-1）

- ・対象者本人の職業は、「会社員・公務員・団体職員など」が 44.0%で最も多く、「主婦・主夫」が 16.8%、「パート・アルバイトなど」が 13.0%でそれに次いでいます。
- ・「会社員・公務員・団体職員など」と「自営業・自由業」、「パート・アルバイトなど」を合わせると、64.1%と5割を超えています。

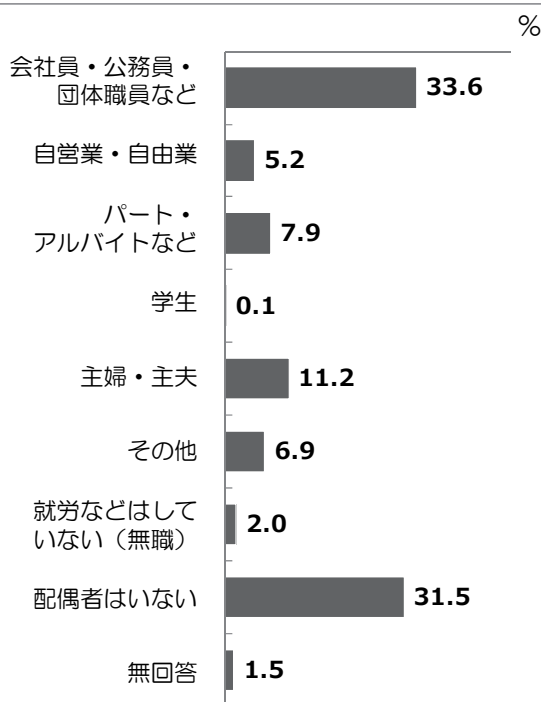
【対象者の配偶者の職業】（問 28）

- ・対象者の配偶者の職業は、「会社員・公務員・団体職員など」が 33.6%で最も多く、「主婦・主夫」が 11.2%、「パート・アルバイトなど」が 7.9%でそれに次いでいます。（「配偶者はいない」を除く）

問 27-1. あなたのご職業（○は1つだけ）
[N=2,231]

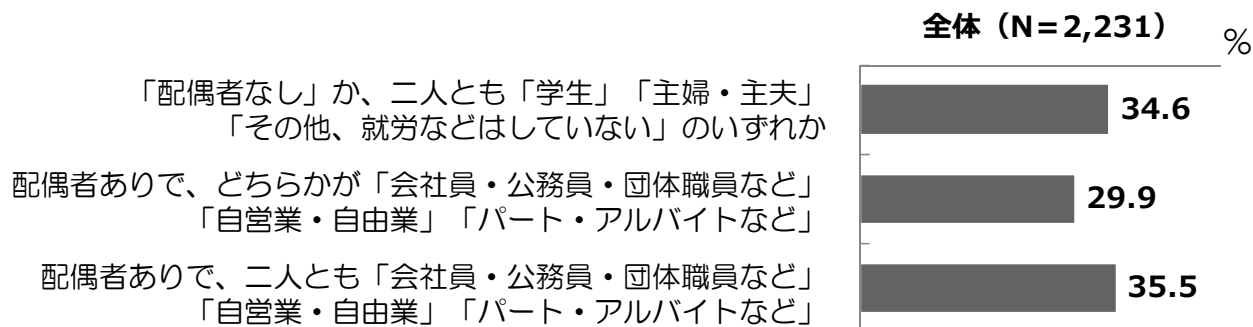


問 28. 配偶者のご職業（○は1つだけ）
[N=2,231]



[対象者本人の職業（問 27-1）×対象者の配偶者の職業（問 28）]

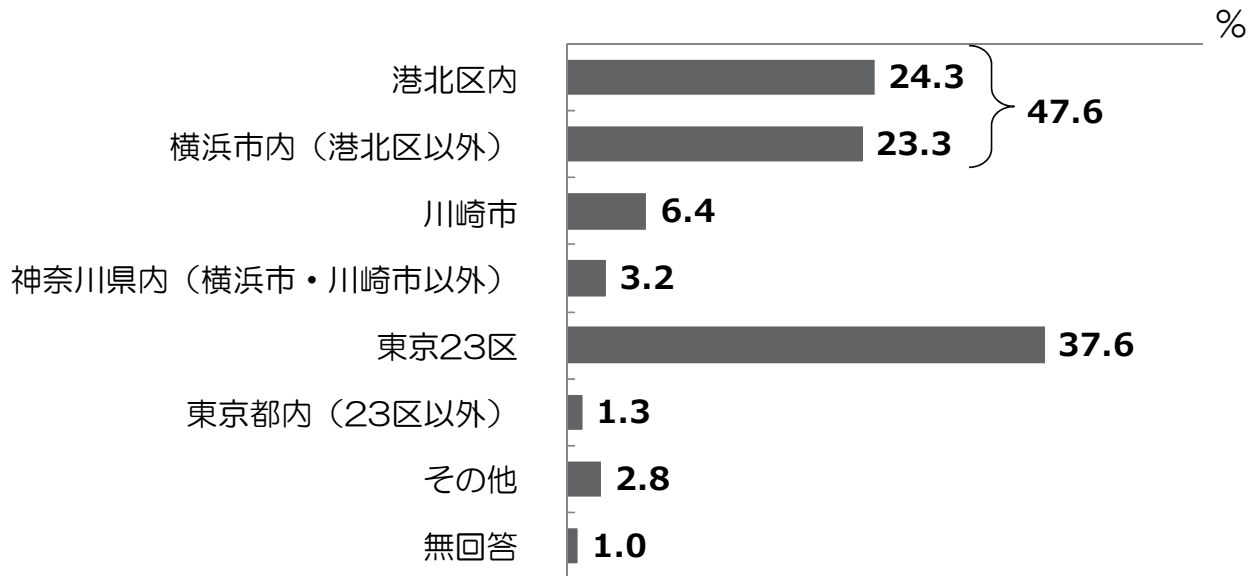
- ・共働きの人（二人とも「会社員・公務員・団体職員など」「自営業・自由業」「パート・アルバイトなど」）は、35.5%となっています。



【有職者及び学生の主な通勤・通学場所】（問 27-2）

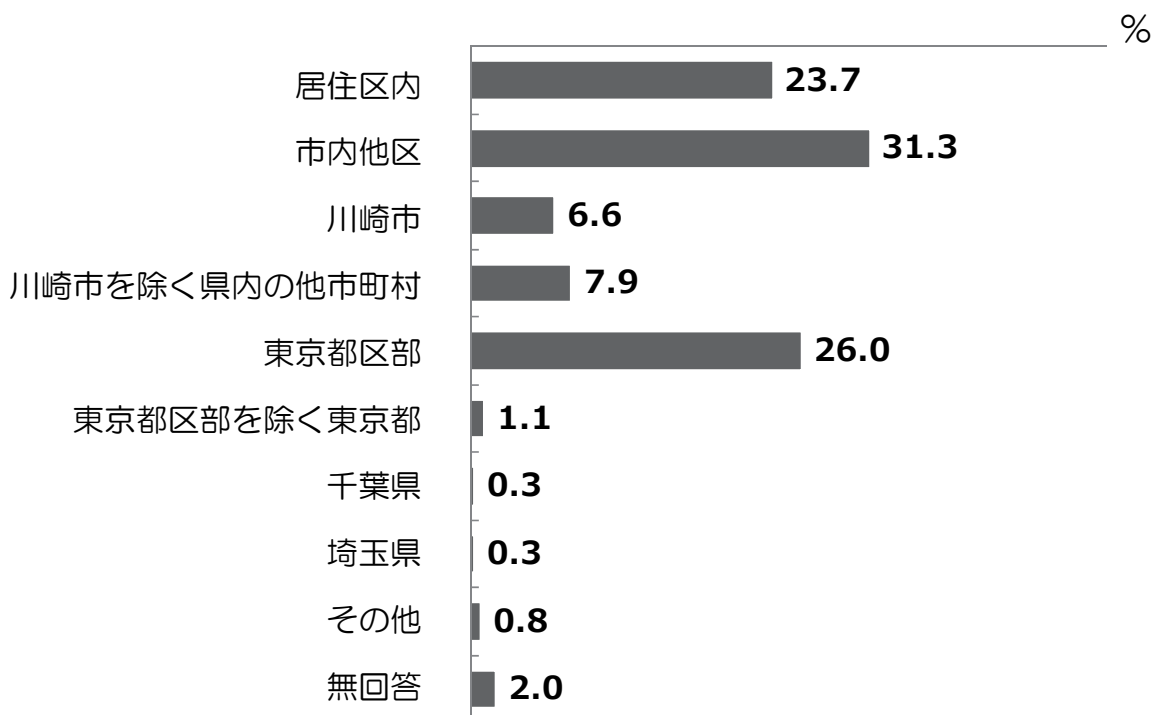
- ・有職者及び学生の主な通勤・通学場所は、「横浜市内」が5割弱となっており、「港北区内」はそのうち半数程度となっています。
- ・「東京 23 区」が 37.6%で、市民意識調査（令和元年度）の「東京 23 区」（26.0%、自営業・学生は対象外）と比べ、多くなっています。

＜問 27-1 で、「ご本人」が「1.会社員・公務員・団体職員など」「2.自営業・自由業」「3.パート・アルバイトなど」「4.学生」のいずれかにお答えの方＞
 問 27-2. あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（〇は1つだけ） [N=1,517]



[参考：令和元年度 横浜市市民意識調査 有職者の主な通勤場所]

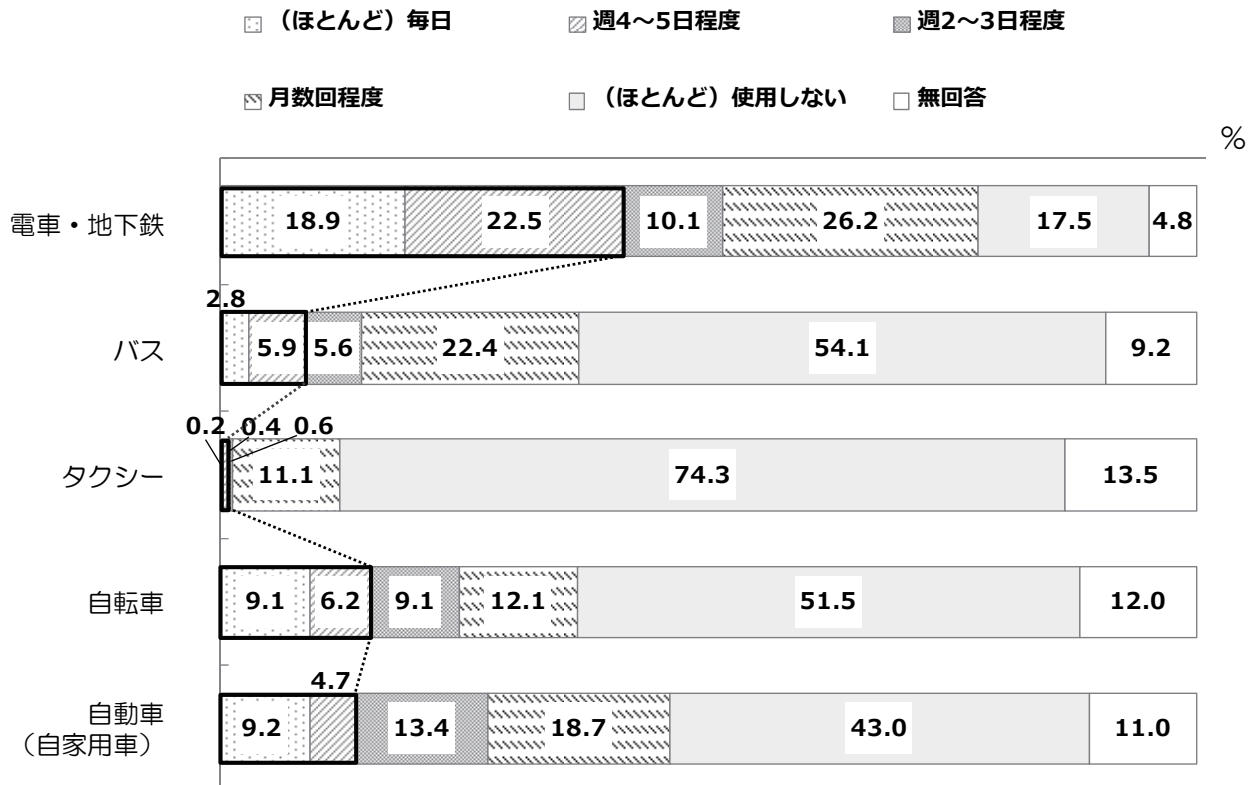
＜前問で有職者（自営業は除く）とお答えの方＞あなたの勤務地はどこですか。複数ある場合は、主な勤務地をお答えください。（〇は1つだけ） [N=1,062]



【各交通手段利用頻度】（問 29）

- 日常で使う交通手段（「（ほとんど）毎日」＋「週4～5日程度」）は、「電車・地下鉄」が41.4%で最も多く、「自転車」が15.3%、「自動車（自家用車）」が13.9%でそれに次いでいます。
- 各交通手段の「ほとんど使用しない」は、「タクシー」が74.3%で最も多く、「バス」が54.1%、「自転車」が51.5%でそれに次いでいます。

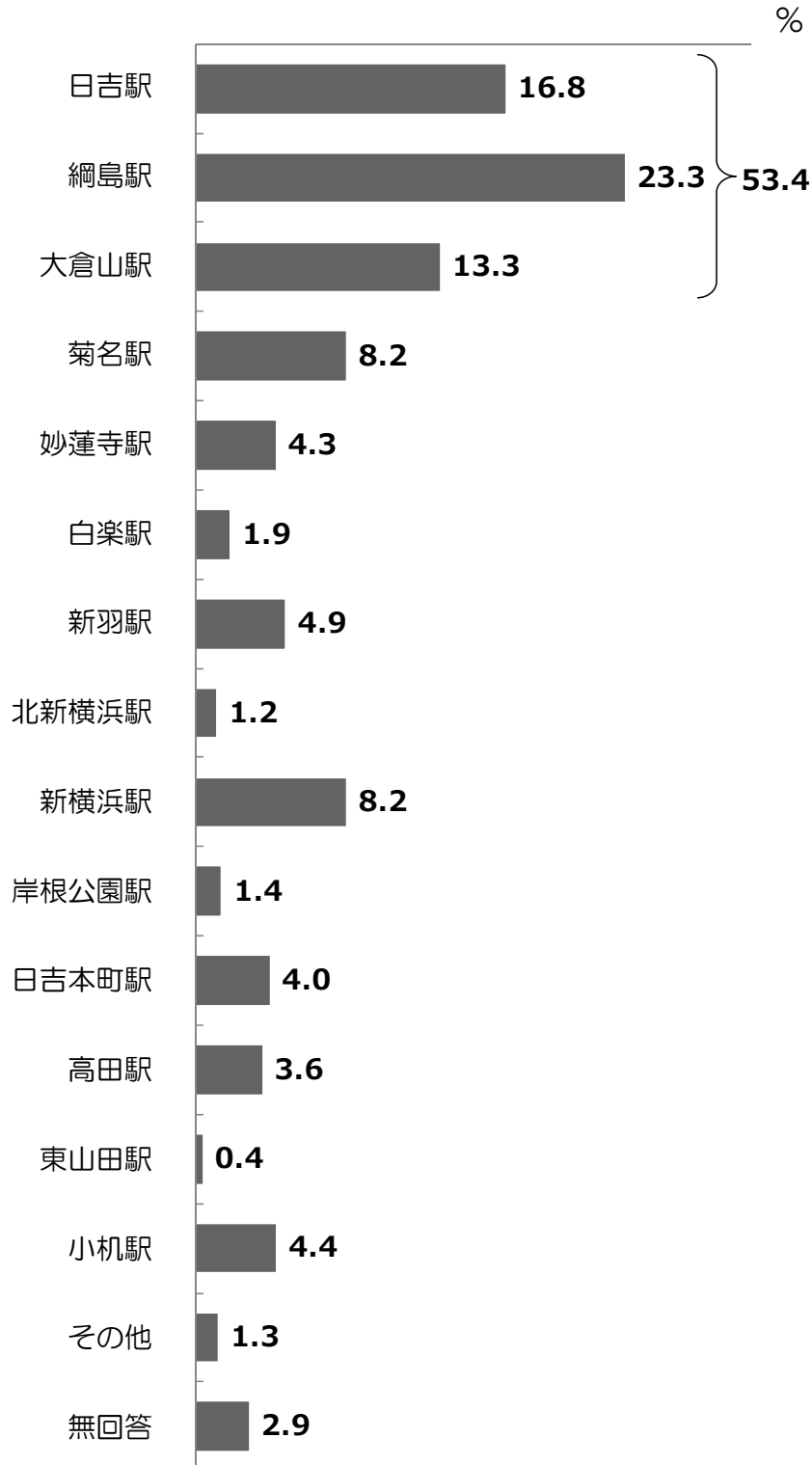
問 29. 以下の各交通手段の利用頻度（それぞれ〇は1つずつ） [N=2,231]



【普段最も利用する駅】（問 30）

- 普段最も利用する駅は、「綱島駅」が 23.3%で最も多く、「日吉駅」が 16.8%、「大倉山駅」が 13.3%でそれに次いでいます。
- 「綱島駅」と「日吉駅」、「大倉山駅」を合わせると、53.4%と5割を超えています。

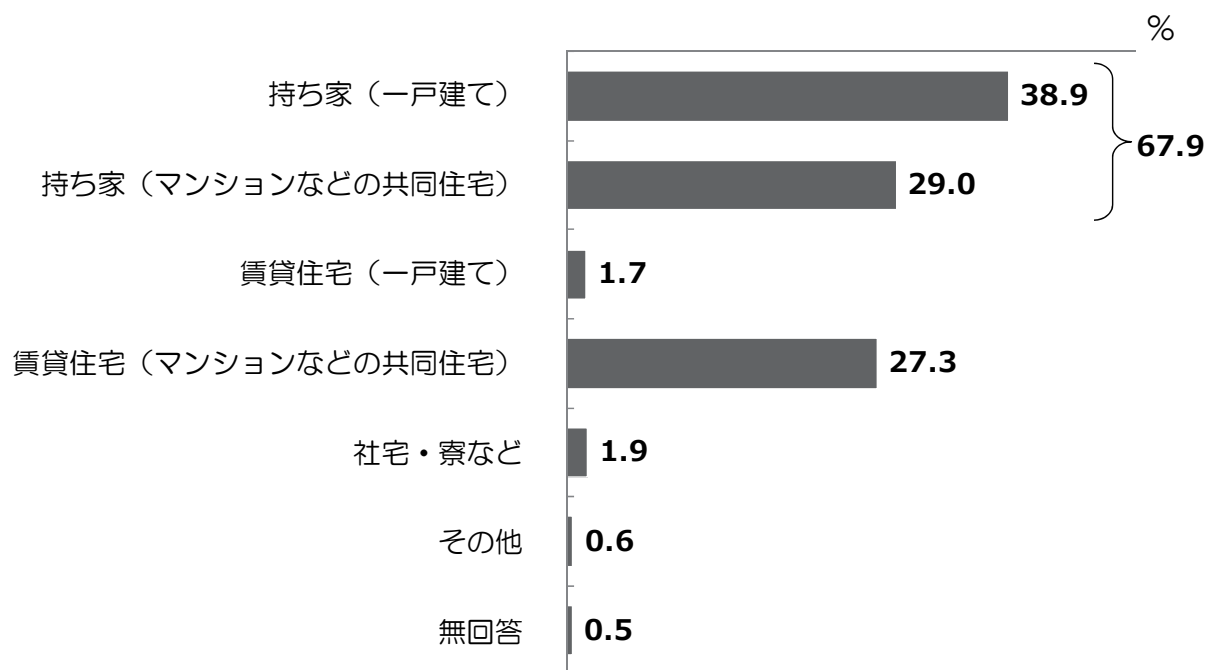
問 30. あなたが、普段最もよくお使いになる駅（〇は1つだけ） [N=2,231]



【居住形態】（問31）

- 居住形態は、「持ち家（一戸建て）」が38.9%で最も多く、「持ち家（一戸建て）」と「持ち家（マンションなどの共同住宅）」を合わせると、67.9%と約7割を占めています。

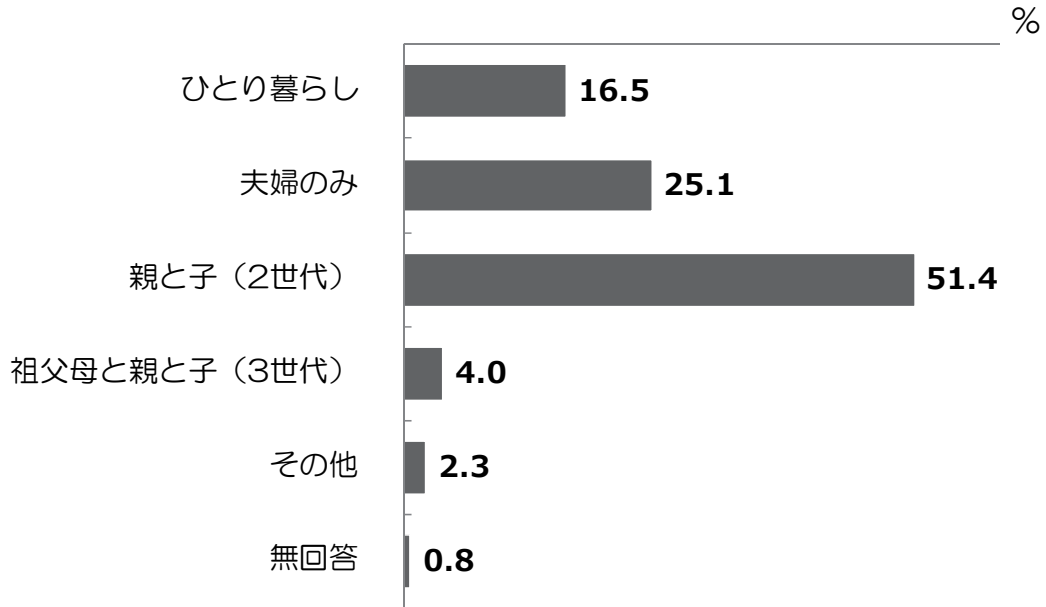
問31. お住まいの形態（〇は1つだけ） [N=2,231]



【世帯構成】（問 32）

- 世帯構成は、「親と子（2世代）」が51.4%と最も多く、約半数を占めています。次いで「夫婦のみ」が25.1%、「ひとり暮らし」が16.5%となっています。

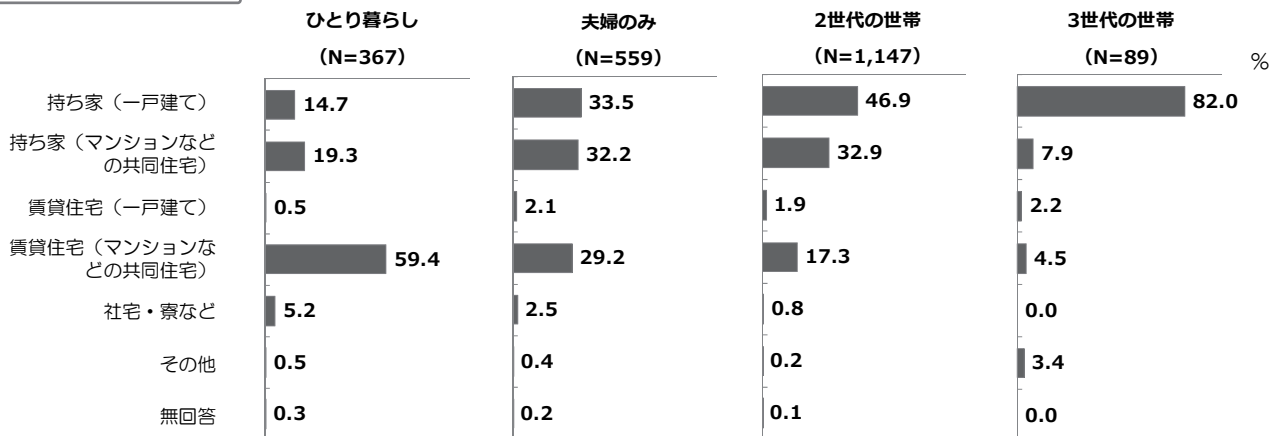
問 32. 世帯構成（同居しているご家族など）（〇は1つだけ） [N=2,231]



[居住形態（問 31）×世帯構成（問 32）]

- 多世代であるほうが「持ち家」が多く、ひとり暮らしを除き、6割半ばを超えています。
- ひとり暮らしは「賃貸住宅」が約6割となっています。

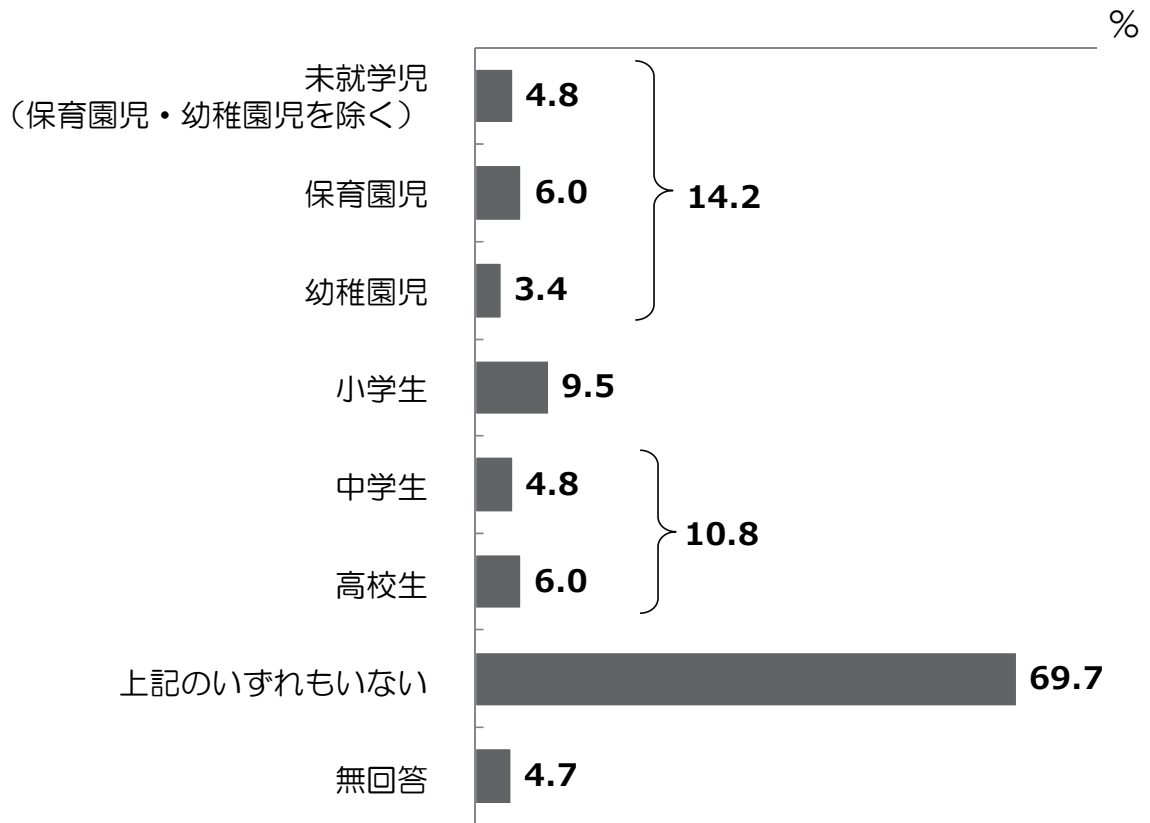
世帯構成別



【同居家族内の未成年の存在割合】（問 33）

- 同居する未成年の家族は、未就学児の合計（保育園児、幼稚園児含む）が、「小学生」、「中学生・高校生」と比べて割合が多くなっています。

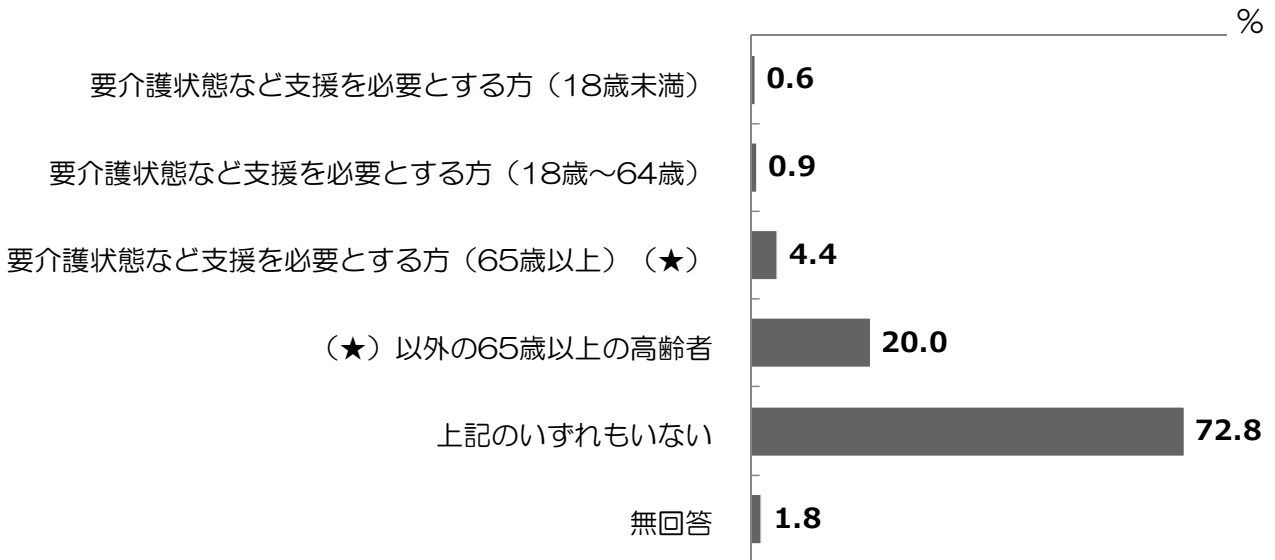
問 33. あなたのご家庭（同居の方）に、次の方はいらっしゃいますか。
（〇はいくつでも） [N=2,231]



【同居家族内の要介護支援及び高齢者の存在割合】（問 34）

- 同居する要介護支援及び高齢者の家族は、「上記のいずれもない」の72.8%を除き、「『要介護状態など支援を必要とする方』以外の65歳以上の高齢者」が20.0%で最も多くなっています。

問 34. あなたご本人も含めて、あなたのご家庭（同居の方）に、次の方はいらっしゃいますか。
（〇はいくつでも）【N=2,231】



※この設問の回答結果は回答方法の変更により、平成 28 年度港北区区民意識調査の回答結果と大きく変わっていますので、根拠データとして利用する際はご注意ください。

3. 調査結果の概要・分析

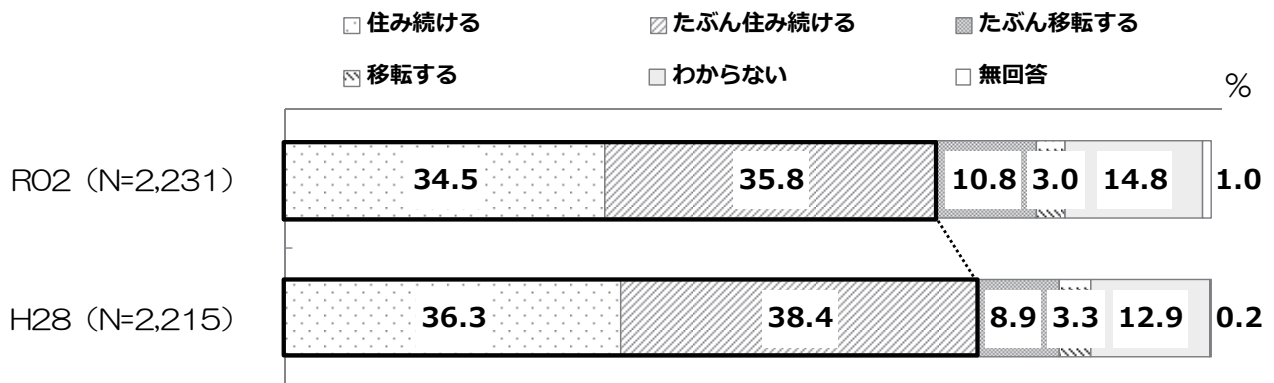
3 調査結果の概要・分析

(1) 港北区内での継続居住意向について

【港北区内居住継続意向】（問2）

- ・「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の回答の合計が7割を越え（70.3%）、前回調査と比較すると若干の減少ですが、高い定住意向を維持しています。
- ・年代別でみると、「住み続ける」と「たぶん住み続ける」は年代が上がるほど多くなっています。

問2. あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っていますか。（〇は1つだけ）
[N=2,231]

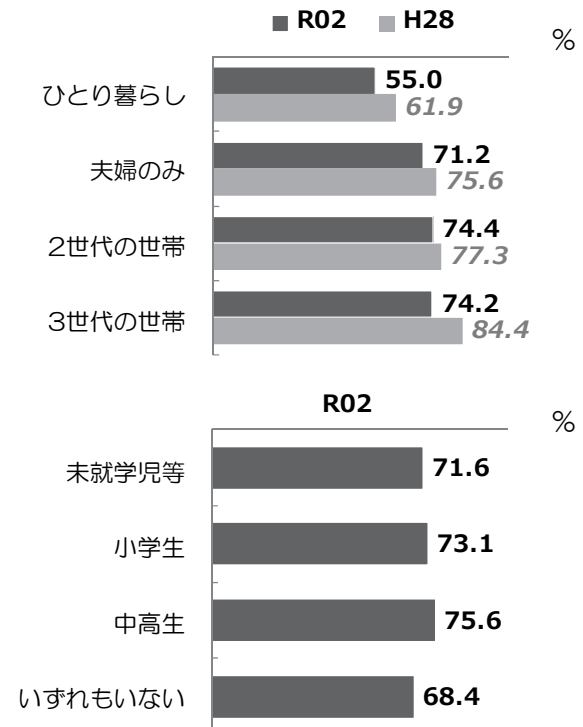
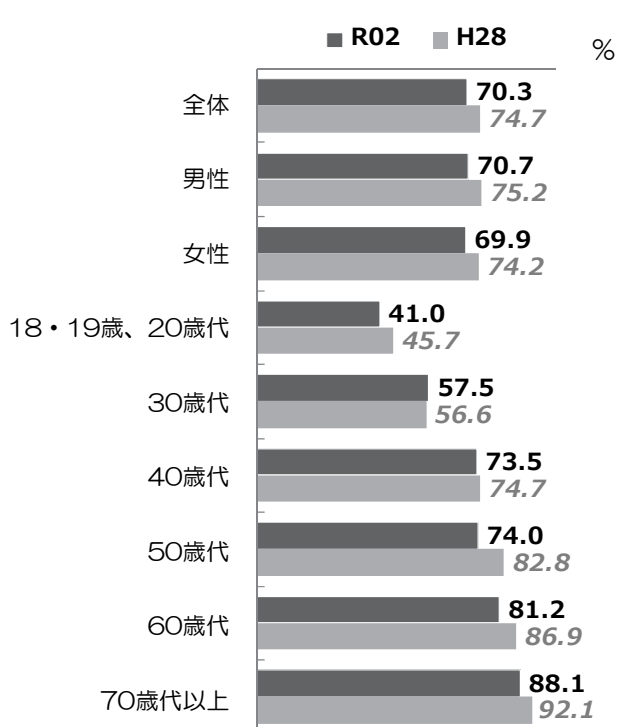


[港北区内に「住み続ける」+「たぶん住み続ける」の回答合計の割合

×性別 ×年代 ×世帯構成 ×同居家族]

性別／年代別

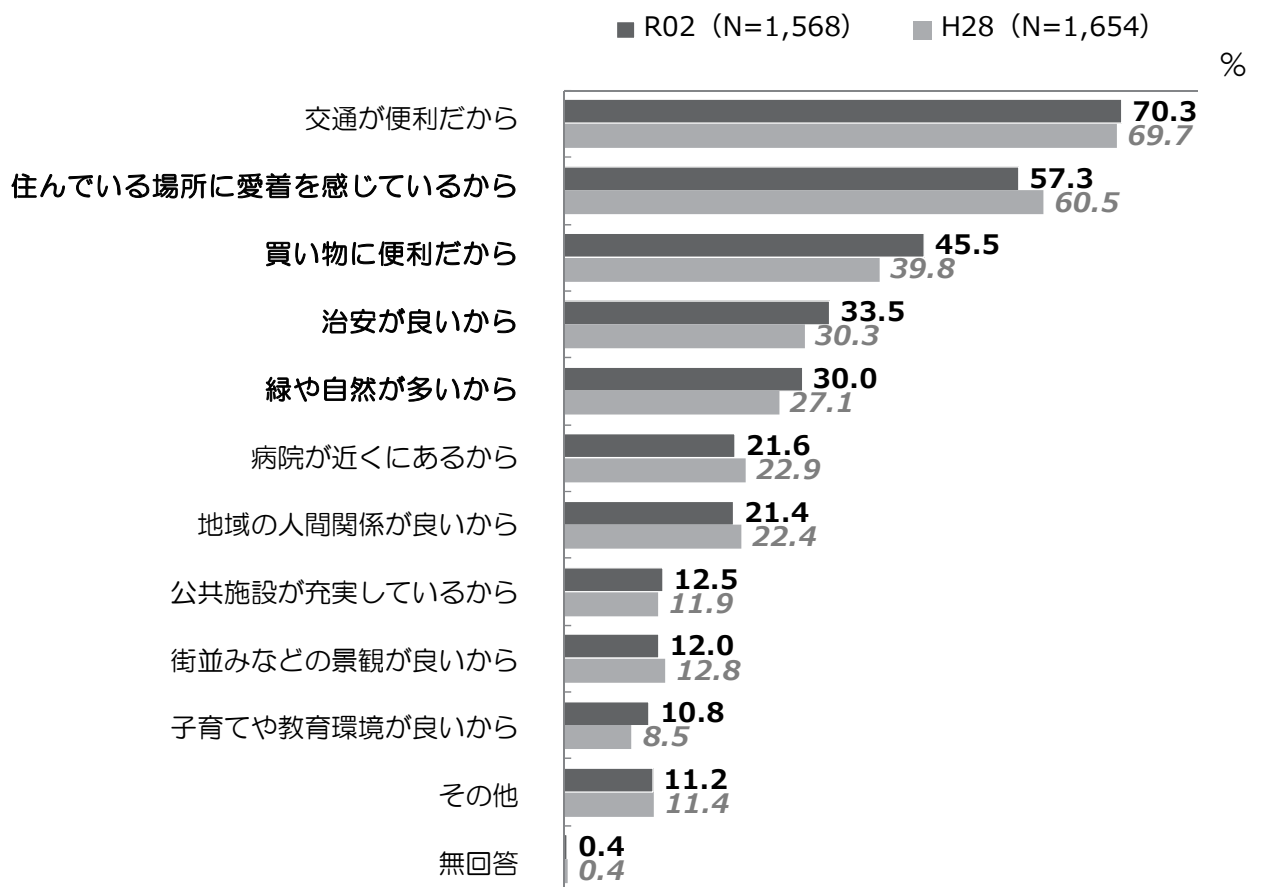
世帯構成別／同居家族別



【居住継続意向理由】（問2-1）（問2＝「1.住み続ける」＋「2.たぶん住み続ける」ベース）

- ・港北区に住み続けようと思う理由は、「交通が便利だから」の70.3%が最も多く、「住んでいる場所に愛着を感じているから」の57.3%、「買い物に便利だから」の45.5%がそれに次いでいます。
- ・前回調査と比較すると、概ね同様の傾向です。増加しているのは「買い物に便利だから」（前回比+5.7ポイント）、次いで、「治安が良いから」（同+3.2ポイント）、「緑や自然が多いから」（同+2.9ポイント）です。一方で、「住んでいる場所に愛着を感じているから」（同-3.2ポイント）については、減少しています。

＜問2で「1.住み続ける」「2.たぶん住み続ける」とお答えの方＞
 問2-1. 港北区内に住み続けようと思う理由についてお選びください。（〇はいくつでも） [N=1,568]

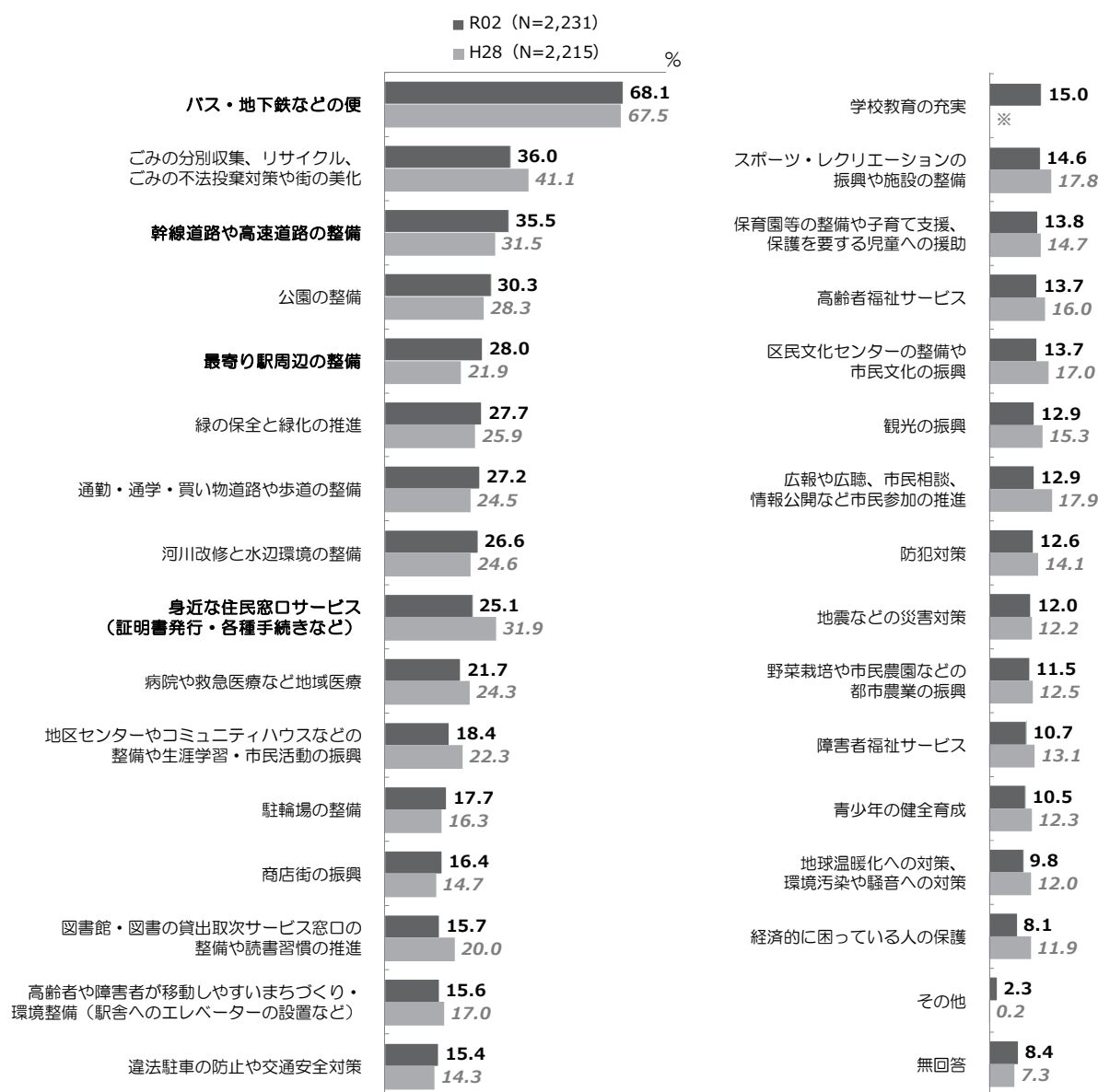


(2) 公共サービスについて

【満足している公共サービス】（問3-1）

- 満足している公共サービスは、「バス・地下鉄などの便」の68.1%が最も多く、交通に関する項目を中心に満足しているサービスとなっています。
- 前回調査と比較すると、増加しているのは「最寄り駅周辺の整備」（前回比+6.1ポイント）、次いで、「幹線道路や高速道路の整備」（同+4.0ポイント）です。一方で、「身近な住民窓口サービス」（同-6.8ポイント）は最も減少しています。

問3-1. あなたが、満足している公共サービスは何ですか。以下の1~31の項目の中からいくつでも選んで、回答欄の番号に○印をつけてください。（○はいくつでも）【N=2,231】

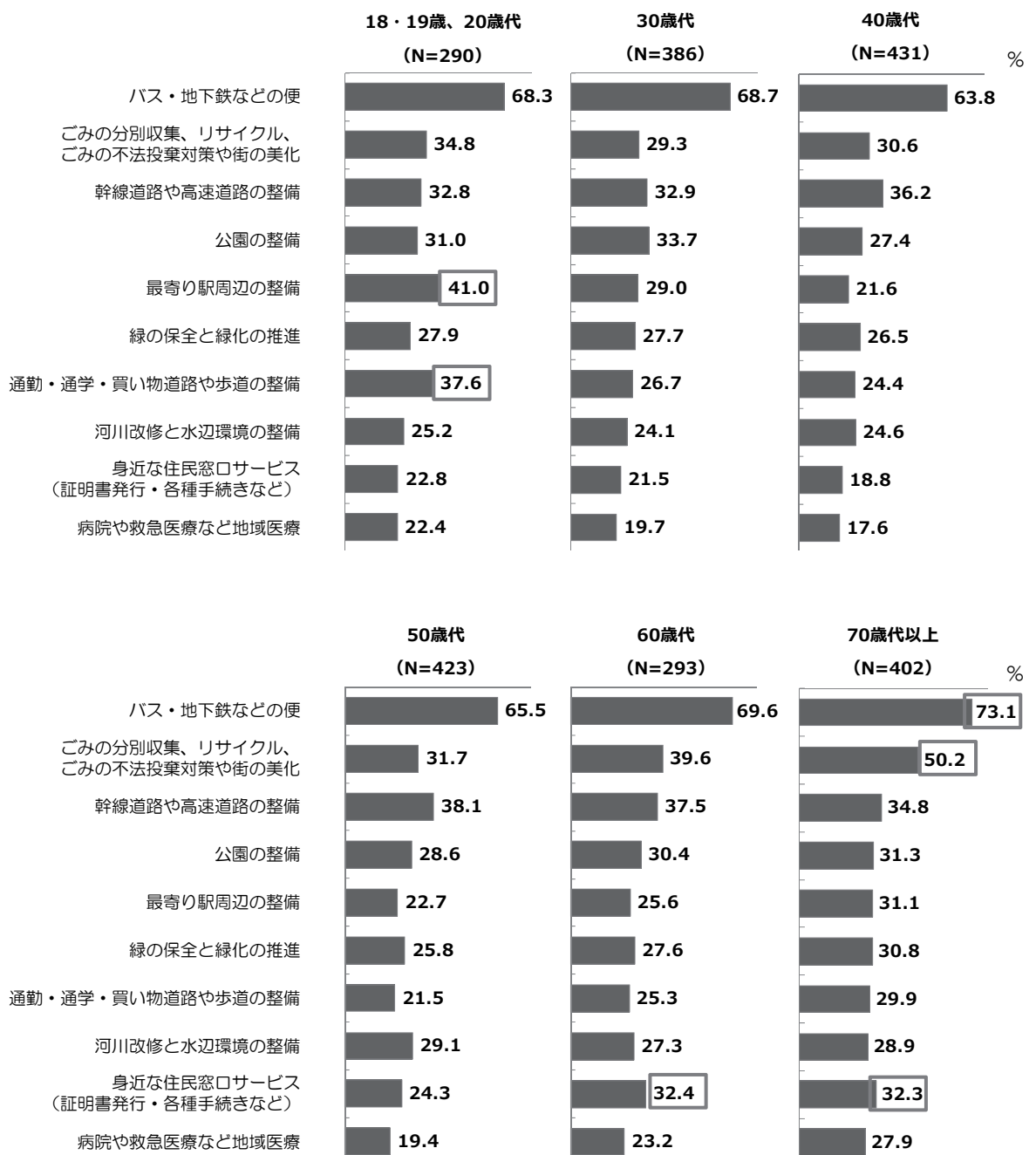


※の項目は、聴取を実施せず

[満足している公共サービス（問3-1） ×年代]

- 年代別でみると、すべての年代で「バス・地下鉄などの便」が最も多くなっています。
- 18・19歳、20歳代が他の年代と比べて多いものは、「最寄り駅周辺の整備」（41.0%）と「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」（37.6%）となっており、特に40歳代、50歳代との差が大きくなっています。
- 70歳代以上が他の年代と比べて多いものは、「バス・地下鉄などの便」（73.1%）と「ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化」（50.2%）となっています。
- 「身近な住民窓口サービス」の60歳代（32.4%）と70歳代以上（32.3%）は、他の年代と比べて割合が多くなっています。

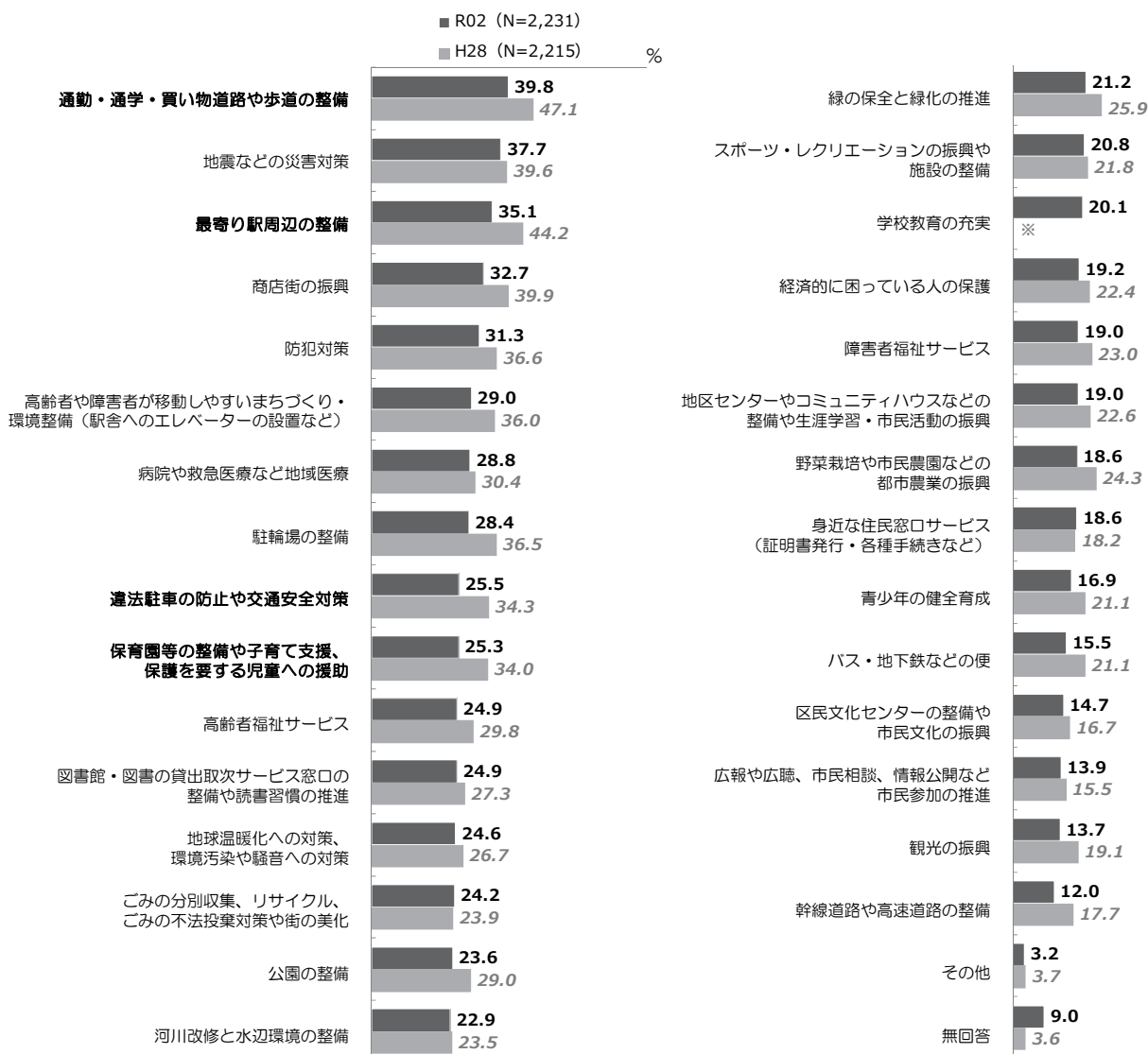
年代別
上位10項目



【充実すべき公共サービス】（問3-2）

- 充実すべき公共サービスは、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」の39.8%が最も多くなっています。
- 前回調査と比較すると、順位はほぼ同様ですが、減少している項目が多くなっています。
- 前回調査と比較すると、「最寄り駅周辺の整備」（前回比-9.1ポイント）は最も減少し、「違法駐車防止や交通安全対策」（同-8.8ポイント）や「保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助」（同-8.7ポイント）が減少しています。また、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」（同-7.3ポイント）や「最寄り駅周辺の整備」（同-9.1ポイント）については、減少していますが、前回調査と同様に上位3つの理由の1項目であることに変わりはありません。

問3-2. あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。以下の1~31の項目の中からそれぞれいくつでも選んで、回答欄の番号に○印をつけてください。（○はいくつでも）【N=2,231】

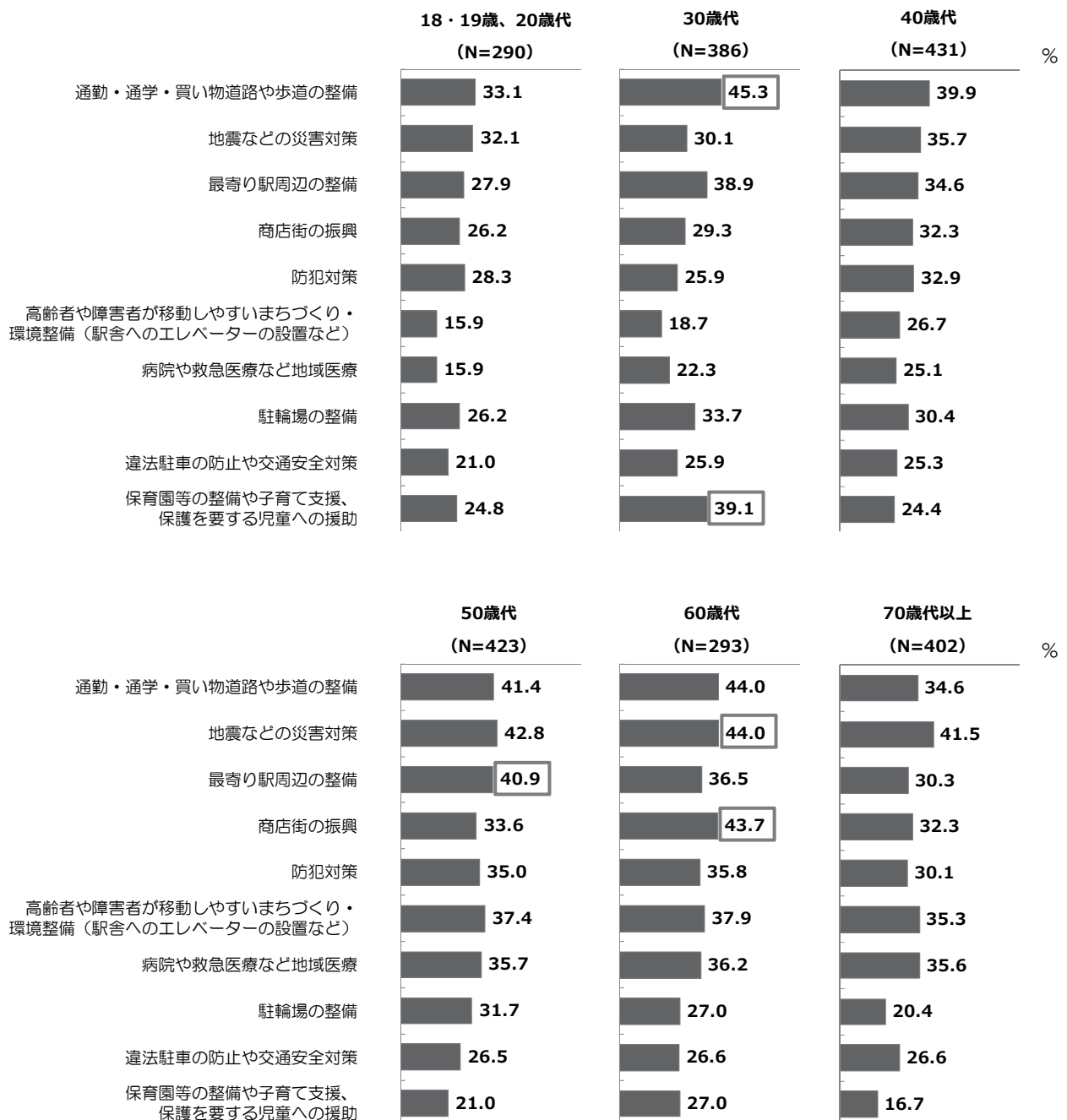


※の項目は、聴取を実施せず

[充実すべき公共サービス（問3-2） ×年代]

- 年代別でみると、他の年代と比べて多いものは、30歳代では「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」（45.3%）、「保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助」（39.1%）、50歳代では「最寄り駅周辺の整備」（40.9%）、60歳代では「地震などの災害対策」（44.0%）、「商店街の振興」（43.7%）となっています。
- 「高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備（駅舎へのエレベーターの設置など）」や「病院や救急医療など地域医療」は、年代が上がるにつれて、割合が概ね多くなっています。

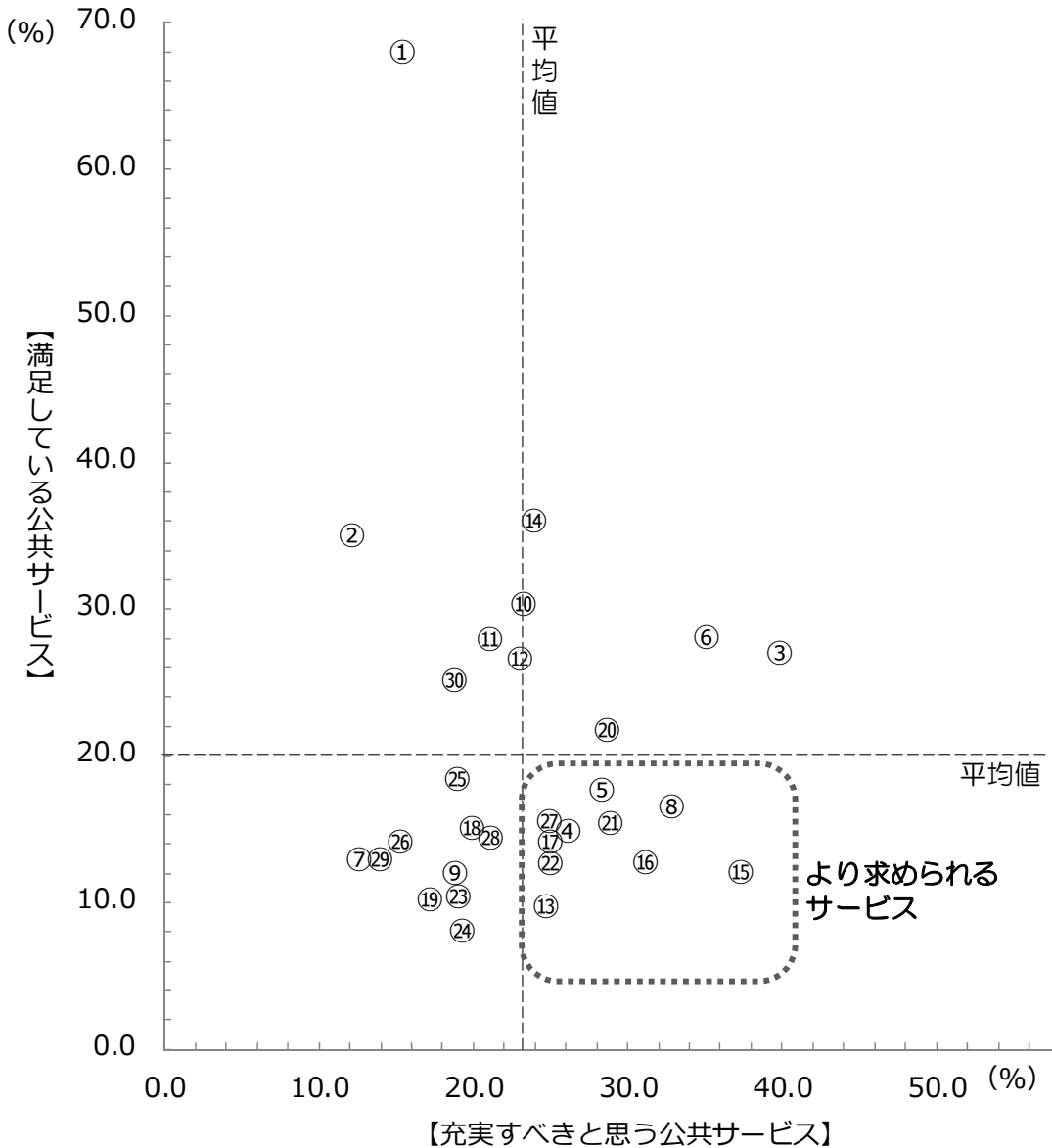
年代別
上位10項目



[満足している公共サービス（問3-1）と充実すべき公共サービス（問3-2）の関係]

- 「満足している公共サービス」と「充実すべき公共サービス」の関係を散布図で表すと、以下のとおりとなっています。それぞれの項目の平均値は点線で表しています。
- 右下の部分（「⑮地震などの災害対策」含め 10 項目）がより求められるサービスと言えます。

「満足している公共サービス」と「充実すべき公共サービス」の関係



No. カテゴリー名

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① バス・地下鉄などの便 ② 幹線道路や高速道路の整備 ③ 通勤・通学・買い物道路や歩道の整備 ④ 違法駐車防止や交通安全対策 ⑤ 駐輪場の整備 ⑥ 最寄り駅周辺の整備 ⑦ 観光の振興 ⑧ 商店街の振興 ⑨ 野菜栽培や市民農園などの都市農業の振興 ⑩ 公園の整備 ⑪ 緑の保全と緑化の推進 ⑫ 河川改修と水辺環境の整備 ⑬ 地球温暖化への対策、環境汚染や騒音への対策 ⑭ ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化 ⑮ 地震などの災害対策 ⑯ 防犯対策 ⑰ 保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助 | <ul style="list-style-type: none"> ⑱ 学校教育の充実 ⑲ 青少年の健全育成 ⑳ 病院や救急医療など地域医療 ㉑ 高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備（駅舎へのエレベーターの設置など） ㉒ 高齢者福祉サービス ㉓ 障害者福祉サービス ㉔ 経済的に困っている人の保護 ㉕ 地区センターやコミュニティハウスなどの整備や生涯学習・市民活動の振興 ㉖ 区民文化センターの整備や市民文化の振興 ㉗ 図書館・図書の貸出取次サービス ㉘ 窓口の整備や読書習慣の推進 ㉙ スポーツ・レクリエーションの振興や施設の整備 ㉚ 広報や広聴、市民相談、情報公開など市民参加の推進 ㉛ 身近な住民窓口サービス ㉜ （証明書発行・各種手続きなど） |
|--|---|

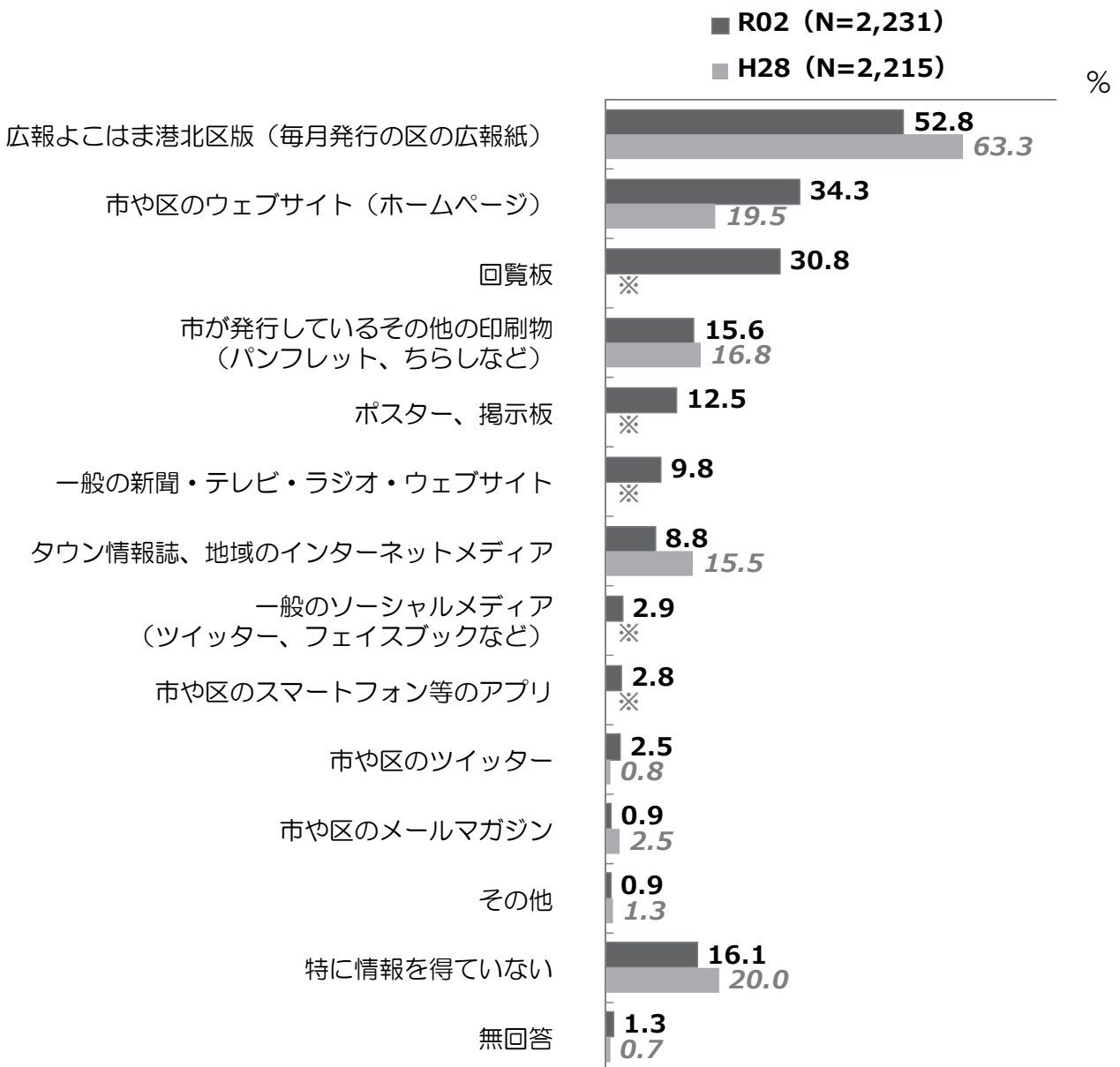
※区割りのラインは、それぞれの項目の平均値です。

(3) 区役所の情報発信について

【区役所に関する情報の主な情報源】（問4）

- 区役所に関する情報の主な情報源をみると、「広報よこはま港北区版」が52.8%と最も多く、「市や区のウェブサイト」の34.3%、「回覧板」の30.8%がそれに次いでおり、行政や地域が発信する身近な情報源の割合が多くなっています。
- 前回調査と比べると、「広報よこはま港北区版」（前回比-10.5ポイント）が減少し、「市や区のウェブサイト」（同+14.8ポイント）が増加しています。

問4. あなたは、区役所に関する情報を主に何から得ていますか。（〇は3つまで） [N=2,231]

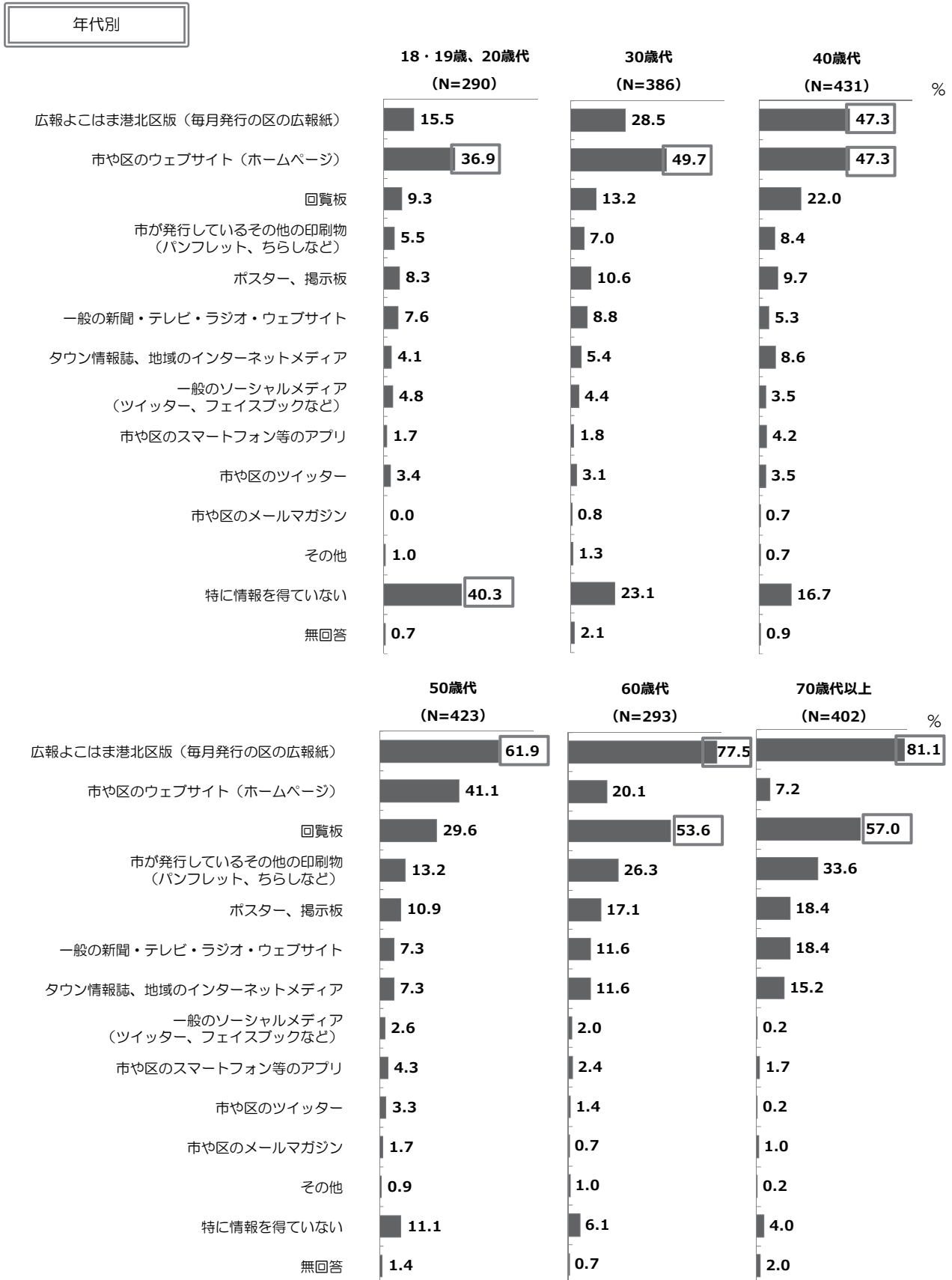


※の項目は、聴取を実施せず

（注）平成28年度調査では、一部の項目の表現が異なります。

[区役所に関する情報の主な情報源（問4）×年代]

- 年代別でみると、60歳代、70歳代以上では「広報よこはま港北区版」と「回覧板」が多く、年代が下がるにつれて「市や区のウェブサイト」が概ね多くなっており、30歳代では「広報よこはま港北区版」と逆転しています。
- 「特に情報を得ていない」は、18・19歳、20歳代が40.3%と最も多くなっています。



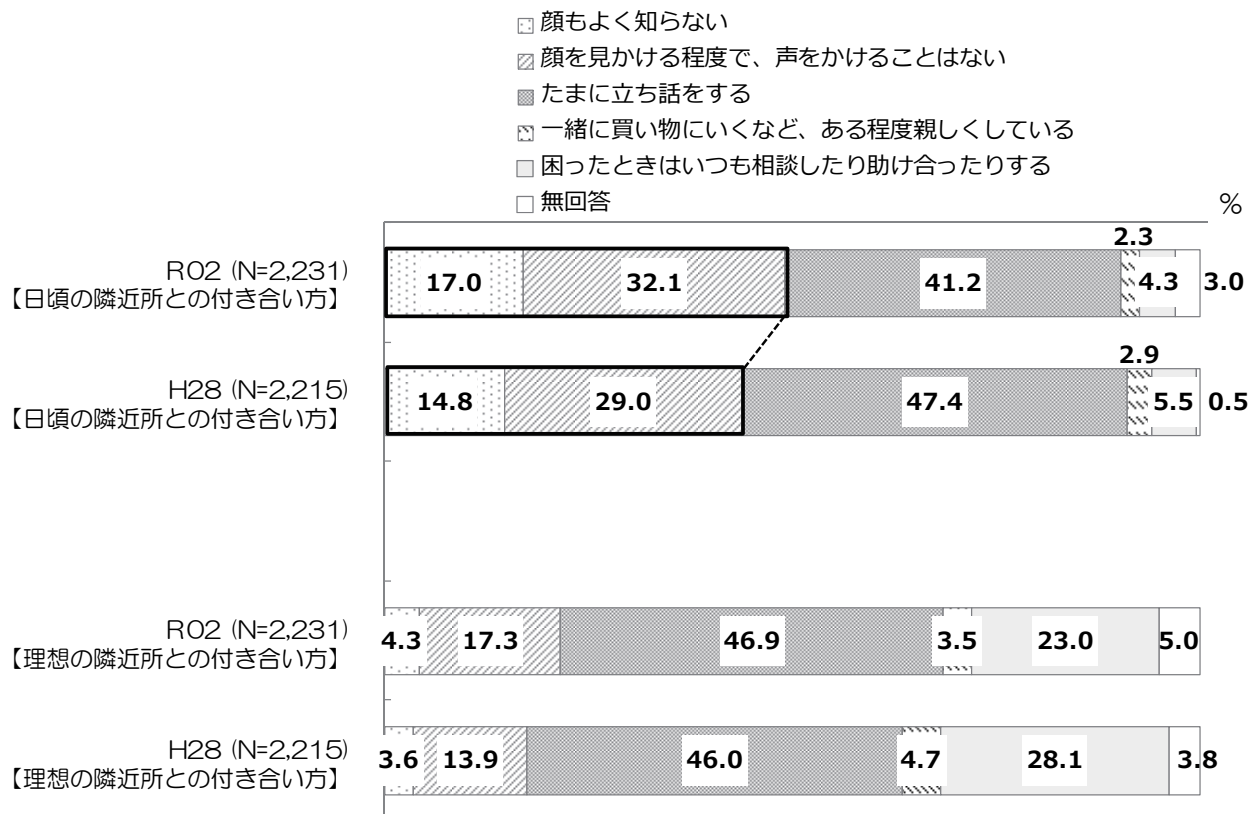
(4) 地域でのつながり・助け合いなどについて

【日頃の隣近所との付き合い方】(問5-1)・【理想の隣近所との付き合い方】(問5-2)

- 日頃の隣近所との付き合い方は、前回調査と比べると、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の割合が微増して、「たまに立ち話をする」の割合が少なくなっています。
- 理想の隣近所との付き合い方は「たまに立ち話をする」が46.9%で最も多くなっています。日頃の隣近所との付き合い方と比べると、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」が2割強で最も増加し、普段からコミュニケーションが取れ、さらに困った時は相談できる関係を望む割合が多くなっています。

問5-1. あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。(〇は1つだけ)
[N=2,231]

問5-2. あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いますか。(〇は1つだけ) [N=2,231]

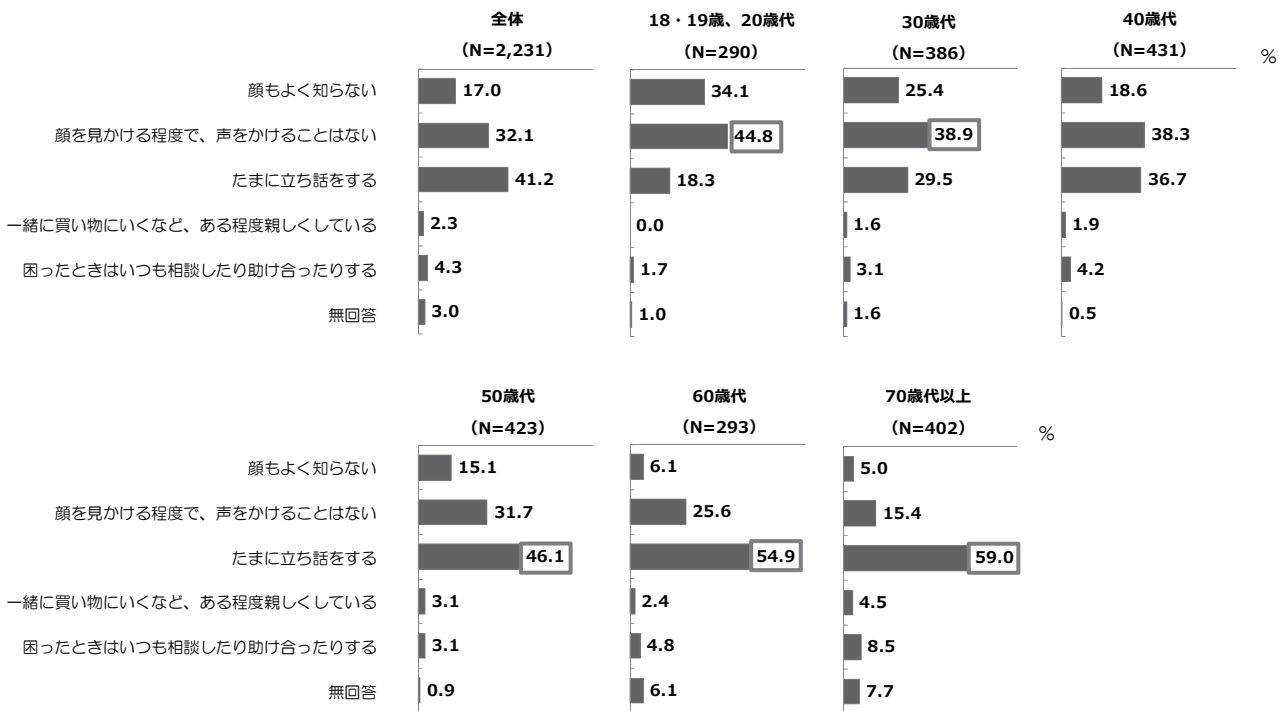


[日頃の隣近所との付き合い方（問 5-1）・理想の隣近所との付き合い方（問 5-2）×年代]

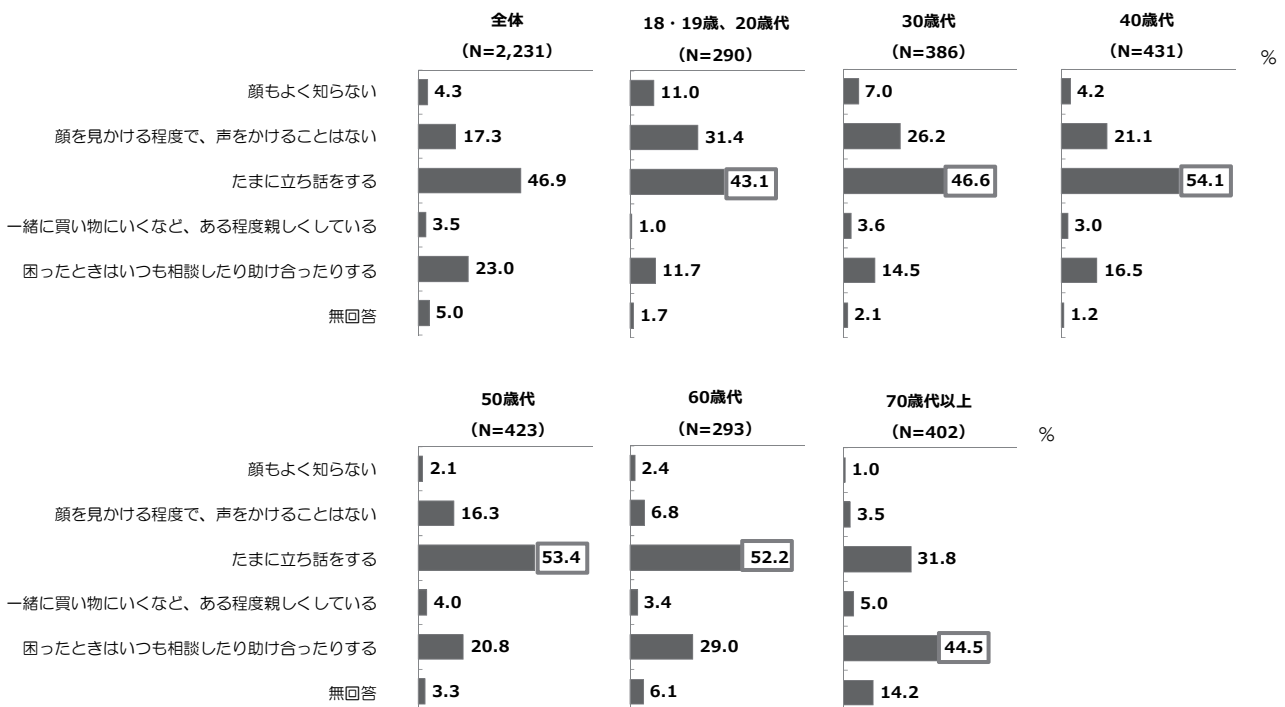
- 日頃の隣近所との付き合い方を年代別で見ると、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」は年代が上がるにつれて少なくなり、「たまに立ち話をする」は年代が上がるにつれて多くなっています。
- 理想の隣近所との付き合い方を年代別で見ると、「たまに立ち話をする」は 70 歳代以上を除いた全ての年代で最も割合が多くなっています。また、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は年代が上がるにつれて多くなっています。

年代別

【日頃の隣近所との付き合い方】（問 5-1）



【理想の隣近所との付き合い方】（問 5-2）



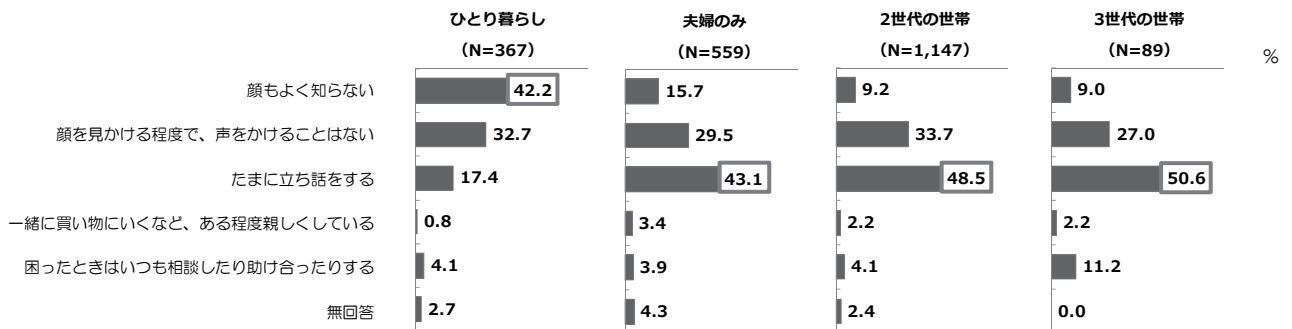
[日頃の隣近所との付き合い方（問5-1）・理想の隣近所との付き合い方（問5-2）

×世帯構成]

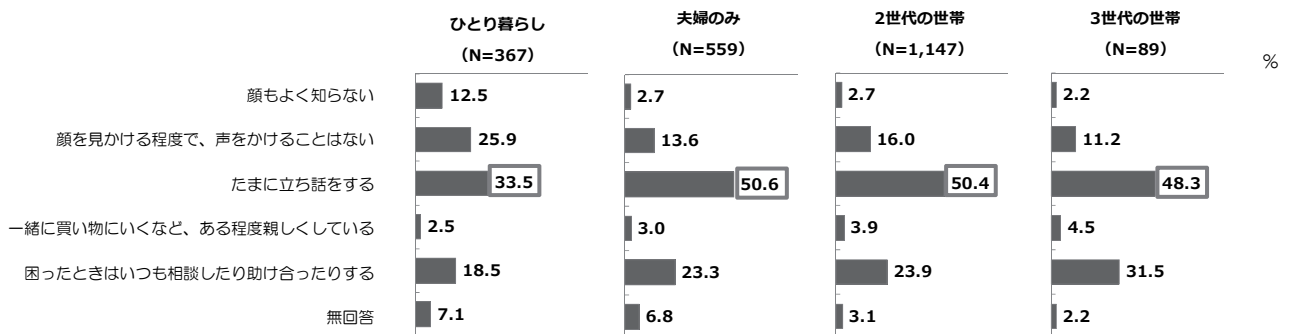
- 日頃の隣近所との付き合い方を世帯構成別で見ると、ひとり暮らしでは「顔もよく知らない」（42.2%）が最も多く、それ以外の世帯構成では「たまに立ち話をする」が最も多くなっています。
- 理想の隣近所との付き合い方を世帯構成別で見ると、全ての世帯構成で「たまに立ち話をする」が最も割合が多くなっています。また、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は多世代であるほうが割合が多くなっています。

世帯構成別

【日頃の隣近所との付き合い方】（問5-1）



【理想の隣近所との付き合い方】（問5-2）

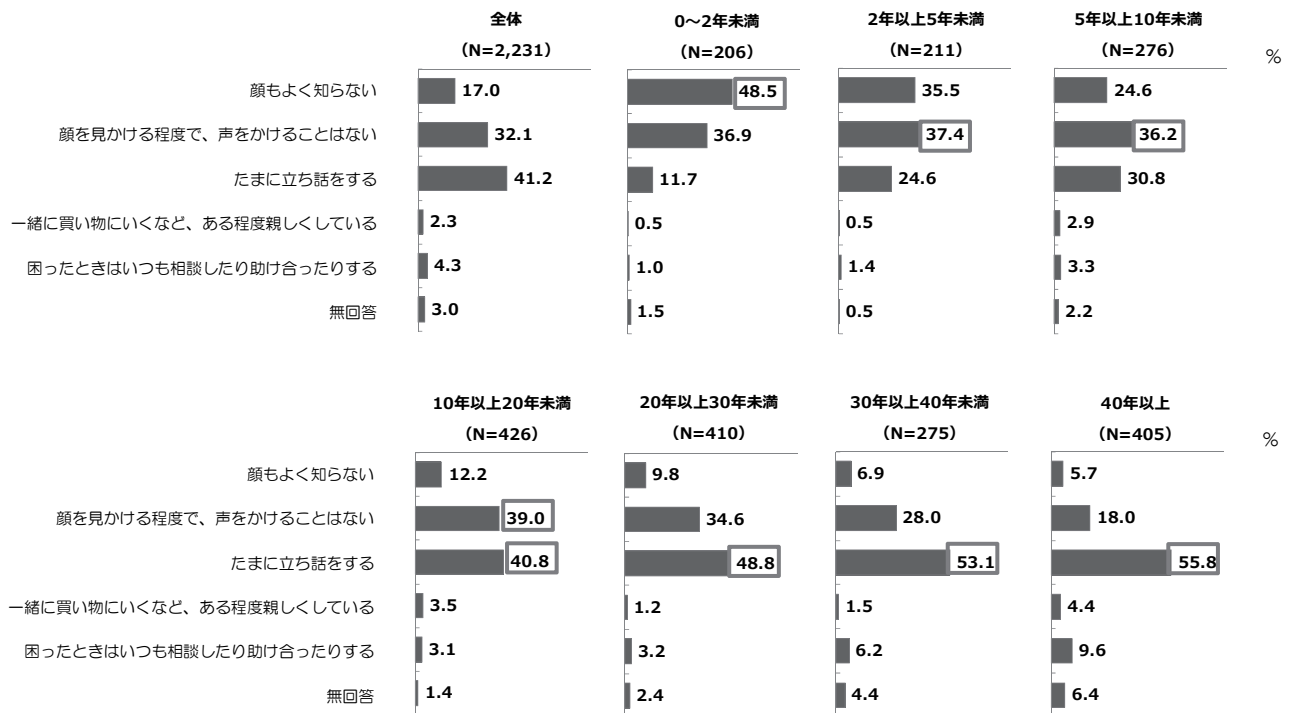


[日頃の隣近所との付き合い方(問5-1)・理想の隣近所との付き合い方(問5-2)×居住歴]

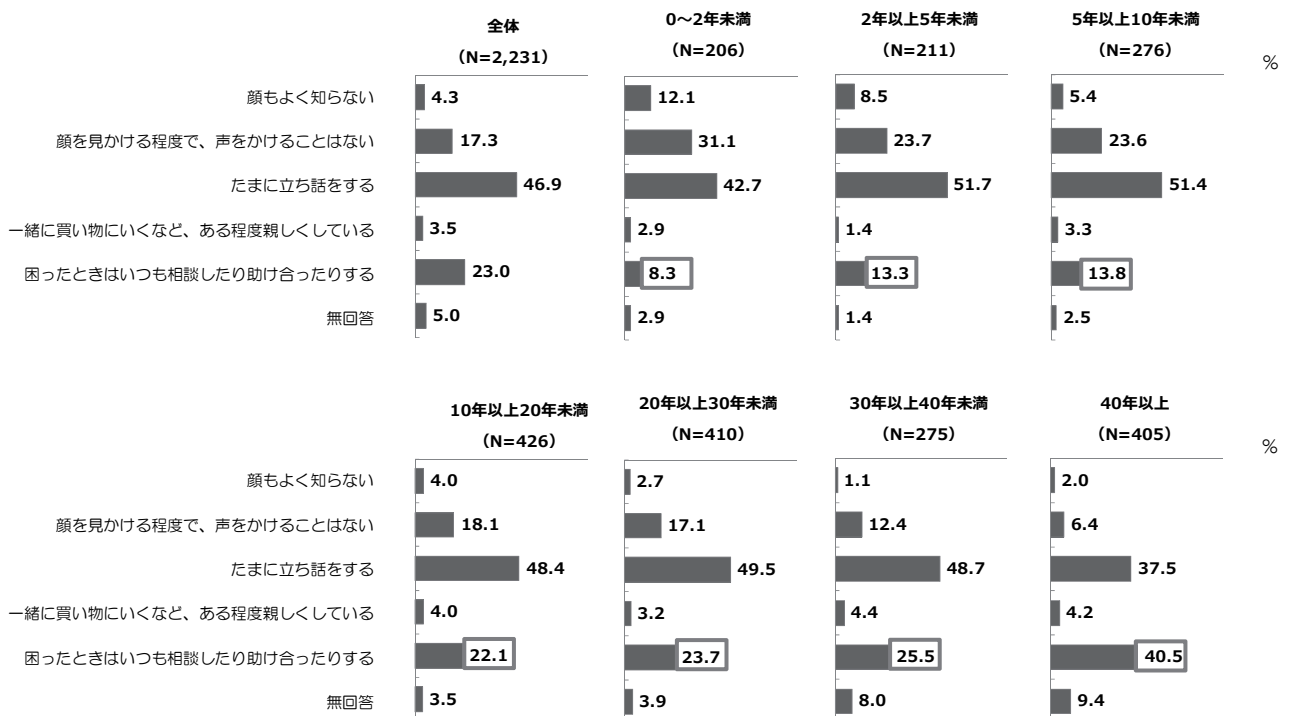
- 日頃の隣近所との付き合い方を居住歴別でみると、「顔もよく知らない」は居住年数が長くなるにつれて少なく、「たまに立ち話をする」は居住年数が長くなるにつれて多くなっています。
- 理想の隣近所との付き合い方を居住歴別でみると、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は居住年数が長くなるにつれて割合が多くなっています。

居住歴別

【日頃の隣近所との付き合い方】(問5-1)



【理想の隣近所との付き合い方】(問5-2)

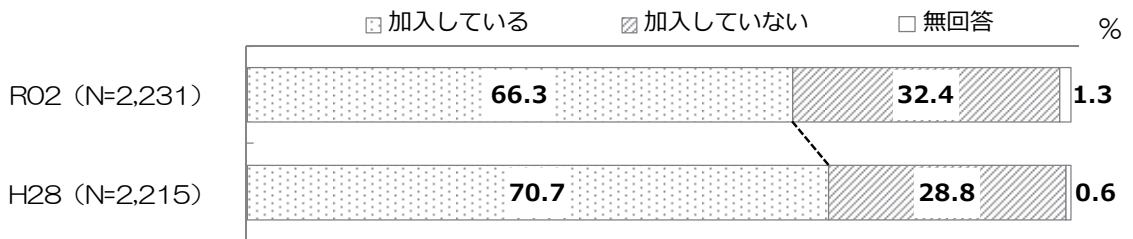


【自治会町内会への加入有無】（問6）

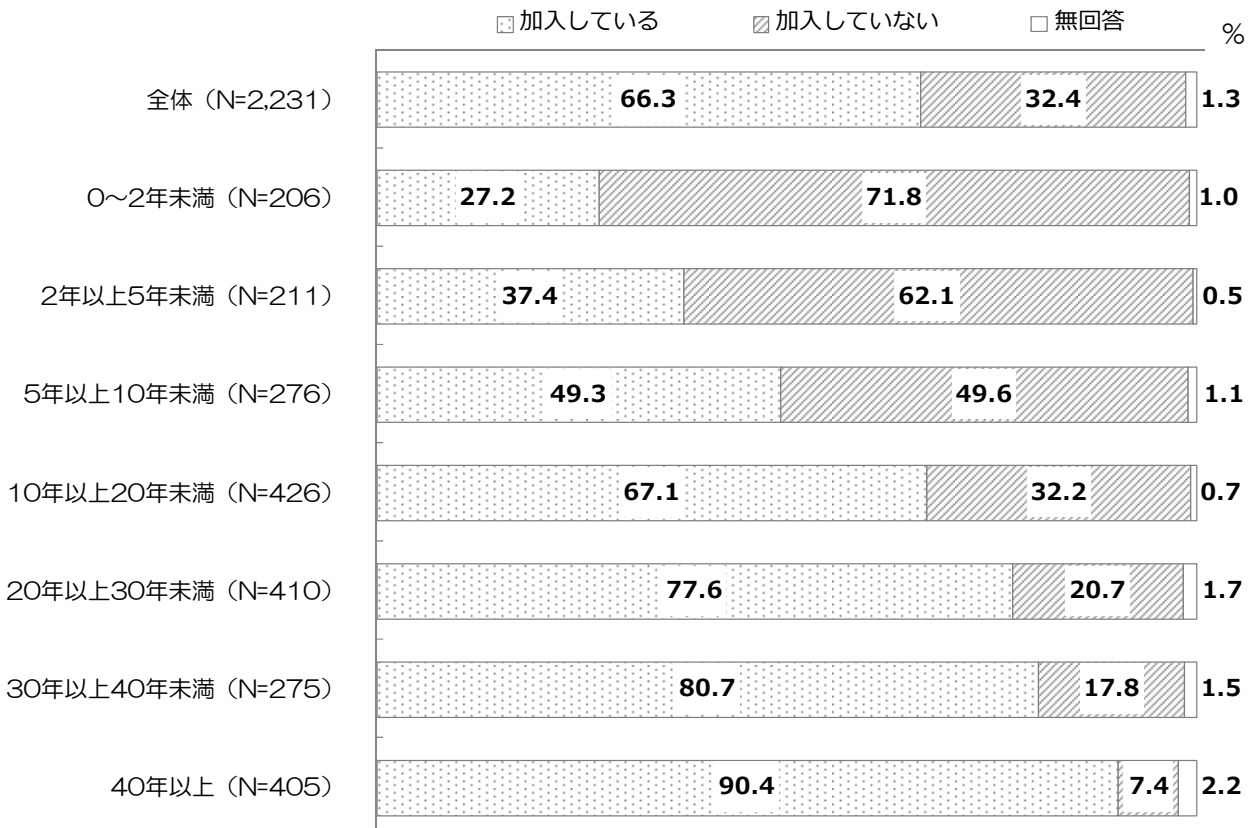
- 自治会町内会への加入をみると、「加入している」が66.3%で、経年で比較すると、前回調査（70.7%）から減少しています。
- 自治会町内会への加入を居住歴別でみると、「加入している」は40年以上が90.4%と最も多くなっています。また、居住年数が長くなるにつれて「加入している」の割合が多くなっています。

問6. あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。（〇は1つだけ） [N=2,231]

全体



居住歴別

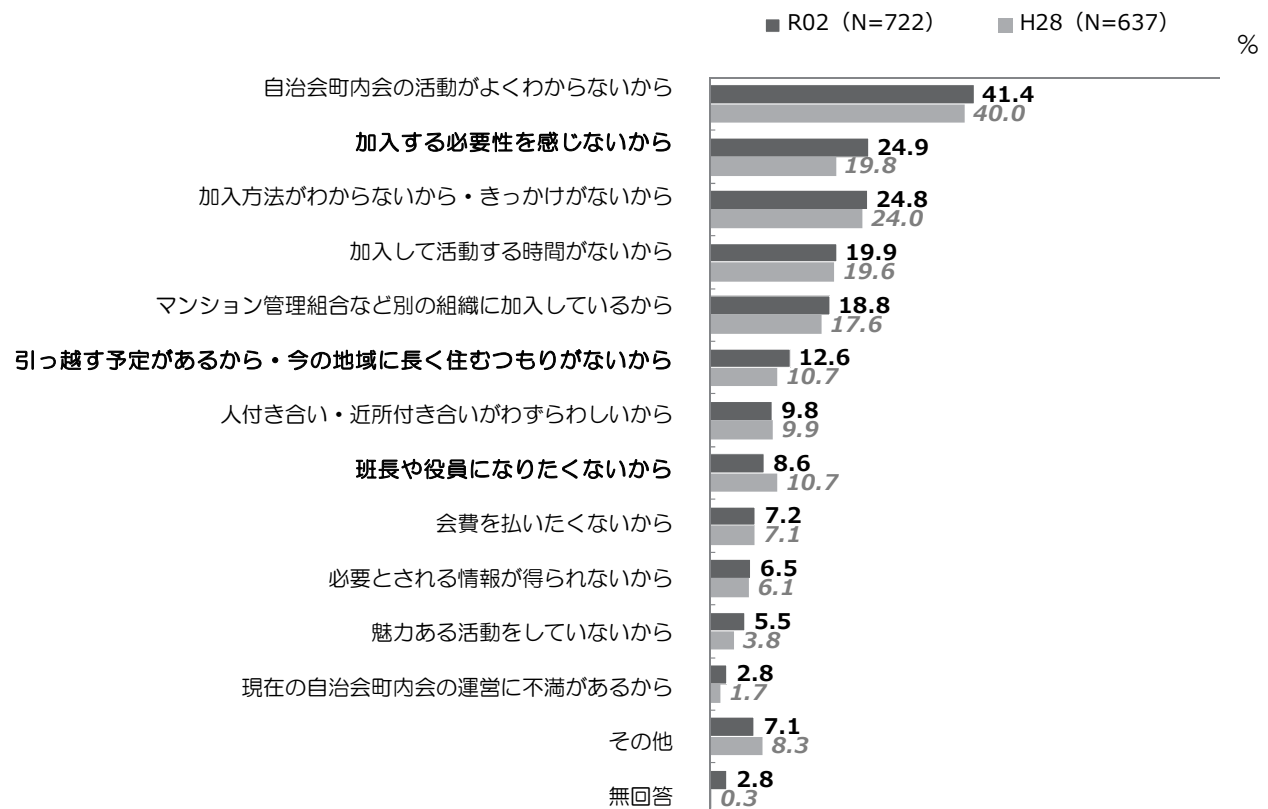


【自治会町内会への非加入理由】（問 6-1）（問 6＝「2.加入していない」ベース）

- 自治会町内会に加入しない理由は、「自治会町内会の活動がよくわからないから」の 41.4%が最も多く、「加入する必要性を感じないから」の 24.9%、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」の 24.8%がそれに次いでいます。
- 前回調査と比較すると、増加しているのは「加入する必要性を感じないから」（前回比+5.1 ポイント）、次いで、「引っ越す予定があるから・今の地域に長く住むつもりがないから」（同+1.9 ポイント）です。一方で、「班長や役員になりたくないから」（同-2.1 ポイント）は、減少しています。

＜問 6 で「2.加入していない」とお答えの方＞

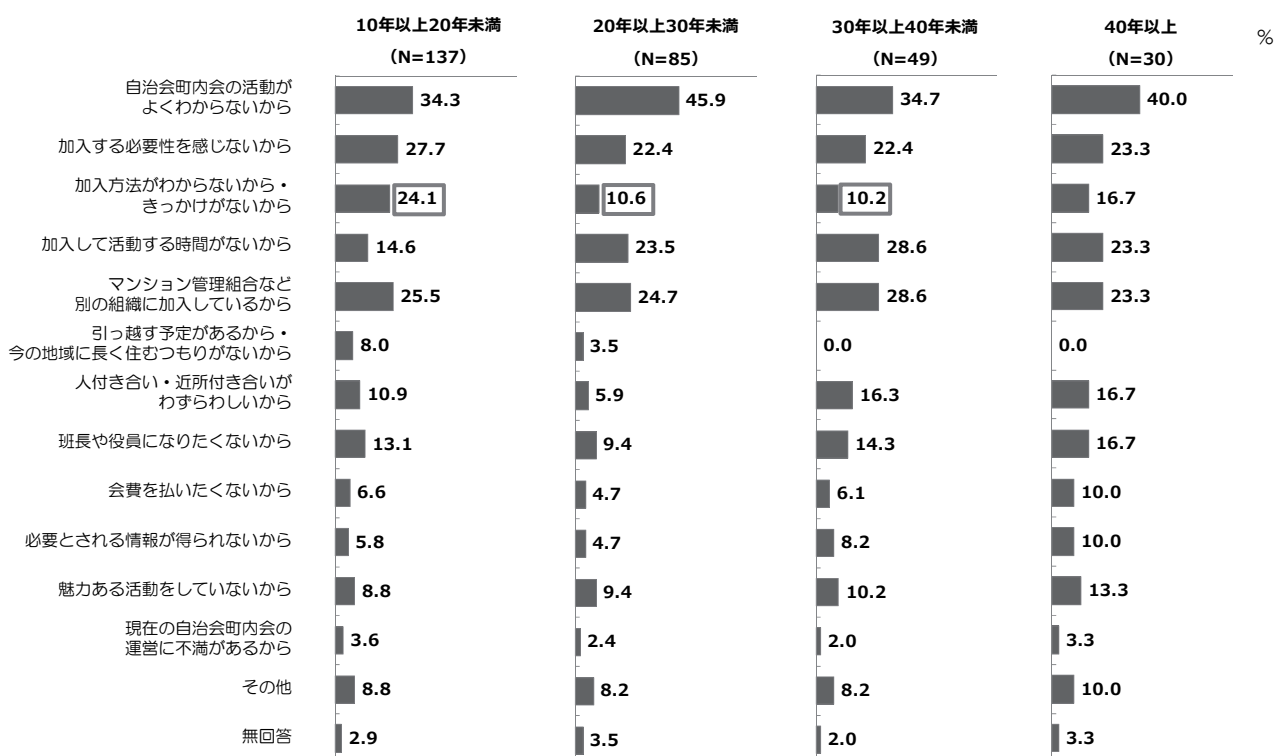
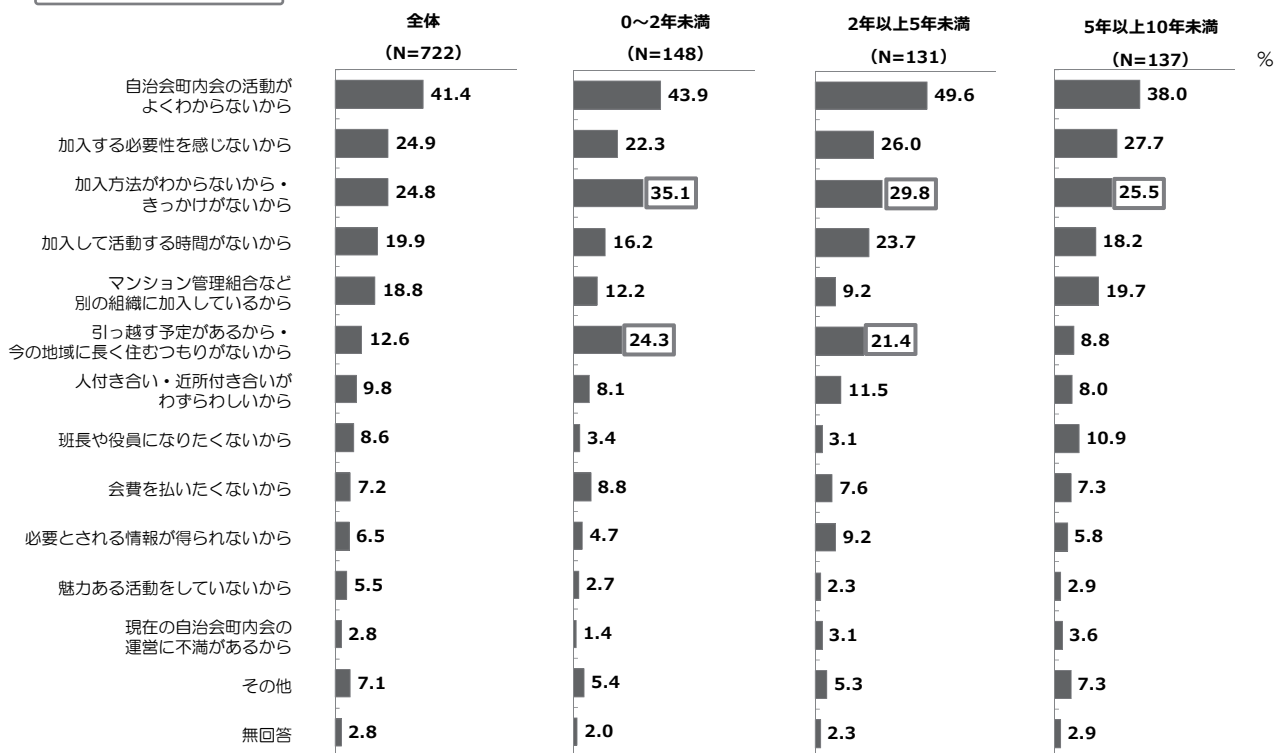
問 6-1. 自治会町内会に加入していない理由は何ですか。（〇は3つまで） [N=722]



[自治会町内会への非加入理由] (問6-1) × 居住歴]

- 自治会町内会へ加入しない理由を居住歴別でみると、居住年数が短くなるにつれて「加入方法がわからないから・きっかけがないから」の割合が概ね多くなっています。
- 居住歴が5年未満の人は「引っ越す予定があるから・今の地域に長く住むつもりがないから」の割合が多くなっています。

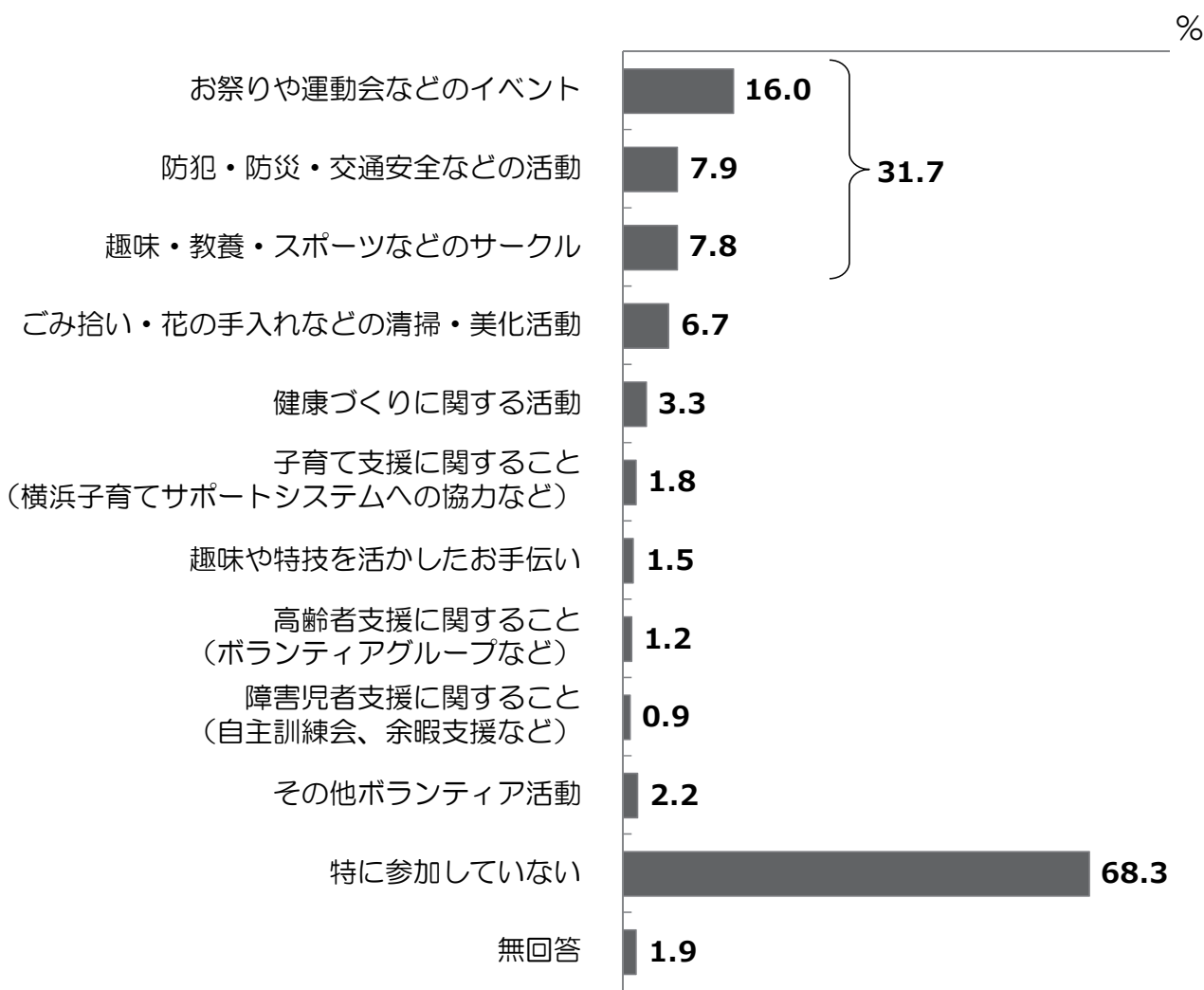
居住歴別



【地域活動への参加状況】（問7）

- 地域活動への参加状況を見ると、「特に参加していない」を除き、「お祭りや運動会などのイベント」が16.0%と最も多く、「防犯・防災・交通安全などの活動」の7.9%、「趣味・教養・スポーツなどのサークル」の7.8%がそれに次いでおり、幅広い年代で参加できる活動が上位となっています。
- 上位3項目の合計は、「特に参加していない」を除くと31.7%となり、全体の約3割を占めています。
- 「特に参加していない」は、約7割を占めています。

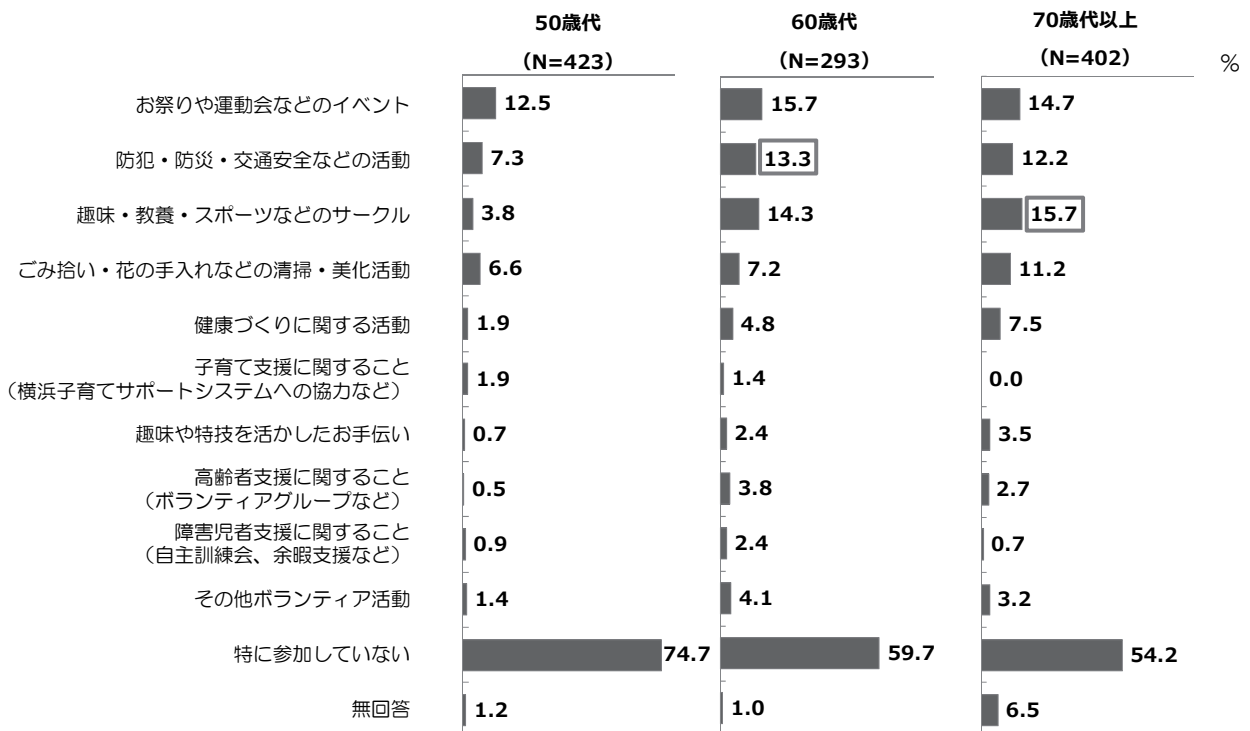
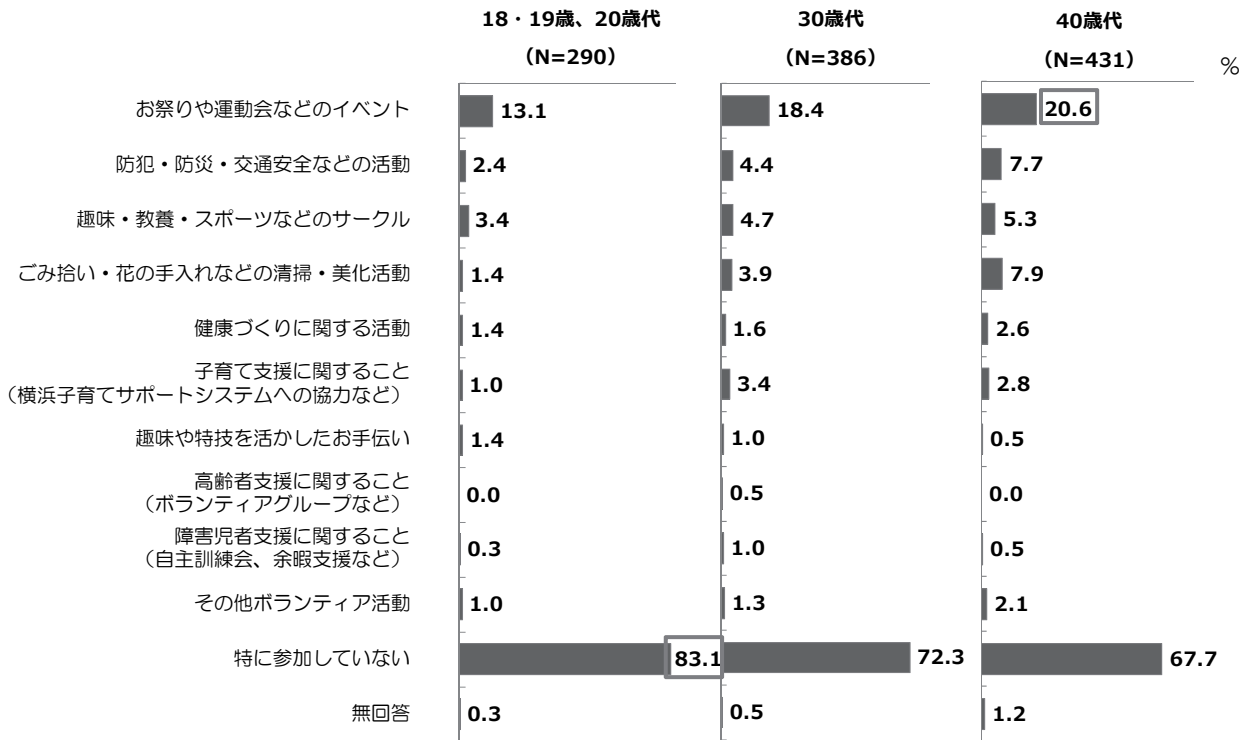
問7. あなたは、お住まいの地域でどのような活動に参加していますか。（〇はいくつでも）[N=2,231]



[地域活動への参加状況（問7）×年代]

- 地域活動への参加状況を年代別でみると、「お祭りや運動会などのイベント」は、20.6%で40歳代、「防犯・防災・交通安全などの活動」は、13.3%で60歳代、「趣味・教養・スポーツなどのサークル」は、15.7%で70歳代以上がそれぞれ最も多くなっています。
- 「特に参加していない」は、全ての年代で多い割合となり、18・19歳、20歳代の83.1%が最も多くなっています。

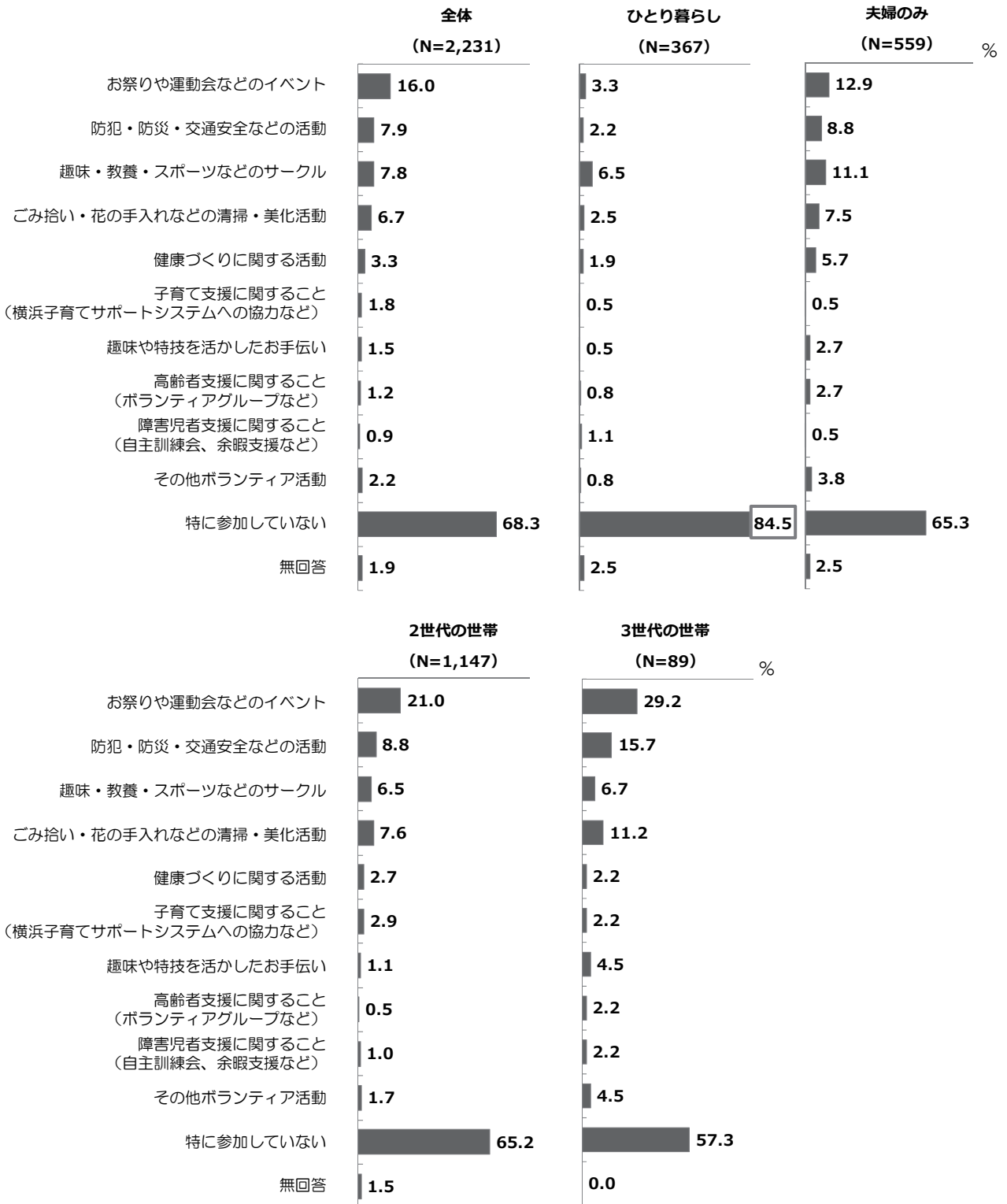
年代別



[地域活動への参加状況（問7）×世帯構成]

- 地域活動への参加状況を世帯構成別でみると、多世代であるほうが、地域活動への参加が概ね多くなっています。
- 「特に参加していない」は、ひとり暮らしの84.5%が最も多くなっています。

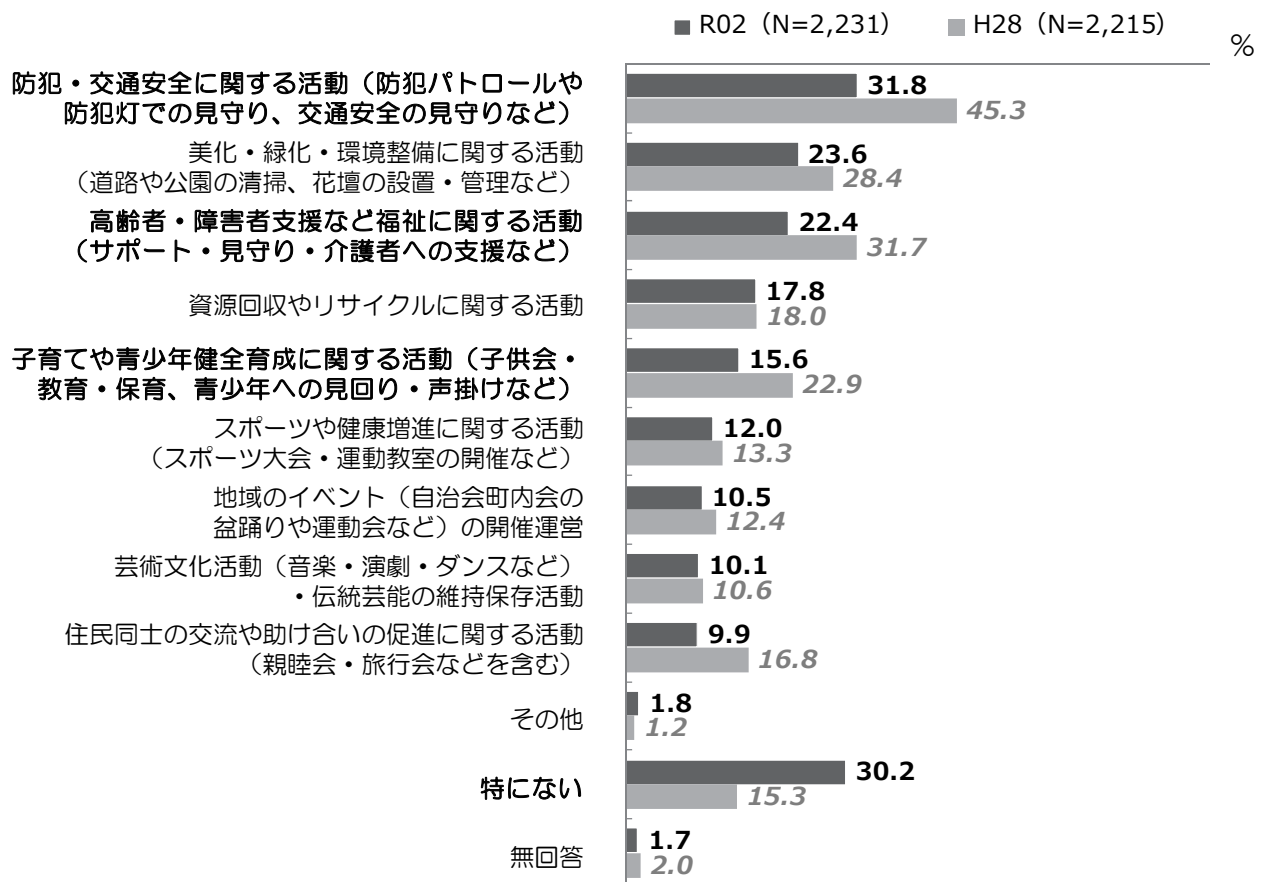
世帯構成別



【居住地域で力を入れて欲しい地域活動】（問8）

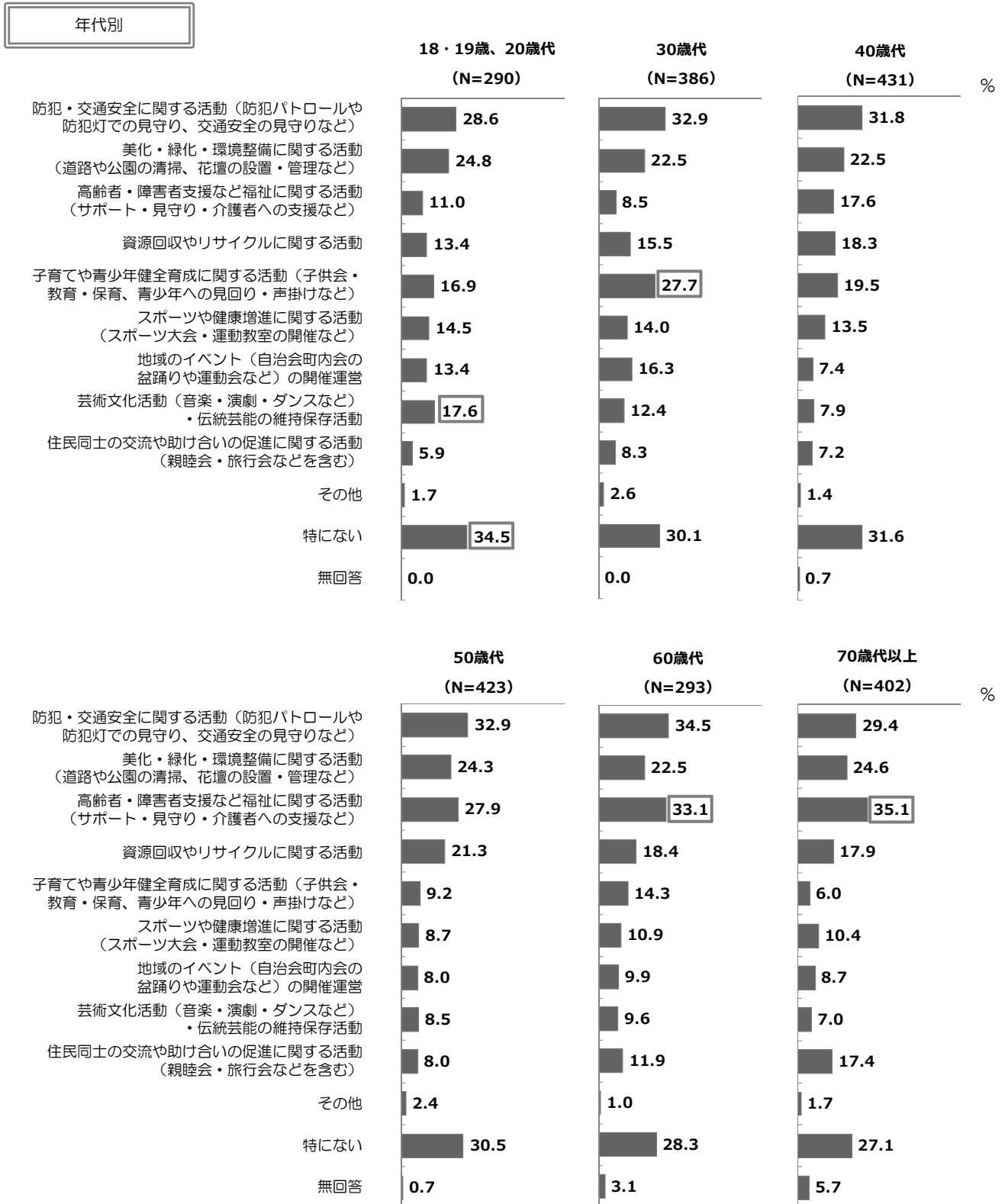
- 居住地域で力を入れて欲しい地域活動をみると、「防犯・交通安全に関する活動」の31.8%が最も多く、「美化・緑化・環境整備に関する活動」の23.6%、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」の22.4%がそれに次いでいます。
- 前回調査と比較すると、全体的に減少しており、「防犯・交通安全に関する活動」（前回比-13.5ポイント）、次いで、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」（同-9.3ポイント）、「子育てや青少年健全育成に関する活動」（同-7.3ポイント）が多く減少しています。一方で、「特にない」（同+14.9ポイント）は増加しています。

問8. 今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。（〇はいくつでも） [N=2,231]



[居住地域で力を入れて欲しい地域活動（問8）×年代]

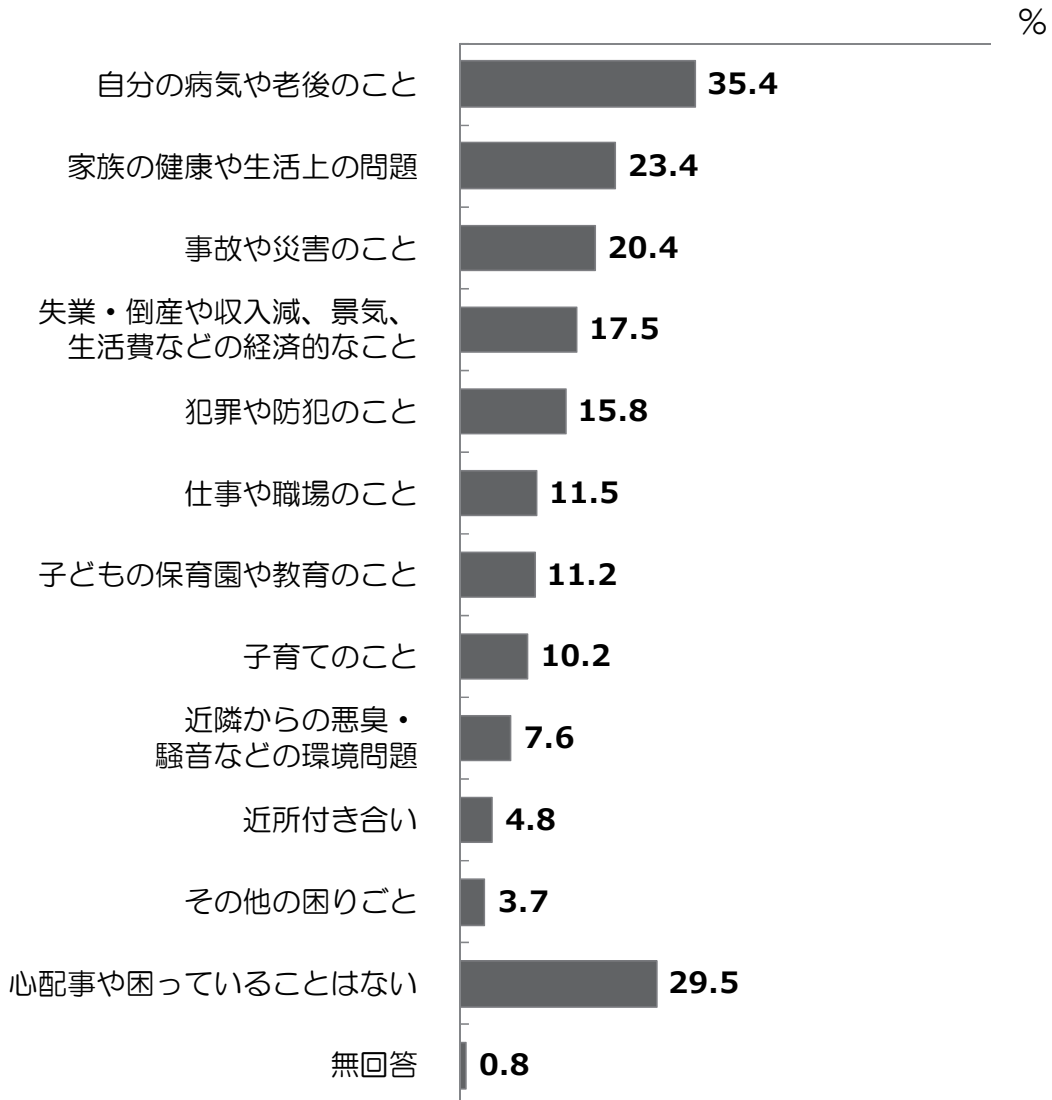
- 居住地域で力を入れて欲しい地域活動を年代別でみると、18・19歳、20歳代は他の年代と比べて、「芸術文化活動（音楽・演劇・ダンスなど）・伝統芸能の維持保存活動」（17.6%）が多く、30歳代は、「子育てや青少年健全育成に関する活動」（27.7%）が多くなっています。
- 「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」は、年代が上がるにつれて割合が概ね多くなっています。



【心配事や困窮事の有無】（問 9）

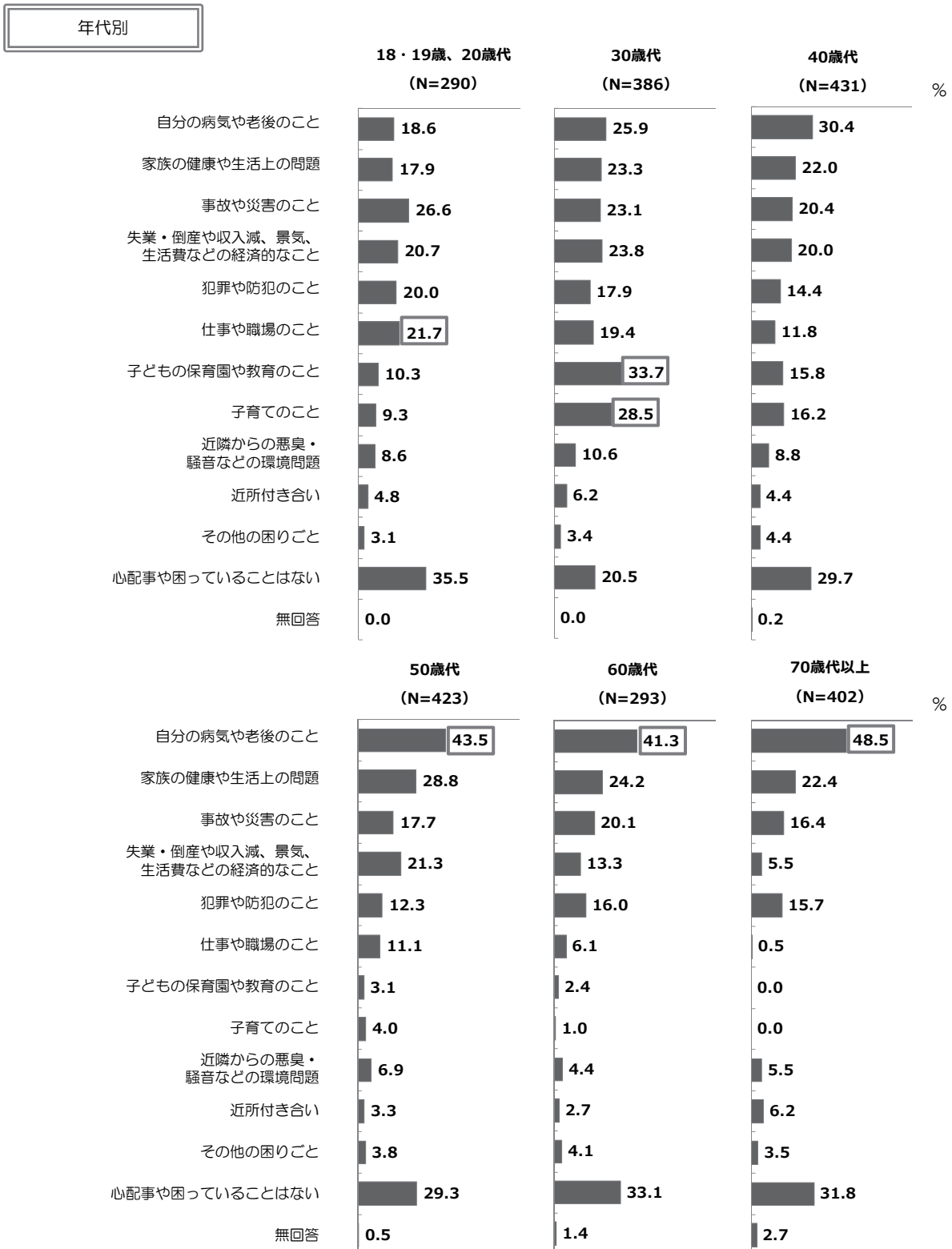
- 心配事や困窮事の有無をみると、「自分の病気や老後のこと」の35.4%が最も多く、「家族の健康や生活上の問題」の23.4%、「事故や災害のこと」の20.4%がそれに次いでいます。
- 「心配事や困っていることはない」は、約3割を占めています。

問 9. あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで、心配ごとや困っていることがありますか。以下にあげたことがらについて、心配ごとや困っていることを選択してください。（〇はいくつでも）
【N=2,231】



[心配事や困窮事の有無（問 9）×年代]

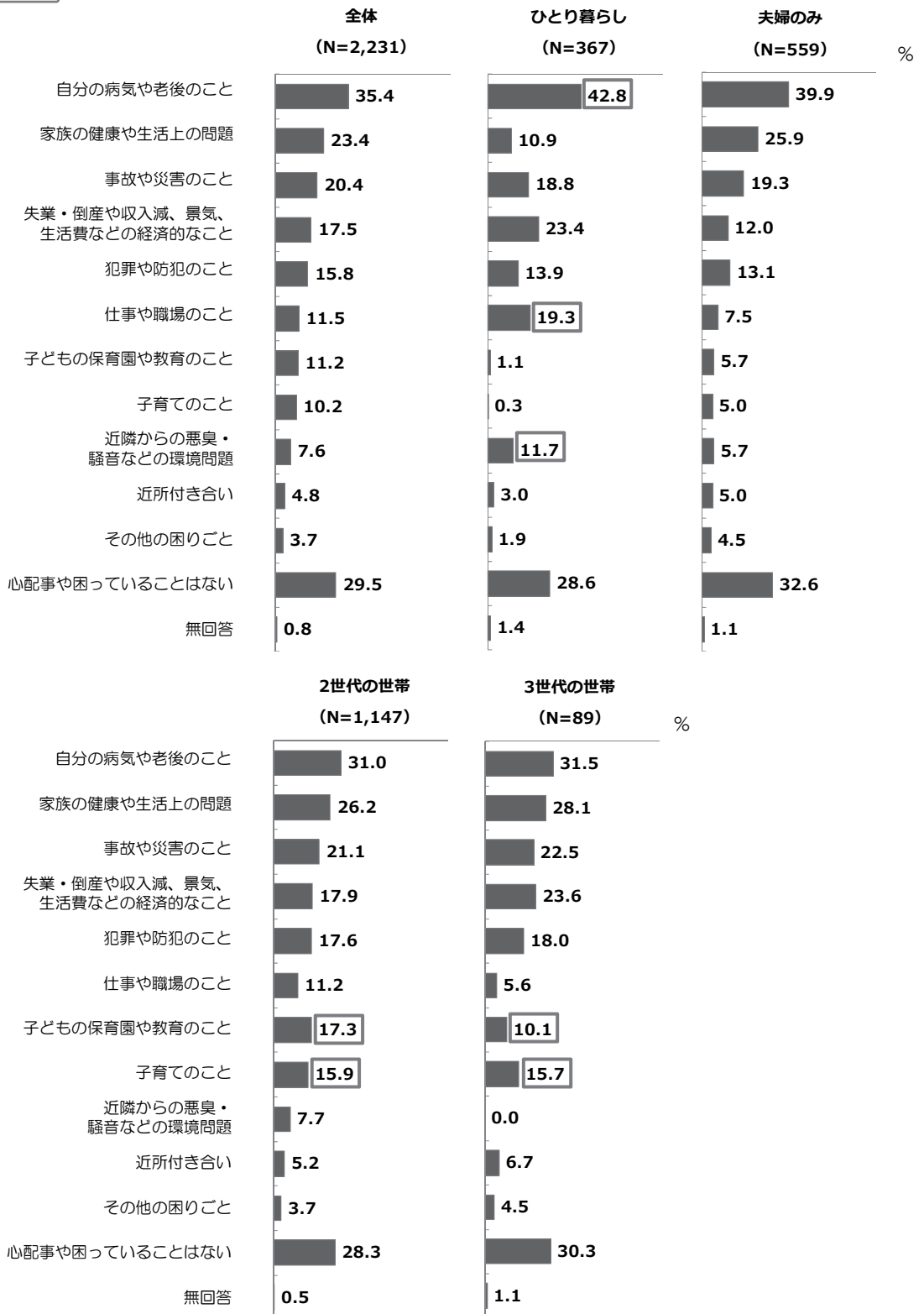
- 心配事や困窮事の有無を年代別でみると、「自分の病気や老後のこと」は、50 歳代以上で 4 割を超えて多くなっています。「仕事や職場のこと」は年代が上がるにつれて割合が少なくなっています。
- 18・19 歳、20 歳代では、他の年代と比べ「仕事や職場のこと」（21.7%）が多くなっています。
- 30 歳代では「子どもの保育園や教育のこと」（33.7%）と「子育てのこと」（28.5%）が他の年代と比べて割合が多くなっています。



[心配事や困窮事の有無（問 9）×世帯構成]

- 心配事や困窮事の有無を世帯構成別でみると、ひとり暮らしの「自分の病気や老後のこと」（42.8%）、「仕事や職場のこと」（19.3%）と「近隣からの悪臭・騒音などの環境問題」（11.7%）は、他の世帯構成と比べて割合が多くなっています。
- 2世代及び3世代の世帯では、「子どもの保育園や教育のこと」と「子育てのこと」の割合が多くなっています。

世帯構成別



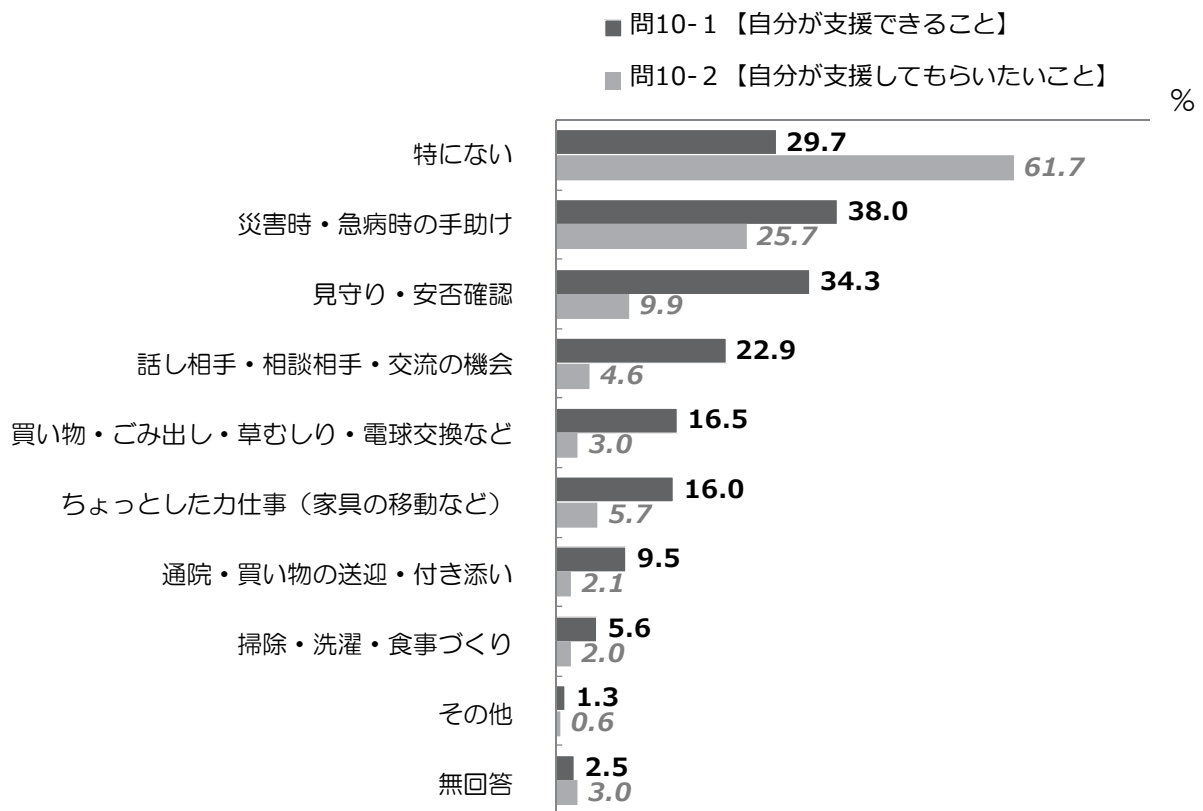
【自分が高齢者などにしてあげられる支援】（問 10-1）・

【自分が近所の人などにしてもらいたい支援】（問 10-2）

- ・自分が高齢者にしてあげられる支援で、「特にない」が3割弱であることから、何かしら支援できると考える人の割合が7割強であることが読み取れます。
- ・自分が近所の人などにしてもらいたい支援で「特にない」が6割強であることから、何かしら支援を必要としている人の割合が4割弱であることが読み取れます。
- ・自分が高齢者にしてあげられる支援及び自分が近所の人などにしてもらいたい支援ともに、「災害時・急病時の手助け」が最も多く、次いで、「見守り・安否確認」となっています。

問 10-1. 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]

問 10-2. また、あなた自身が、近所の方から支援してもらいたいことはありますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]

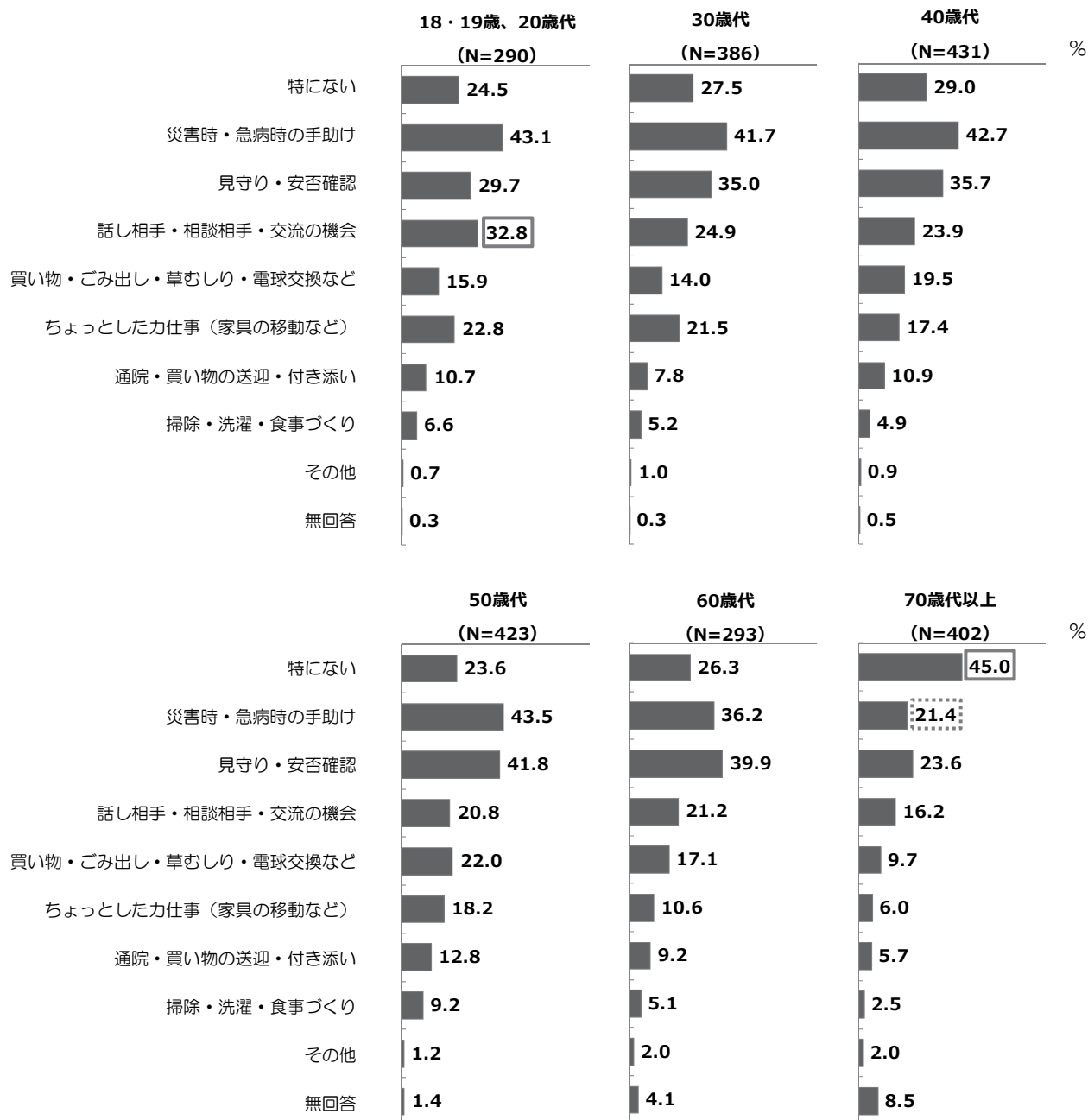


[自分が高齢者などにしてあげられる支援（問 10-1）×年代]

- ・自分が高齢者などにしてあげられる支援を年代別でみると、18・19歳、20歳代では、他の年代と比べ「話し相手・相談相手・交流の機会」（32.8%）が多くなっています。
- ・70歳代以上では、「特にない」（45.0%）が多く、「災害時・急病時の手助け」（21.4%）が少なくなっています。

年代別

【自分が高齢者などにしてあげられる支援】（問 10-1）

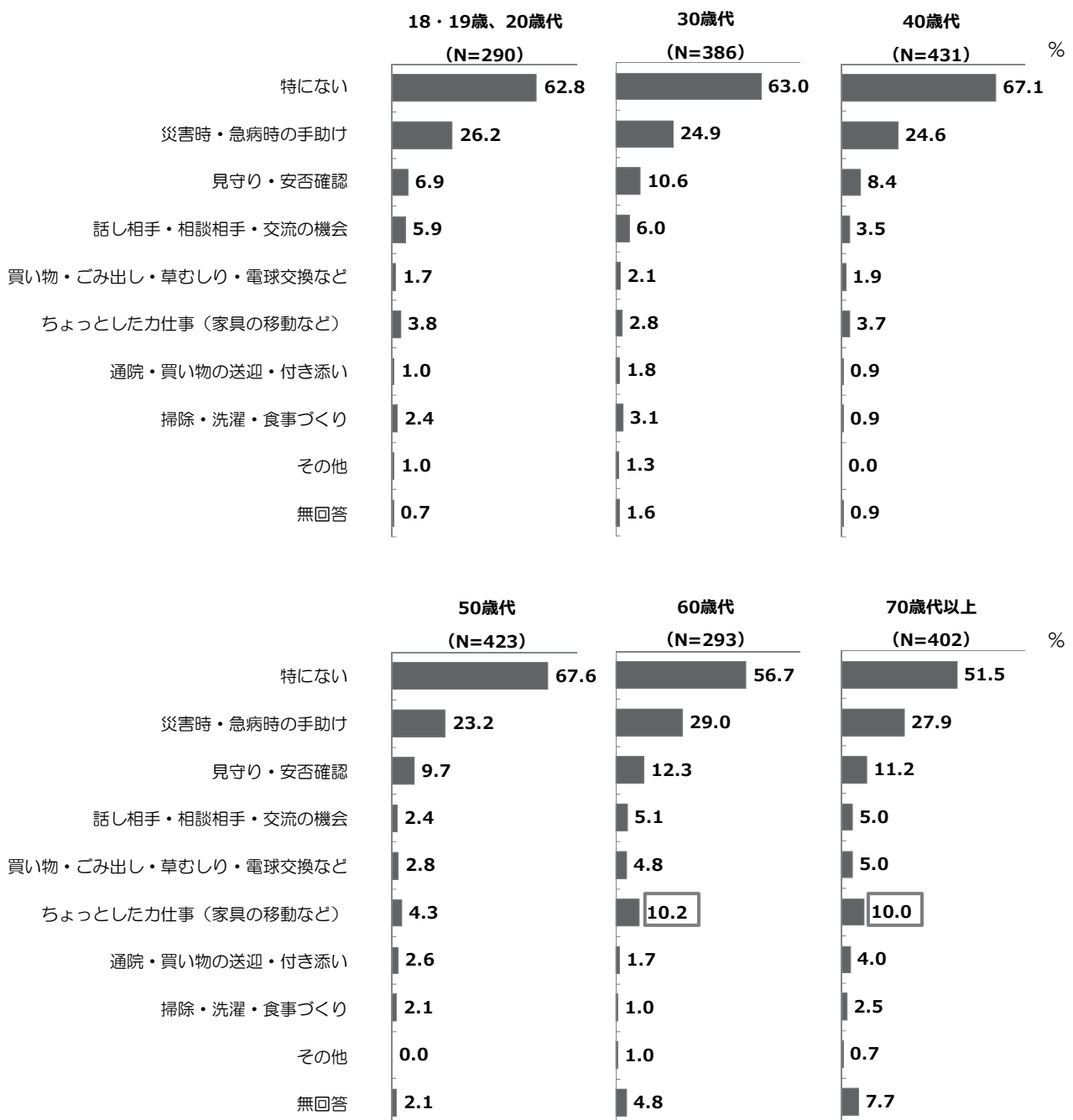


[自分が近所の人などにしてもらいたい支援（問 10-2）×年代]

- 自分が近所の人などにしてもらいたい支援を年代別でみると、「災害時・急病時の手助け」は、全ての年代で4人に1人程度が望んでいる結果となっています。
- 「ちょっとした力仕事」は、60歳代（10.2%）と70歳代以上（10.0%）が、他の年代と比べて割合が多くなっています。
- 「特にない」は、全ての年代で5割を超えています。

年代別

【自分が近所の人などにしてもらいたい支援】（問 10-2）

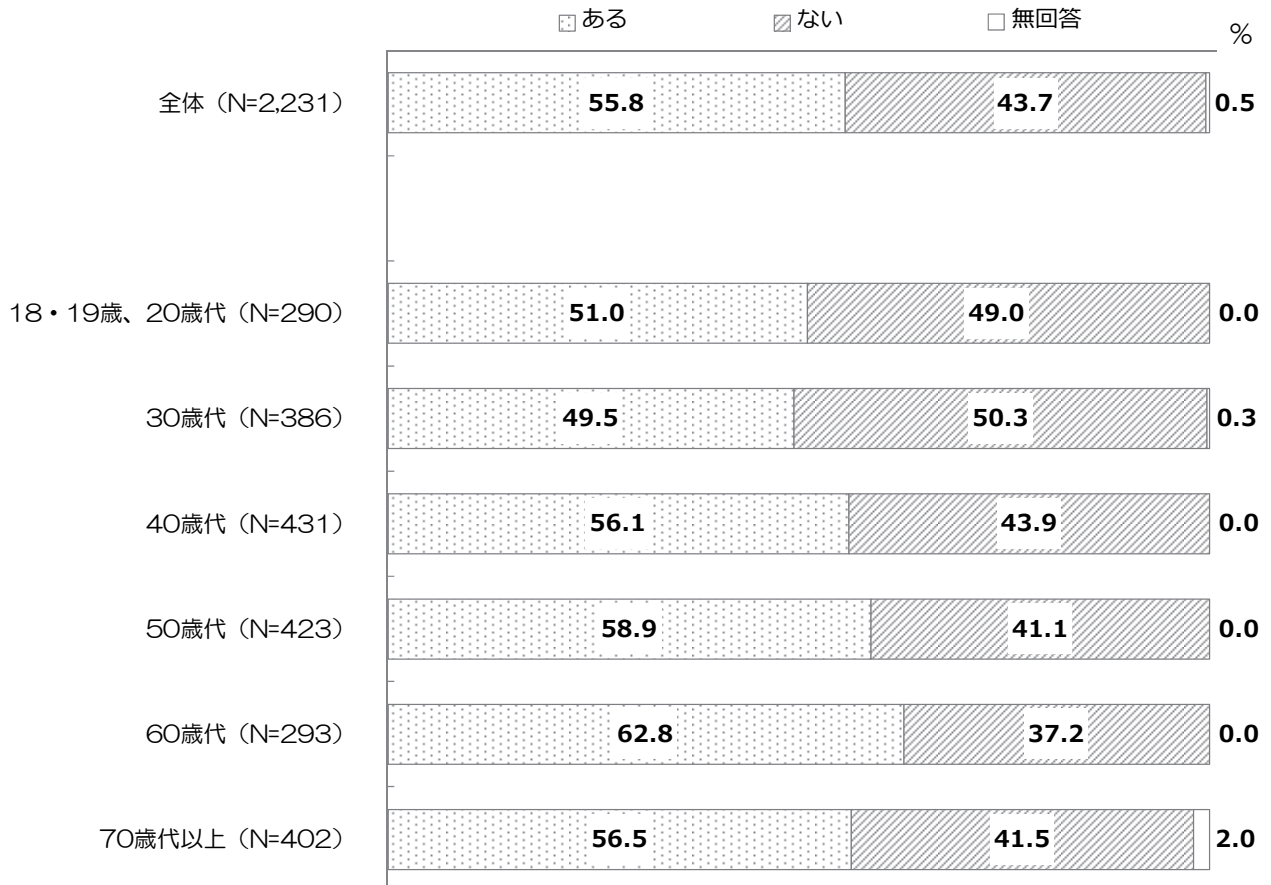


【障害者への手助け経験】（問 11）

- 障害者への手助け経験をみると、手助けをしたことが「ある」が55.8%です。
- 年代別でみると、手助けをしたことが「ある」は、60歳代をピークに年代が上がるにつれて概ね割合が多くなっています。

問 11. あなたは、障害のある人が困っているときに、手助けをしたことがありますか。（〇は1つだけ）
 [N=2,231]

全体/年代別



【障害者への手助け理由】（問 11-1）（問 11「1.ある」ベース）

- 障害者への手助け理由をみると、「困っているときはお互い様という気持ちから」の67.0%が最も多く、「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」の51.6%、少し離れて、「身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから」の18.7%がそれに次いでおり、普段の生活から手助けする気持ちが備わっている内容が理由の上位となっています。

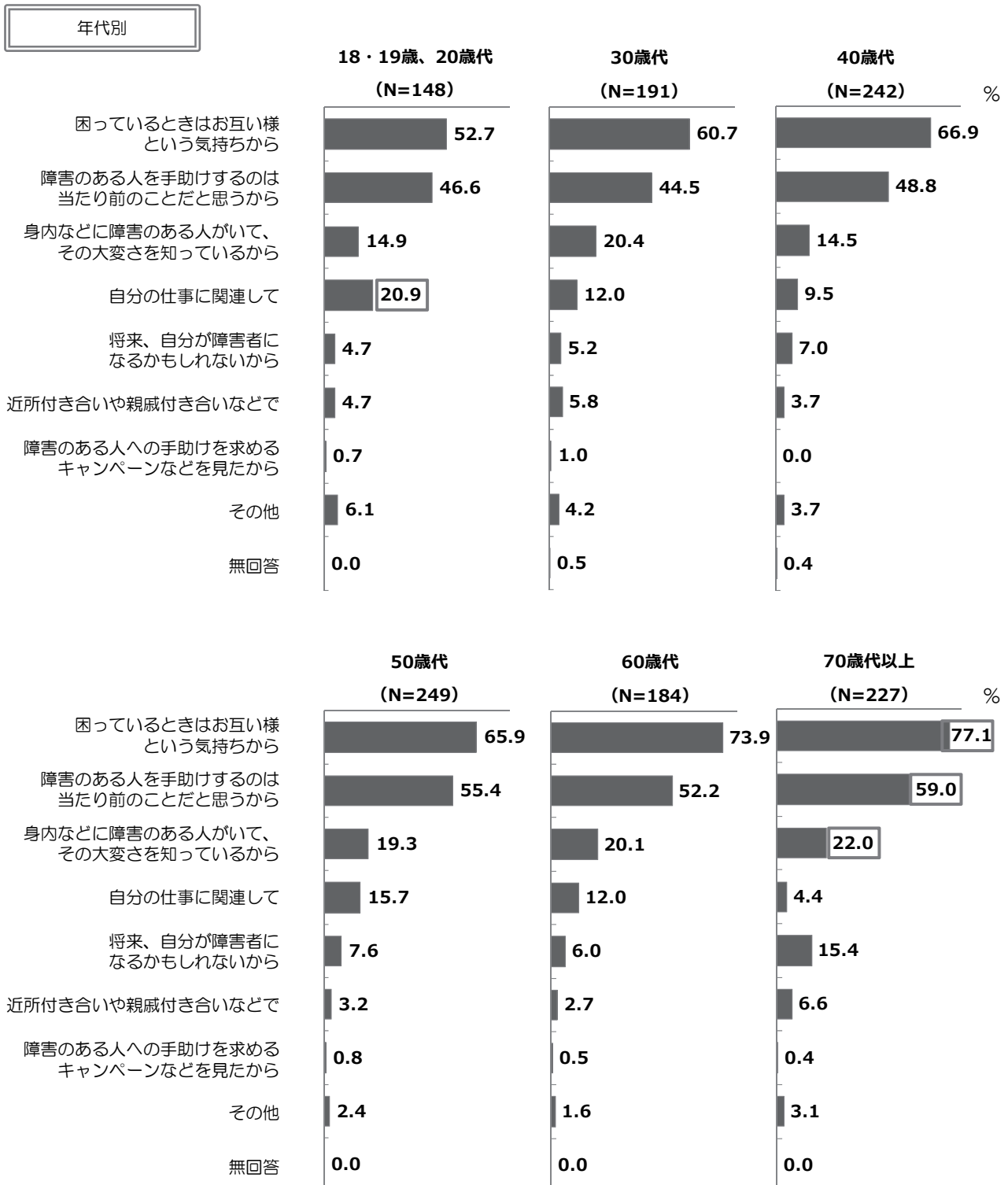
<問 11 で「1 ある」とお答えの方>

問 11-1. それはどのような気持ちからでしょうか。（〇はいくつでも） [N=1,244]



[障害者への手助け理由（問 11-1）×年代]

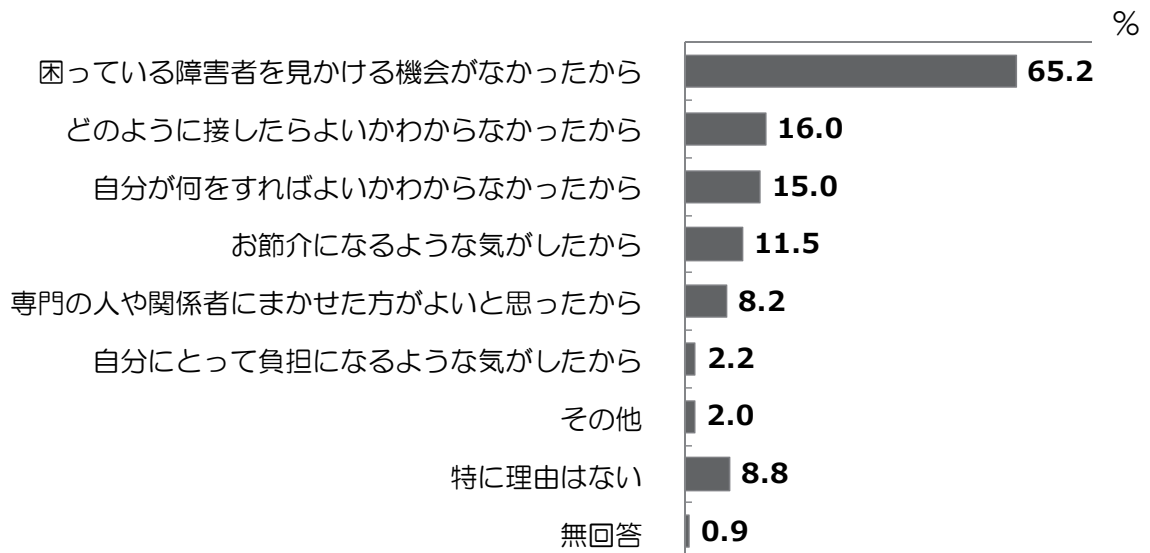
- 障害者への手助け理由を年代別でみると、70歳代以上の「困っているときはお互い様という気持ちから」(77.1%)、「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」(59.0%)、「身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから」(22.0%)は、それぞれ最も多くなっています。
- 「自分の仕事に関連して」は、18・19歳、20歳代(20.9%)が、他の年代と比べて割合が多くなっています。



【障害者を手助けしなかった理由】（問 11-2）（問 11「2.ない」ベース）

- 障害者を手助けしなかった理由をみると、「困っている障害者を見かける機会がなかったから」の 65.2%が最も多く、「どのように接したらよいかわからなかったから」の 16.0%、「自分が何をすればよいかわからなかったから」の 15.0%がそれに次いでおり、なかなか障害者に接する機会がないことが理由の上位となっています。

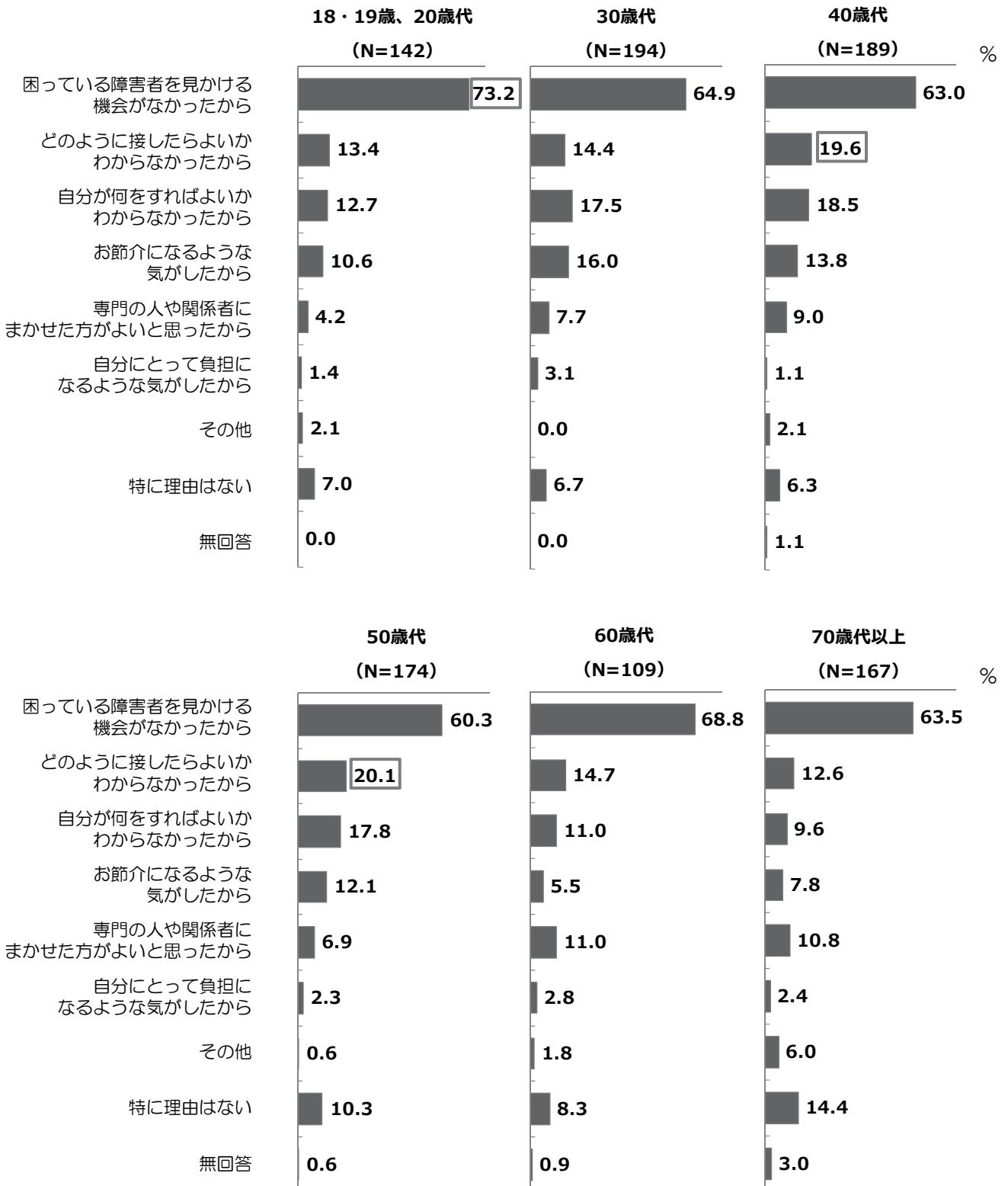
＜問 11 で「2 ない」とお答えの方＞
問 11-2. なかったのはどうしてでしょうか。（〇はいくつでも） [N=976]



[障害者を手助けしなかった理由（問 11-2）×年代]

- 障害者を手助けしなかった理由を年代別でみると、「困っている障害者を見かける機会がなかったから」は、73.2%で18・19歳、20歳代が最も多くなっています。
- 「どのように接したらよいかわからなかったから」は、40歳代（19.6%）と50歳代（20.1%）が、他の年代と比べて割合が多くなっています。

年代別



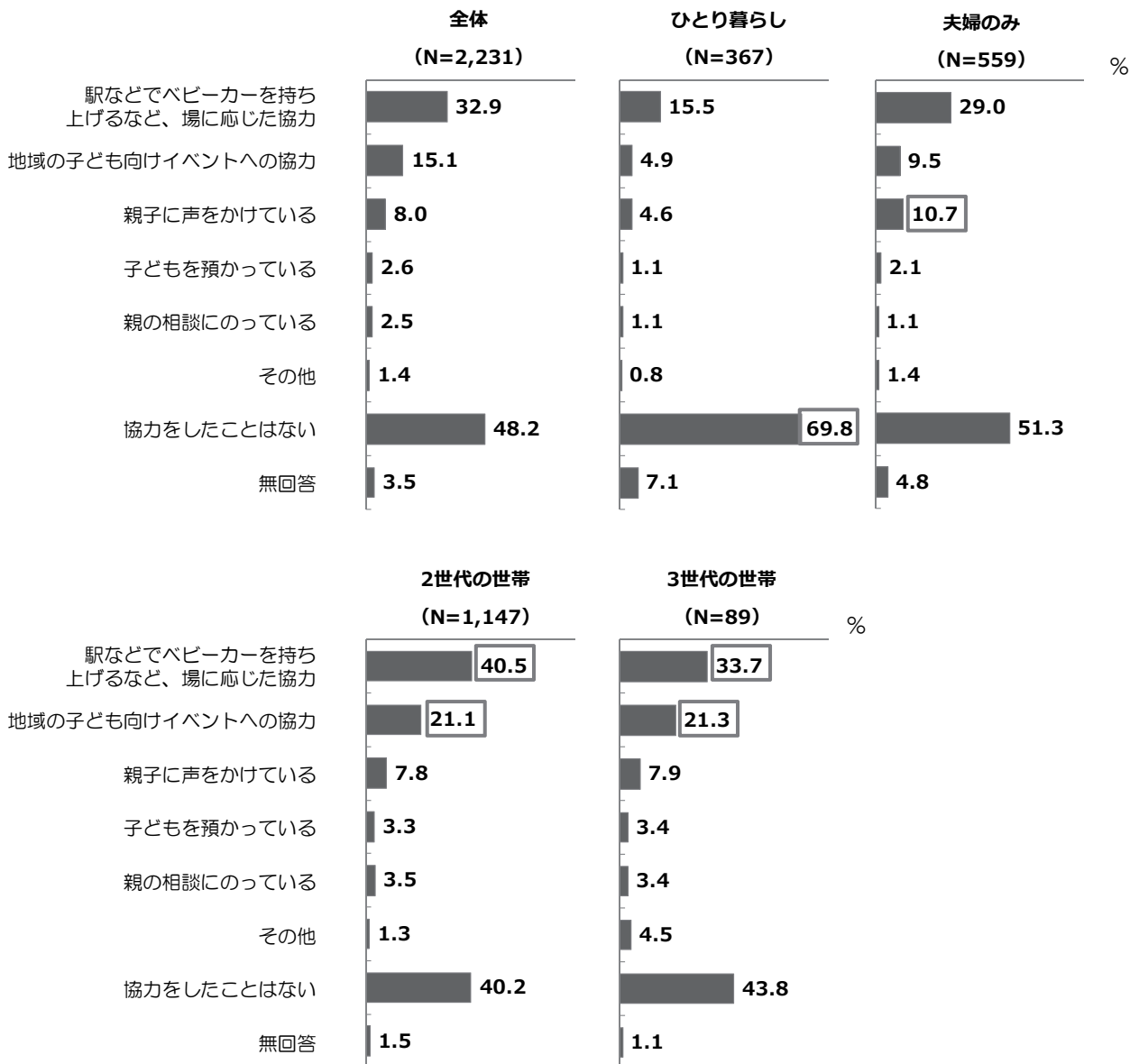
(5) 子育てについて

【地域の子育てへの協力】（問 12）

- 地域の子育てへの協力をみると、「駅などでベビーカーを持ち上げるなど、場に応じた協力」の 32.9%が最も多く、「地域の子ども向けイベントへの協力」の 15.1%、「親子に声をかけている」の 8.0%がそれに次いでいます。
- 世帯構成別でみると、2 世代及び 3 世代の世帯では、「駅などでベビーカーを持ち上げるなど、場に応じた協力」と「地域の子ども向けイベントへの協力」の割合が多くなっています。また、夫婦のみの「親子に声をかけている」は他の世帯構成と比べて多くなっています。
- ひとり暮らしは、「協力をしたことはない」（69.8%）が最も多くなっています。

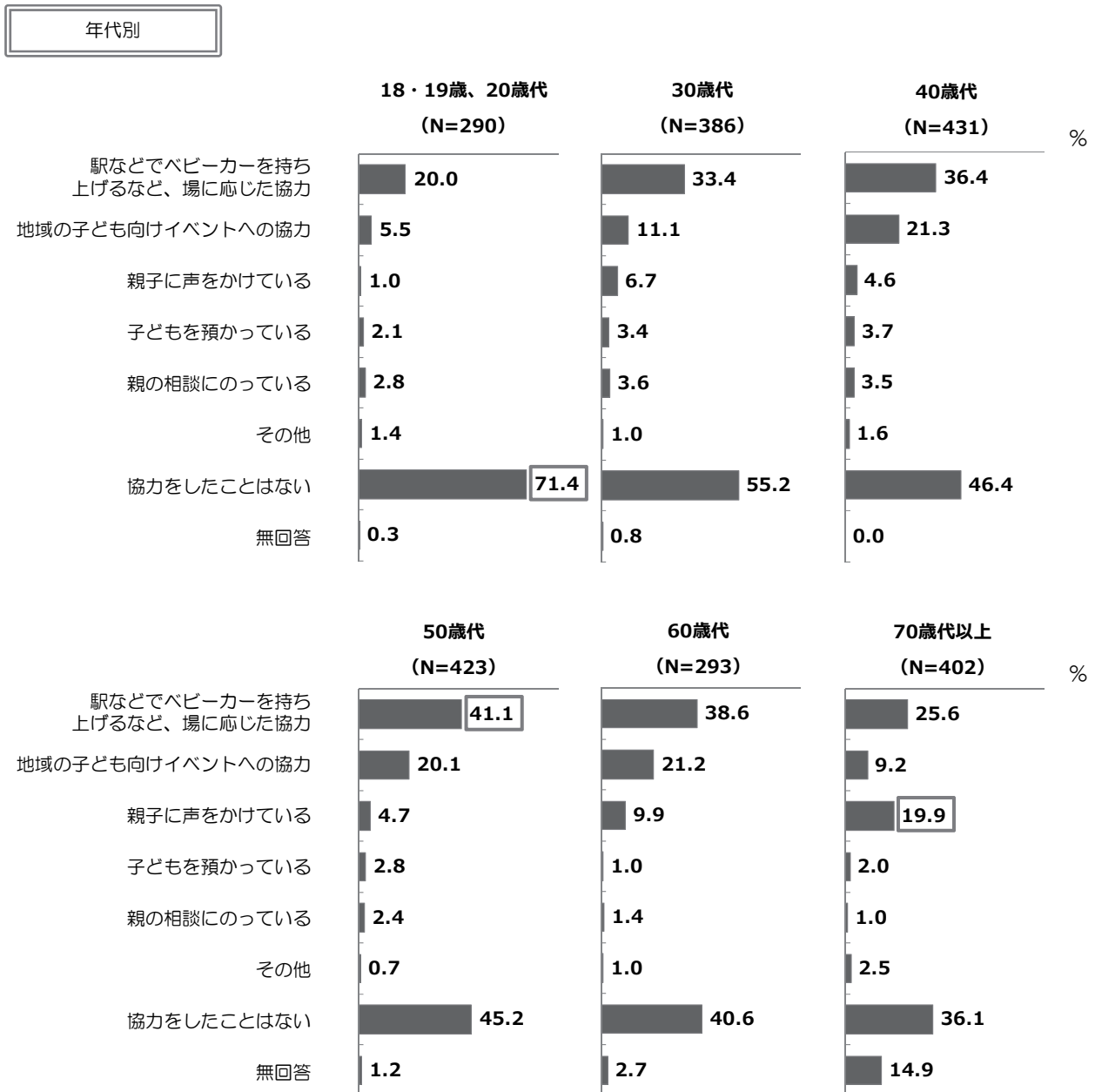
問 12. あなたは、地域の子育てにどのような協力をしたことがありますか。（〇はいくつでも）
[N=2,231]

全体/世帯構成別



[地域の子育てへの協力（問 12）×年代]

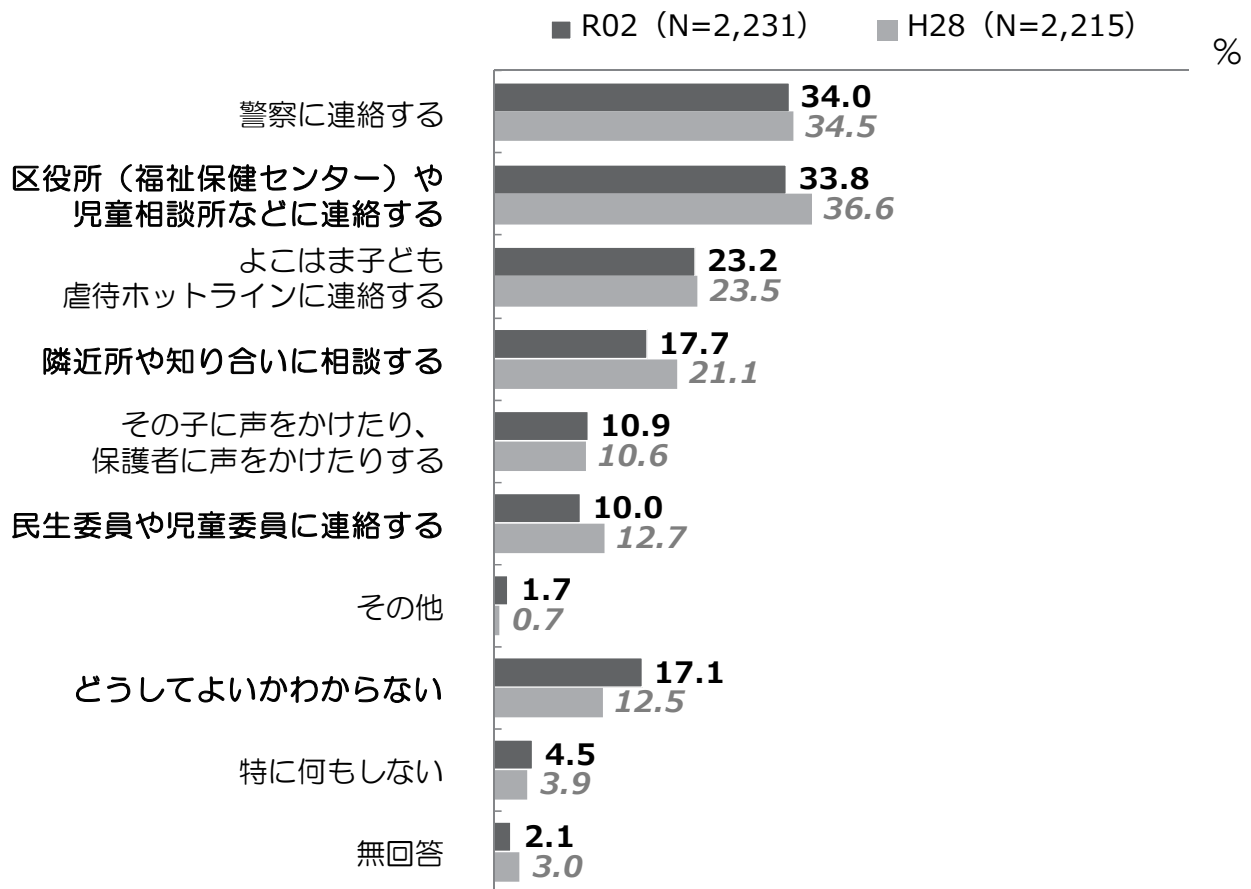
- 地域の子育てへの協力を年代別でみると、「協力をしたことはない」は、18・19歳、20歳代の71.4%が最も多く、年代が上がるにつれて割合が減少しています。
- 「駅などでベビーカーを持ち上げるなど、場に応じた協力」は、41.1%で50歳代、「親子に声をかけている」は、19.9%で70歳代以上がそれぞれ最も多くなっています。



【虐待疑いの児童に気づいた場合の対応】（問 13）

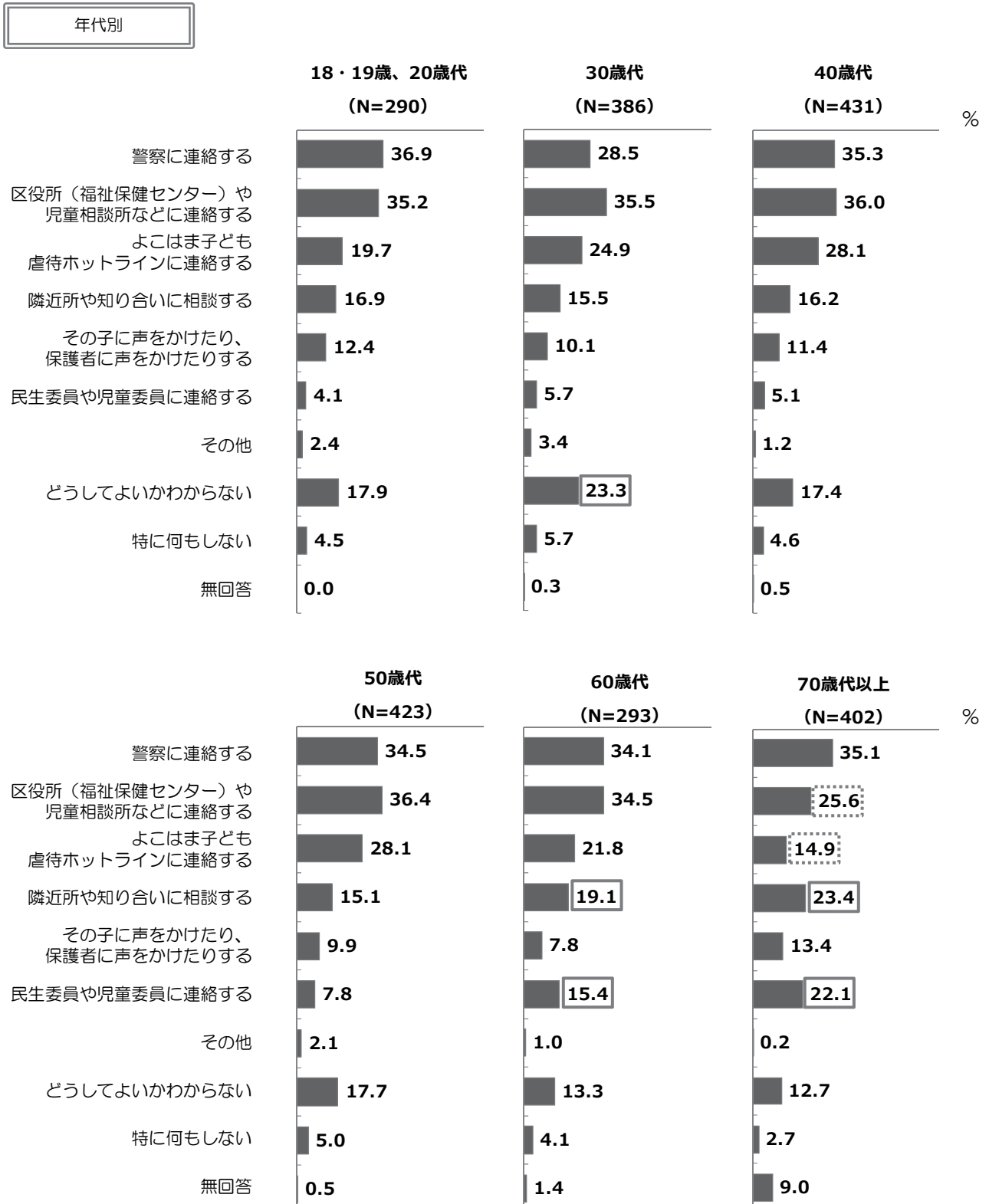
- 虐待疑いの児童に気づいた場合の対応をみると、「警察に連絡する」の34.0%が最も多く、「区役所（福祉保健センター）や児童相談所などに連絡する」の33.8%、「よこはま子ども虐待ホットラインに連絡する」の23.2%がそれに次いでいます。
- 前回調査と比較すると、全体的に減少しており、「隣近所や知り合いに相談する」（前回比-3.4ポイント）、次いで、「区役所（福祉保健センター）や児童相談所などに連絡する」（同-2.8ポイント）、「民生委員や児童委員に連絡する」（同-2.7ポイント）が減少しています。また、「どうしてよいかわからない」（同+4.6ポイント）は増加しています。

問 13. あなたは、虐待が疑われる児童に気づいた場合、どのような対応をとりますか。
（〇はいくつでも） [N=2,231]



[虐待疑いの児童に気づいた場合の対応（問 13）×年代]

- 虐待疑いの児童に気づいた場合の対応を年代別で見ると、70 歳代以上では、「区役所（福祉保健センター）や児童相談所などに連絡する」（25.6%）と「よこはま子ども虐待ホットラインに連絡する」（14.9%）が他の年代と比べて割合が少なくなっています。
- 60 歳代と 70 歳代以上は、「隣近所や知り合いに相談する」と「民生委員や児童委員に連絡する」が、他の年代と比べて割合が多くなっています。
- 「どうしてよいかわからない」は、30 歳代が 23.3%と最も多くなっています。

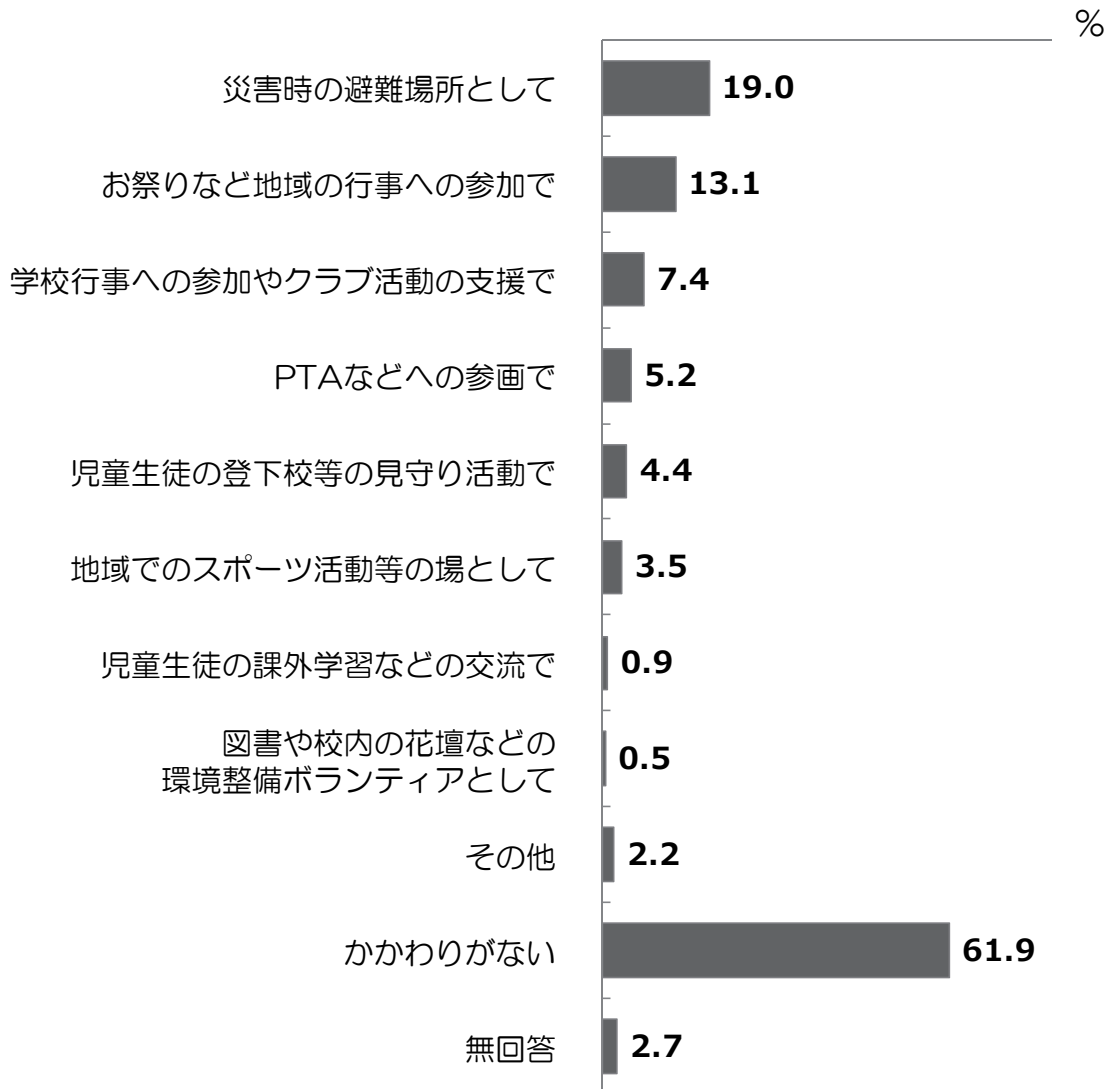


(6) 学校について

【近隣の学校とのかかわり】（問 14）

- 近隣の学校とのかかわりをみると、「災害時の避難場所として」の 19.0%が最も多く、「お祭りなど地域の行事への参加で」の 13.1%、「学校行事への参加やクラブ活動の支援で」の 7.4%がそれに次いでおり、地域の参加しやすい活動や行事が学校とのつながりとなっています。
- 「かかわりがない」は、61.9%で6割を超えています。

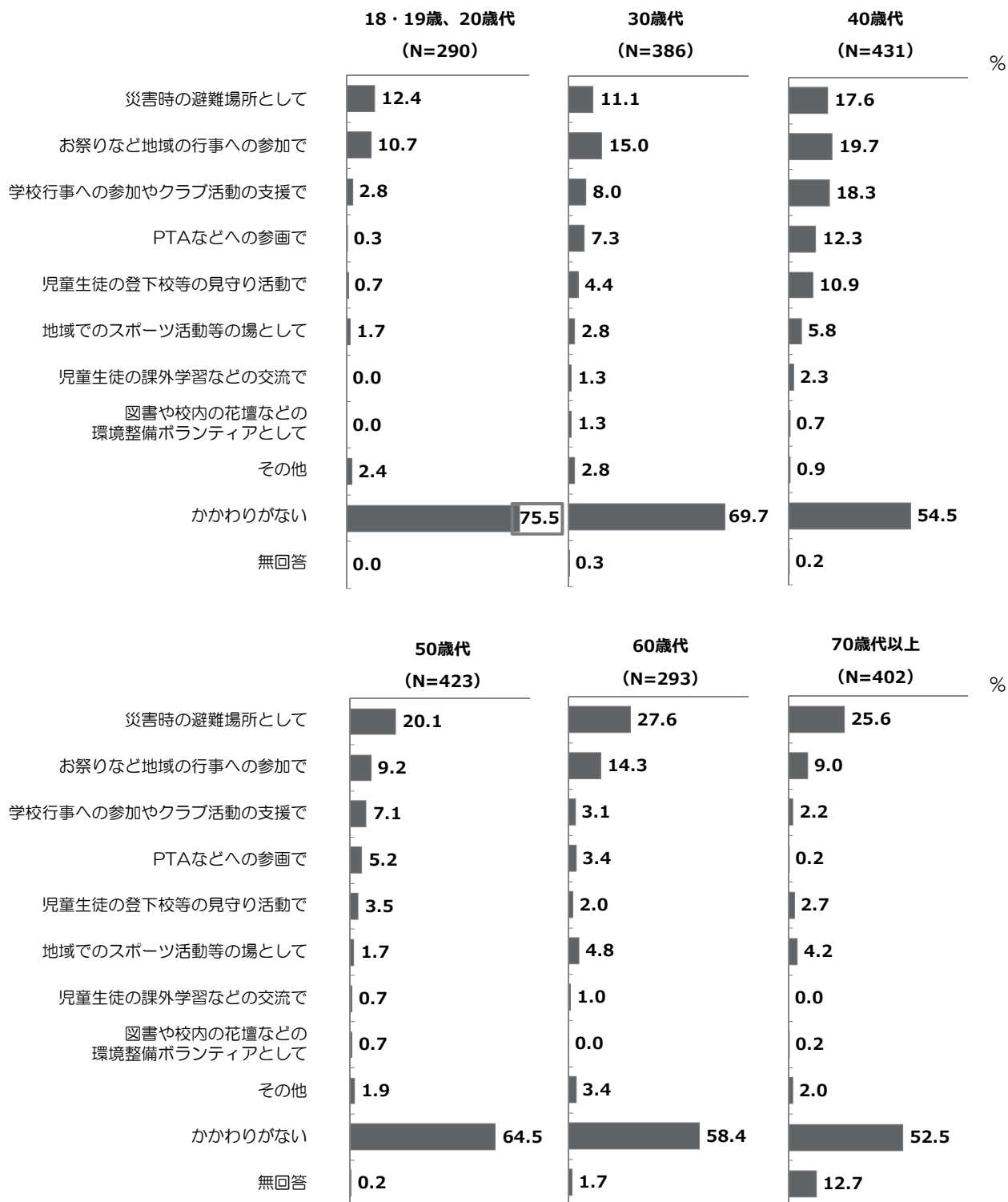
問 14. 普段、近隣の学校とどのようなかかわりがありますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]



[近隣の学校とのかかわり（問 14）×年代]

- 近隣の学校とのかかわりを年代別でみると、40 歳代は他の年代と比べて、ほとんどの項目で割合が多く、学校が身近であることが分かります。
- 「災害時の避難場所として」でのかかわりは、年代が上がるにつれて、概ね割合が多くなっています。
- 「かかわりがない」は、18・19 歳、20 歳代が 75.5%と最も多くなっています。

年代別

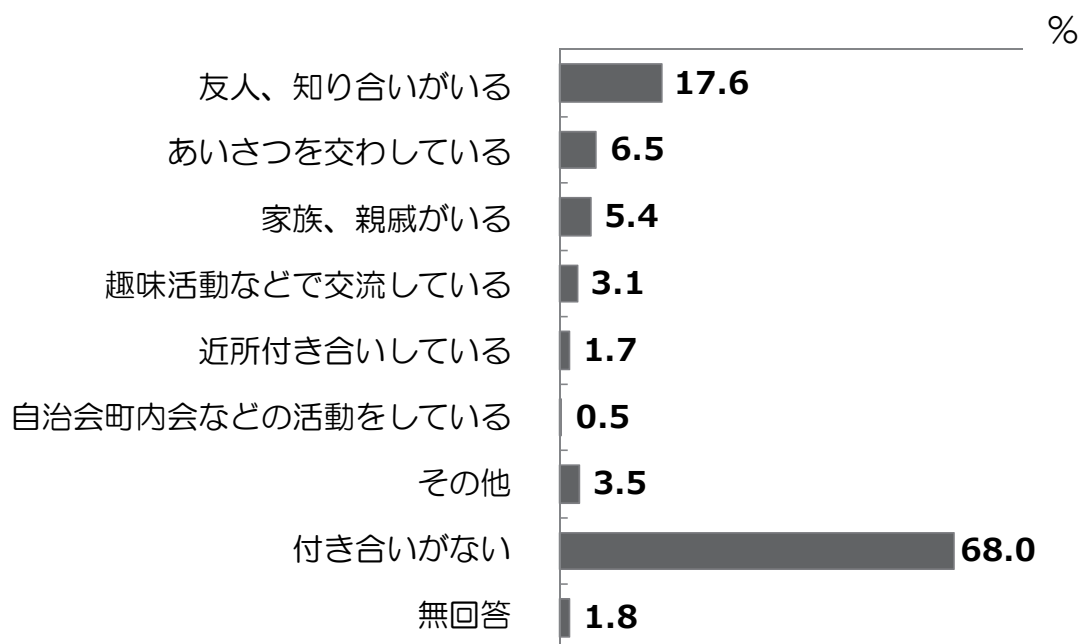


(7) 多文化共生について

【外国人との交流】（問 15）

- 外国人との交流をみると、「友人、知り合いがいる」の 17.6%が最も多く、「あいさつを交わしている」の 6.5%、「家族、親戚がいる」の 5.4%がそれに次いでいます。
- 「付き合いがない」は、68.0%で約 7 割を占めており、なかなか外国人と交流する機会がないことが分かります。

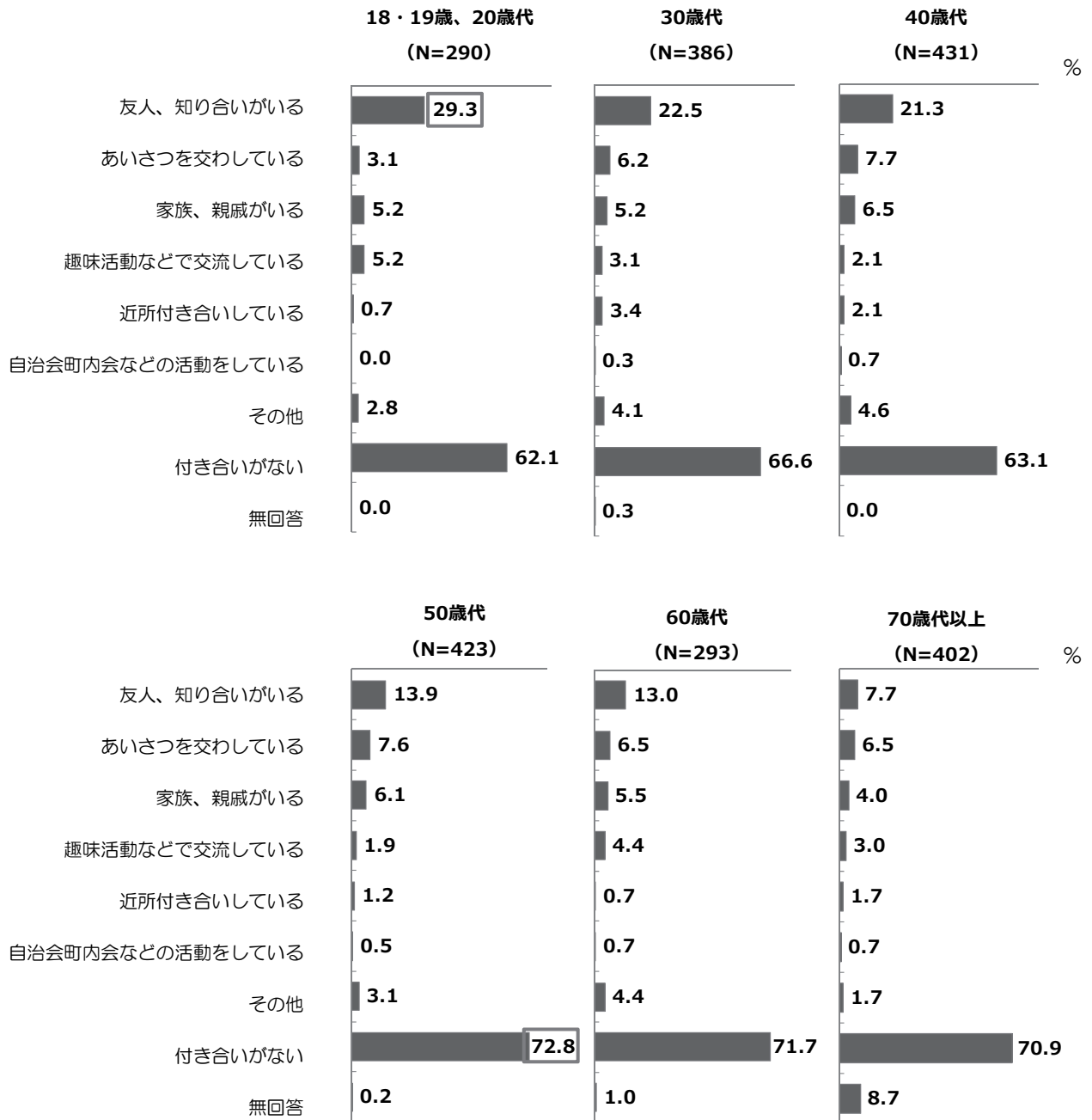
問 15. あなたは現在、外国人とどのような交流がありますか。
(外国人の方は、日本人とどのような交流がありますか。)(〇はいくつでも) [N=2,231]



[外国人との交流（問 15）×年代]

- 外国人との交流を年代別でみると、「友人、知り合いがいる」は 18・19 歳、20 歳代が 29.3% と最も多く、年代が上がるにつれて割合が少なくなっています。
- 「付き合いがない」は 50 歳代が 72.8% と最も多く、上の年代で割合が多くなっています。

年代別



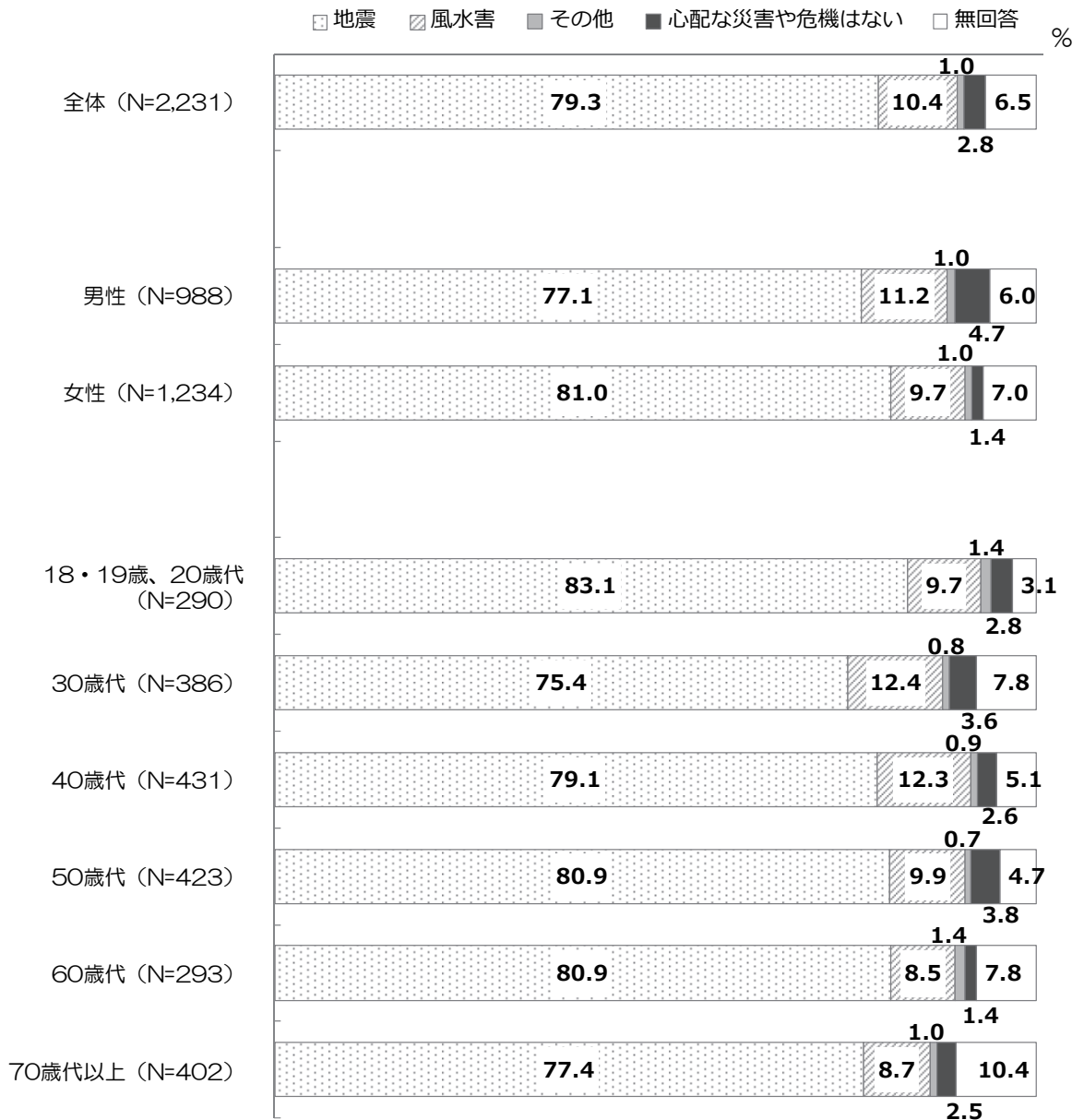
(8) 防災について

【最も心配な災害や危機】（問 16）

- 最も心配な災害や危機をみると、「地震」が79.3%と最も多くなっています。性別で比較すると、男女ともに「地震」が最も多く、若干ですが、女性の割合が多くなっています。
- 年代別でも「地震」が最も多いですが、30歳代が他の年代と比べ、若干割合が少なくなっています。

問 16. あなたが最も心配だと思う災害や危機は何ですか。（〇は1つだけ） [N=2,231]

全体/性別/年代別

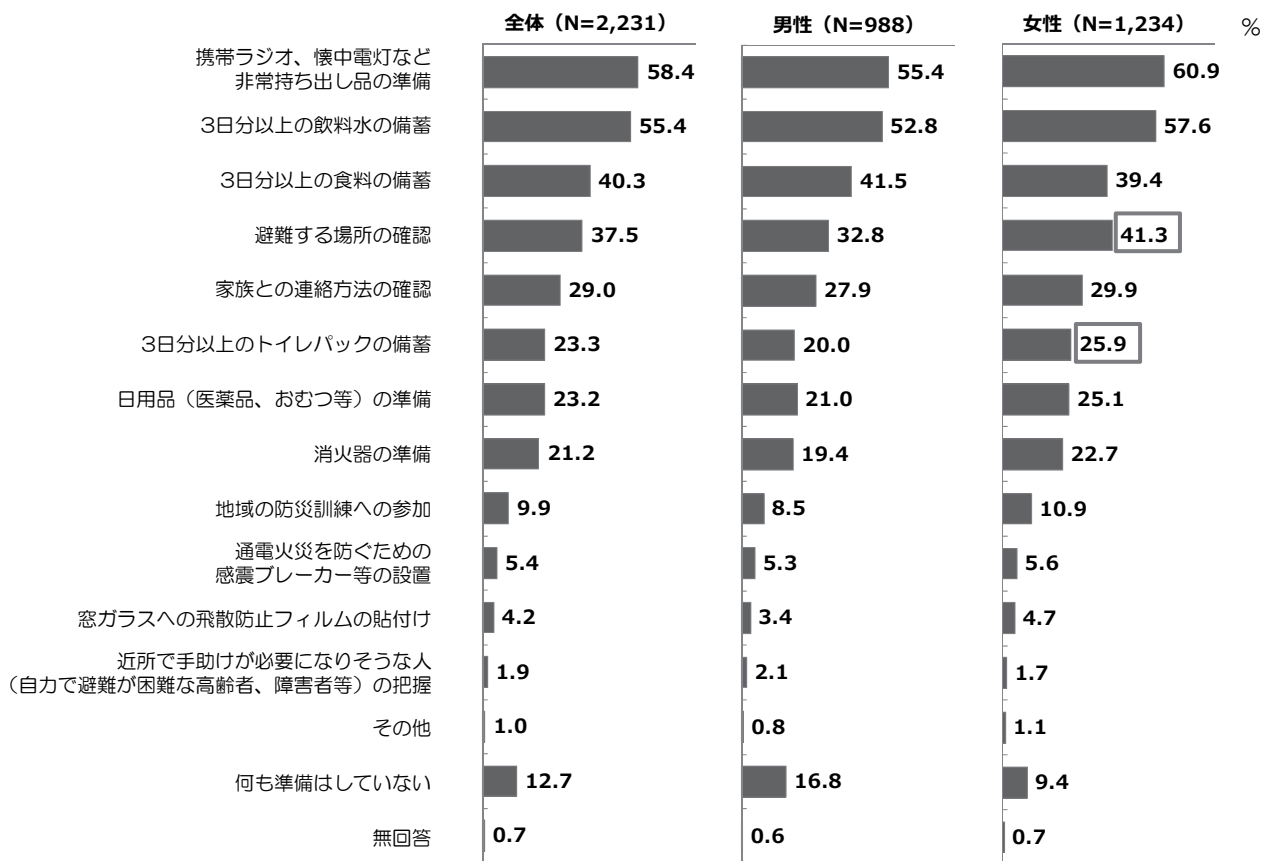


【地震に対する準備】（問 17）

- 地震に対する準備をみると、全体的に多い割合とは言えず、12.7%の人は「何も準備はしていない」と回答しており、地震に対する準備は万全であるとは言えません。「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」の58.4%が最も多く、「3日以上の飲料水の備蓄」の55.4%、「3日以上の食料の備蓄」の40.3%がそれに次いで割合が多くなっています。
- 性別で比較すると、全体的に男性よりも女性の割合が多く、なかでも女性は「避難する場所の確認」（男女比+8.5ポイント）、「3日以上のトイレパックの備蓄」（同+5.9ポイント）が多くなっています。

問 17. 地震についておうかがいします。あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。（〇はいくつでも）【N=2,231】

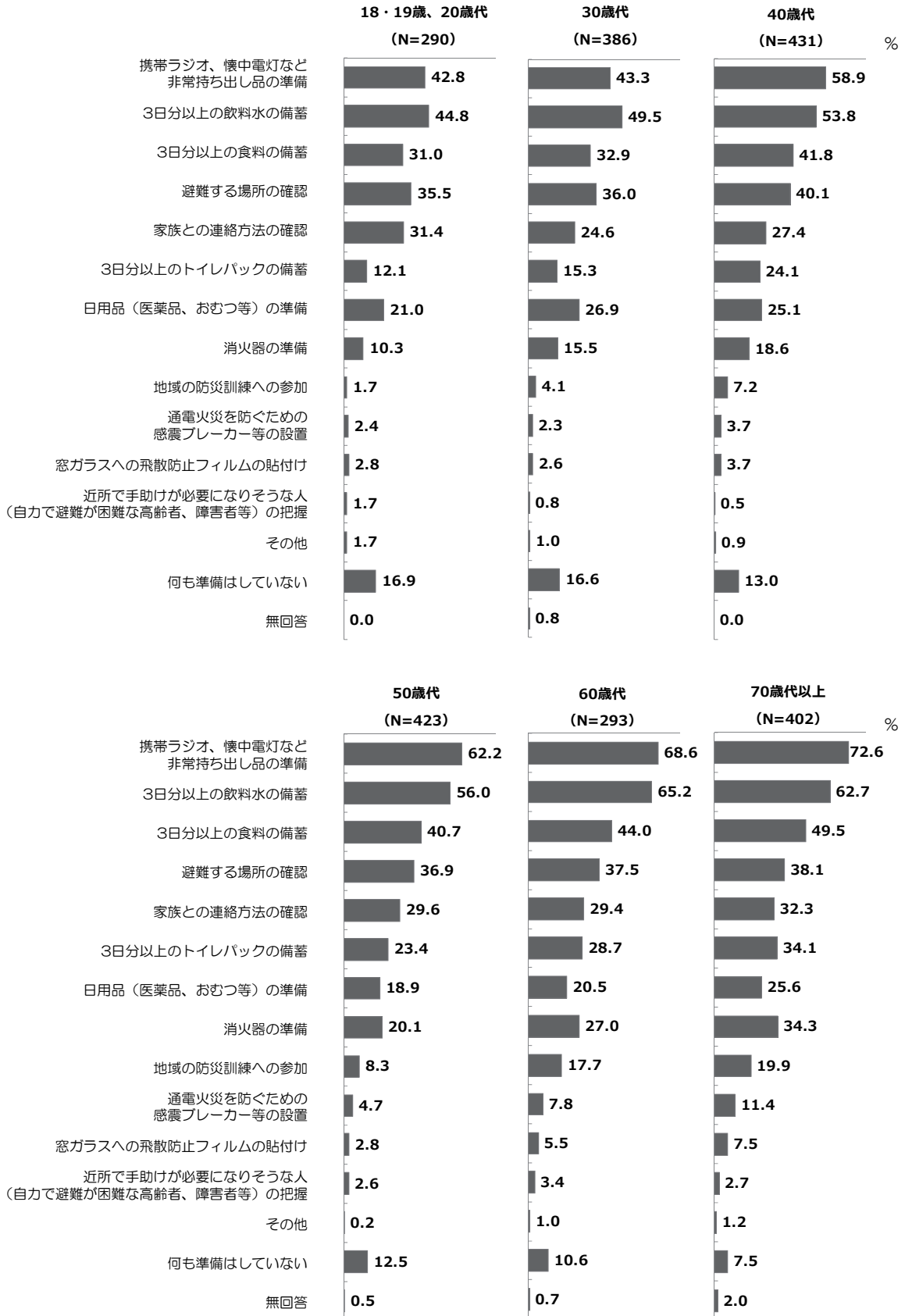
全体/性別



[地震に対する準備（問 17）×年代]

・地震に対する準備を年代別で見ると、多くの項目で、年代が上がるにつれて割合が多くなっています。

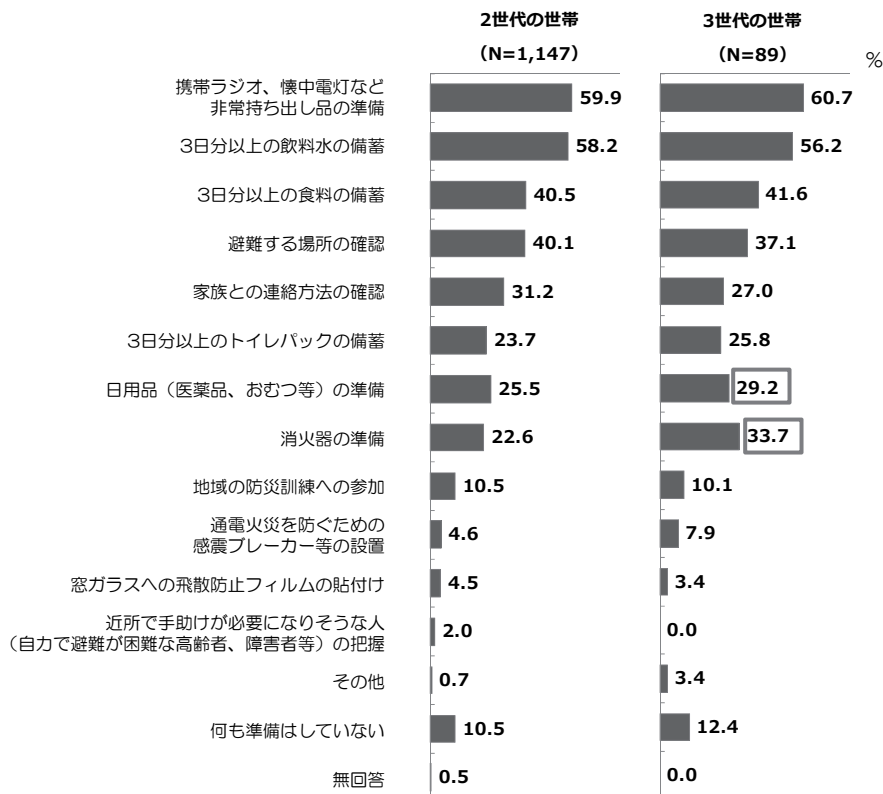
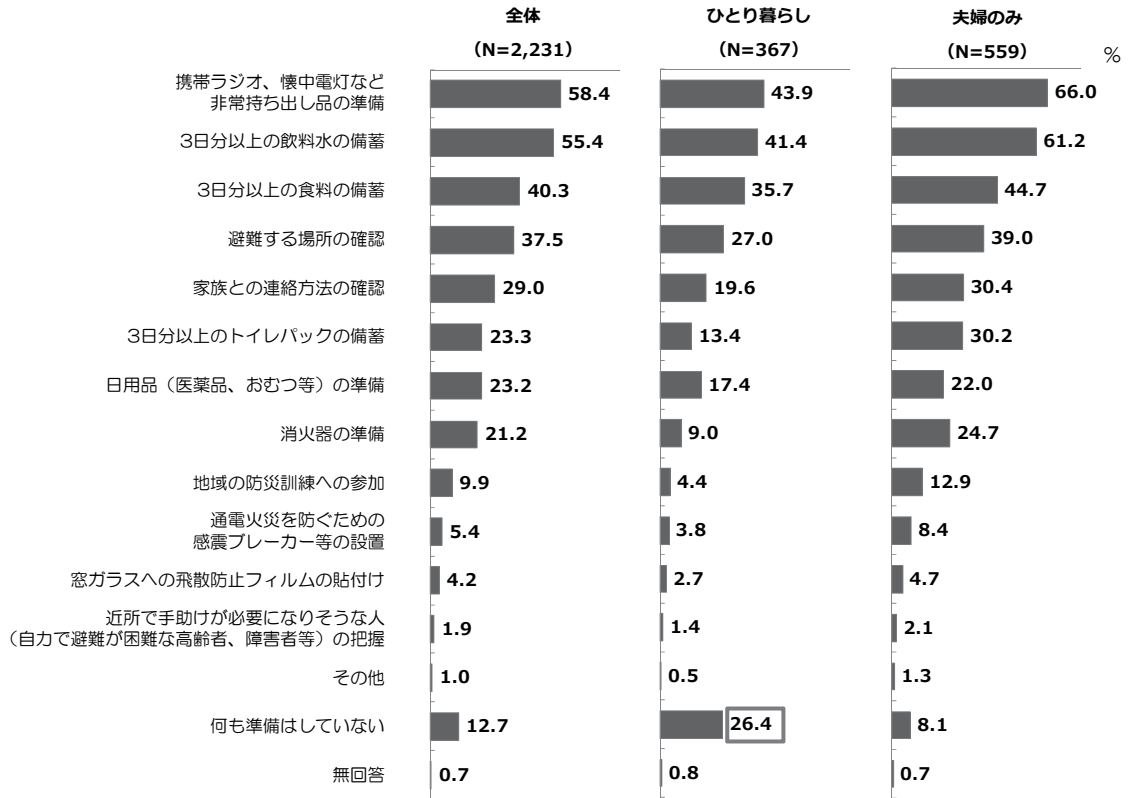
年代別



[地震に対する準備（問 17）×世帯構成]

- 地震に対する準備を世帯構成別でみると、ひとり暮らしの備えは概ねすべての項目で少ない結果であり、「何も準備はしていない」は26.4%と最も多い割合です。
- 3世代の世帯は、「日用品（医薬品、おむつ等）の準備」の29.2%、「消火器の準備」の33.7%が、他の世帯構成と比べて割合が多くなっています。

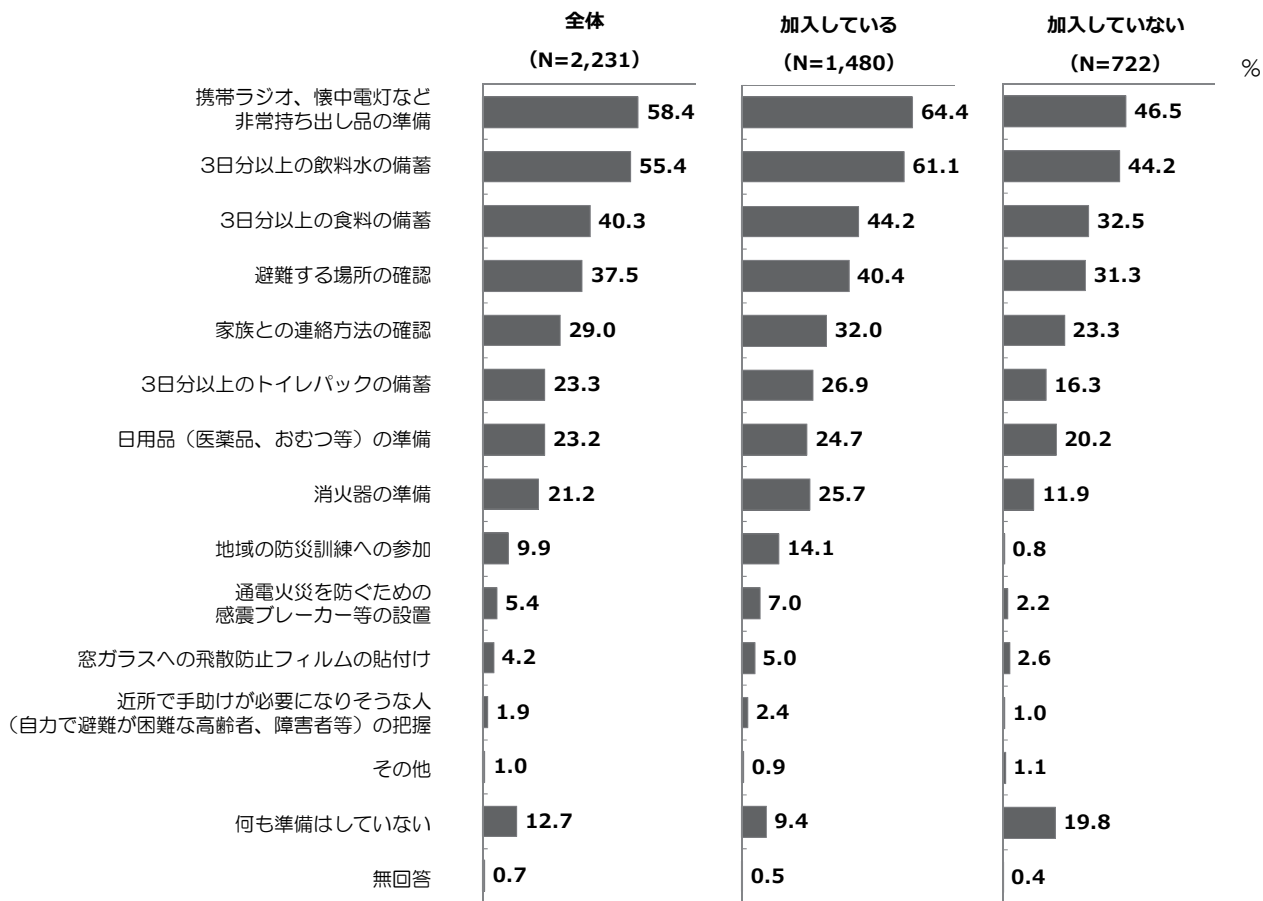
世帯構成別



[地震に対する準備（問 17）×自治会町内会への加入有無（問 6）]

- 地震に対する準備を自治会町内会加入の有無で見ると、自治会町内会に加入していない人は、加入している人よりも地震に対する備えは「その他」を除くすべての項目で少ない割合となっています。

自治会町内会加入別

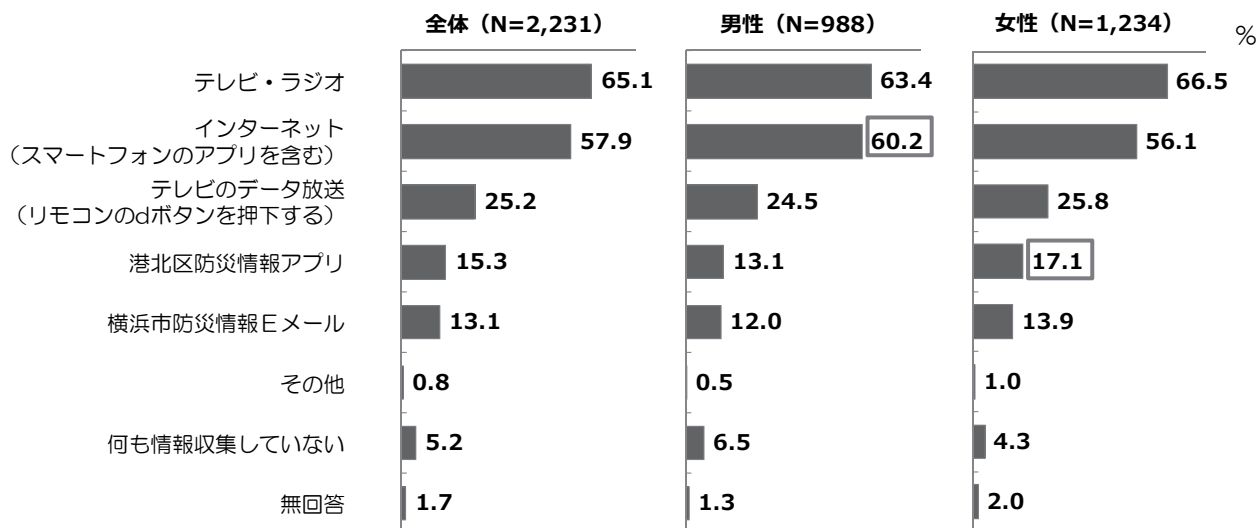


【風水害時の情報入手元】（問 18）

- 風水害時の情報入手元をみると、「テレビ・ラジオ」の65.1%が最も多く、「インターネット」の57.9%、「テレビのデータ放送」の25.2%がそれに次いでおり、日常生活において身近な情報ツールが情報入手元になっています。
- 「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、まだ割合が少ないものの、前回調査の同様の項目（民間アプリ7.9%、メール7.8%）から伸びています。
- 性別で比較すると、男性は「インターネット」（男女比+4.1ポイント）が多く、女性は「港北区防災情報アプリ」（同+4.0ポイント）が多くなっています。

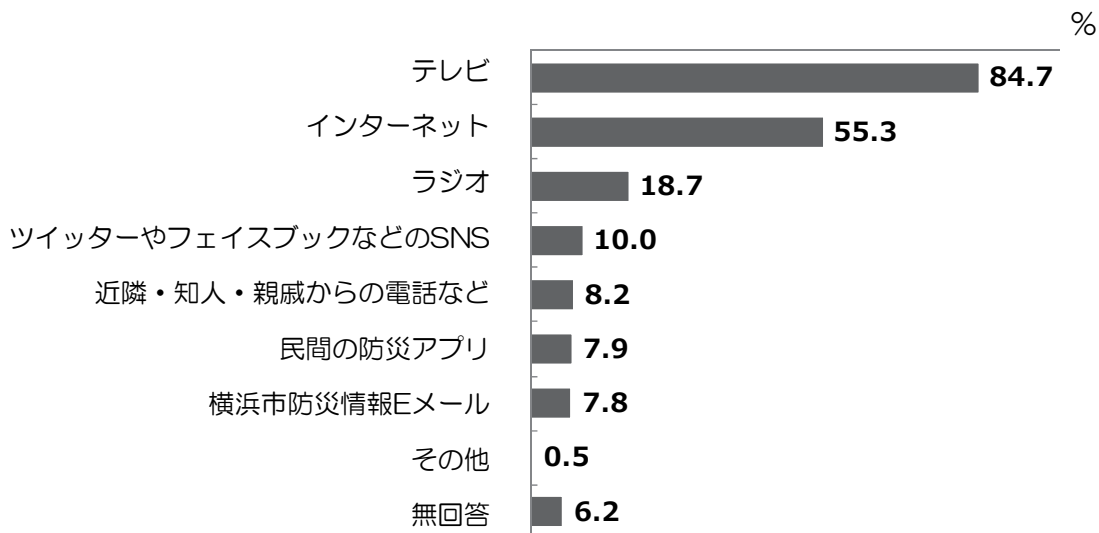
問 18. 風水害についておうかがいします。あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]

全体/性別



[参考：平成 28 年度 港北区区民意識調査 問 22]

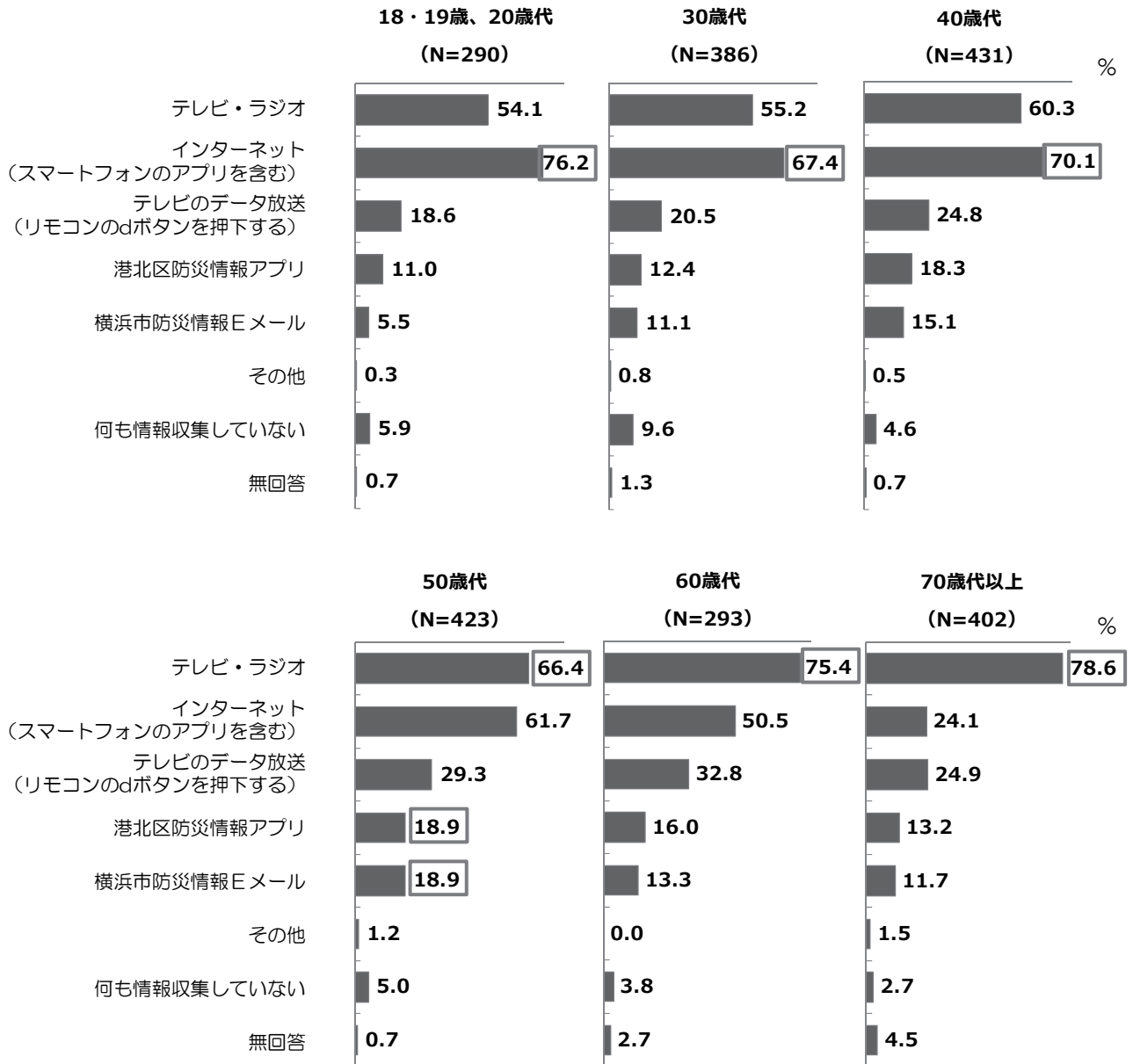
問 22. あなたは、自身や気象情報などの災害情報を、主に何から入手していますか。（〇はいくつでも） [N=2,215]



[風水害時の情報入手元（問 18）×年代]

- 風水害時の情報入手元を年代別で見ると、「テレビ・ラジオ」は、78.6%で70歳代以上、「インターネット（スマートフォンのアプリを含む）」は、76.2%で18・19歳、20歳代がそれぞれ最も多く、40歳代以下では「テレビ・ラジオ」より「インターネット」の割合が多いです。
- 50歳代は「港北区防災情報アプリ」の18.9%、「横浜市防災情報Eメール」の18.9%が、他の年代と比べて割合が多くなっています。

年代別

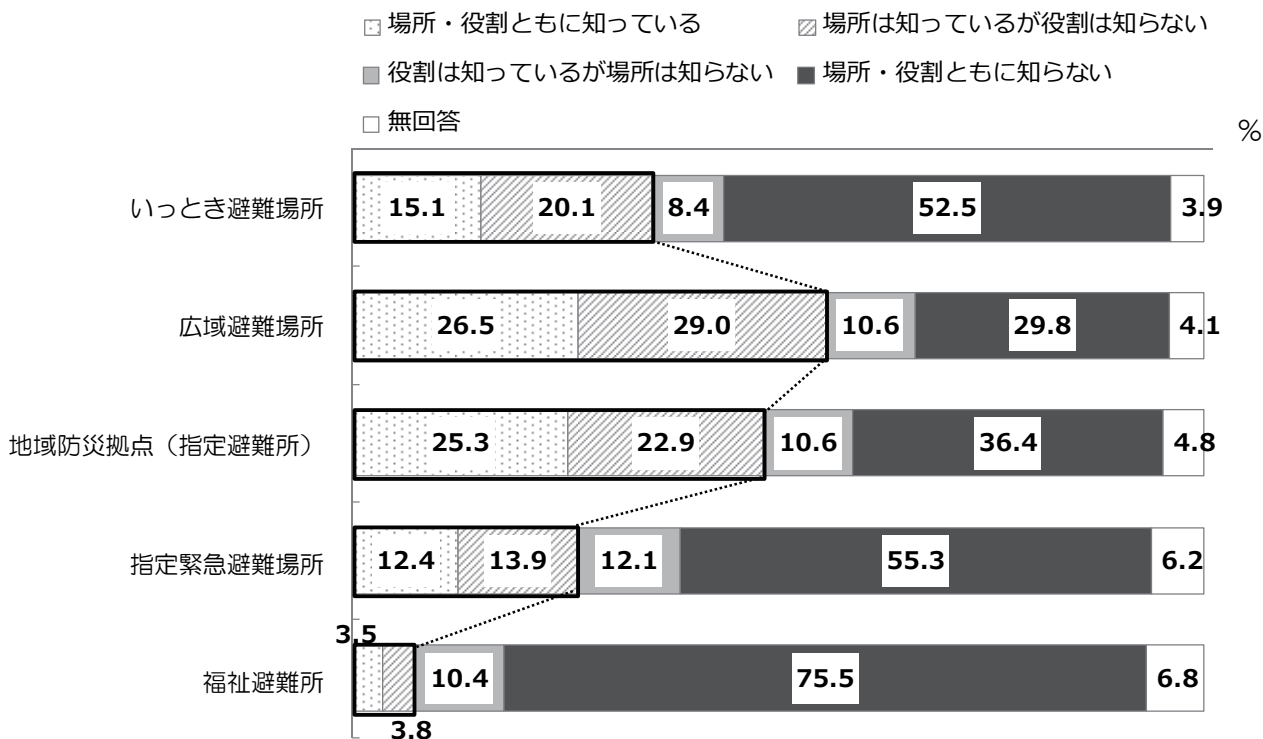


【避難場所・避難所の役割や認知状況】（問 19）

- 避難場所及び避難所の役割や認知状況をみると、「場所・役割ともに知っている」は、「広域避難場所」（26.5%）と「地域防災拠点」（25.3%）の割合が多くなっています。
- 場所の認知としては、「広域避難場所」の55.5%が最も多く、「地域防災拠点」の48.2%、「いつとき避難場所」の35.2%、「指定緊急避難場所」の26.3%、「福祉避難所」の7.3%がそれに次いでいます。「広域避難場所」と「地域防災拠点」は約5割を占めていますが、より一層の認知度向上を図っていく必要があります。

※場所の認知は「場所・役割ともに知っている」と「場所は知っているが役割は知らない」の合計を指します。

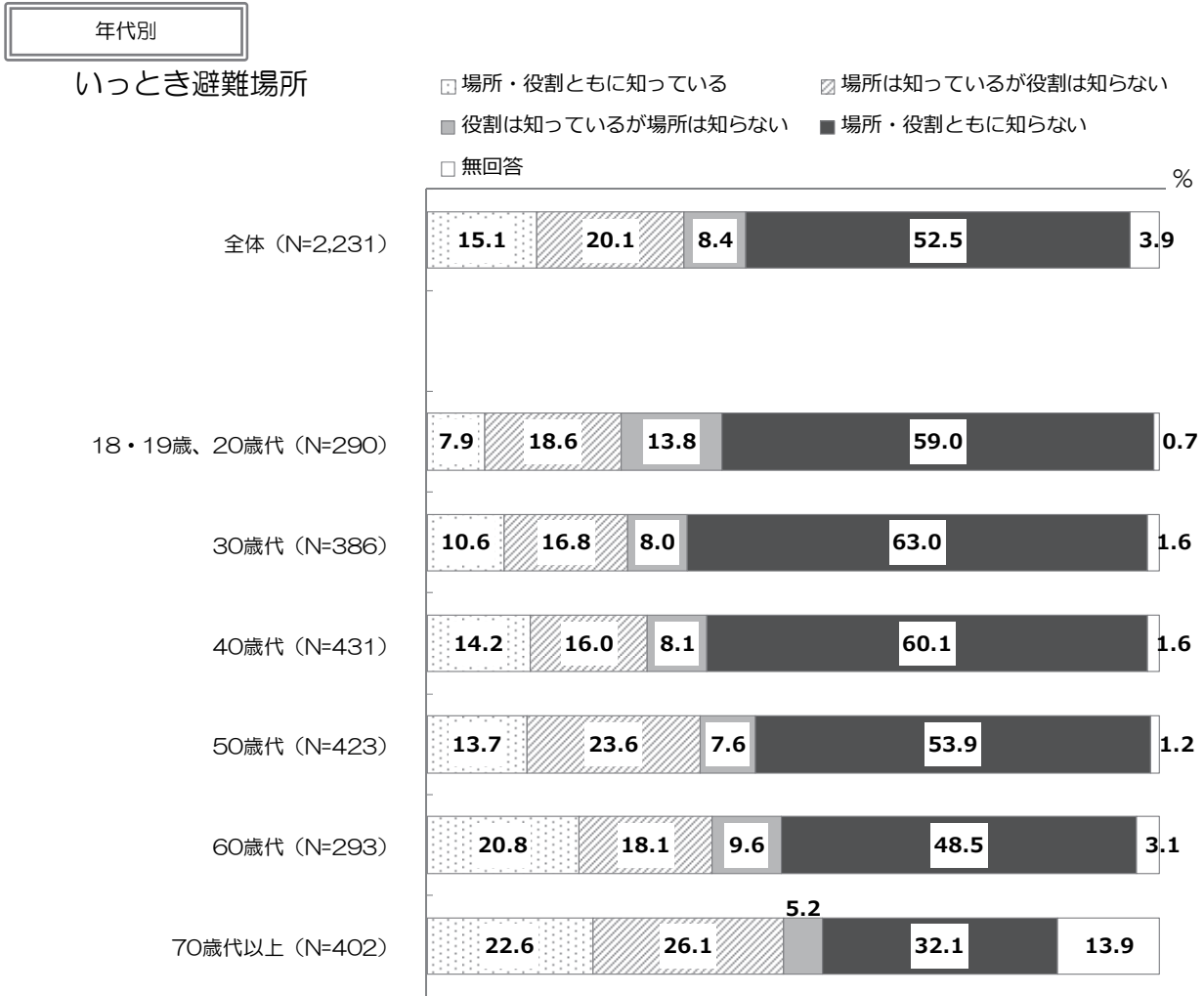
問 19. あなたは、次の避難場所や避難所の場所や役割を知っていますか。（〇は1つだけ）[N=2,231]



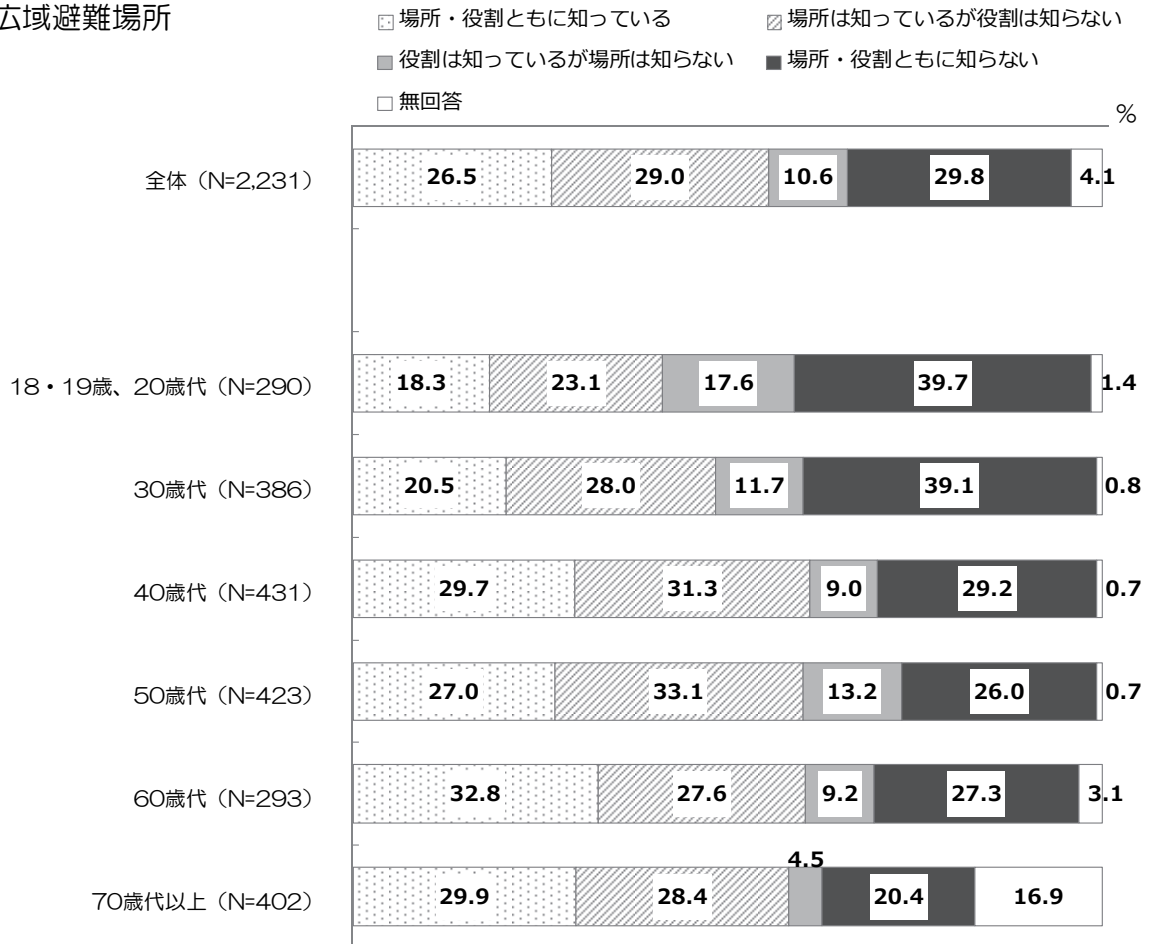
- いつとき避難場所：一時的に避難して様子を見たり、広域避難場所へ避難するために集結する場所
- 広域避難場所：大地震により発生した火災が拡大した場合、その輻射熱や煙から避難する場所
- 地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等
- 指定緊急避難場所：津波、洪水等による危険が切迫した状況において、緊急に避難する際の避難先
- 福祉避難所：地域防災拠点や自宅での生活が困難な特別な配慮を必要とする方が避難生活を送る場所

[避難場所・避難所の役割や認知状況（問 19）×年代]

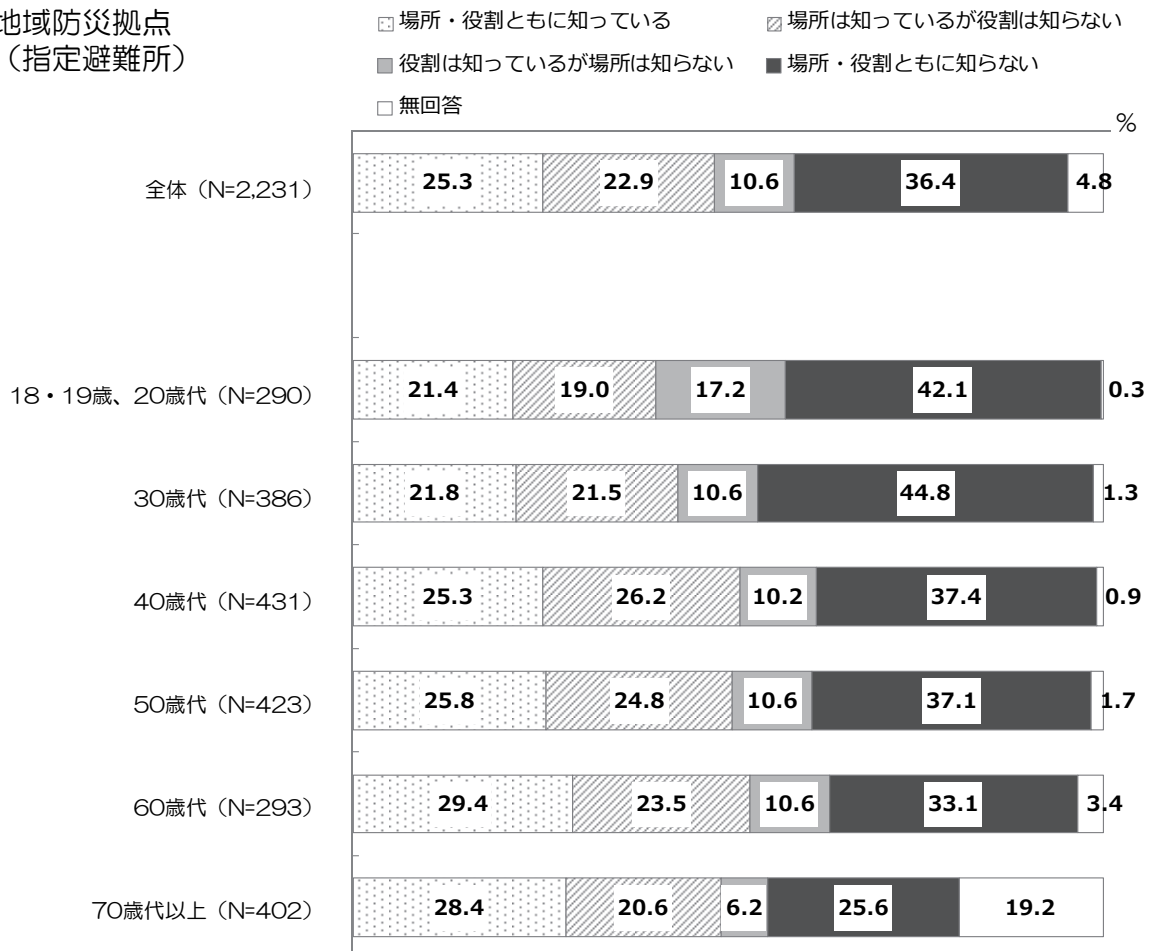
・避難場所・避難所の役割や認知状況を年代別で見ると、「いっとき避難場所」、「広域避難場所」、「地域防災拠点」の場所の認知は、上の年代ほど割合が多い傾向にあります。



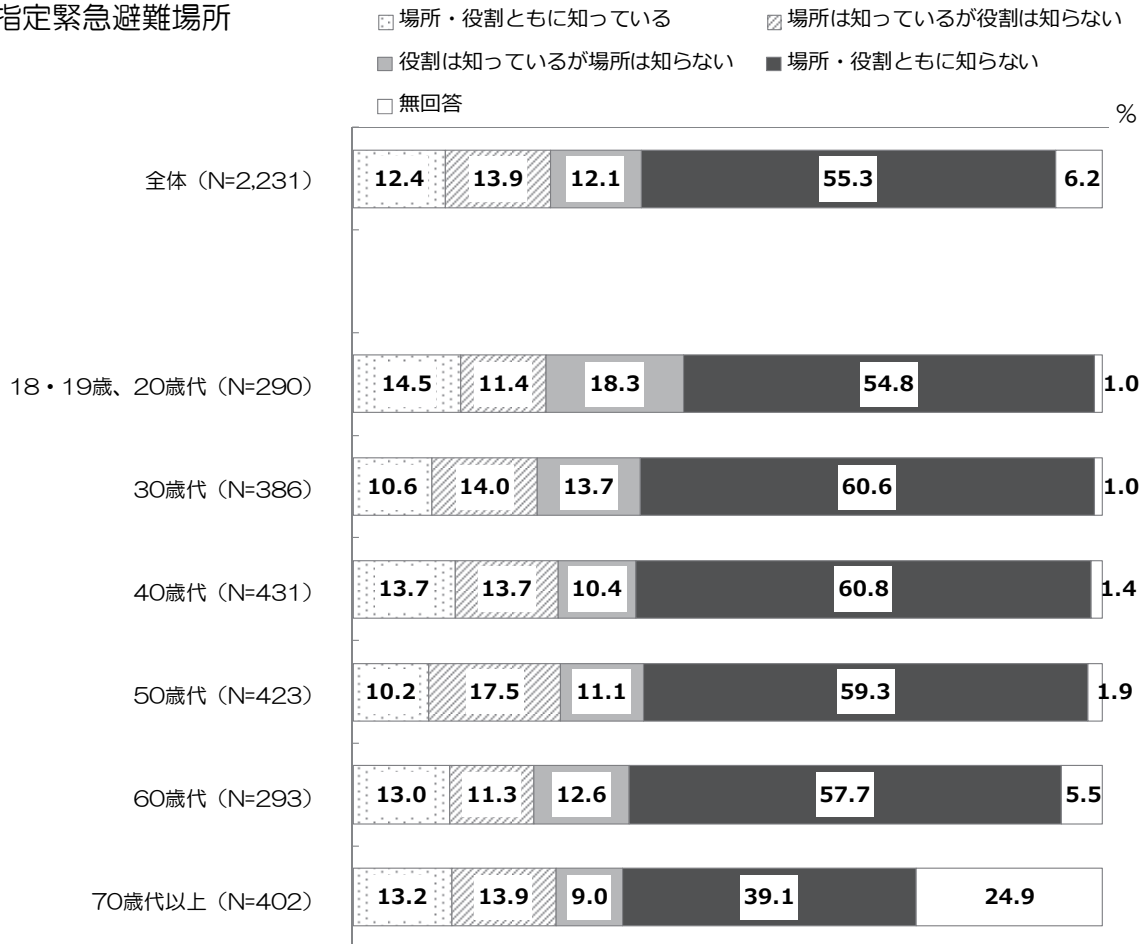
広域避難場所



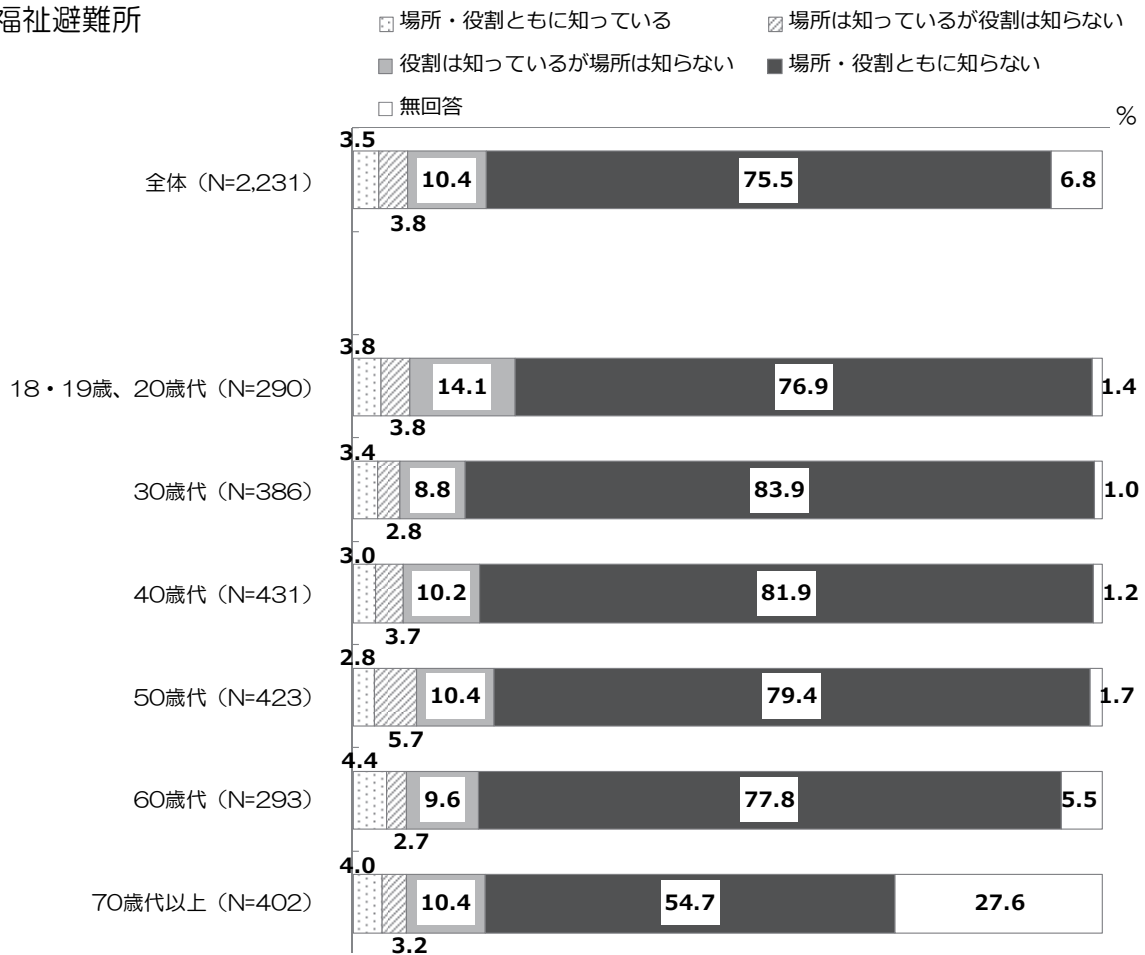
地域防災拠点 (指定避難所)



指定緊急避難場所



福祉避難所

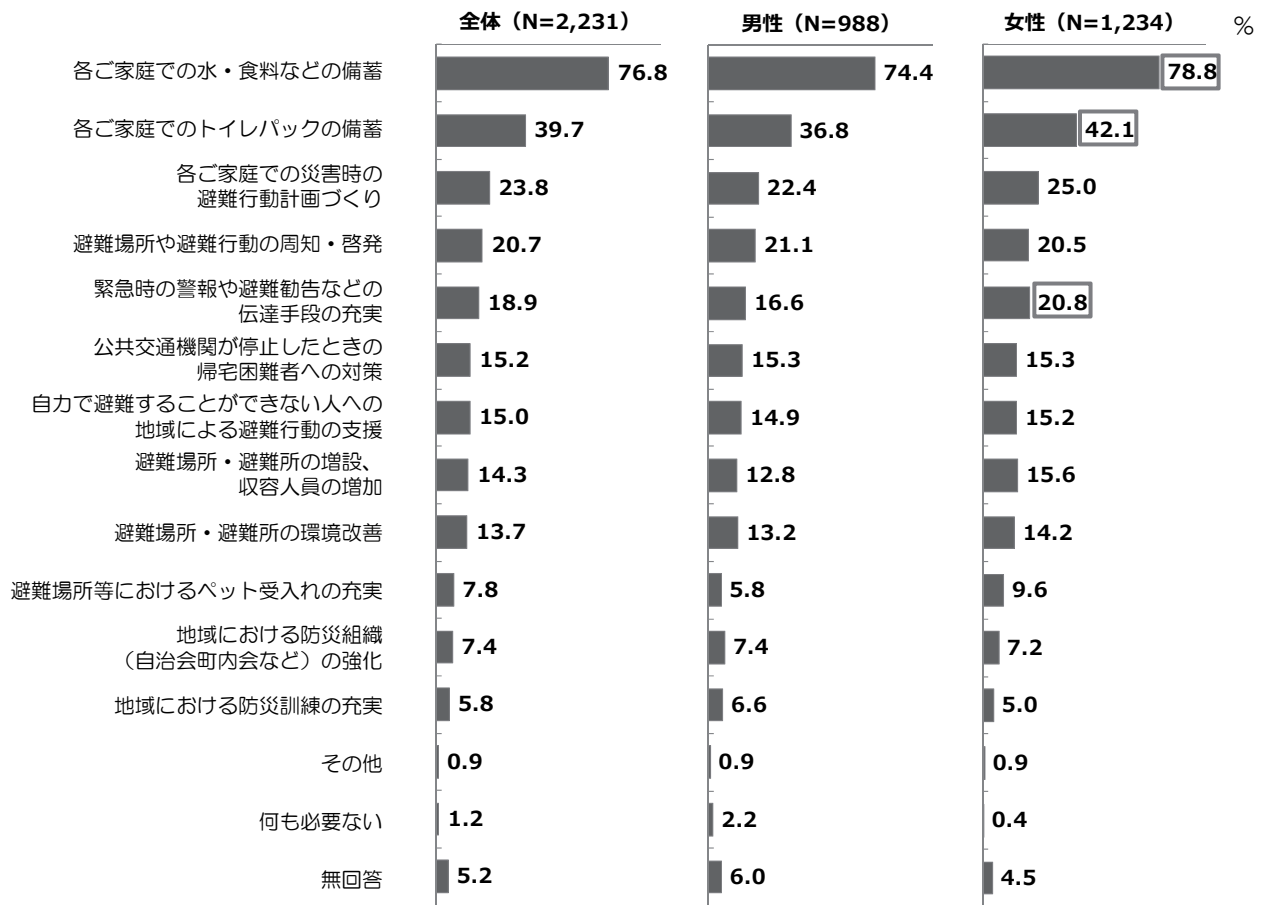


【必要だと考える防災対策】（問 20）

- 必要だと考える防災対策をみると、「各ご家庭での水・食料などの備蓄」の76.8%が最も多く、「各ご家庭でのトイレパックの備蓄」の39.7%、「各ご家庭での災害時の避難行動計画づくり」の23.8%がそれに次いで割合が多くなっており、自身による地震や風水害による被害を防ぐ対策（自助）の意識が高まっています。
- 性別で比較すると、全体的に男性よりも女性の割合が多く、女性は「各ご家庭でのトイレパックの備蓄」（男女比+5.3 ポイント）に加えて、「各ご家庭での水・食料などの備蓄」（同+4.4 ポイント）、「緊急時の警報や避難勧告などの伝達手段の充実」（同+4.2 ポイント）が多くなっています。

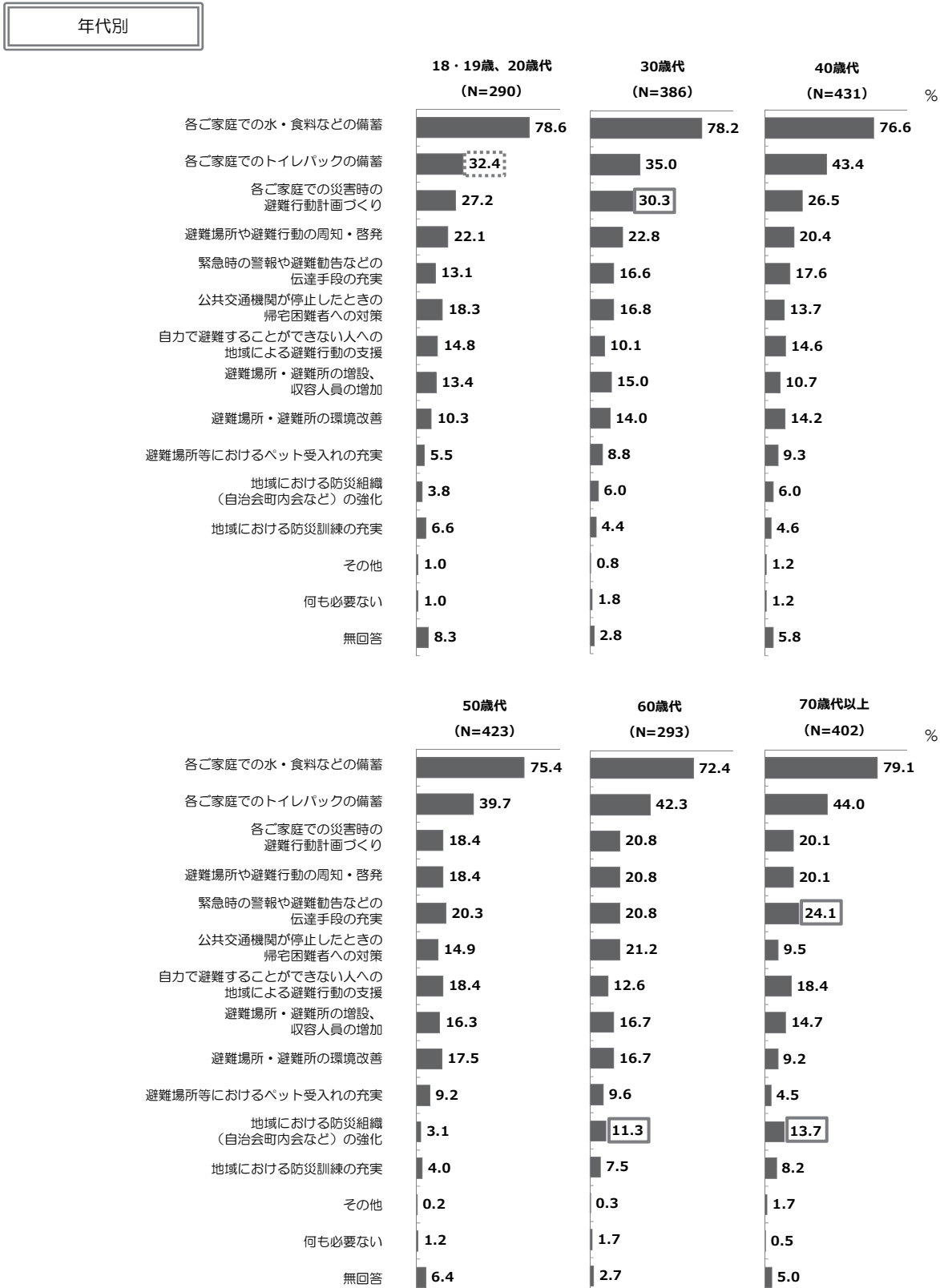
問 20. あなたが、地震や風水害に備えて特に必要だと思う対策は何ですか。（〇は3つまで）[N=2,231]

全体/性別



[必要だと考える防災対策（問 20）×年代]

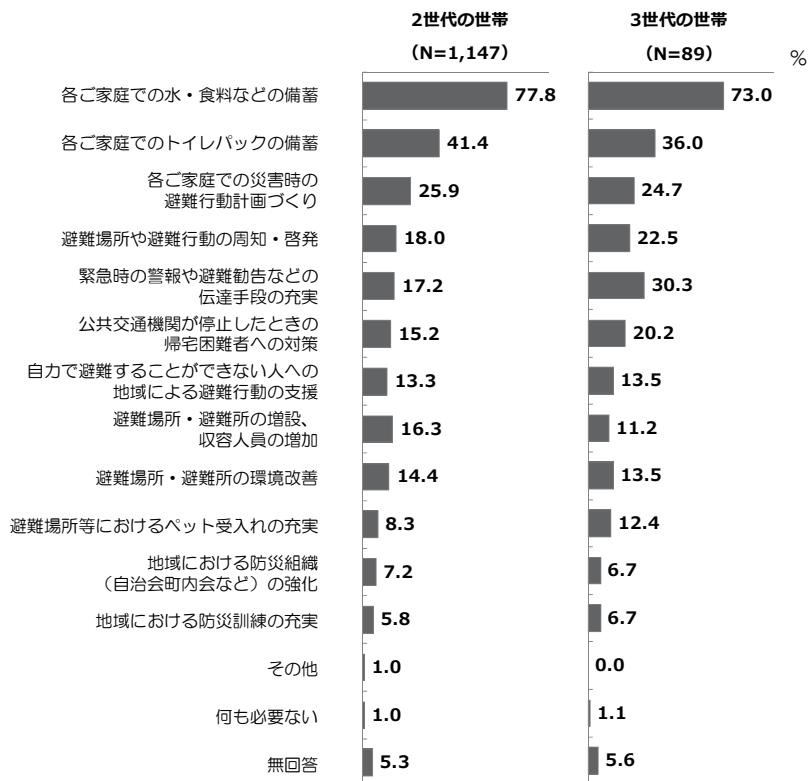
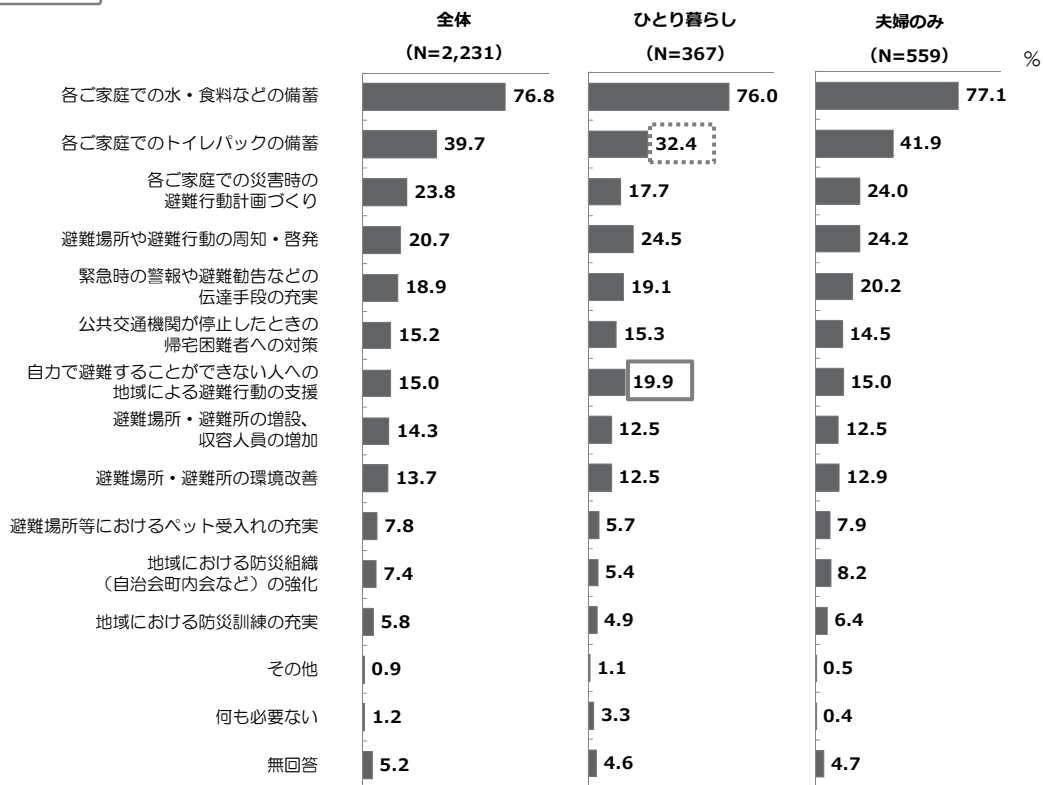
- 必要だと考える防災対策を年代別でみると、「各ご家庭でのトイレパックの備蓄」は 32.4% で 18・19 歳、20 歳代が最も少なく、「各ご家庭での災害時の避難行動計画づくり」は 30.3% で 30 歳代が最も多くなっています。
- 70 歳代以上は、「緊急時の警報や避難勧告などの伝達手段の充実」が 24.1% と他の年代と比べて割合が多くなっています。
- 60 歳代以上では、「地域における防災組織の強化」の割合が多くなっています。



[必要だと考える防災対策（問 20）×世帯構成]

- 必要だと考える防災対策を世帯構成別でみると、ひとり暮らしは、他の世帯構成と比べて「自力で避難することができない人への地域による避難行動の支援」（19.9%）が多く、「各ご家庭でのトイレパックの備蓄」（32.4%）が少なくなっています。

世帯構成別

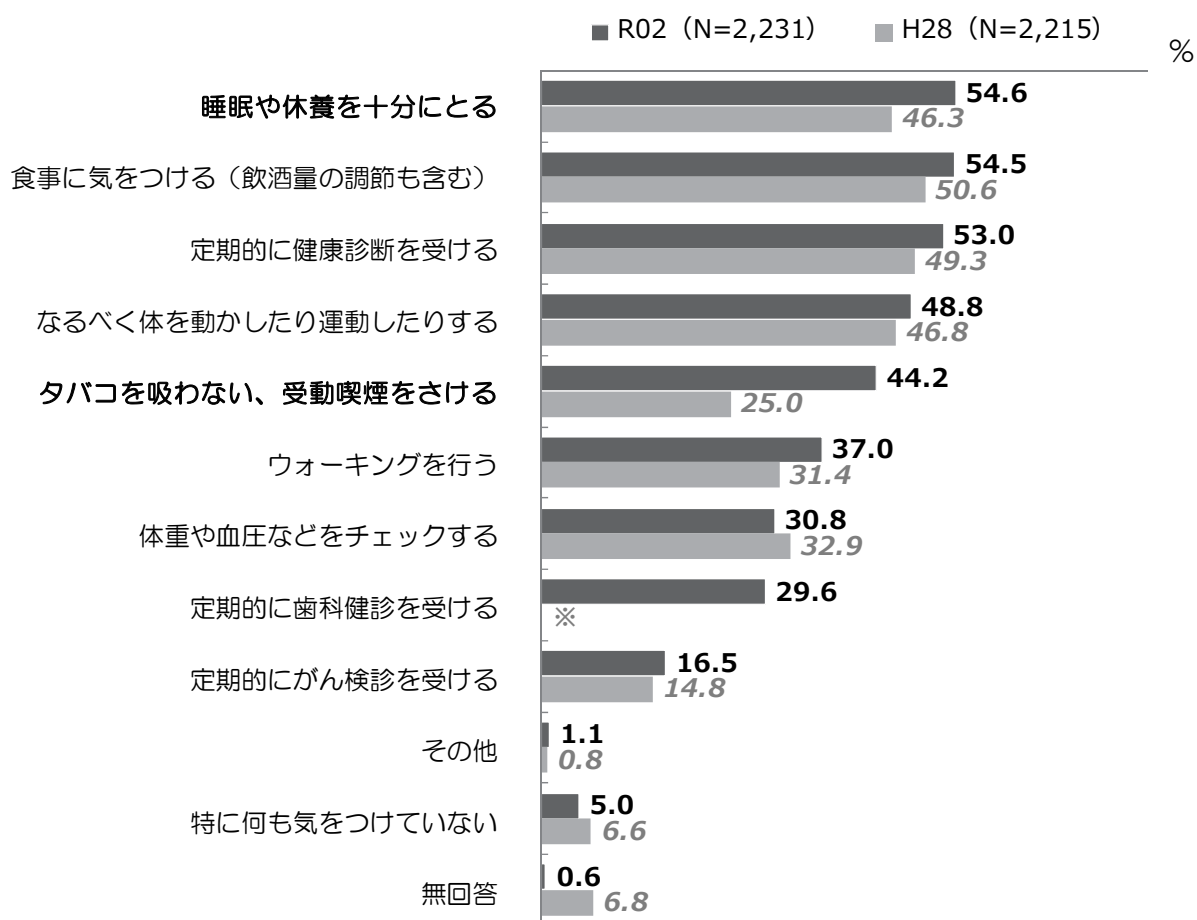


(9) 健康について

【自身の健康のために日頃気をつけていること】(問 21)

- 自身の健康のために日頃気をつけていることをみると、「睡眠や休養を十分にとる」の54.6%が最も多く、「食事に気をつける」の54.5%、「定期的に健康診断を受ける」の53.0%がそれに次いでいます。
- 前回調査と比較すると、「タバコを吸わない、受動喫煙をさける」(前回比+19.2ポイント)が大幅に上昇し、次いで、「睡眠や休養を十分にとる」(同+8.3ポイント)が増加しています。

問 21. あなたは、ご自身の健康のために、日頃どのようなことに気をつけていますか。
(〇はいくつでも) [N=2,231]

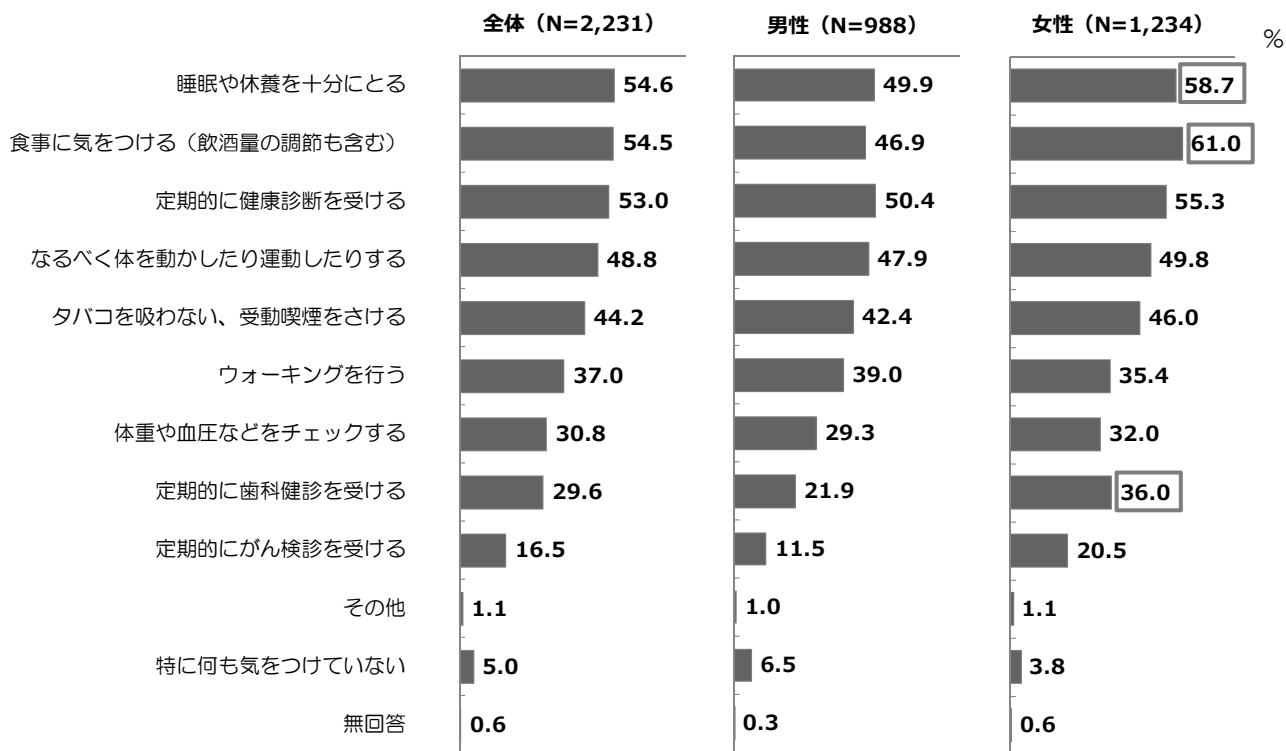


※の項目は、聴取を実施せず

[自身の健康のために日頃気をつけていること (問 21) ×性別]

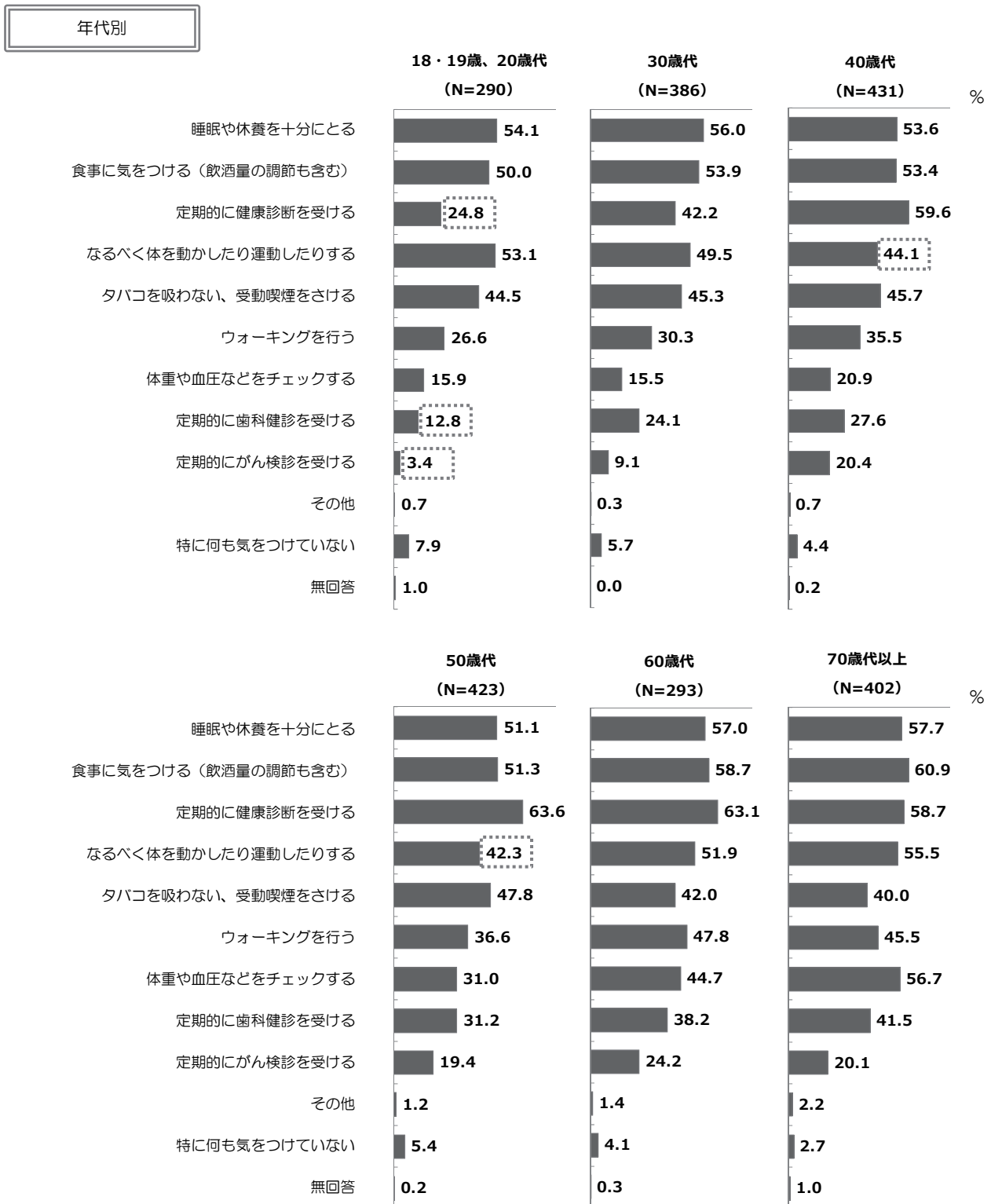
- 自身の健康のために日頃気をつけていることを性別で比較すると、全体的に男性よりも女性の割合が多く、女性は「食事に気をつける」(男女比+14.1 ポイント)に加えて、「定期的に歯科健診を受ける」(同+14.1 ポイント)、「睡眠や休養を十分にとる」(同+8.8 ポイント)が多くなっています。

性別



[自身の健康のために日頃気をつけていること（問 21）×年代]

- 自身の健康のために日頃気をつけていることを年代別でみると、18・19 歳、20 歳代は「定期的に健康診断を受ける」（24.8%）、「定期的に歯科検診を受ける」（12.8%）、「定期的にがん検診を受ける」（3.4%）が他の年代と比べて割合が少なくなっています。
- 「なるべく体を動かしたり運動したりする」は、40 歳代及び 50 歳代が他の年代と比べて割合が少なくなっています。
- 「ウォーキングを行う」、「体重や血圧などをチェックする」及び「定期的に歯科健診を受ける」は、年代が上がるにつれて、概ね割合が多くなっています。



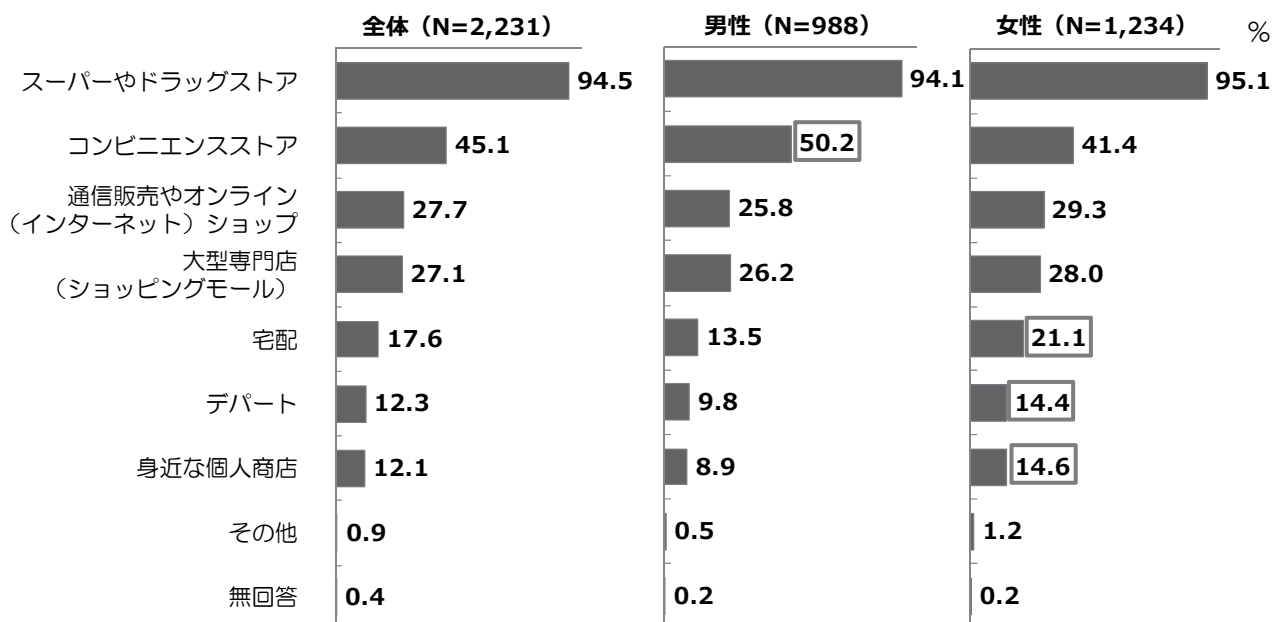
(10) 買い物について

【日常の買い物で利用するお店】（問 22）

- 日常の買い物で利用するお店をみると、「スーパーやドラッグストア」の94.5%が最も多く、「コンビニエンスストア」の45.1%、「通信販売やオンライン（インターネット）ショップ」の27.7%がそれに次いで割合が多くなっています。
- 性別で比較すると、男性の「コンビニエンスストア」（男女比+8.8ポイント）以外は、男性よりも女性の割合が多く、女性は「宅配」（同+7.6ポイント）に加えて、「身近な個人商店」（同+5.7ポイント）、「デパート」（同+4.6ポイント）が多く、幅広い手段で買い物をしています。

問 22. 食料品や日用品など日常的商品を購入する際、主にどのようなお店を利用していますか。
（〇はいくつでも） [N=2,231]

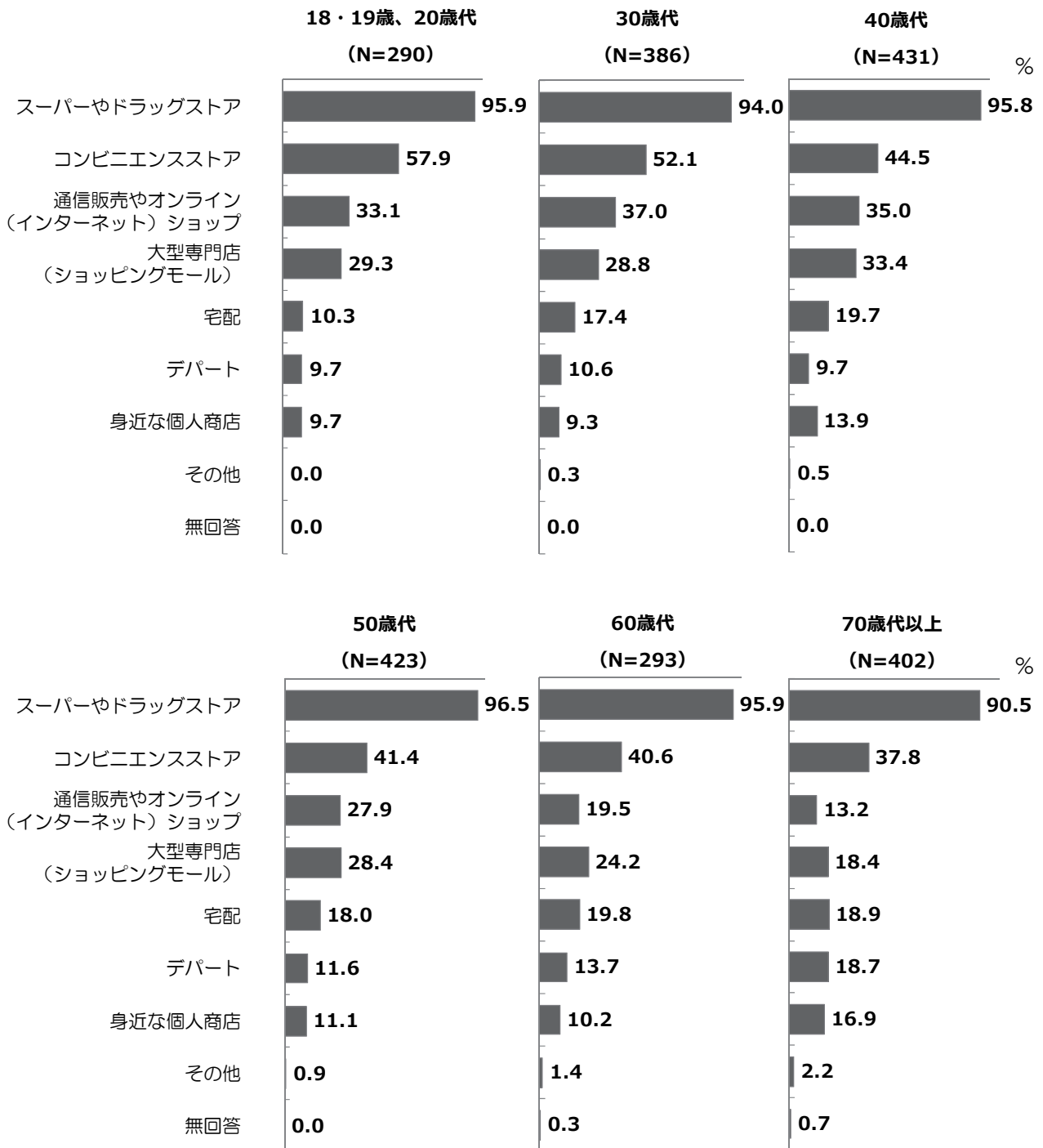
全体/性別



[日常の買い物で利用するお店（問 22）×年代]

- 日常の買い物で利用するお店を年代別でみると、「スーパーやドラッグストア」は、すべての年代で9割を超えています。
- 「コンビニエンスストア」と「通信販売やオンライン（インターネット）ショップ」は年代が上がるにつれて概ね割合が少なくなっています。

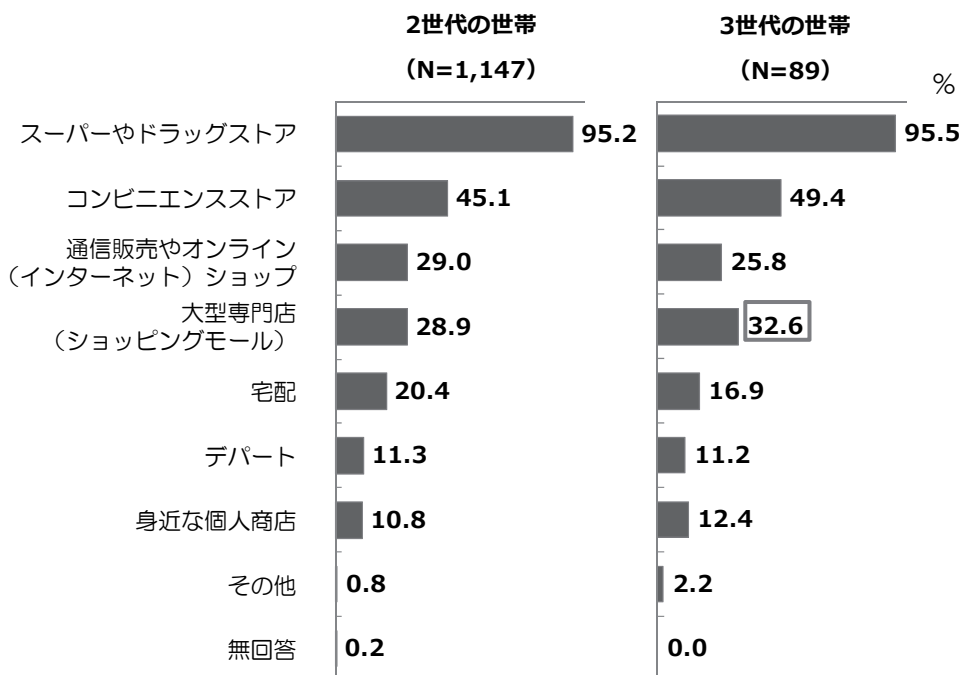
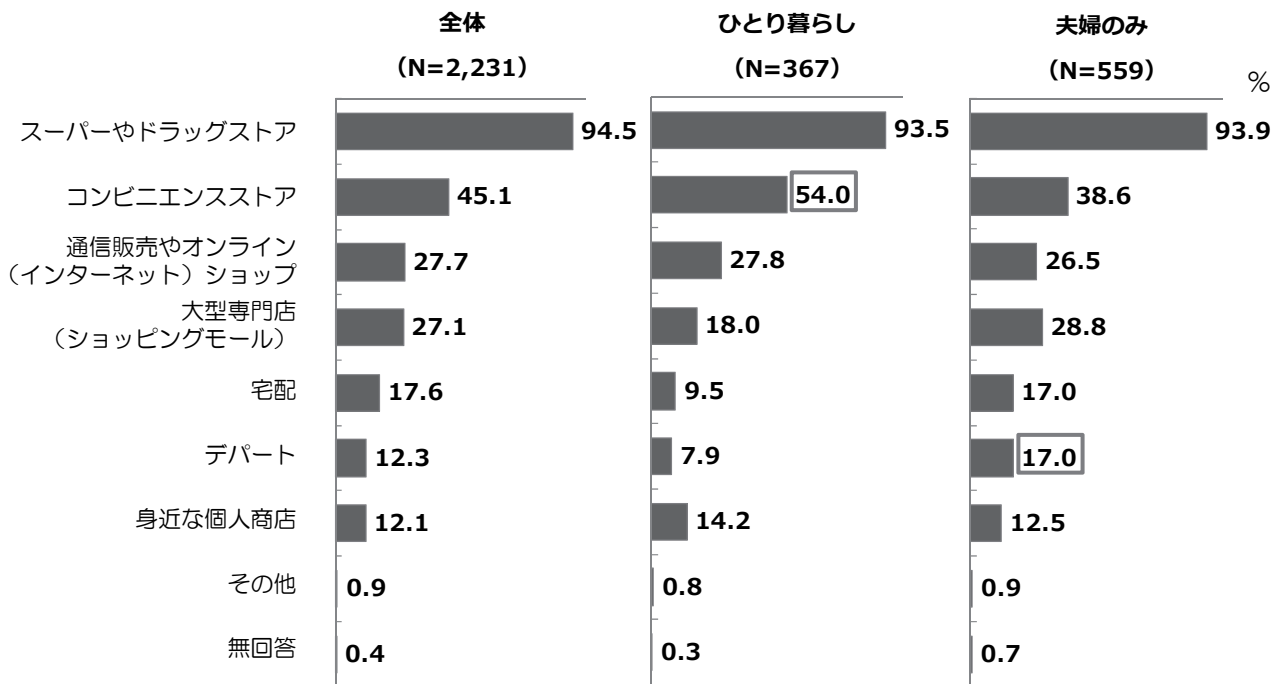
年代別



[日常の買い物で利用するお店（問 22）×世帯構成]

- 日常の買い物で利用するお店を世帯構成別で見ると、「コンビニエンスストア」はひとり暮らし（54.0%）が最も多くなっています。
- 3世代の世帯の「大型専門店（ショッピングモール）」（32.6%）、夫婦のみの「デパート」（17.0%）は、他の世帯構成と比べて割合が多くなっています。

世帯構成別

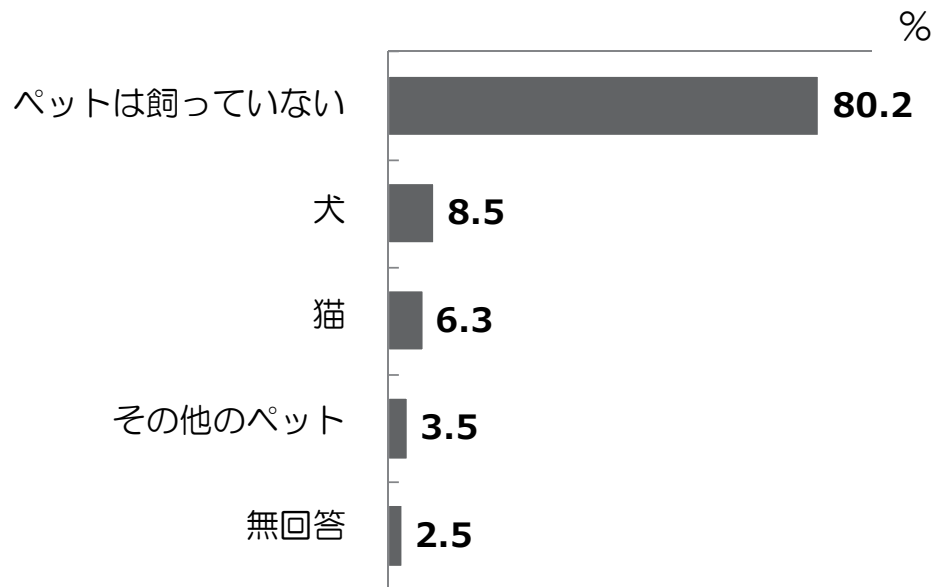


(11) ペットについて

【ペットの飼育有無と飼っているペットの種類】（問 23）

- ペットの飼育状況を見ると、全体の80.2%が「ペットは飼っていない」と回答しています。飼っている場合に、「犬」は8.5%、「猫」は6.3%、「その他ペット」は3.5%となり、「犬」や「猫」を飼っている割合がそれぞれ1割に満たない結果となっています。

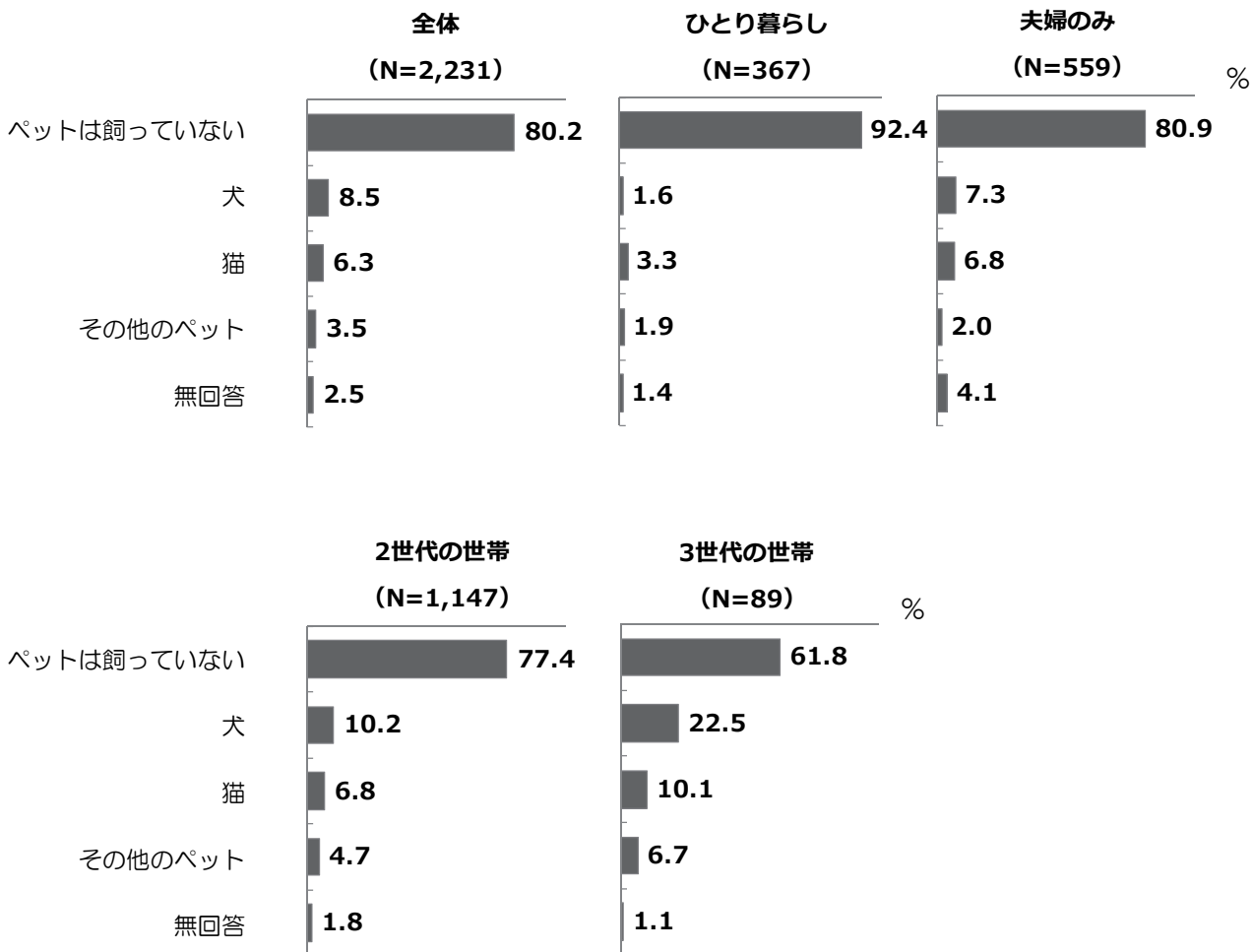
問 23. あなたのご家庭では、ペットを飼っていますか。
また、飼っている場合、どのようなペットを飼っていますか。（〇はいくつでも） [N=2,231]



[ペットの飼育有無と飼っているペットの種類（問 23）×世帯構成]

• ペットの飼育状況を世帯構成別でみると、多世代であるほうがペットを飼っている割合が多くなっています。

世帯構成別

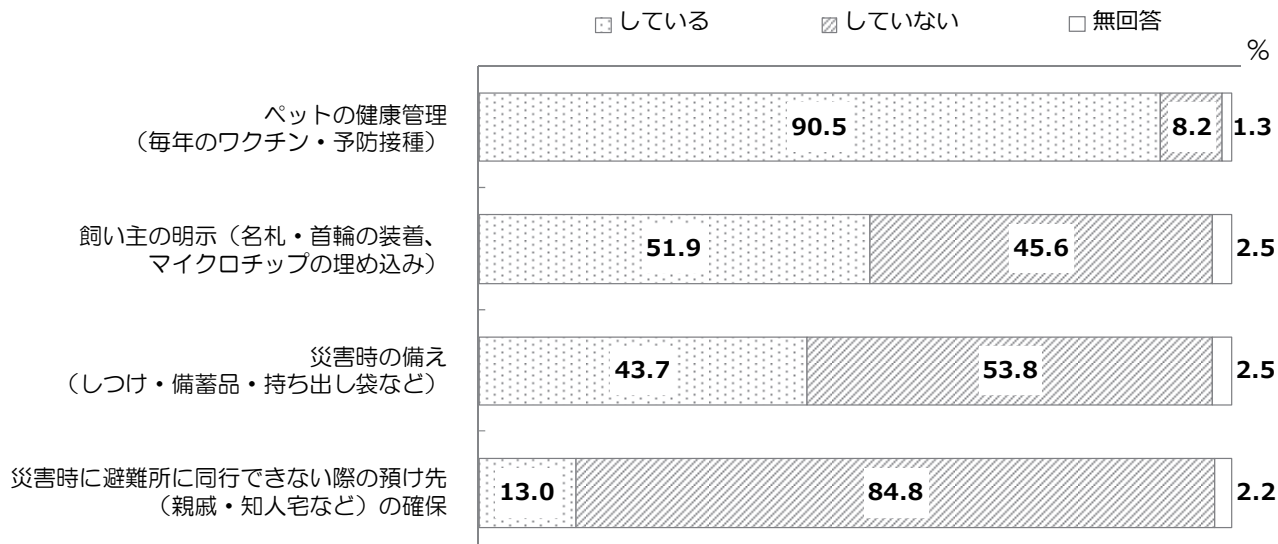


【ペットに関する日頃からの備え】（問 23-1）（問 23＝「2.猫」＋「3.犬」ベース）

- ペットに関する日頃からの備えを「している」の回答割合をみると、「ペットの健康管理」の90.5%が最も多く、「飼い主の明示」の51.9%、「災害時の備え」の43.7%、「災害時に避難所に同行できない際の預け先の確保」の13.0%がそれに次いでいます。

＜問 23 で「2 猫」「3 犬」とお答えの方＞

問 23-1. 次にあげる備えを、日頃から行っていますか。（〇は1つだけ） [N=316]



(12) 自由記述について

【区政運営またはアンケートについての意見】（問 35）

- ・595名から自由記述の回答がありました。
- ・区政運営に関するご意見を大きく分類すると「交通・道路に関すること」が162件あり、最も多く意見がありました。次いで、「広報・広聴・市民相談・情報公開に関すること」が69件、「公害・環境保全・緑に関すること」が62件、「市民活動・市民利用施設に関すること」が59件、「防災・消防・防犯対策に関すること」が58件と多くなっています。

内容（分類別）	件数
交通・道路に関すること	162
バス・地下鉄などの便	16
幹線道路や高速道路の整備	7
通勤・通学・買い物道路や歩道の整備	70
違法駐車防止や交通安全対策	31
駐輪場の整備	8
最寄り駅周辺の整備	30
広報・広聴・市民相談・情報公開に関すること	69
広報や広聴、市民相談、情報公開など市民参加の推進	23
身近な住民窓口サービス（証明書発行・各種手続きなど）	46
公害・環境保全・緑に関すること	62
公園の整備	17
緑の保全と緑化の推進	13
河川改修と水辺環境の整備	6
地球温暖化への対策、環境汚染や騒音への対策	26
市民活動・市民利用施設に関すること	59
地区センターやコミュニティハウスなどの整備や生涯学習・市民活動の振興	12
区民文化センターの整備や市民文化の振興	4
図書館・図書貸出取次サービス窓口の整備や読書習慣の推進	34
スポーツ・レクリエーションの振興や施設の整備	9
防災・消防・防犯対策に関すること	58
地震などの災害対策	27
防犯対策	31
子育て支援に関すること	41
保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助	29
学校教育の充実	2
青少年の健全育成	2
その他 子育て支援に関すること	8
ごみ・リサイクルに関すること	31
ごみの分別収集、リサイクル	22
ごみの不法投棄対策や街の美化	9
経済・産業に関すること	30
商店街の振興	4
その他 経済・産業に関すること	26
福祉に関すること	28
高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備	3
高齢者福祉サービス	8
障害者福祉サービス	3
その他 福祉に関すること	14
保健・衛生・医療に関すること	14
病院や救急医療など地域医療	10
その他 保健・衛生・医療に関すること	4
観光に関すること	10
観光の振興	10
今回の調査に関すること	23
その他	103
市民対応に関すること	36
新型コロナウイルス感染症に関すること	28
その他	39
意見件数（総数）	690
自由記入 回収数	595

4. 調査結果の地区別 概要・分析

4 地区別の調査結果

(1) 地区別集計の概要

[回答者の居住町丁別人数及び割合]

- 連合自治会町内会エリアを「地区」として、地区別に集計結果をまとめました。回答人数が少なく、厳密なデータではないため、おおよその傾向としてご参照ください。
- アンケートで確認できる回答者の居住町丁域を単位に、連合自治会町内会エリアに割振りしています。そのため、実際の連合自治会町内会エリアと異なる地域があります。
- 町丁別に回答者数にバラつきがあるのは、調査対象者を住民基本台帳等を基に無作為抽出した結果です。

地区名（連合自治会町内会エリア）とお住まいの地域

地域名	回答者数	割合(%)	町丁名
大倉山地区	183	8.2	大倉山
大曽根地区	65	2.9	大曽根・大曽根台
篠原地区	258	11.6	菊名1丁目～3丁目・篠原町・篠原台町・篠原東・篠原西町・仲手原・富士塚
菊名地区	268	12.0	菊名4丁目～7丁目・篠原北・新横浜・錦が丘・大豆戸町
城郷地区	161	7.2	岸根町・小机町・鳥山町
日吉地区	449	20.1	下田町・日吉・日吉本町・箕輪町
新吉田・新吉田あすなろ地区	181	8.1	新吉田町・新吉田東
高田地区	111	5.0	高田町・高田東・高田西
樽町地区	122	5.5	樽町
綱島地区	265	11.9	綱島上町・綱島台・綱島東・綱島西
新羽地区	88	3.9	新羽町・北新横浜
師岡地区	69	3.1	師岡町
港北区外に転出	4	0.2	
無回答	7	0.3	無回答
合計	2231	100	

※地区別のグラフは一部を抜粋しています。すべての項目について確認したい場合は、港北区ホームページに公表している元データを参照してください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/kusei/tokei/ishiki/r02.html>

(2) 地区別集計

大倉山地区

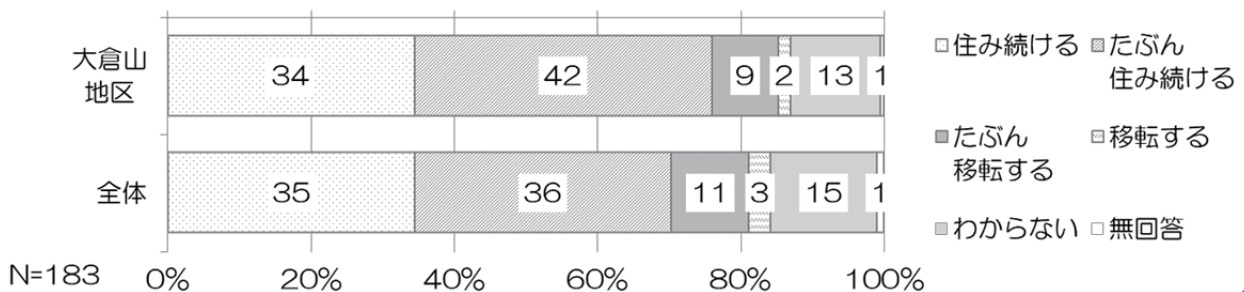
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っ
ていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、
継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較しても、
割合は多くなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(73%)、
「住んでいる場所に愛着を感じているから」(63%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

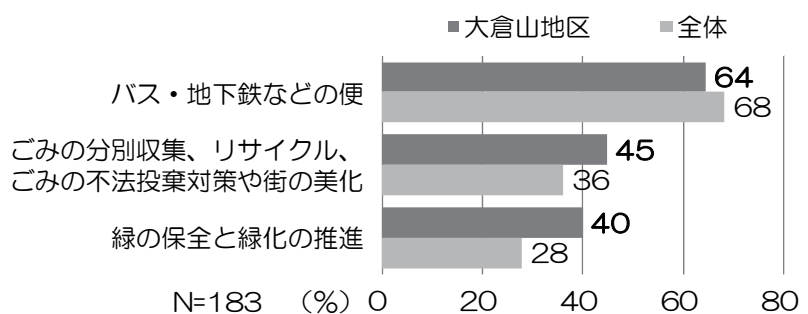
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、
あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。
(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が64%で最も多くなっています。また、「緑の保全と緑化の推進」(40%)や「商店街の振興」(28%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

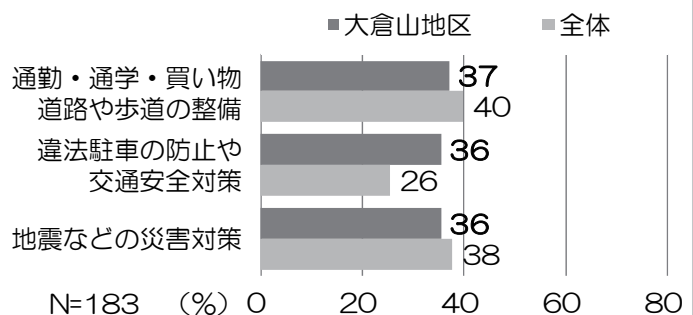
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「違法駐車
の防止や交通安全対策」、「地震などの災害対策」と安心・安全に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「違法駐車
の防止や交通安全対策」(36%)は、全体集計と比較すると10ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



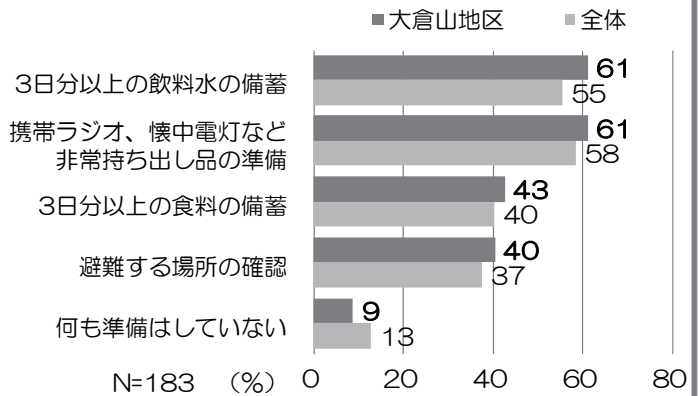
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が6割、「3日分以上の食料の備蓄」、「避難する場所の確認」が4割程度となり、全体集計と比べ多いですが、在宅避難に必要な飲料水や食料について、約4割の方の備蓄が完全でないと言えます。

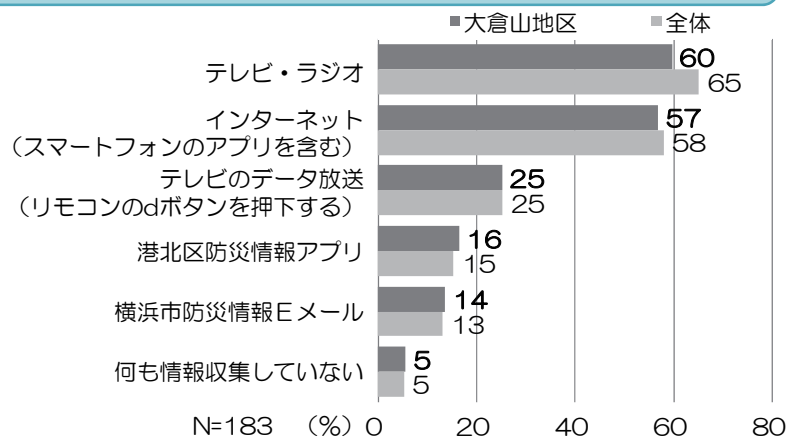


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。

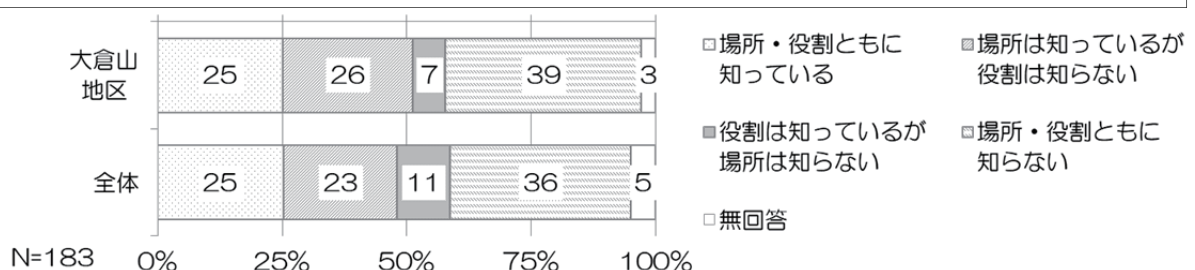


◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約4割でした。

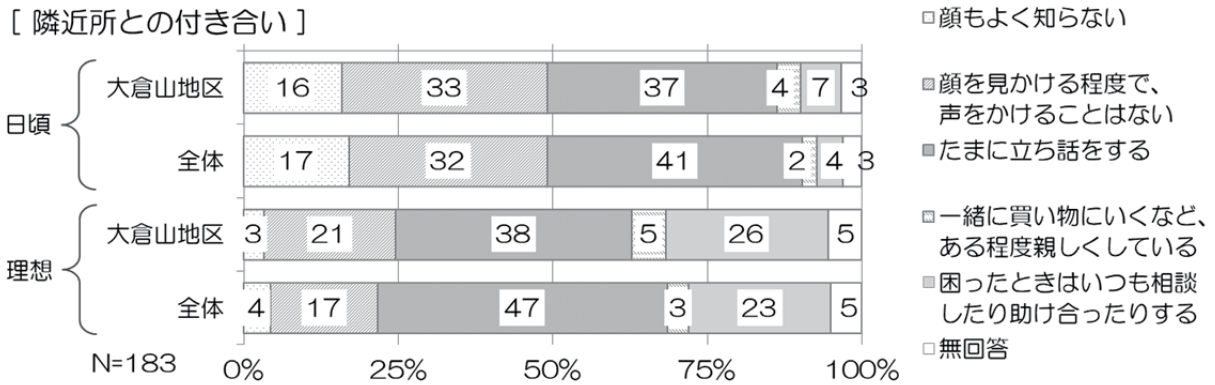


4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(〇は1つだけ)



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が半数程度(49%)と、全体集計(49%)と同率となっており、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

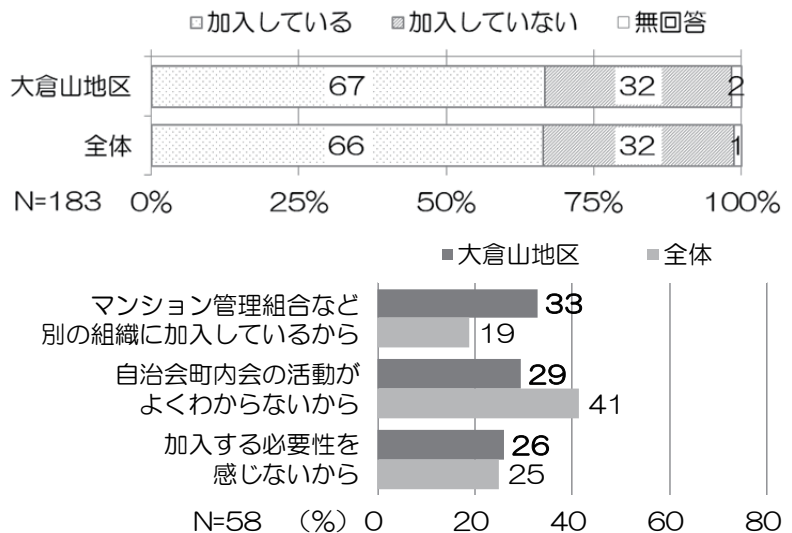
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由 <上位3項目>

自治会町内会への加入は6割半ばを超える

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(〇は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。 <自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(〇は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは67%で、全体集計(66%)と比較すると、ほぼ同率となっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「マンション管理組合など別の組織に加入しているから」が最も多く、「自治会町内会の活動がよくわからないから」、「加入する必要性を感じないから」が上位となっています。



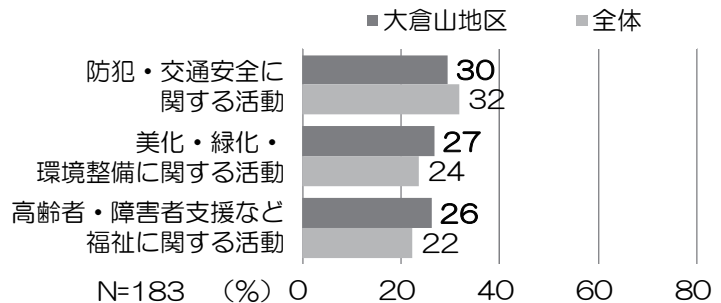
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

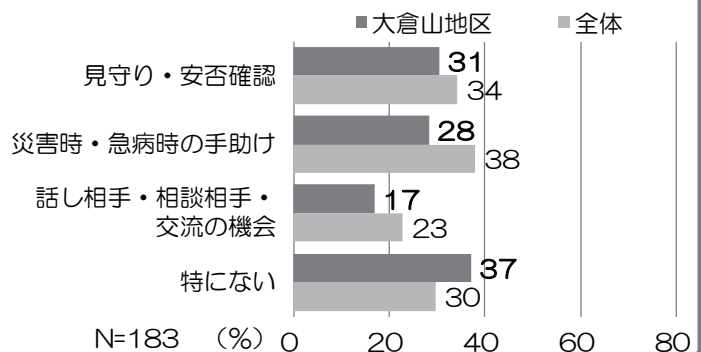
※「特にない」の回答は除く

回答者の6割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「見守り・安否確認」、「災害時・急病時の手助け」が約3割、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。「災害時・急病時の手助け」(28%)は、全体集計と比べて少ない傾向ではありますが、上位です。

なお、「特にない」と回答したのは約3割半ばで、6割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができてと思いますか。(〇はいくつでも)

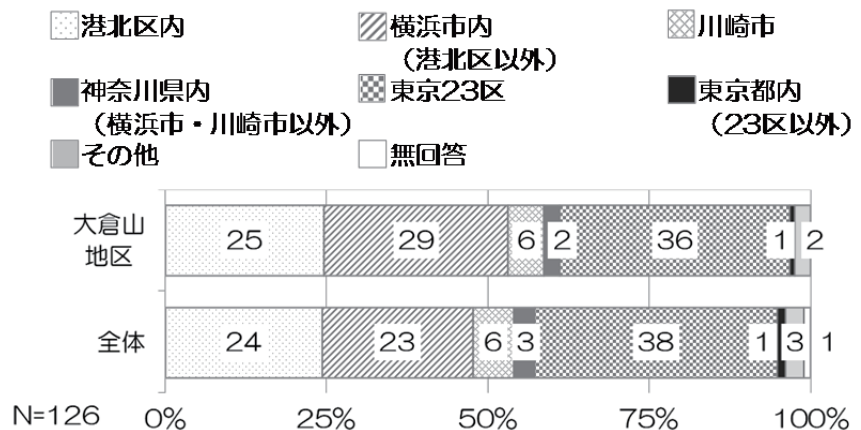


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割強で、港北区内はそのうち半数程度の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや多くなっています。



大曽根地区

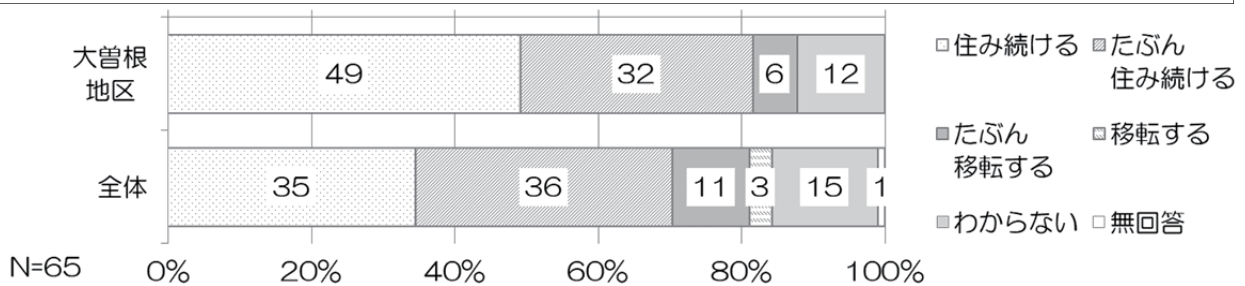
1. 居留意向

港北区に住み続けると思っている方が8割を超える

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っ
ていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が8割を超え、
継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較
しても、割合は多くなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「住んでいる場所に愛着を感じ
ているから」(68%)、「交通が便利だから」(66%)が上位となっ
ています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

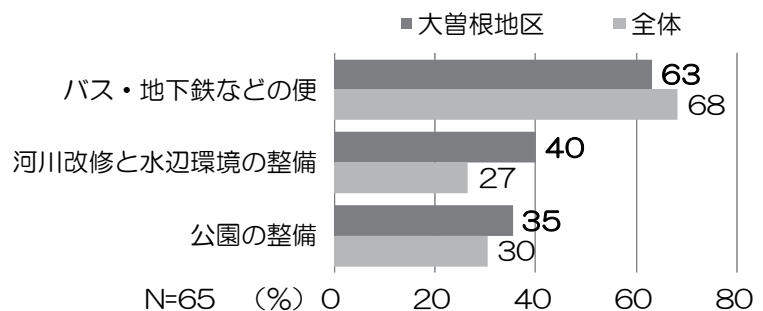
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、
あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。
(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が63%で最も多くなっています。また、「河川改修と水辺環境の整備」(40%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

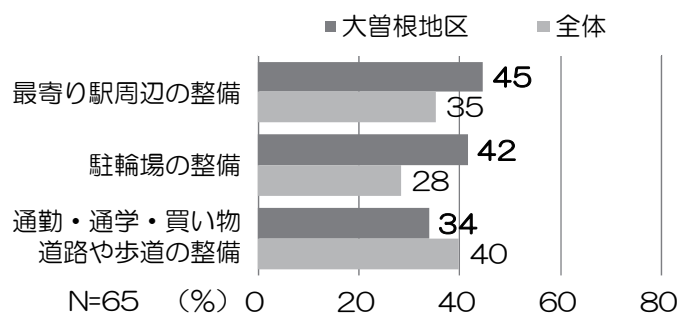
【充実すべきと思う公共サービス】では、「最寄り駅周辺の整備」、「駐輪場の整備」、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」と駅周辺の環境に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「駐輪場の整備」(42%)は、全体集計と比較すると14ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】<上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】<上位3項目>



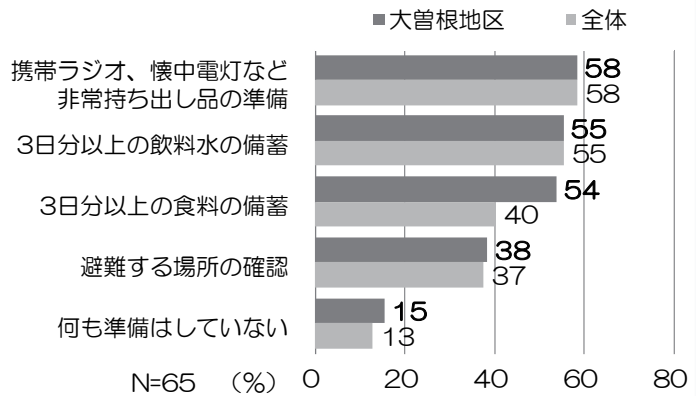
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「3日分以上の食料の備蓄」などが5割半ば程度で、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

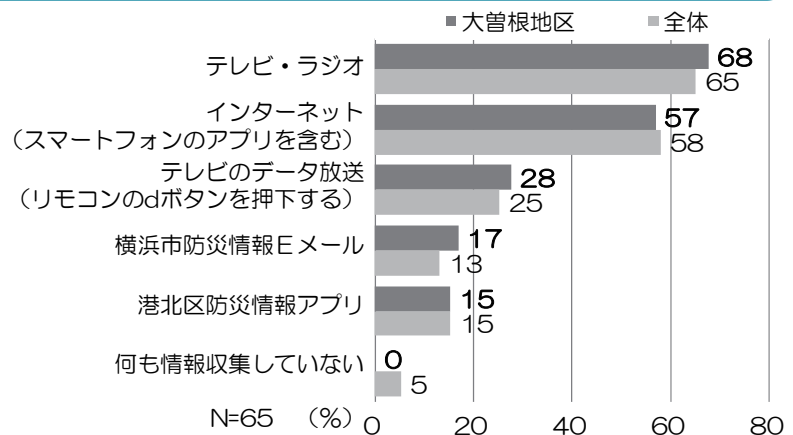


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

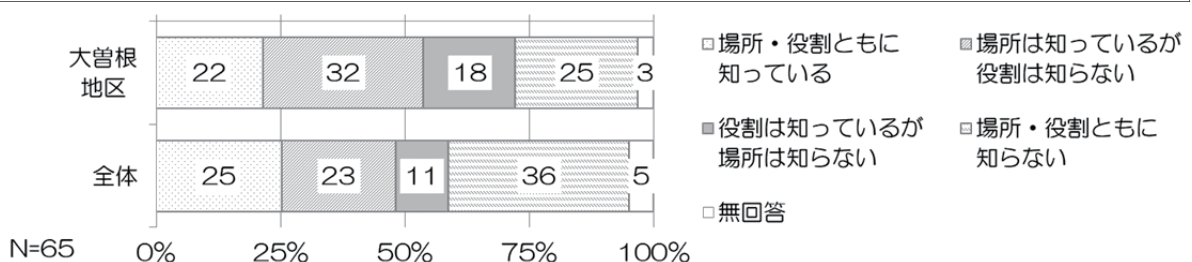
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)
 ※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は2割半ばでした。



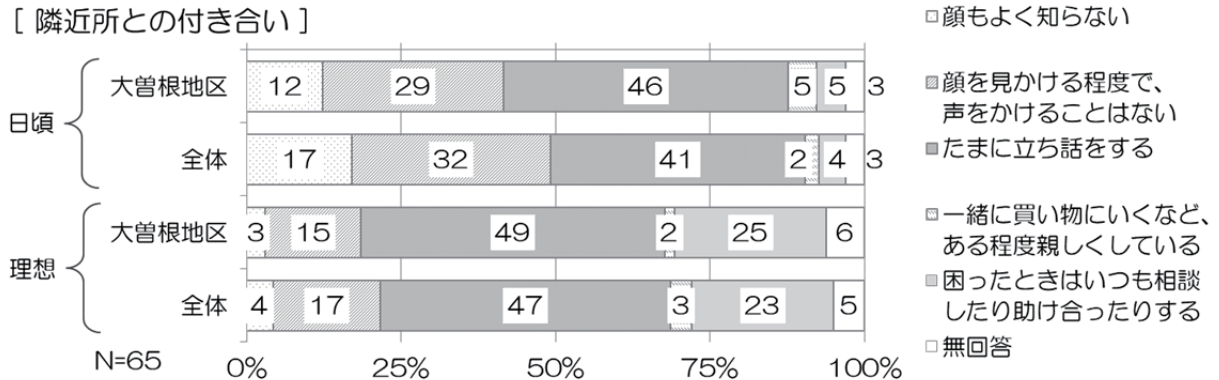
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(〇は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割程度(41%)と、全体集計(49%)よりも少なくなっていますが、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割程度、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

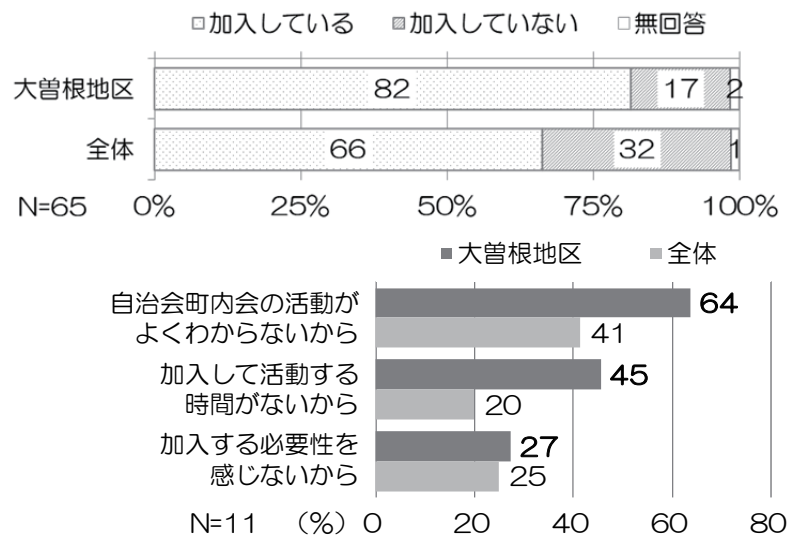
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位3項目>

自治会町内会への加入は8割を超える

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(〇は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(〇は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは82%で、全体集計(66%)と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入して活動する時間がないから」、「加入する必要性を感じないから」が上位となっています。



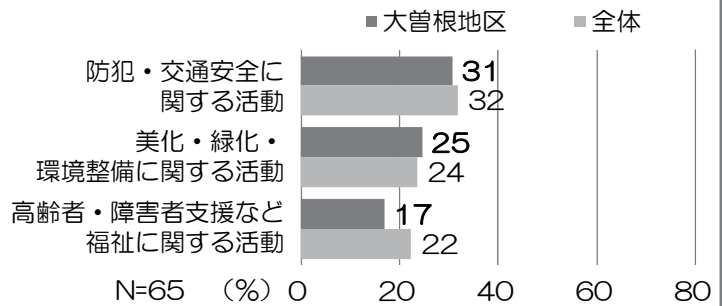
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が約3割、次いで「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

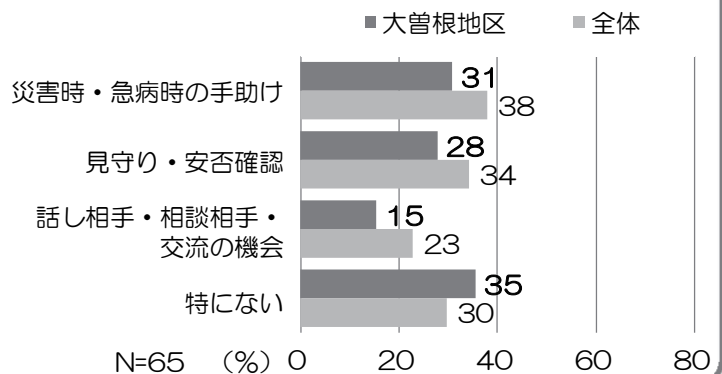
※「特にない」の回答は除く

回答者の6割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」、「見守り・安否確認」が約3割、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。(〇はいくつでも)

なお、「特にない」と回答したのは3割半ばで、6割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

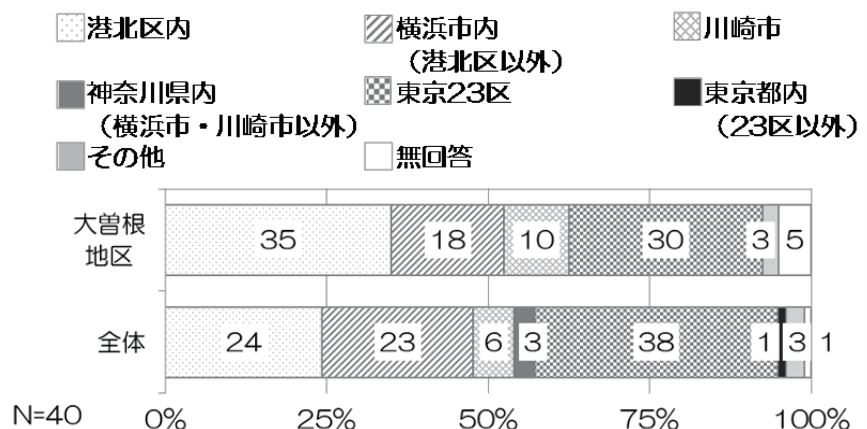


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割強で、港北区内はそのうち6割半ばとなっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや多くなっています。



篠原地区

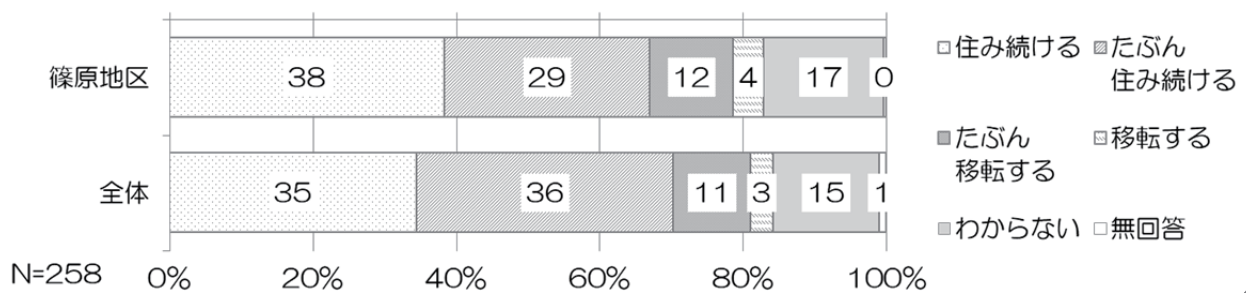
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると、割合はやや少なくなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(79%)、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(61%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

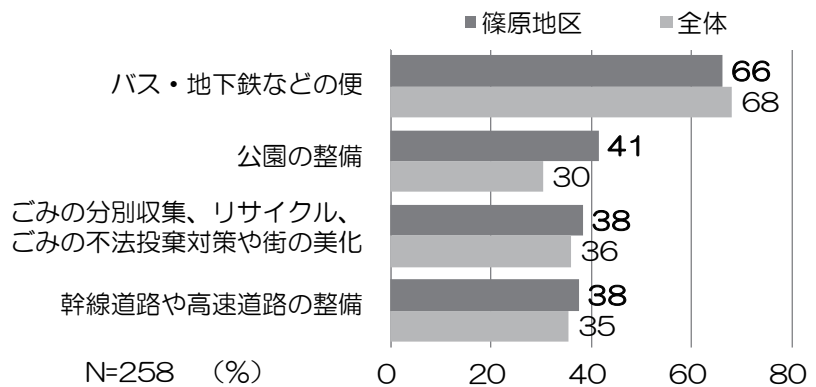
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が66%で最も多くなっています。また、「公園の整備」(41%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

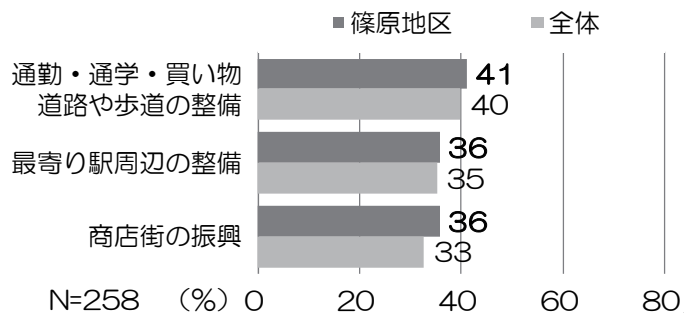
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「最寄り駅周辺の整備」、「商店街の振興」と駅周辺や商店街の整備・振興に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備」(34%)は、全体集計と比較すると5ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位4項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



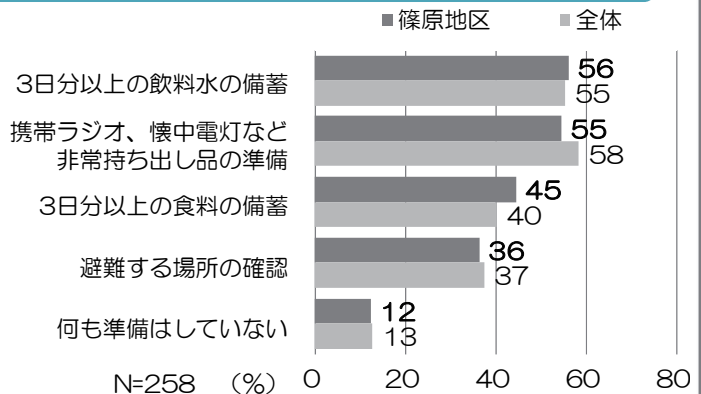
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が5割半ば、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割半ば程度で、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

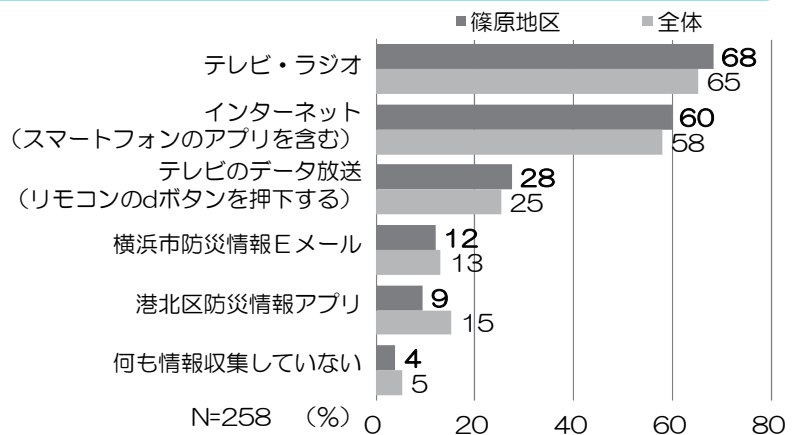


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、それぞれ約1割となっています。

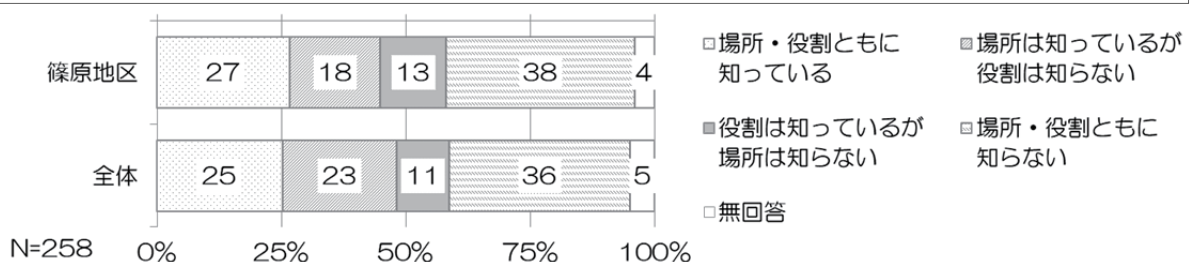


◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※ 地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は4割半ば、「役割」まで知っている方は、2割半ば程度という結果になっています。「場所・役割とも知らない」は約4割でした。



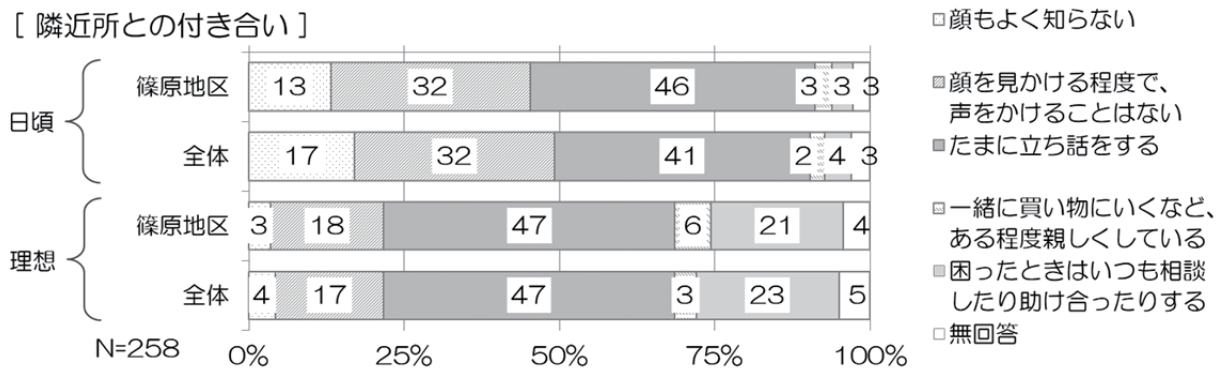
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(〇は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割半ば(45%)と、全体集計(49%)よりもやや少なくなっていますが、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割程度、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割程度など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

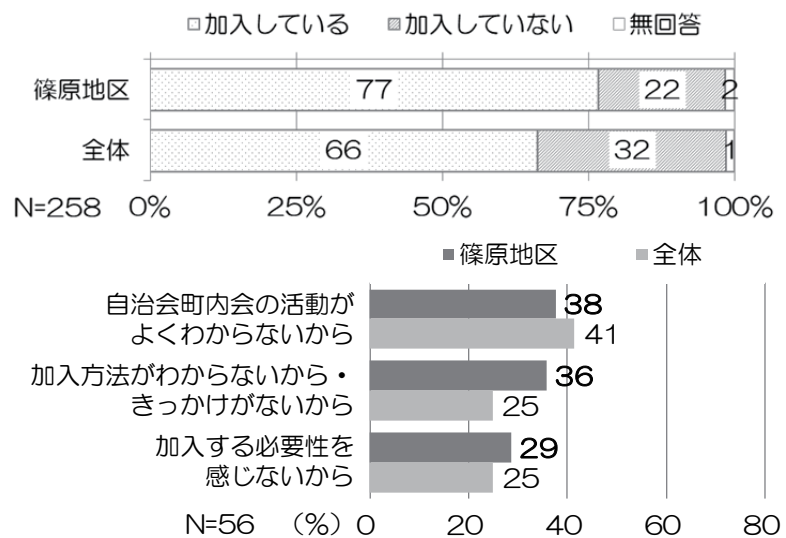
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位3項目>

自治会町内会への加入は7割半ばを超える

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(〇は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(〇は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは77%で、全体集計(66%)と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入する必要性を感じないから」が上位となっています。



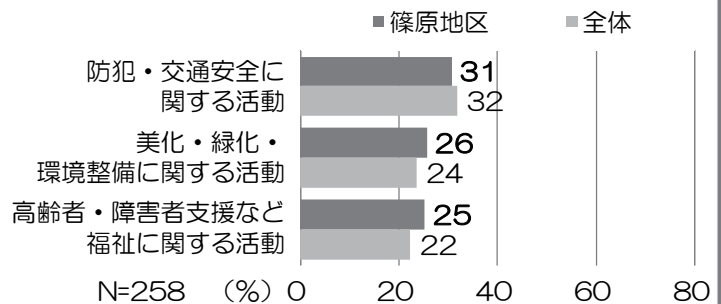
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が約3割、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が2割半ばで、上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

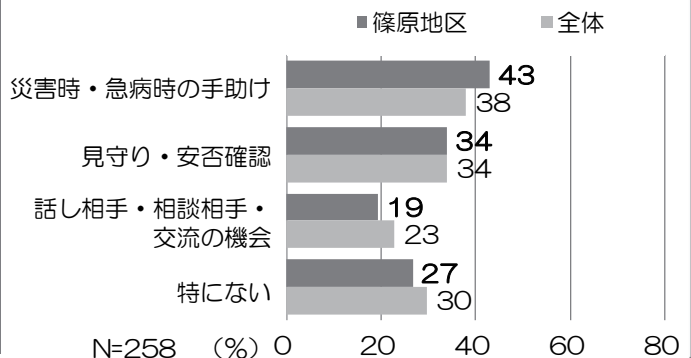
回答者の7割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」が4割以上、「見守り・安否確認」が3割以上、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができていますか。(〇はいくつでも)

「災害時、急病時の手助け」(43%)は、全体集計と比べて多くなっています。

なお、「特にない」と回答したのは約2割半ばで、7割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

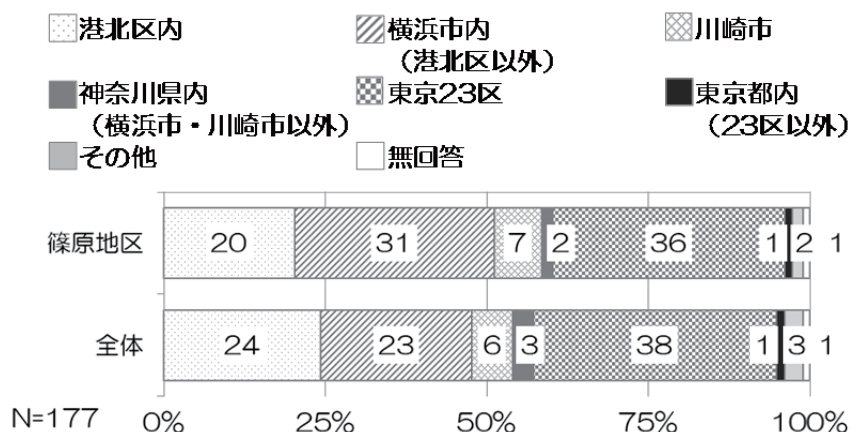


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割程度で、港北区内はそのうち4割程度の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや多くなっています。



菊名地区

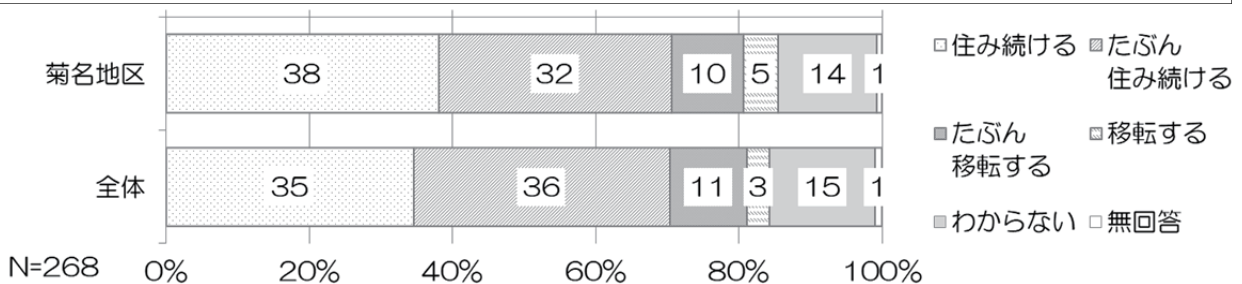
1. 居留意向

港北区に住み続けると思っている方が7割

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っ
ていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割で、
継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と
比較すると、割合はほぼ同率となっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」
(81%)、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(50%)が上位
となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

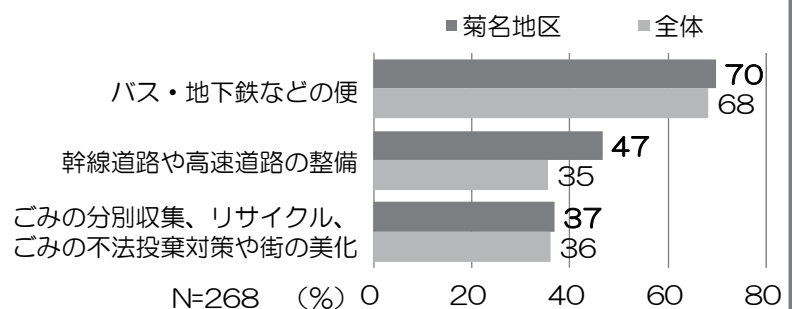
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、
あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。
(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が70%
で最も多くなっています。また、「幹線道路や高速道路の整備」
(47%)や「図書館・図書の貸出取次サービス窓口の整備や読書習慣の推進」
(26%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

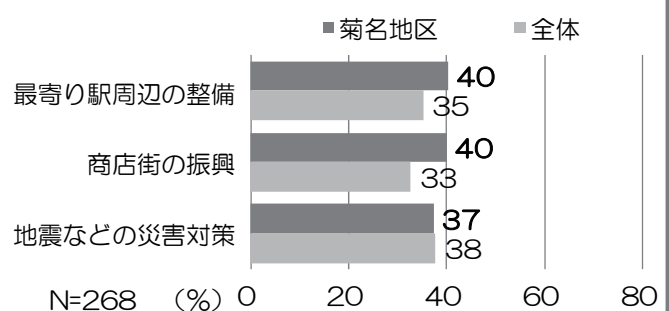
【充実すべきと思う公共サービス】では、「最寄り駅周辺の整備」、
「商店街の振興」、「地震などの災害対策」と駅周辺や商店街の整備・振
興に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「商店街の振興」(40%)は、全体集計と比較すると7ポイント多
くなっています。

【満足している公共サービス】<上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】<上位3項目>



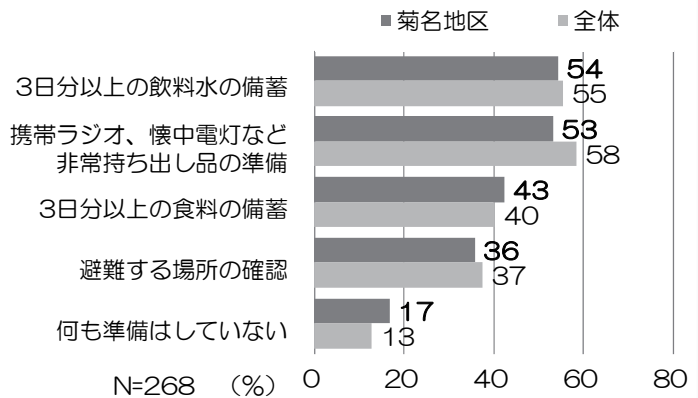
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が5割半ば、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割強で、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないとと言えます。

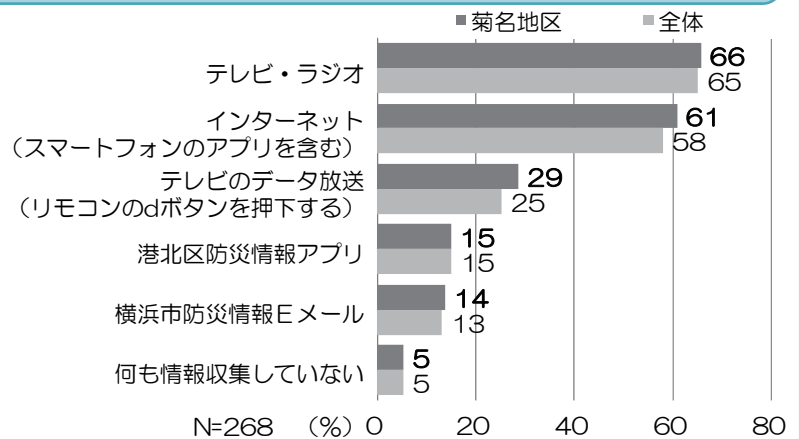


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

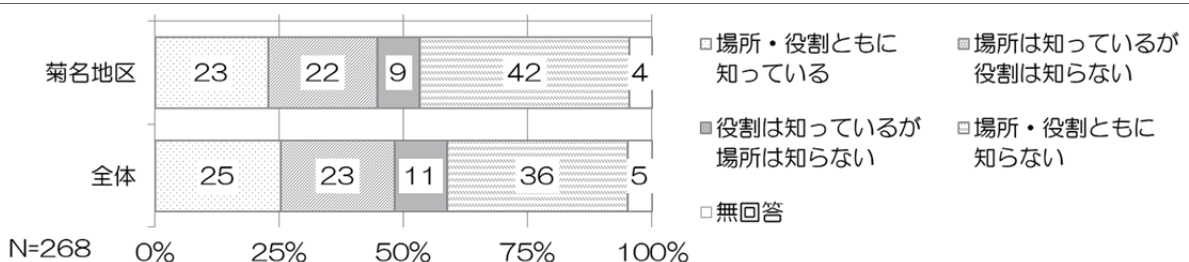
気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。



◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)
 ※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は4割半ば、「役割」まで知っている方は、2割強という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約4割でした。



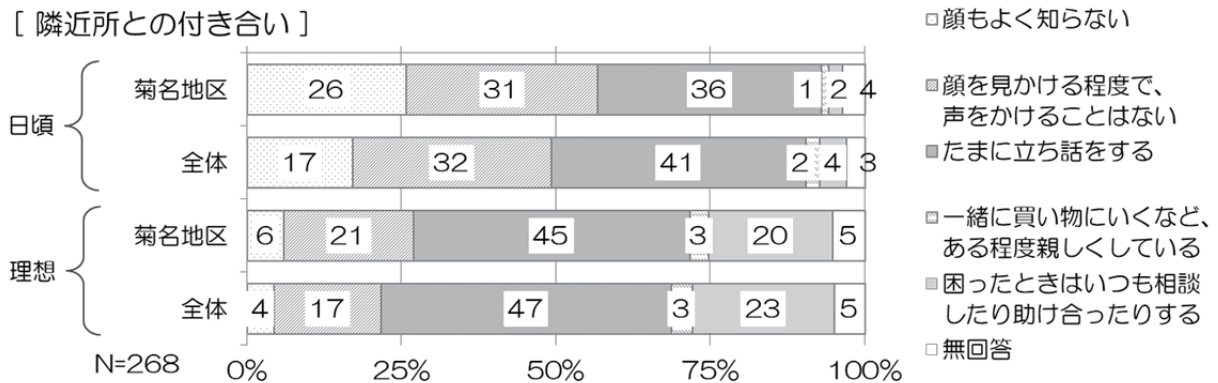
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(○は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が5割半ば(57%)と、全体集計(49%)よりも多くなっており、区全体と比べると近隣との関係はより薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

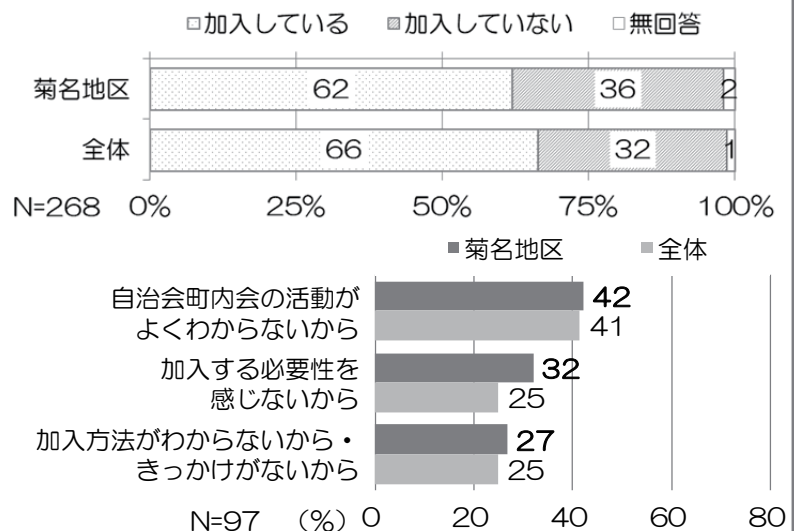
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位3項目>

自治会町内会への加入は6割に留まる

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(○は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(○は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは62%で、全体集計(66%)と比較すると、やや少ない割合となっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入する必要性を感じないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」が上位となっています。



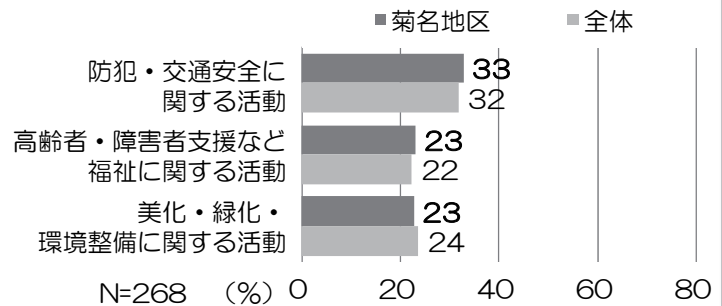
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「高齢者・障害者支援など福祉」、「美化・緑化・環境整備」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が3割以上、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

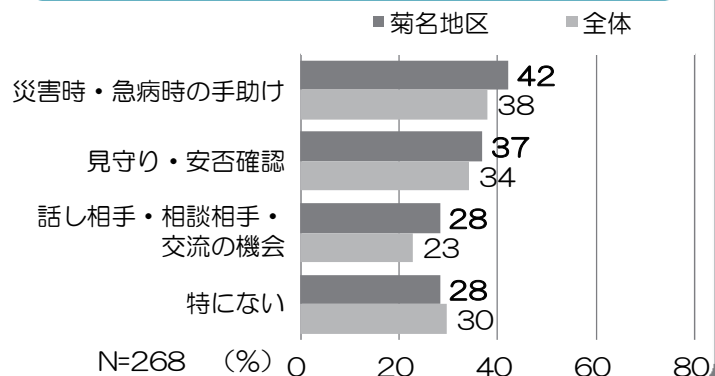
回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」が約4割、「見守り・安否確認」が3割半ば、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。(〇はいくつでも)

上位3項目は、全体集計と比べて多くなっています。

なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

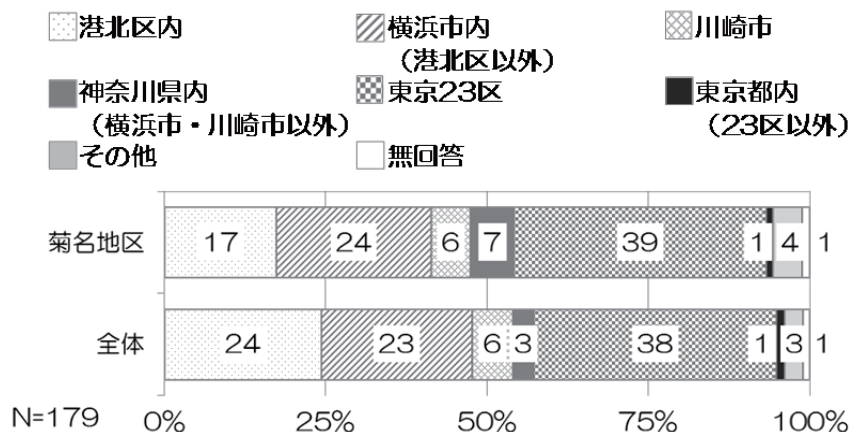


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が4割程度で、港北区内はそのうち4割程度の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや少なくなっています。



城郷地区

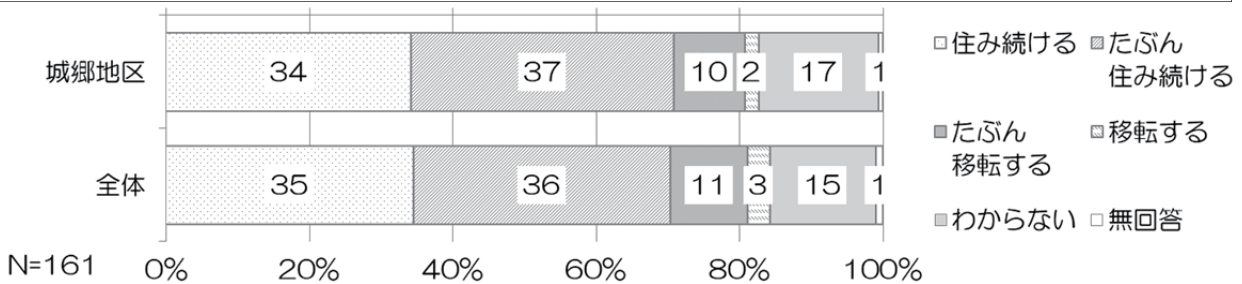
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っ
ていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、
継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると、
割合は同率となっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(55%)、
「交通が便利だから」(52%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

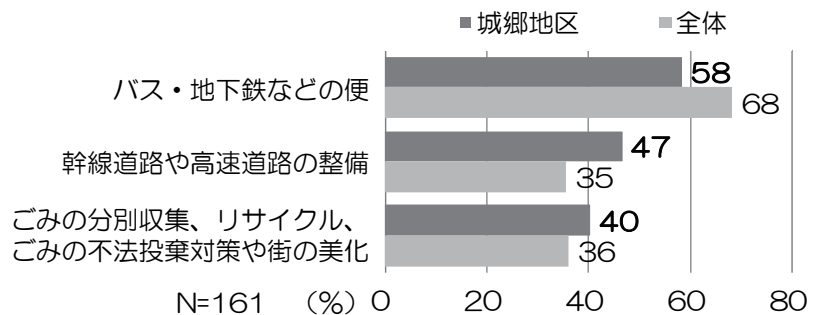
【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が58%で最も多いですが、全体集計と比較すると割合が少ないです。また、「幹線道路や高速道路の整備」(47%)や「病院や救急医療など地域医療」(34%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

【充実すべきと思う公共サービス】では、「商店街の振興」、「最寄り駅周辺の整備」、「地震などの災害対策」と商店街や駅周辺の振興・整備に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

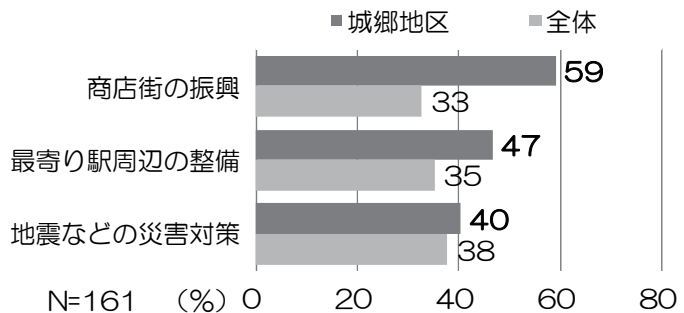
「商店街の振興」(59%)は、全体集計と比較すると26ポイント多くなっています。

Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】<上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】<上位3項目>



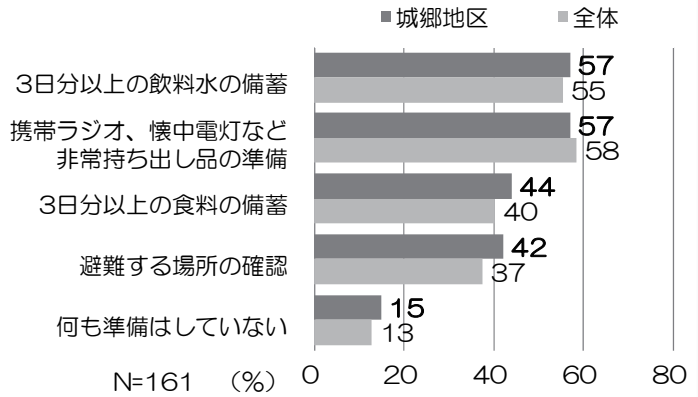
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が5割半ば、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割半ば程度となり、全体集計とほぼ同率で、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないとと言えます。

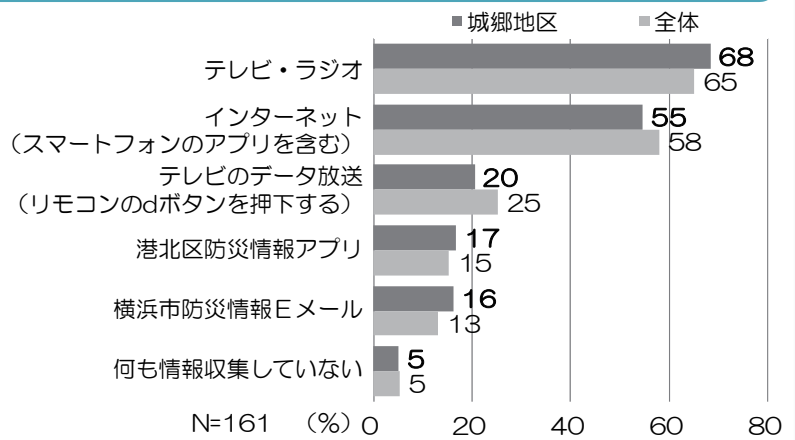


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。

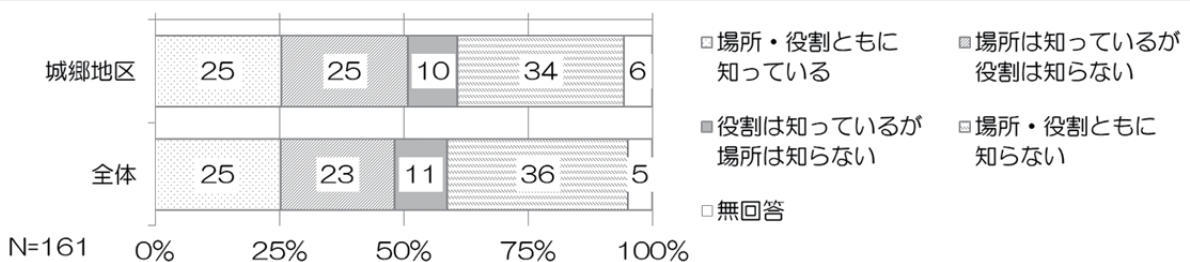


◆避難場所や避難所の役割について(地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は3割半ばでした。



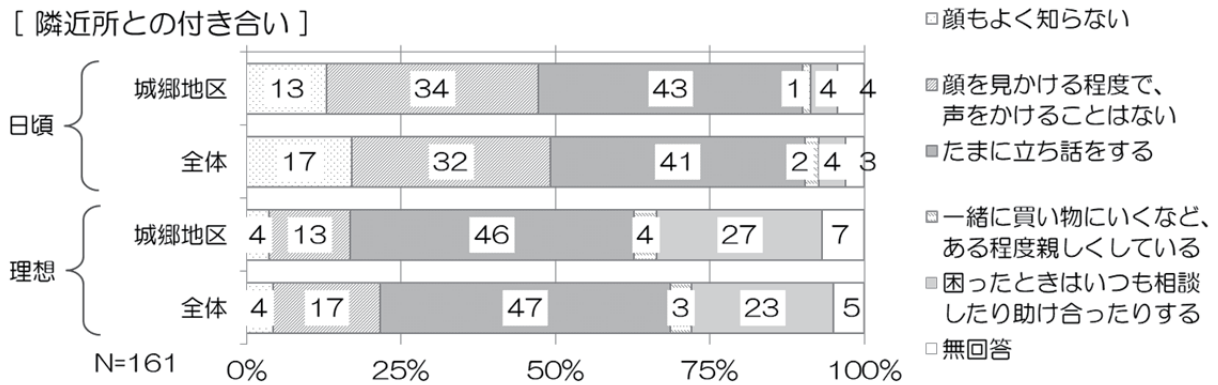
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(〇は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割程度(47%)と、全体集計(49%)より若干少なくなっていますが、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は1割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

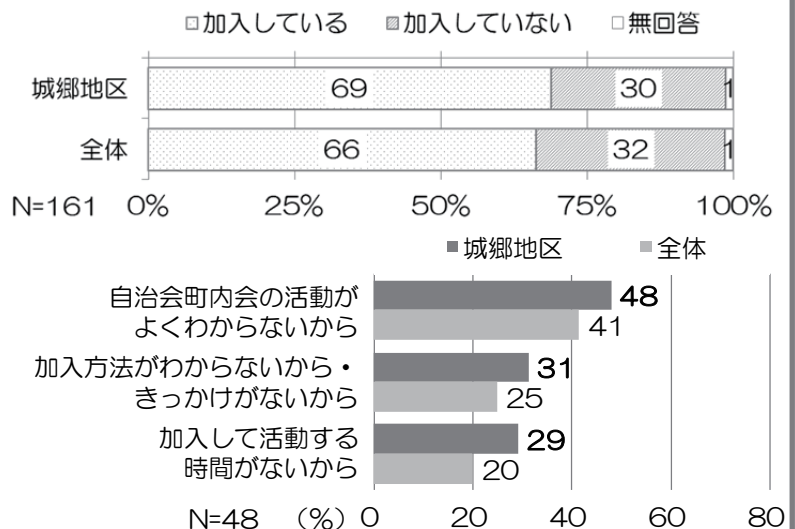
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位3項目>

自治会町内会への加入は約7割

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(〇は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(〇は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは69%で、全体集計(66%)と比較すると、やや多い割合となっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入して活動する時間がないから」が上位となっています。



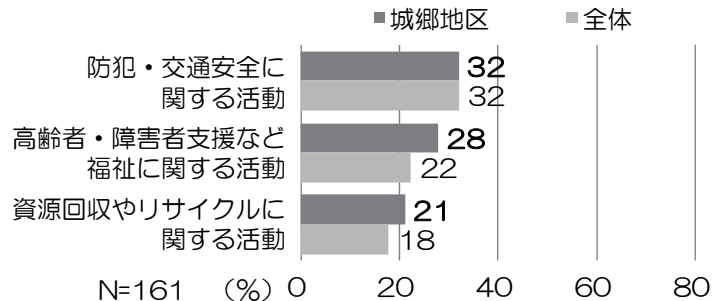
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「高齢者・障害者支援など福祉」、「資源回収やリサイクル」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」と「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が約3割、「資源回収やリサイクルに関する活動」が約2割で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

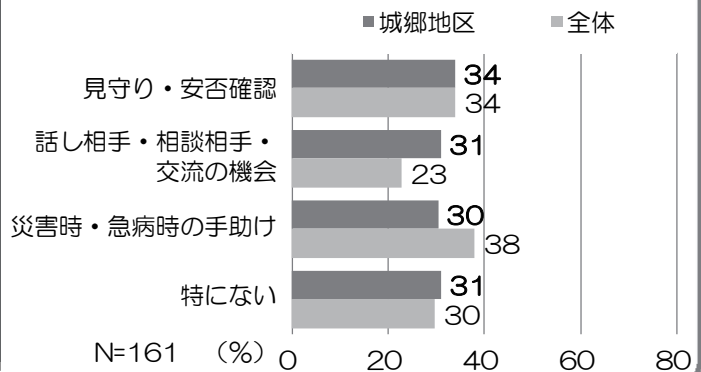
回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「見守り・安否確認」、「話し相手・相談相手・交流の機会」、「災害時・急病時の手助け」が3割以上の比率で上位となっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができていますか。(〇はいくつでも)

「話し相手・相談相手・交流の機会」(31%)は、全体集計と比べて多くなっています。

なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

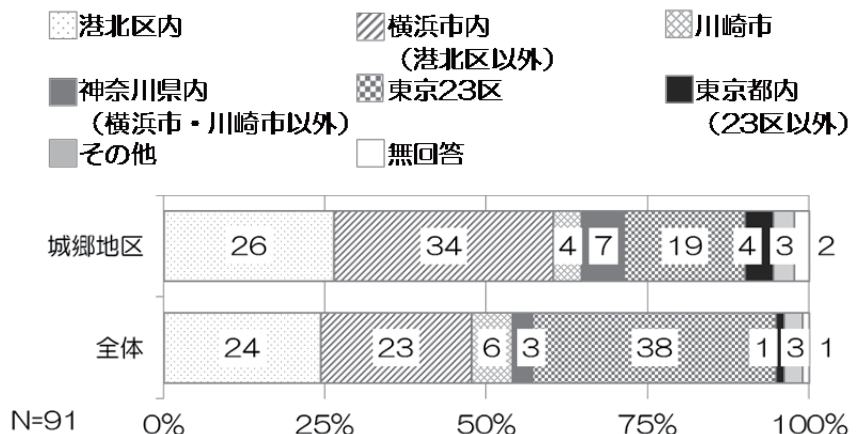


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が6割で、港北区内はそのうち4割強の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が多くなっています。



日吉地区

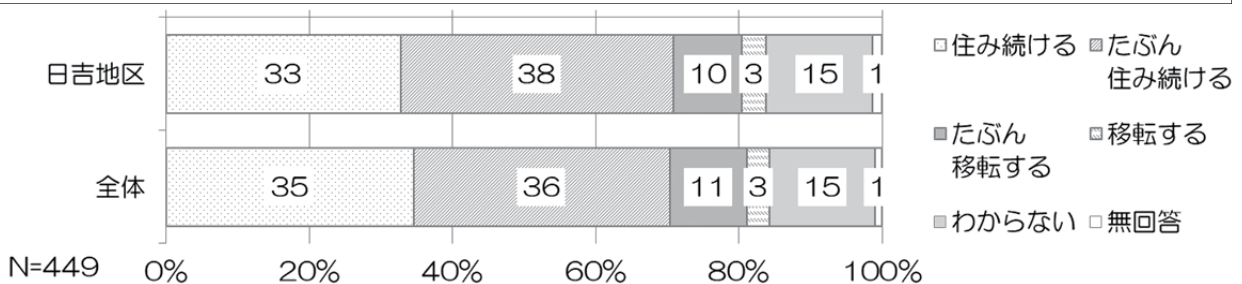
1. 居留意向

港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると、割合は同率となっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(73%)、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(55%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

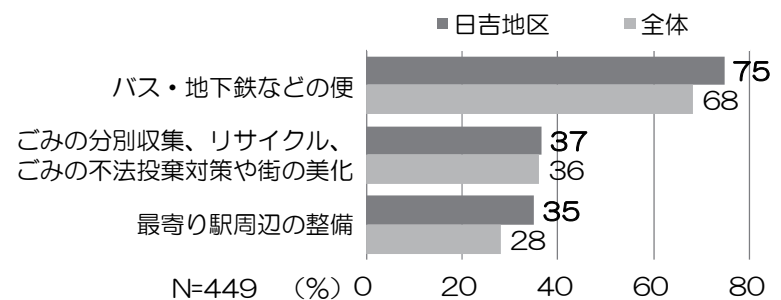
【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が75%で最も多くなっています。また、「バス・地下鉄などの便」(75%)や「最寄り駅周辺の整備」(35%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「地震などの災害対策」、「病院や救急医療など地域医療」と安心・安全に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

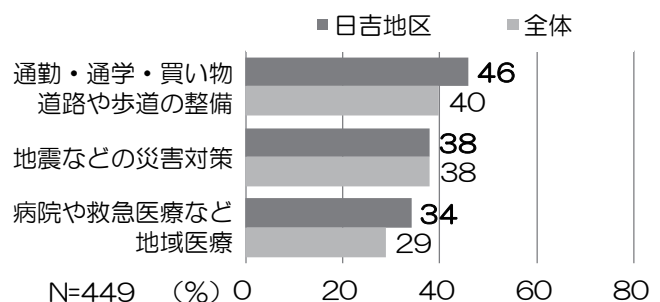
「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」(46%)や「図書館・図書館の貸出取次サービス窓口の整備や読書習慣の推進」(31%)は、全体集計と比較すると6ポイント多くなっています。

Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



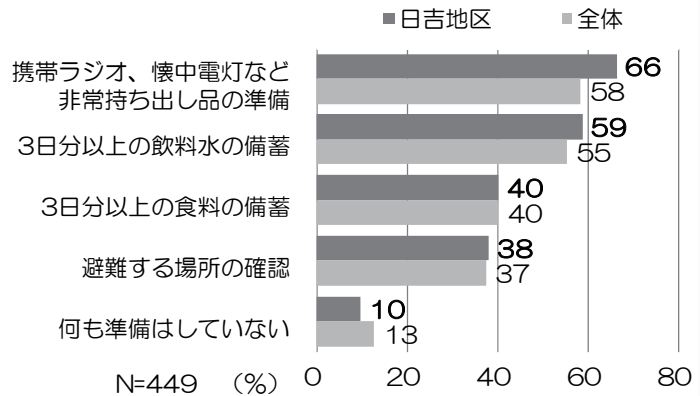
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」は6割半ば、「3日分以上の飲料水の備蓄」は約6割、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割程度となり、全体集計と比べやや多いですが、在宅避難に必要な飲料水や食料について、約4割の方の備蓄が完全でないと言えます。

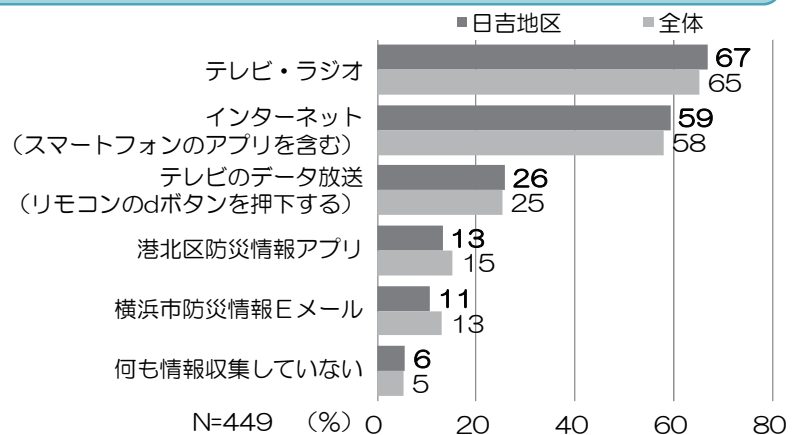


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。
「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、それぞれ約1割となっています。

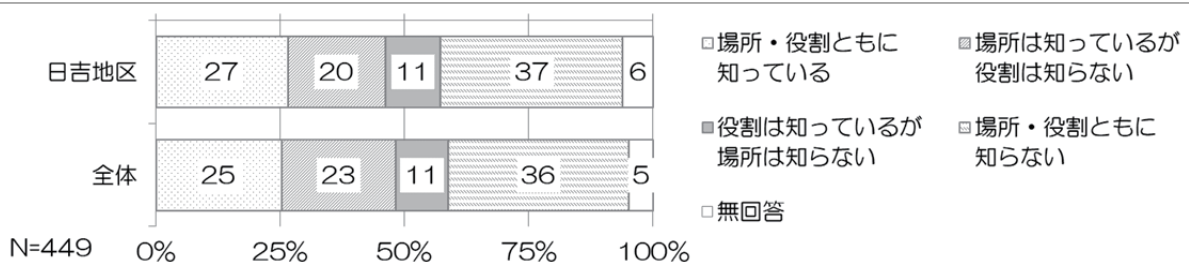


◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在中避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は3割半ばでした。



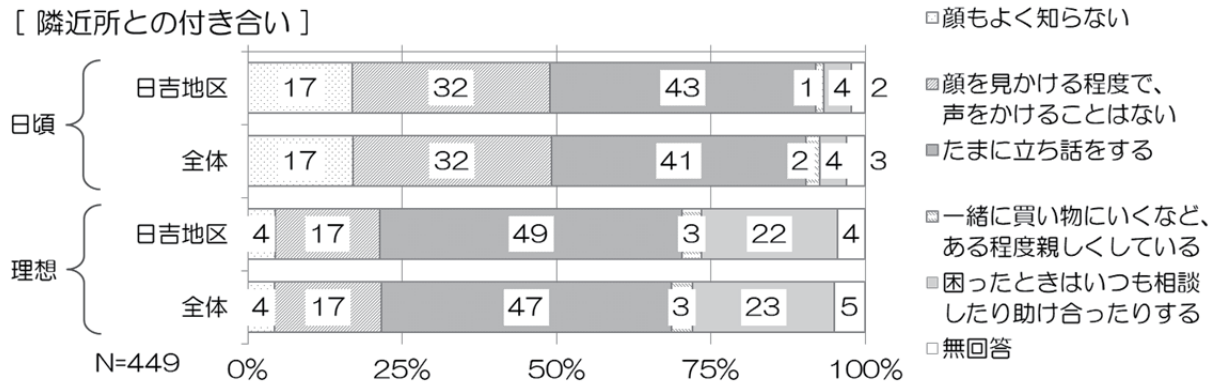
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(〇は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が半数程度(49%)と、全体集計(49%)と同率となっており、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割程度、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割程度など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

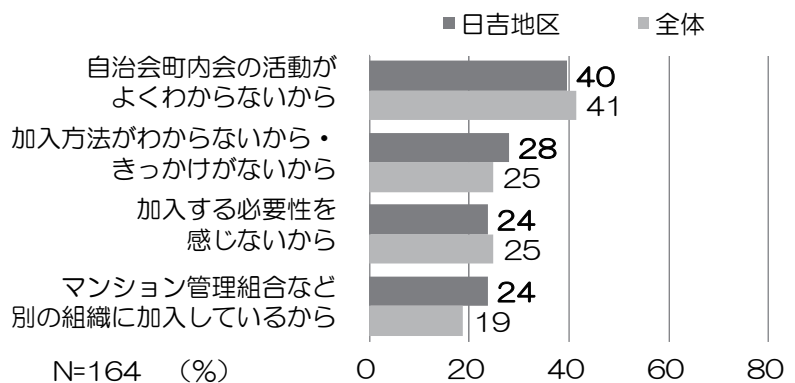
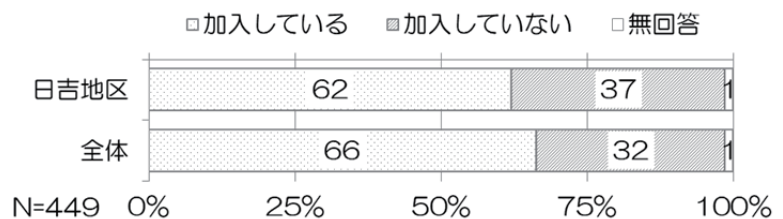
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位4項目>

自治会町内会への加入は6割に留まる

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(〇は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(〇は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは62%で、全体集計(66%)と比較すると、割合がやや少なくなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入する必要性を感じないから」などが上位となっています。



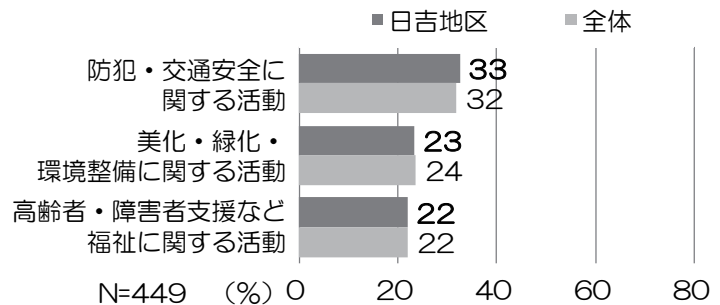
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が3割以上、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

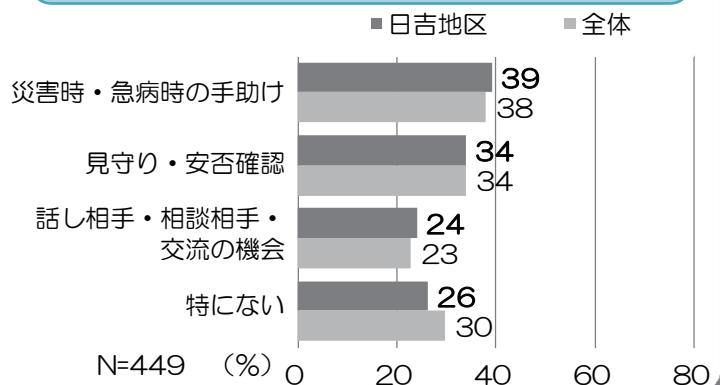
※「特にない」の回答は除く

回答者の7割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」、「見守り・安否確認」が3割以上、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。(〇はいくつでも)

なお、「特にない」と回答したのは約2割半ばで、7割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

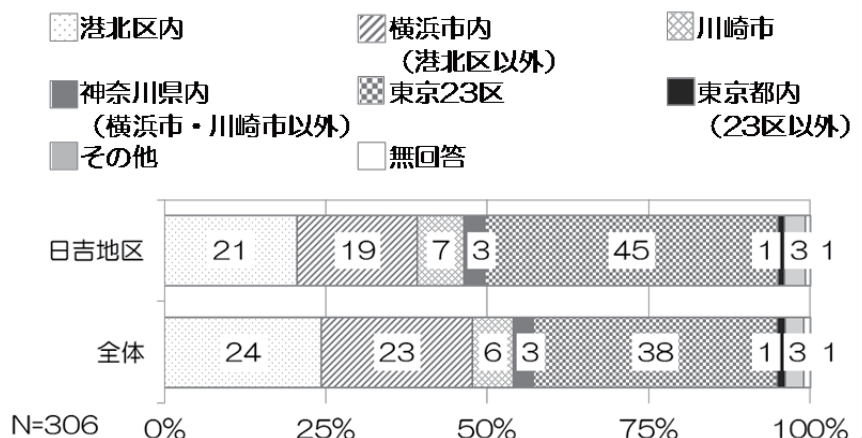


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が4割で、港北区内はそのうち半数程度の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が少なくなっています。



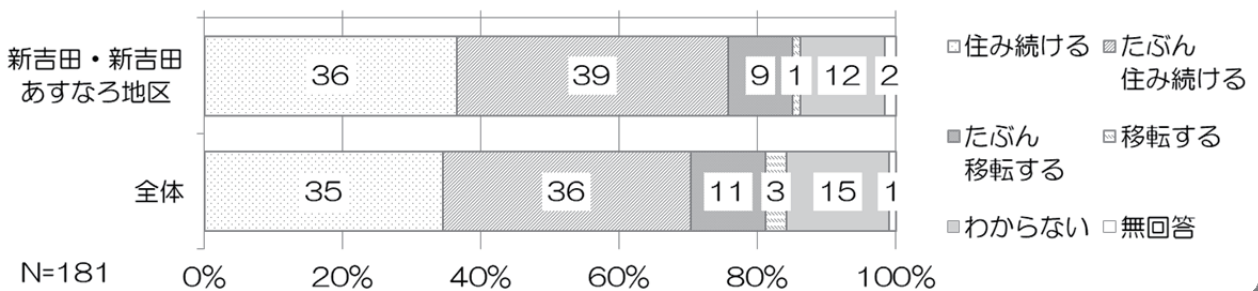
新吉田・新吉田あすなろ地区

1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると、割合はやや多くなっています。このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(69%)、「交通が便利だから」(58%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

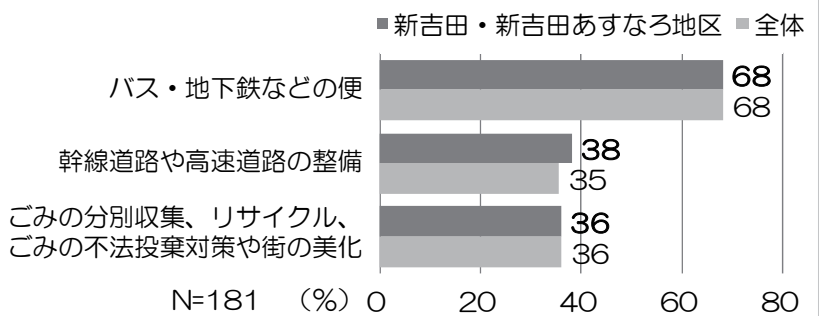
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が68%で最も多くなっています。一方、「公園の整備」(24%)は全体集計と比較すると6ポイント少なくなっています。

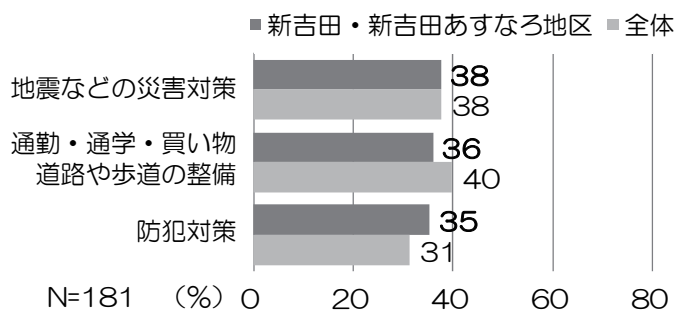
【充実すべきと思う公共サービス】では、「地震などの災害対策」、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「防犯対策」と安心・安全に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「河川改修と水辺環境の整備」(30%)は、全体集計と比較すると7ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



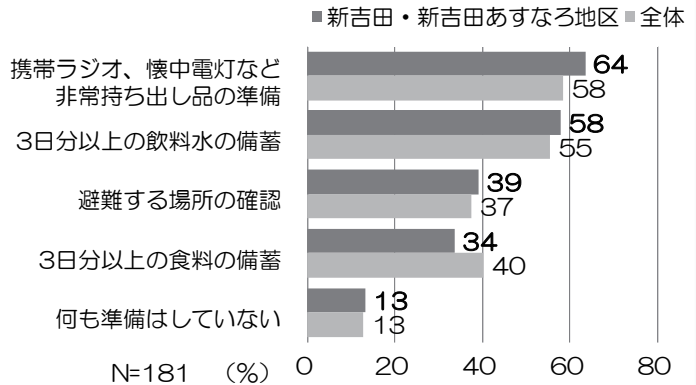
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」、「3日分以上の飲料水の備蓄」は6割、「避難する場所の確認」などが4割程度となり、全体集計と比べやや多いですが、在宅避難に必要な飲料水や食料について、約4割の方の備蓄が完全でないと言えます。

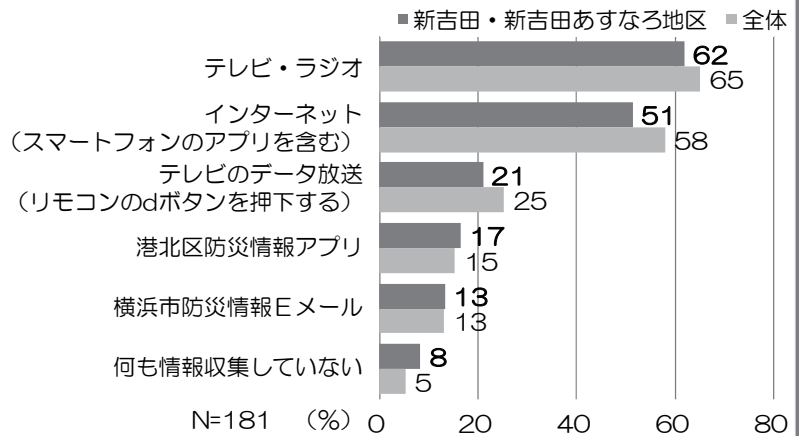


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。
「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。

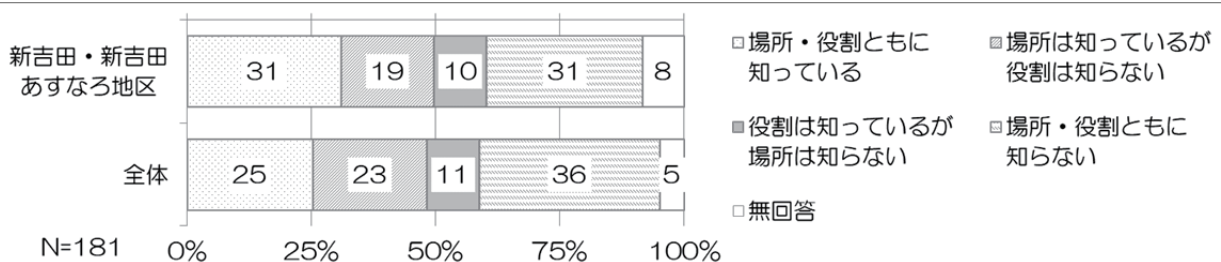


◆避難場所や避難所の役割について(地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞り避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、3割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約3割でした。

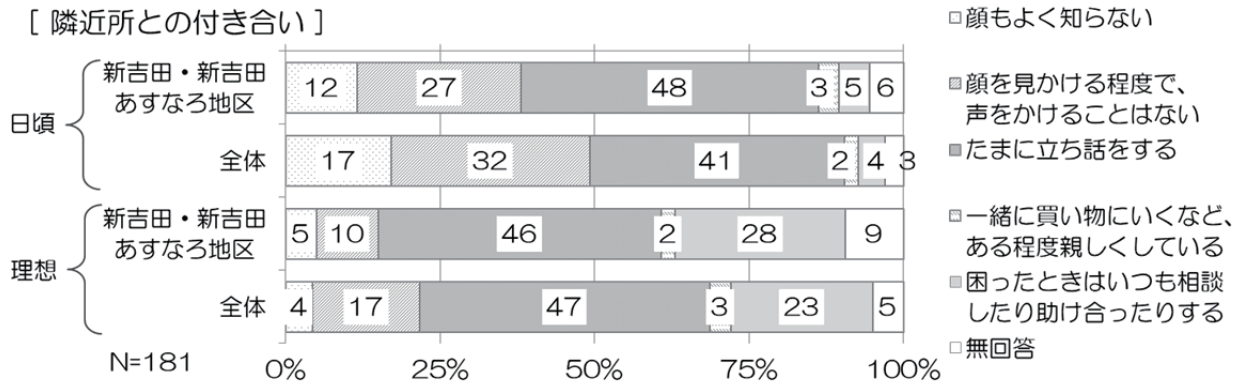


4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多い

Q:あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(〇は1つだけ)



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割程度(39%)と、全体集計(49%)よりも少なくなっており、区全体の結果と比べると、近隣との付き合いが多いと言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は1割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は約3割など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

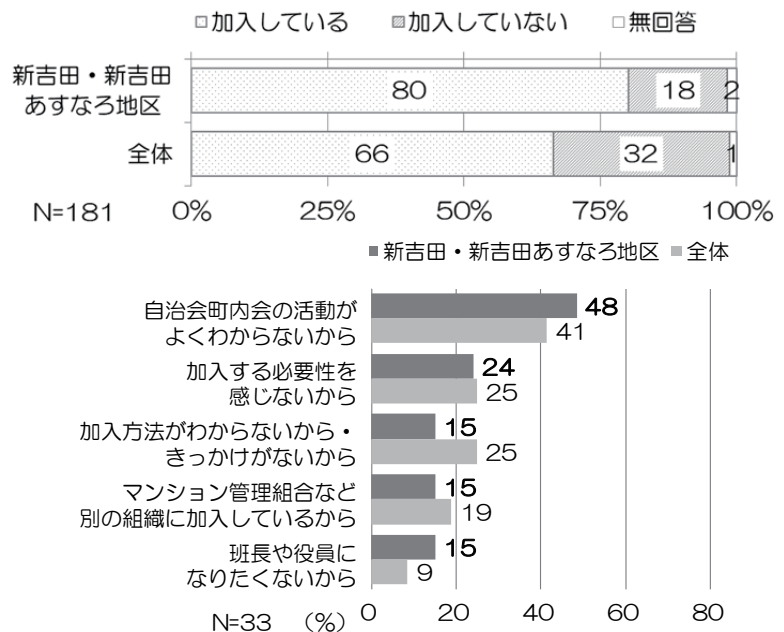
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位5項目>

自治会町内会への加入は8割

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(〇は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(〇は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは80%で、全体集計(66%)と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入する必要性を感じないから」などが上位となっています。



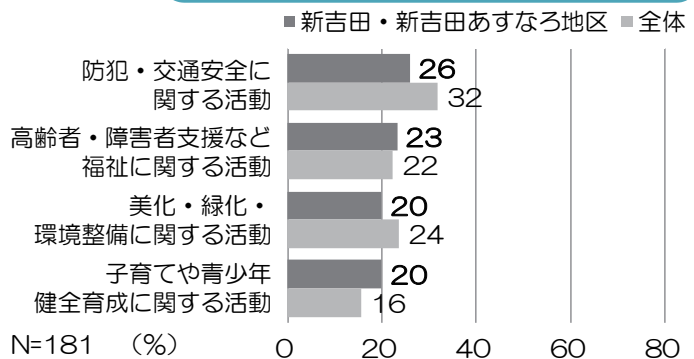
◆力を入れてほしい地域活動〈上位4項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「高齢者・障害者支援など福祉」等が上位4項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「子育てや青少年健全育成に関する活動」が2割以上の割合で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位4項目〉

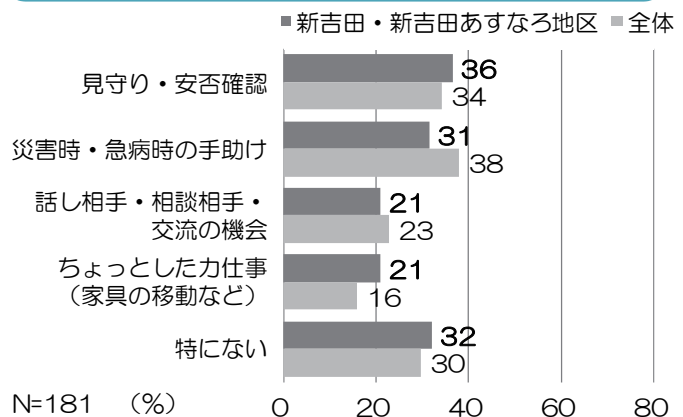
※「特にない」の回答は除く

回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「見守り・安否確認」、「災害時・急病時の手助け」が3割以上、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」などが上位の項目となっています。「災害時・急病時の手助け」(31%)は、全体集計と比べて少ない傾向ではありますが、上位です。

なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。(〇はいくつでも)

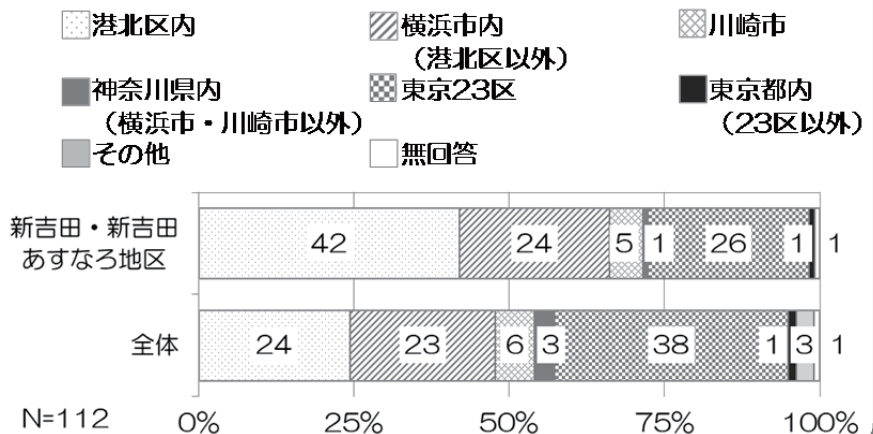


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が6割半ばで、港北区内はそのうち6割半ばとなっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が多くなっています。



高田地区

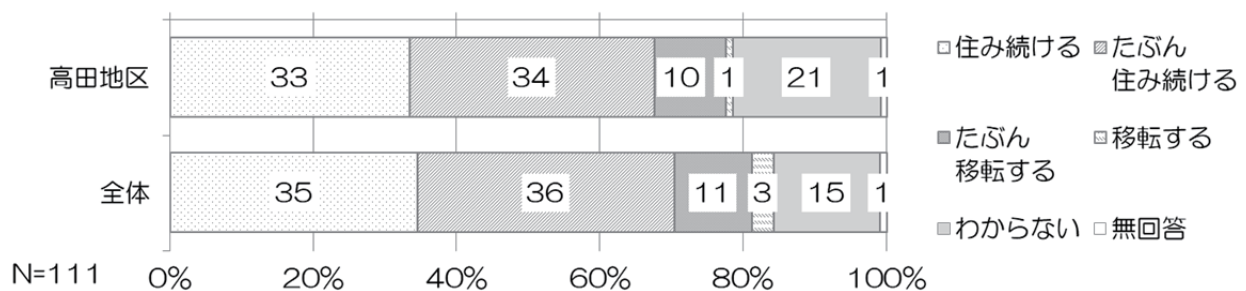
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。(〇は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると割合はやや少なくなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(55%)、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(52%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

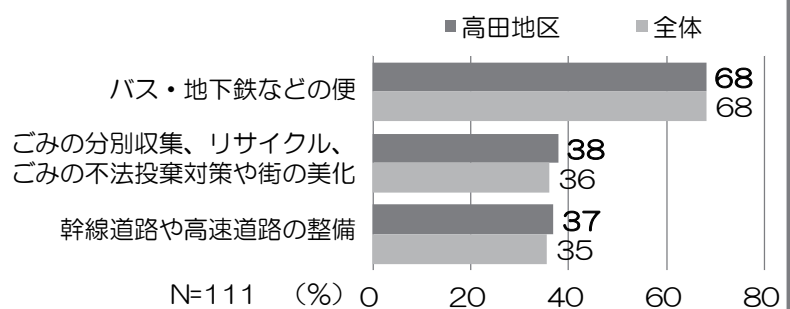
【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が68%で最も多くなっています。また、「高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備(駅舎へのエレベーターの設置など)」(28%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「地震などの災害対策」、「商店街の振興」と安心・安全に関する項目を中心に充実すべきとの声が上がっています。

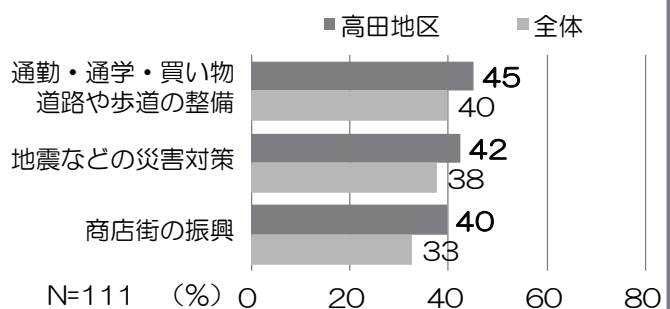
「ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化」(32%)と「身近な住民窓口サービス」(27%)は、全体集計と比較すると8ポイント多くなっています。

Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。〇はいくつでも)

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



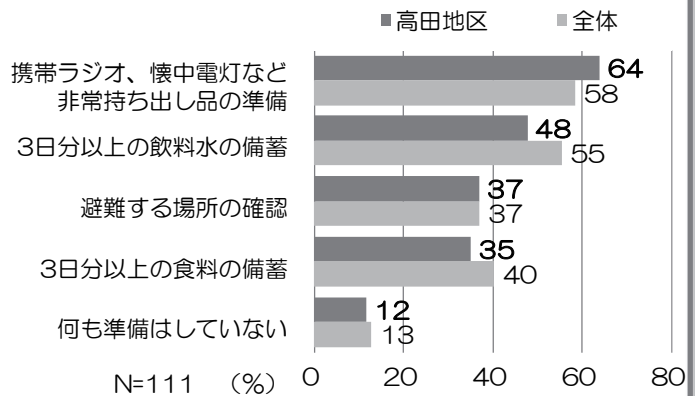
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」は6割半ば、「3日以上の飲料水の備蓄」は5割程度、「避難する場所の確認」などが4割程度となり、非常持ち出し品の準備を除き、全体集計と比べ若干少なく、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

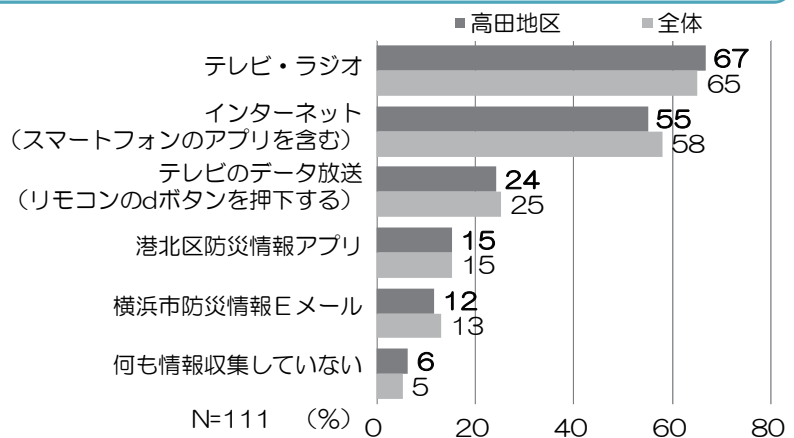


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。

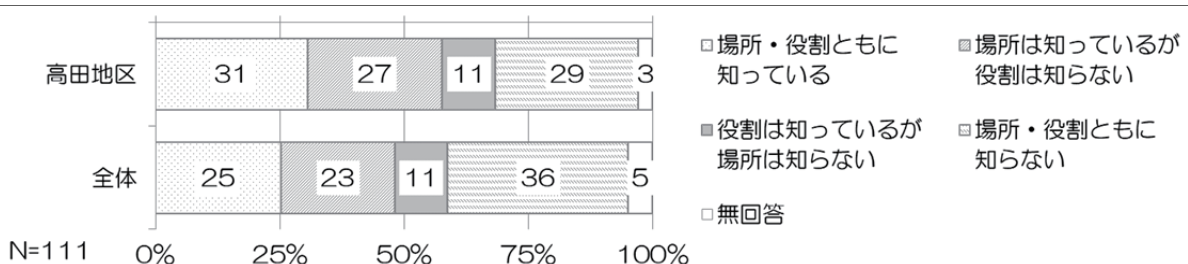


◆避難場所や避難所の役割について(地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は6割程度、「役割」まで知っている方は、3割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約3割でした。



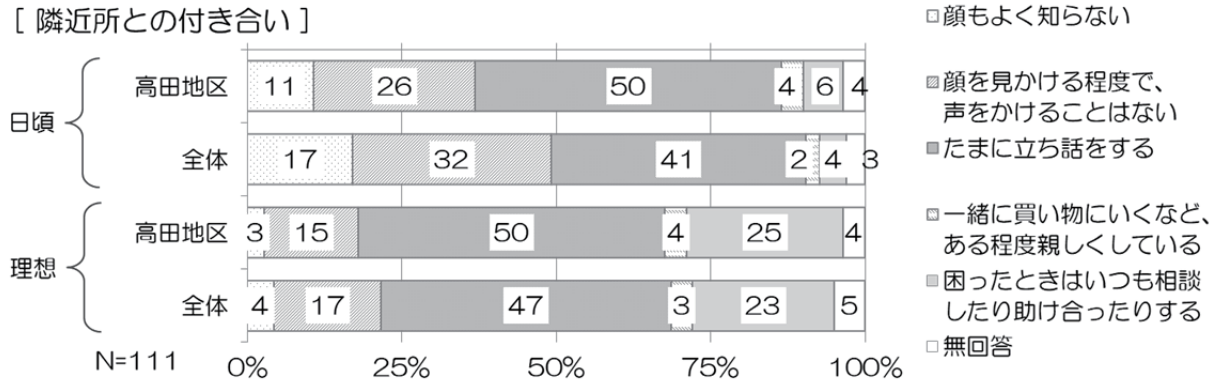
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多い

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(○は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が4割程度(37%)と、全体集計(49%)よりも少なくなっており、区全体の結果と比べると、近隣との付き合いが多いと言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割程度、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

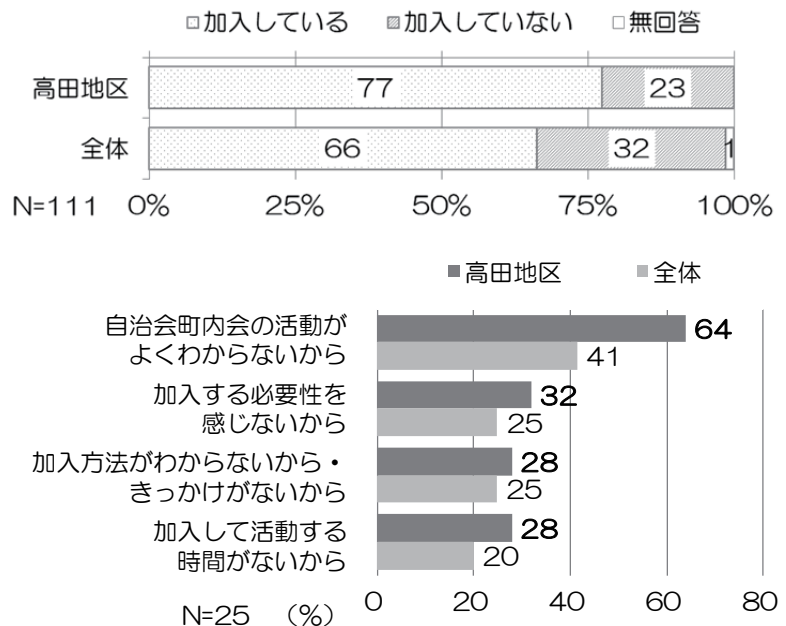
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位4項目>

自治会町内会への加入は7割半ばを超える

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(○は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(○は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは77%で、全体集計(66%)と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入する必要性を感じないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」などが上位となっています。



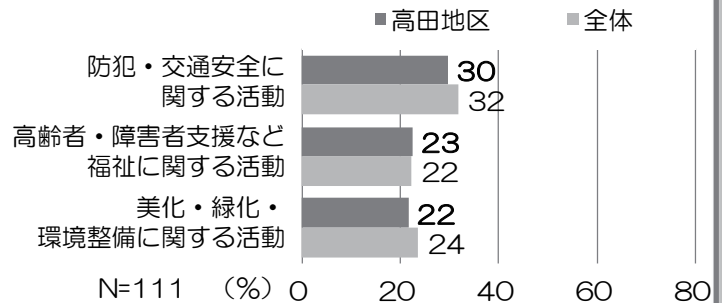
◆**力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉**

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「高齢者・障害者支援など福祉」、「美化・緑化・環境整備」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が約3割、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆**高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉**

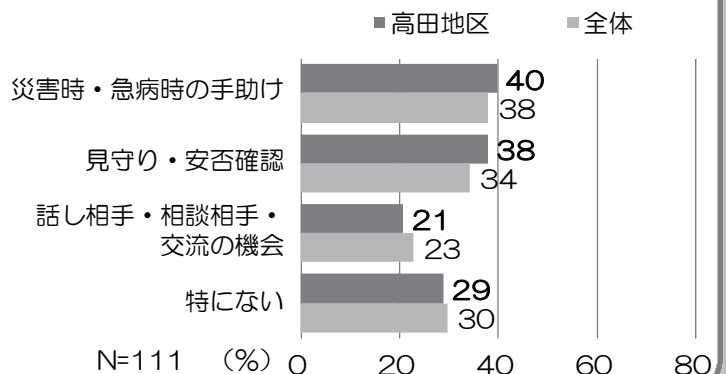
※「特にない」の回答は除く

回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」、「見守り・安否確認」が約4割、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができると思いますか。(〇はいくつでも)

なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

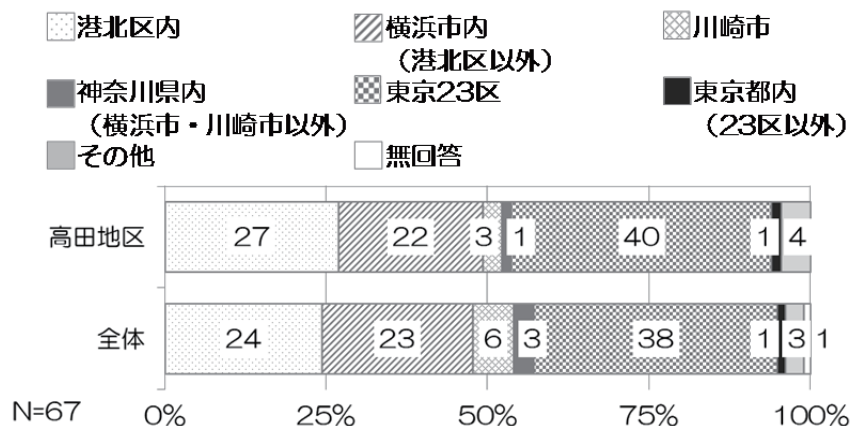


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が5割程度で、港北区内はそのうち5割半ばとなっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや多くなっています。



樽町地区

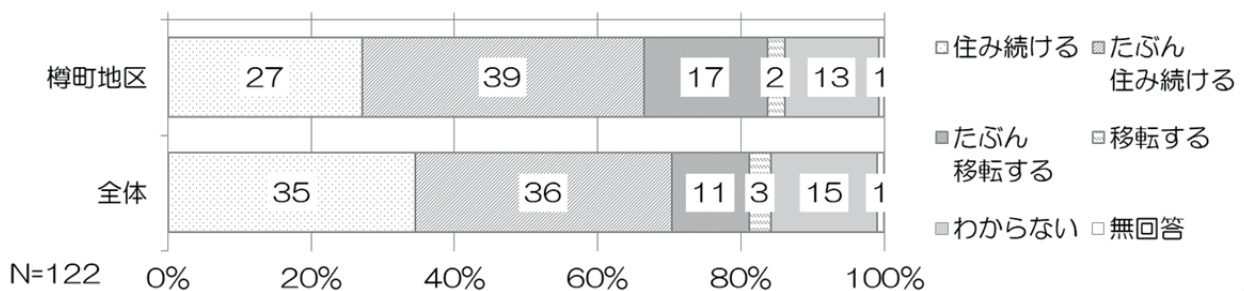
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が6割半ば

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っ
ていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が6割半ばで、
継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると、
割合は少なくなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(75%)、
「買い物に便利だから」(68%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

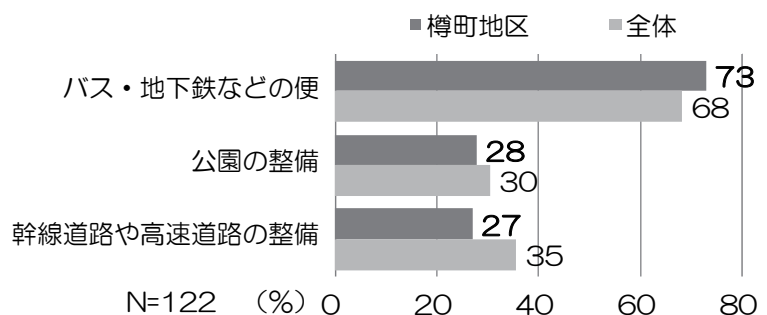
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、
あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。
(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が73%で最も多くなっています。一方、「ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化」(25%)は全体集計と比較すると11ポイント少なくなっています。

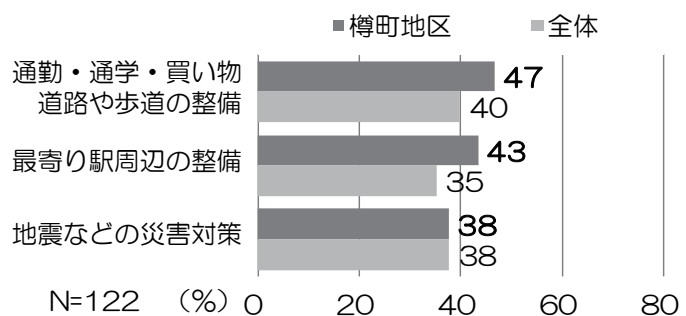
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「最寄り駅周辺の整備」、「地震などの災害対策」と安心・安全に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「最寄り駅周辺の整備」(43%)と「青少年の健全育成」(25%)は、全体集計と比較すると8ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



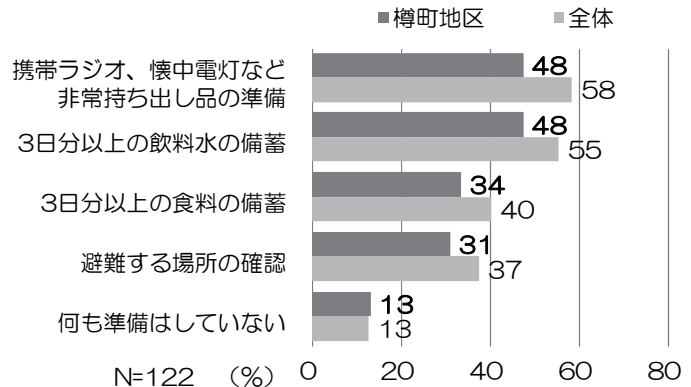
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」、「3日分以上の飲料水の備蓄」は約5割、「3日分以上の食料の備蓄」などが3割半ば程度となり、全体集計と比べ少なく、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数以上の方の備蓄が完全でないと言えます。

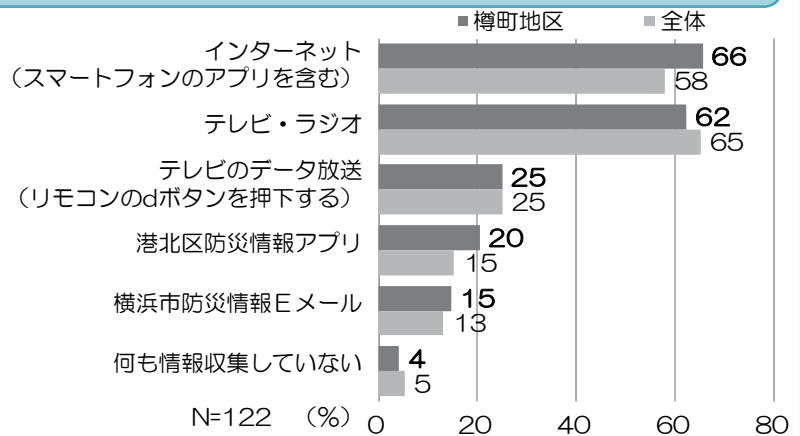


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「インターネット」「テレビ・ラジオ」が上位となっています。
「港区防災情報アプリ」は2割、「横浜市防災情報Eメール」は1割半ばとなっています。

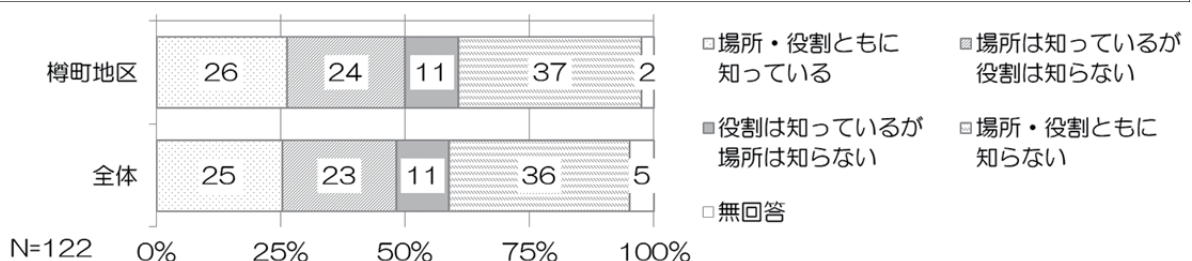


◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は3割半ばでした。



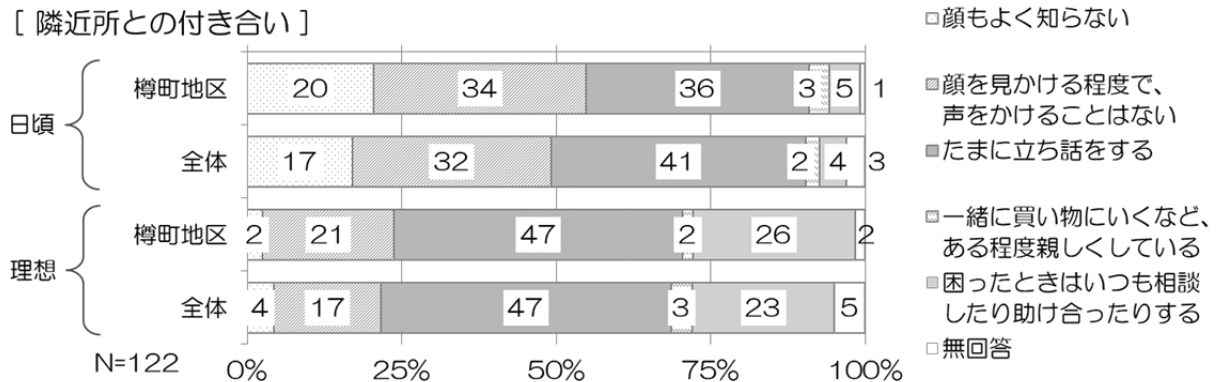
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(〇は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が半数程度（54%）と、全体集計（49%）よりも多くなっており、区全体と比べると、近隣との関係はより薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割強、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

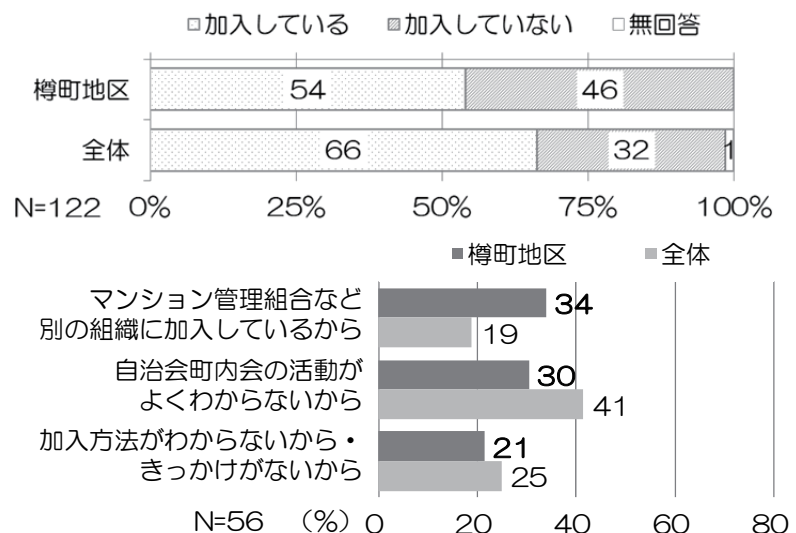
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由〈上位3項目〉

自治会町内会への加入は5割半ばに留まる

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(〇は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。〈自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(〇は3つまで)〉

自治会町内会へ加入しているのは54%で、全体集計(66%)と比較すると、割合が少なくなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「マンション管理組合など別の組織に加入しているから」が最も多く、「自治会町内会の活動がよくわからないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」が上位となっています。



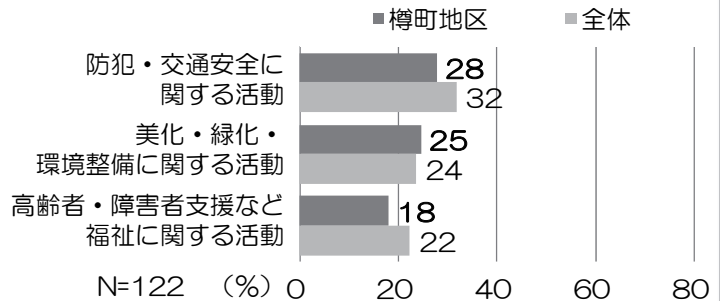
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」、「美化・緑化・環境整備に関する活動」2割半ば以上、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が約2割で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

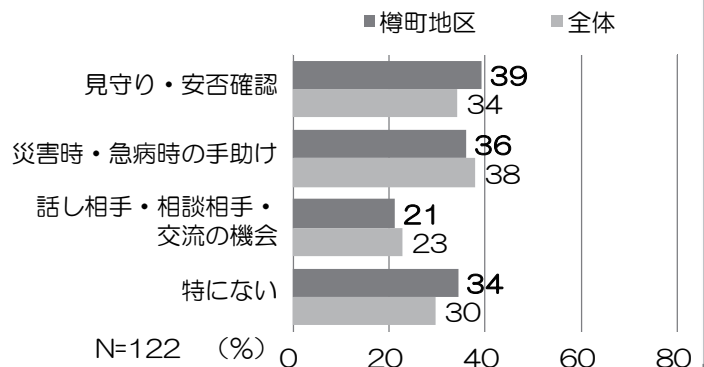
回答者の6割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「見守り・安否確認」が約4割、「災害時・急病時の手助け」が3割半ば、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができていますか。(〇はいくつでも)

「見守り・安否確認」(39%)は、全体集計と比べて多くなっています。

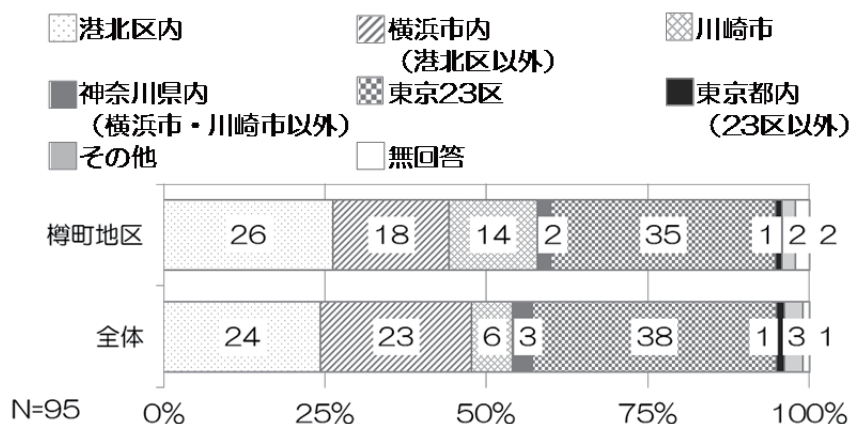
なお、「特にない」と回答したのは3割半ばで、6割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。



5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が4割半ばで、港北区内はそのうち約6割となっています。全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学がやや少なくなっています。



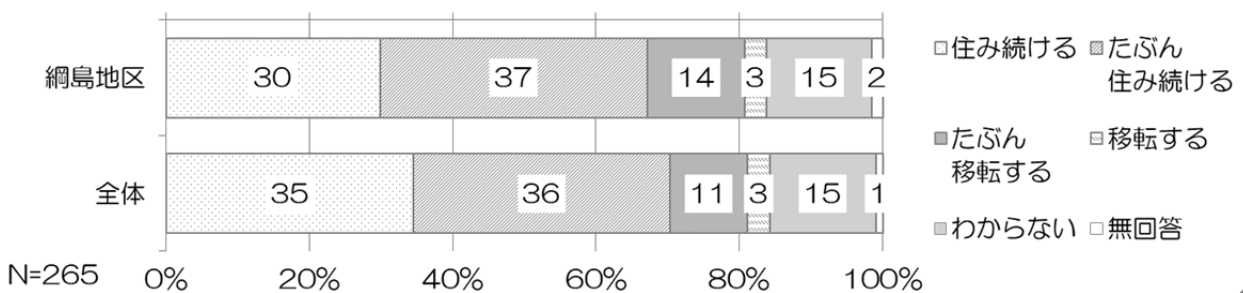
網島地区

1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。(〇は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると、割合はやや少なくなっています。このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(76%)、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(57%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

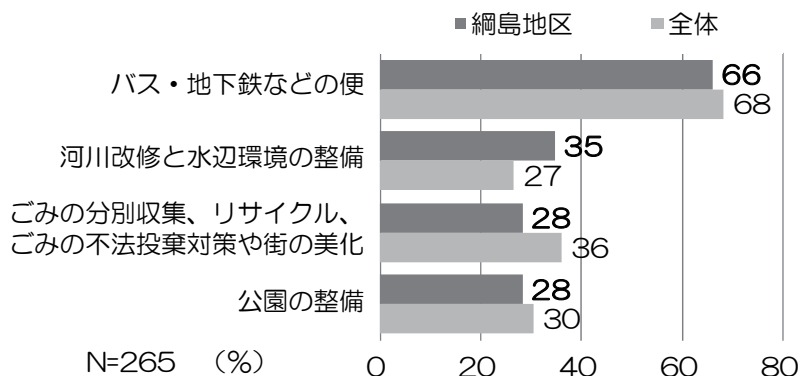
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。〇はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が66%で最も多くなっています。一方、「幹線道路や高速道路の整備」(26%)は全体集計と比較すると9ポイント少なくなっています。

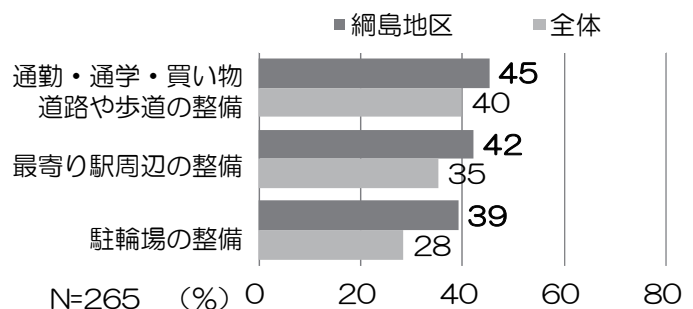
【充実すべきと思う公共サービス】では、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」、「最寄り駅周辺の整備」、「駐輪場の整備」と駅周辺の環境に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「駐輪場の整備」(39%)は、全体集計と比較すると11ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位4項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



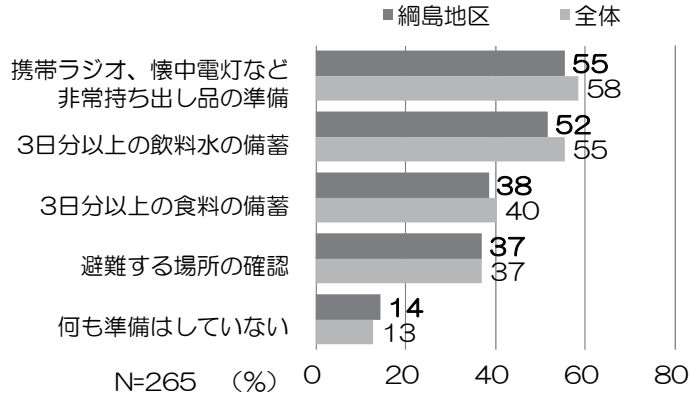
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」、「3日分以上の飲料水の備蓄」は5割を超え、「3日分以上の食料の備蓄」などが4割程度となり、全体集計と比べ若干少なく、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと云えます。

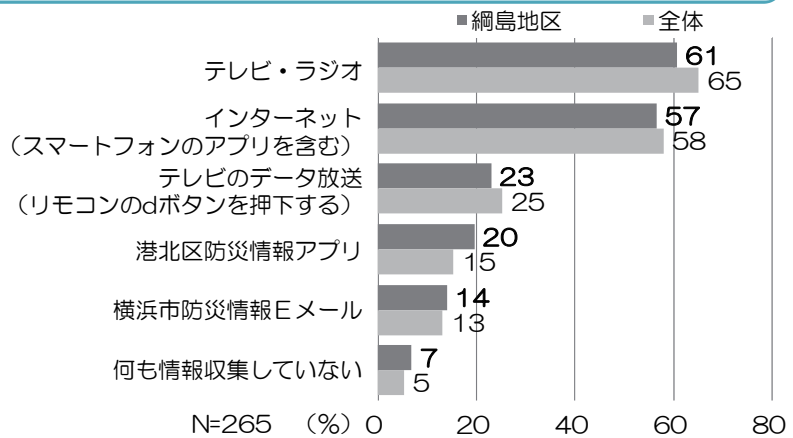


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。
「港区防災情報アプリ」は2割、「横浜市防災情報Eメール」は、1割半ばとなっています。

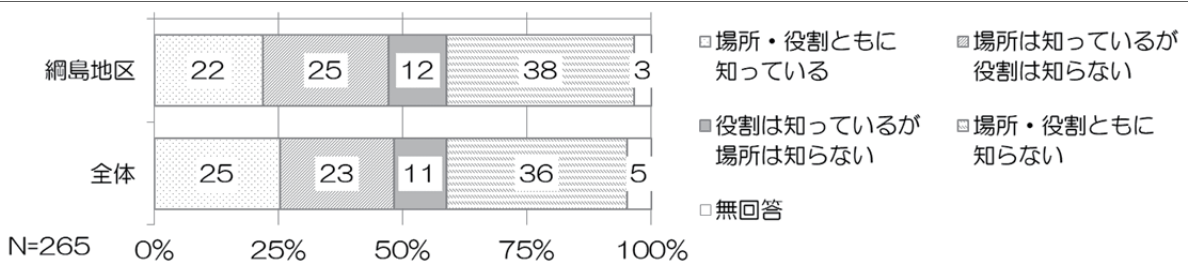


◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数程度、「役割」まで知っている方は、2割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約4割でした。



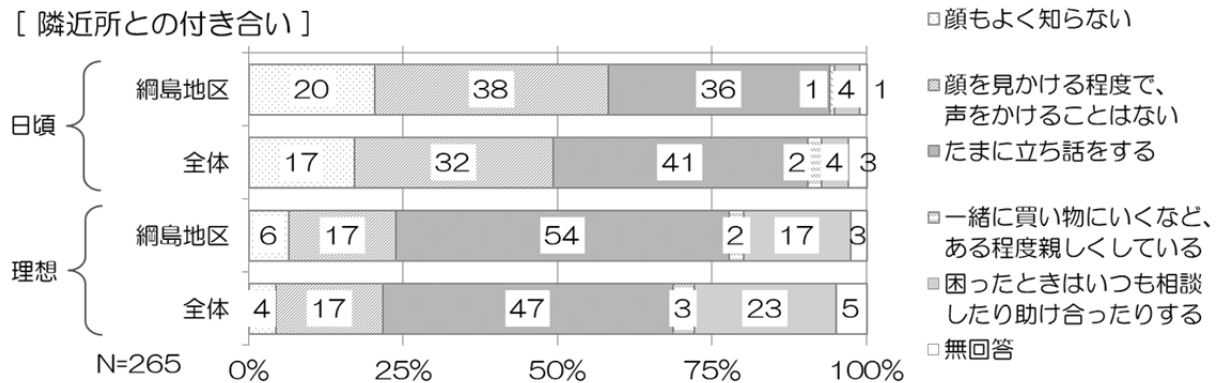
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「顔を見かける程度で、声をかけることはない」が最も多く、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(○は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が6割程度(58%)と、全体集計(49%)よりも多くなっており、区全体と比べると近隣との関係はより薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割強、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は1割半ばなど、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

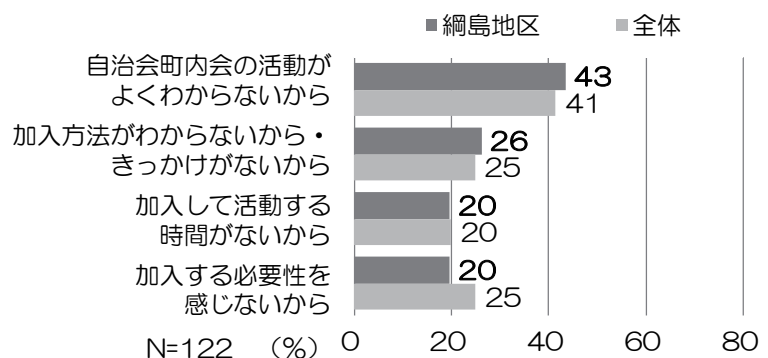
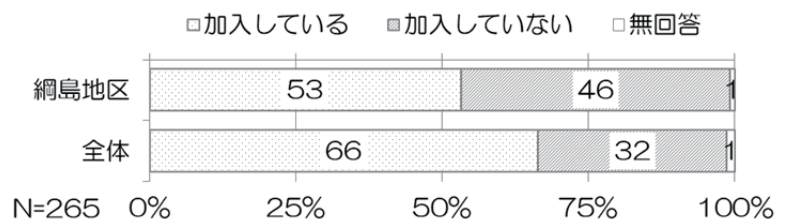
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位4項目>

自治会町内会への加入は半数に留まる

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(○は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(○は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは53%で、全体集計(66%)と比較すると、割合が少なくなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入して活動する時間がないから」、「加入して活動する必要性を感じないから」などが上位となっています。



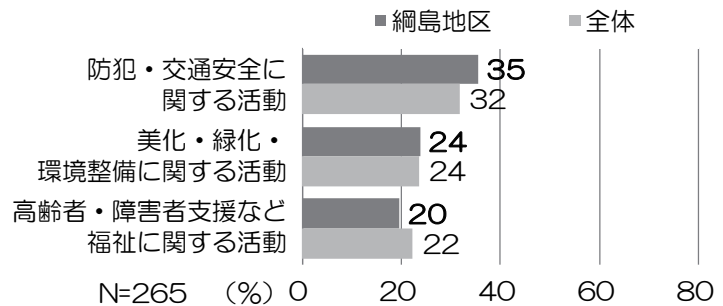
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が3割半ば、次いで「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

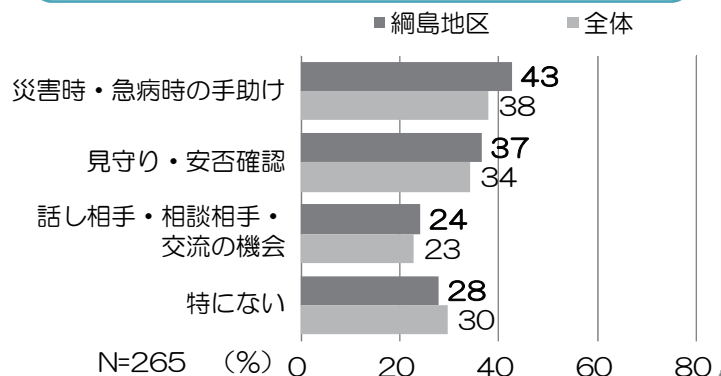
回答者の7割の人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」、「見守り・安否確認」が約4割、次いで「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができてと思いますか。(〇はいくつでも)

上位3項目は、全体集計と比べて多くなっています。

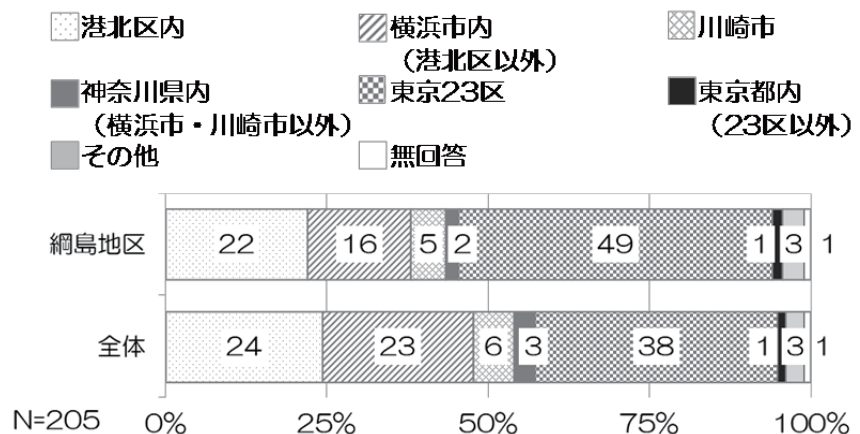
なお、「特にない」と回答したのは約3割で、7割の方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。



5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内在が4割程度で、港北区内はそのうち約6割となっています。
全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が少なくなっています。



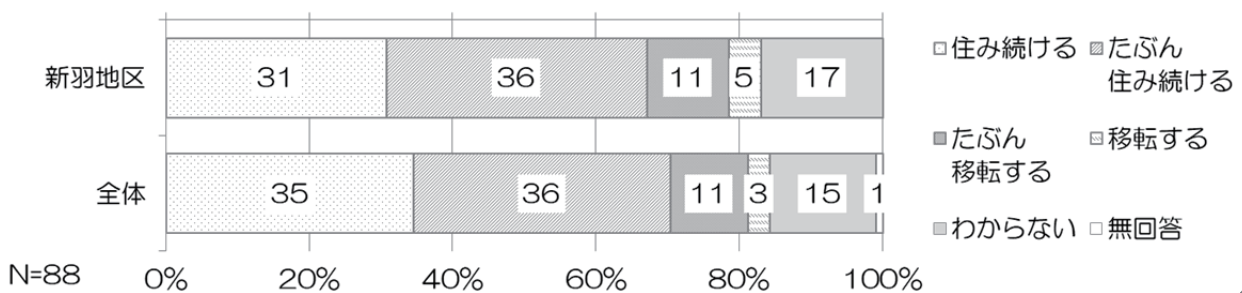
新羽地区

1. 居留意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。(〇は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けたい方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると、割合はやや少なくなっています。このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(56%)、「買い物に便利だから」(53%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する方が多い

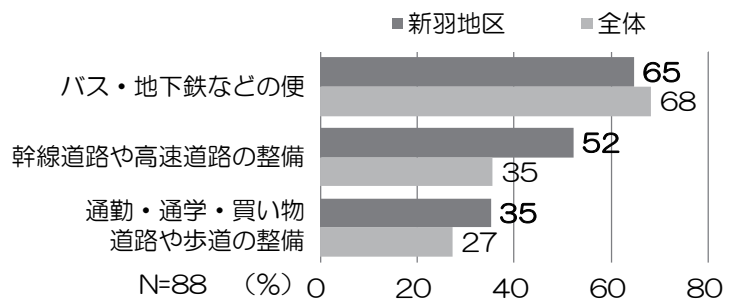
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。〇はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が65%で最も多くなっています。また、「幹線道路や高速道路の整備」(52%)や「地区センターやコミュニティハウスなどの整備や生涯学習・市民活動の振興」(27%)が全体集計と比較すると割合が多いです。

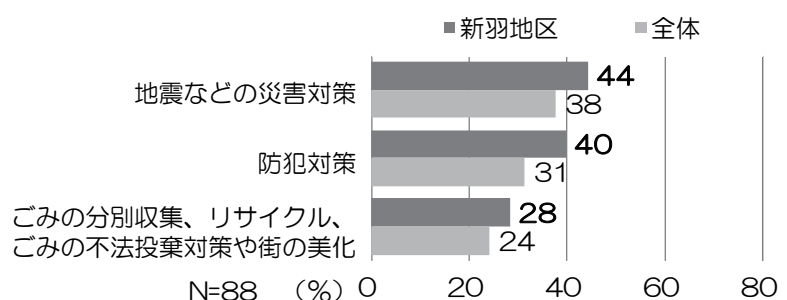
【充実すべきと思う公共サービス】では、「地震などの災害対策」、「防犯対策」、「ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化」と防災・防犯に関する項目を中心に充実すべきとの声が上がっています。

「バス・地下鉄などの便」(26%)は、全体集計と比較すると11ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位3項目>



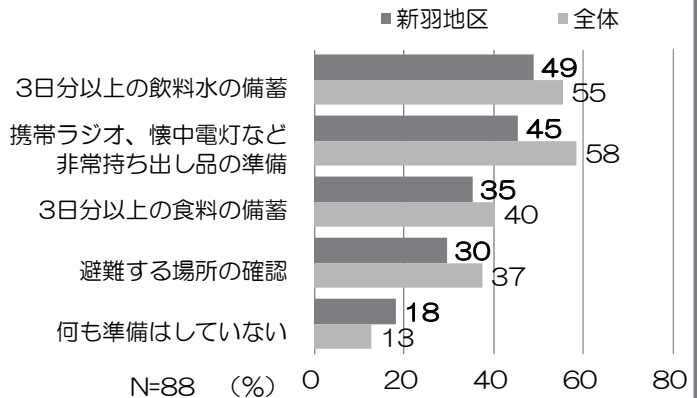
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「3日分以上の飲料水の備蓄」が約5割、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が4割半ば、「3日分以上の食料の備蓄」が3割半ば程度となり、全体集計と比べ少なく、在宅避難に必要な飲料水や食料について、半数程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

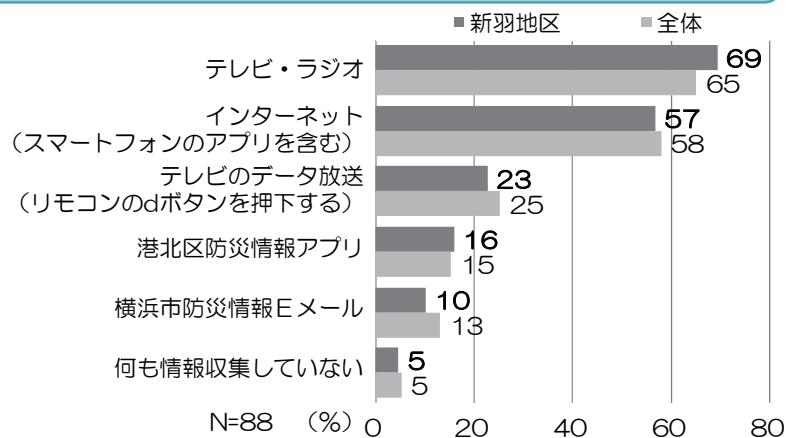


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。

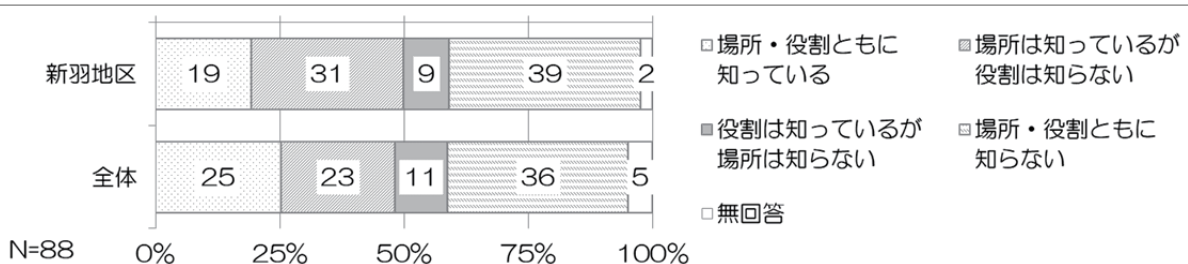


◆避難場所や避難所の役割について (地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※ 地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、2割程度という結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は約4割でした。



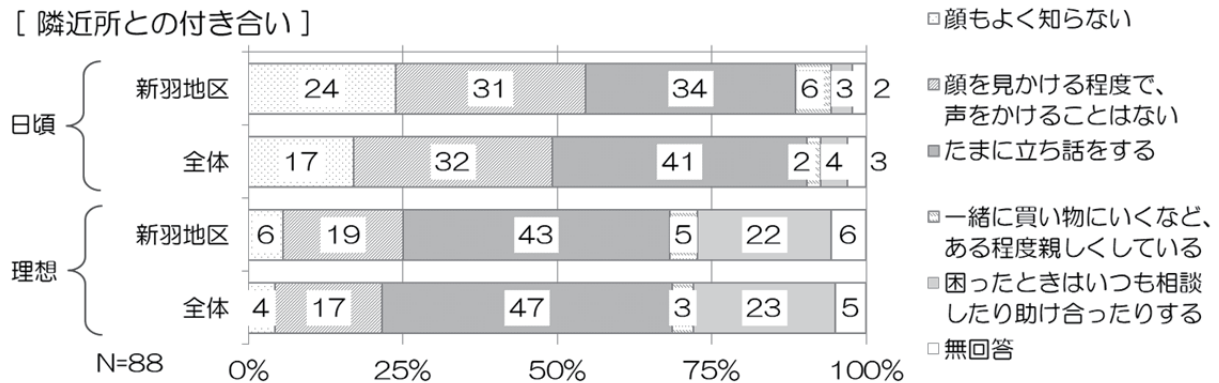
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(〇は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が5割半ば(55%)と、全体集計(49%)よりも多くなっており、区全体と比べると近隣との関係はより薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割半ば、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は2割程度など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

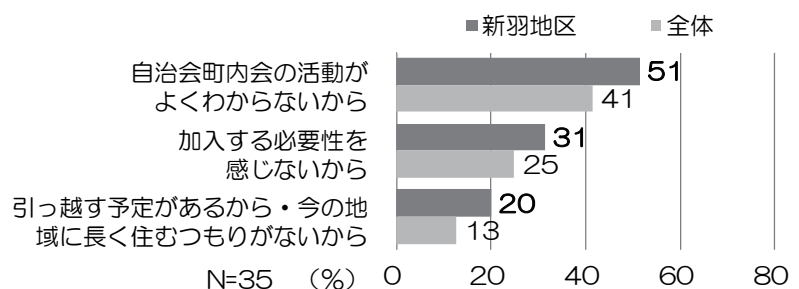
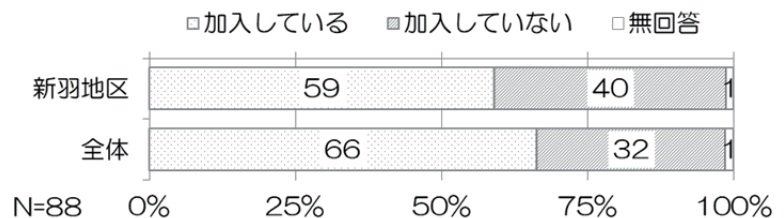
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由<上位3項目>

自治会町内会への加入は6割に留まる

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(〇は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。<自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(〇は3つまで)>

自治会町内会へ加入しているのは59%で、全体集計(66%)と比較すると、割合が少なくなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」が最も多く、「加入する必要性を感じないから」、「引っ越す予定があるから・今の地域に長く住むつもりがないから」が上位となっています。



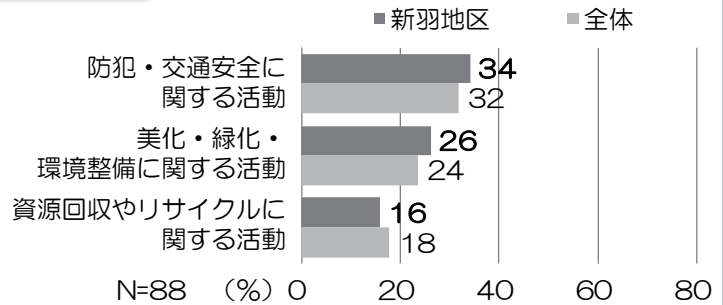
◆**力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉**

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「資源回収やリサイクル」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が3割以上、次いで「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「資源回収やリサイクルに関する活動」が上位の項目となっています。



◆**高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉**

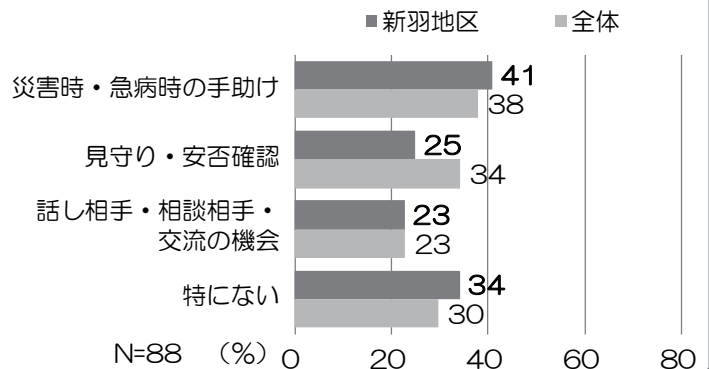
※「特にない」の回答は除く

回答者の6割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」が約4割、次いで「見守り・安否確認」、「話し相手・相談相手・交流の機会」が上位の項目となっています。「見守り・安否確認」(25%)は、全体集計と比べて少ない傾向ではありますが、上位です。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができていますか。(〇はいくつでも)

なお、「特にない」と回答したのは約3割半ばで、6割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

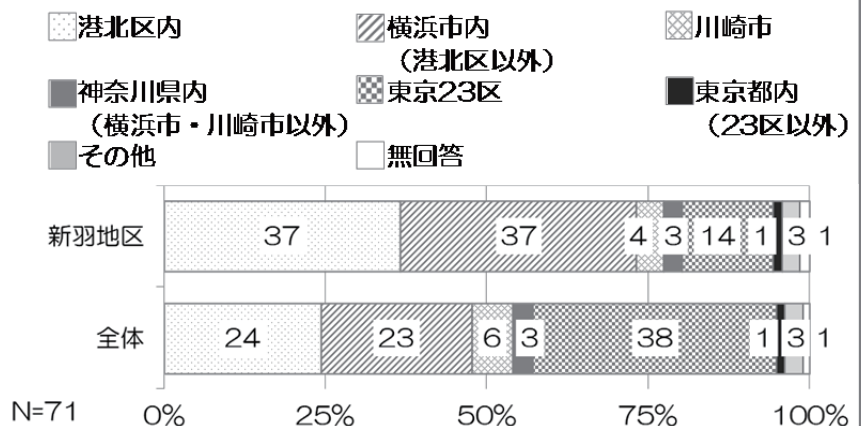


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が7割半ばで、港北区内はそのうち半数の割合となっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が多くなっています。



師岡地区

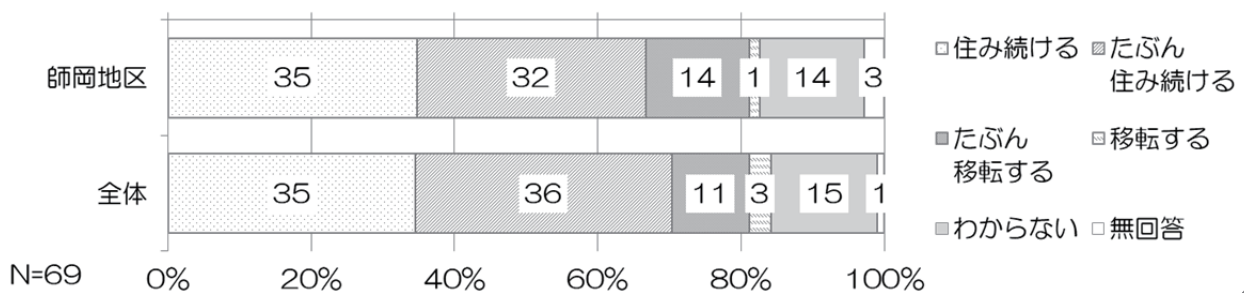
1. 居住意向

港北区に住み続けると思っている方が7割弱

Q:あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っっていますか。(○は1つだけ)

地区内の「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割弱で、継続して住み続けた方が多くなっています。全体集計(71%)と比較すると、割合はやや少なくなっています。

このうち、港北区内に住み続けたい理由は、「交通が便利だから」(72%)、「住んでいる場所に愛着を感じているから」(50%)、「買い物に便利だから」(50%)が上位となっています。



2. 市の行政など

交通利便性を重視する人が多い

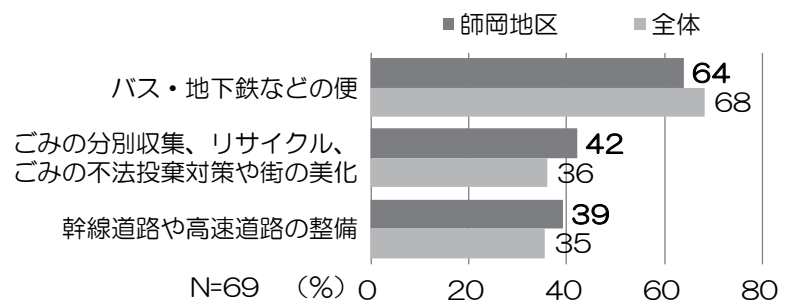
Q:あなたが、満足している公共サービスは何ですか。また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。(全31項目から選択。○はいくつでも)

【満足している公共サービス】は「バス・地下鉄などの便」が64%で最も多くなっています。一方、「最寄り駅周辺の整備」(19%)は全体集計と比較すると9ポイント少なくなっています。

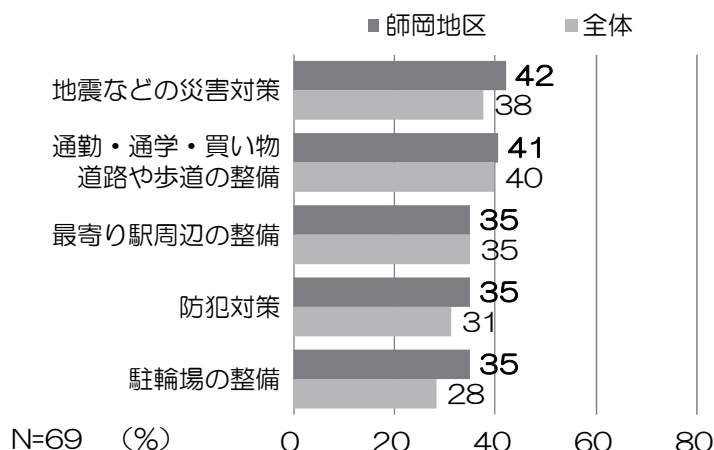
【充実すべきと思う公共サービス】では、「地震などの災害対策」、「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」など防災・交通に関する項目を充実すべきとの声が上がっています。

「バス・地下鉄などの便」(23%)は、全体集計と比較すると8ポイント多くなっています。

【満足している公共サービス】 <上位3項目>



【充実すべきと思う公共サービス】 <上位5項目>



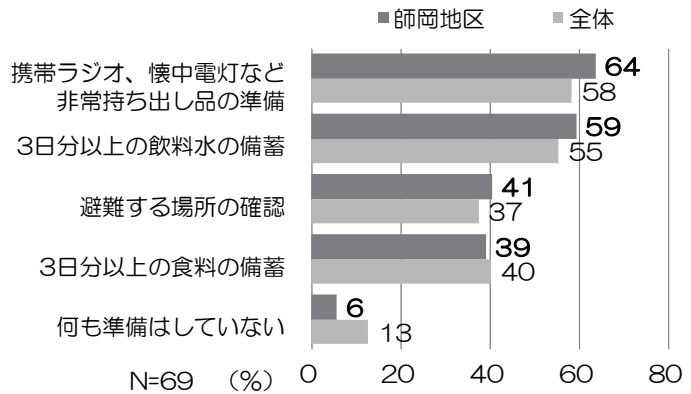
3. 災害対策

◆地震があった場合に備えた準備〈上位4項目〉

在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

Q:あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(〇はいくつでも)

地震があった場合の備えとしては、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」は6割半ば、「3日分以上の飲料水の備蓄」は約6割、「避難する場所の確認」などが約4割となり、全体集計と比べ多いですが、在宅避難に必要な飲料水や食料について、4割程度の方の備蓄が完全でないと言えます。

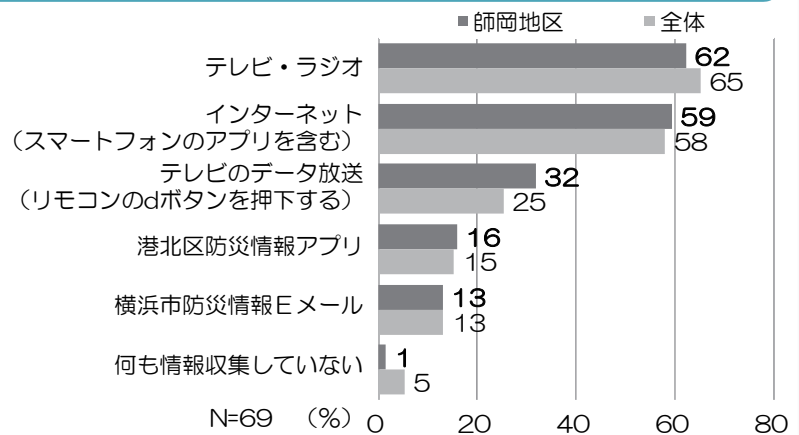


◆台風接近時などの防災気象情報、避難情報の集め方

「テレビ・ラジオ」、「インターネット」の回答が多く、他項目を大きく上回る結果に

Q:あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。(〇はいくつでも)

気象情報や避難情報などの主な入手元は「テレビ・ラジオ」「インターネット」が上位となっています。
「港北区防災情報アプリ」と「横浜市防災情報Eメール」は、2割に満たない結果となっています。

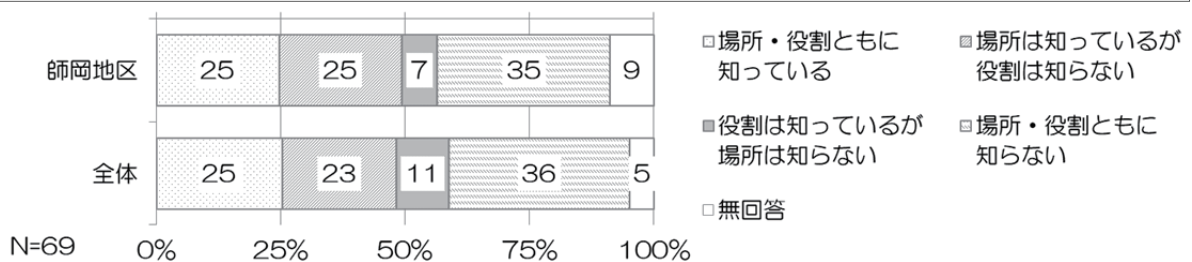


◆避難場所や避難所の役割について(地域防災拠点)

Q:あなたは、地域防災拠点(指定避難所)の場所や役割を知っていますか。(〇は1つだけ)

※地域防災拠点(指定避難所):一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

地域防災拠点について、「場所」の認知は半数、「役割」まで知っている方は、2割半ばという結果になっています。「場所・役割ともに知らない」は3割半ばでした。



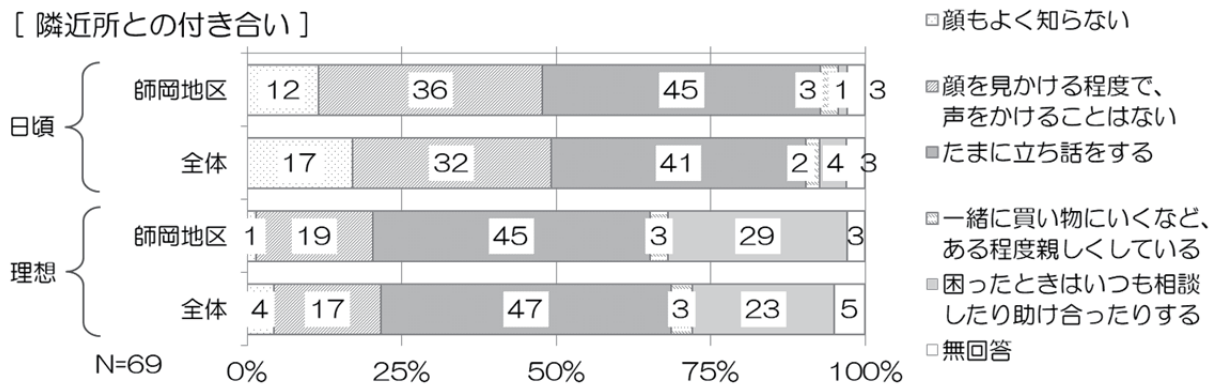
4. 地域活動

◆日頃・理想の近所付き合い

「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れてきている

Q:あなたは日頃、隣近所の方どのような付き合い方をしていますか。また、あなたは今後の理想として、隣近所の方どのような付き合い方をしていきたいと思いませんか。(○は1つだけ)

[隣近所との付き合い]



日頃の付き合い方は、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計が半数程度（48%）と、全体集計（49%）とほぼ同率となっており、区全体の結果と同様、近隣との関係は薄れてきていると言えます。

理想の付き合い方では、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は2割、「困ったときはいつも相談したり助け合ったりする」は約3割など、日ごろの付き合い方との差がある結果となっています。

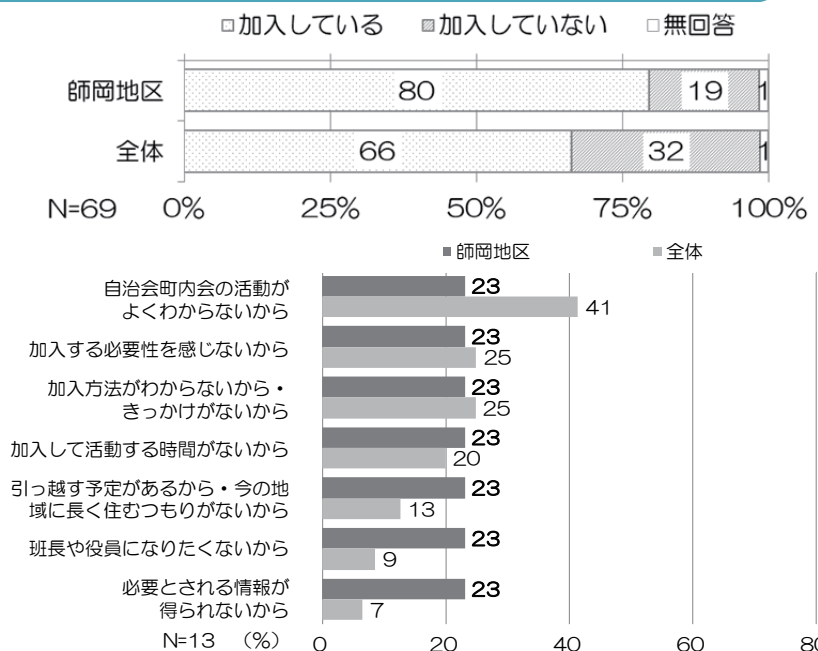
◆自治会町内会加入状況、加入していない理由〈上位7項目〉

自治会町内会への加入は8割

Q:あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(○は1つだけ)また、自治会町内会に加入していない理由は何ですか。〈自治会町内会に「2加入していない」と回答した方(○は3つまで)〉

自治会町内会へ加入しているのは80%で、全体集計（66%）と比較すると、割合が多くなっています。

自治会町内会に加入しない理由をみると、「自治会町内会の活動がよくわからないから」、「加入する必要性を感じないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」、「加入方法がわからないから・きっかけがないから」など同率で様々な理由が挙げられています。



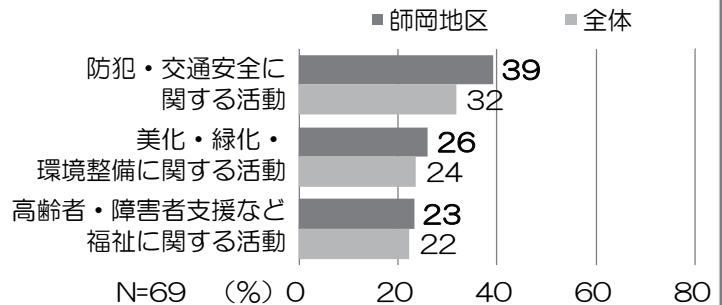
◆力を入れてほしい地域活動〈上位3項目〉

※「特にない」の回答は除く

「防犯・交通安全」、「美化・緑化・環境整備」、
「高齢者・障害者支援など福祉」が上位3項目

Q: 今後、あなたが、お住まいの地域(自治会町内会等)で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。(〇はいくつでも)

地域で力を入れて欲しい地域活動は、「防犯・交通安全に関する活動」が約4割、「美化・緑化・環境整備に関する活動」、「高齢者・障害者支援など福祉に関する活動」が2割以上で上位の項目となっています。



◆高齢者など困っている方への支援〈上位3項目〉

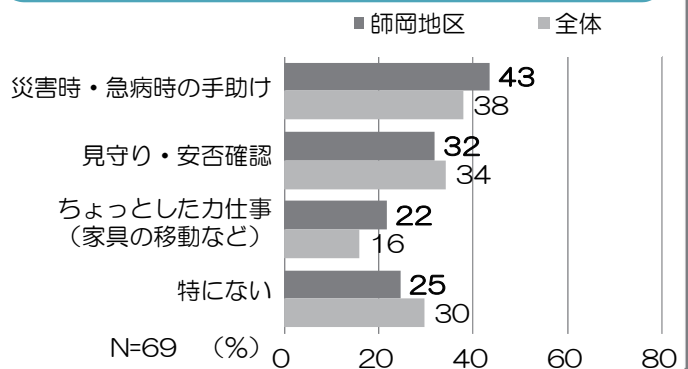
※「特にない」の回答は除く

回答者の7割半ばの人が『してあげられる支援あり』と回答

日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して自分が支援できることは、「災害時・急病時の手助け」が4割以上、「見守り・安否確認」が3割以上、次いで「ちょっとした力仕事」が上位の項目となっています。「災害時・急病時の手助け」(43%)と「ちょっとした力仕事」(22%)は、全体集計と比べて多くなっています。

Q: 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、あなたは、どのような支援ができるとおもいますか。(〇はいくつでも)

なお、「特にない」と回答したのは2割半ばで、7割半ばの方が何かしらの『してあげられる支援あり』と回答しています。

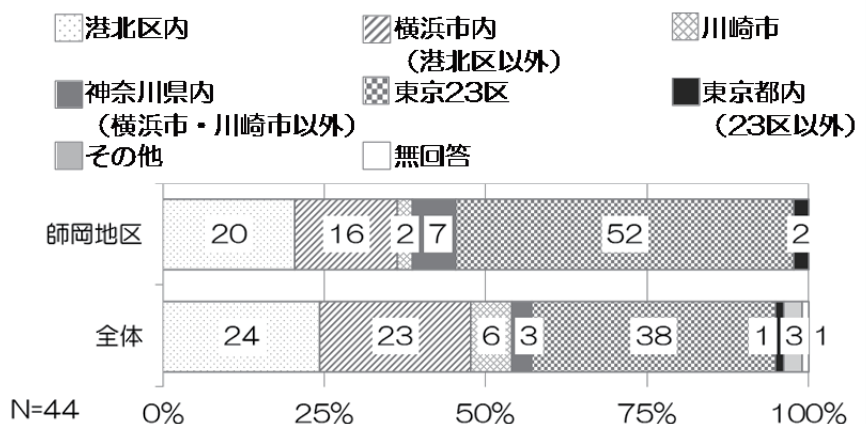


5. 通勤・通学場所

Q: あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。(〇は1つだけ) <ご職業を、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかで回答した方>

主な通勤・通学場所は、横浜市内が3割半ばで、港北区内はそのうち5割半ばとなっています。

全体集計と比べると、横浜市内への通勤・通学が少なくなっています。



5. 調査票

令和2年度港北区区民意識調査

調査へのご協力をお願い

日頃から港北区政の推進にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、港北区では、4年に一度、区民の皆様に対して、港北のまちや区政に対する意識などをおうかがいし、今後の区役所の運営に役立てるため調査を実施しています。

本調査票は、区内にお住まいの18歳以上の方から無作為に選んだ3,000人の方に送付されています。お答えいただいた内容は統計的に処理し、個人が特定されることはありませんのでご安心ください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年5月

港北区長 栗田 るみ

調査票のご回答にあたって

- 1 調査をお願いしたご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。ご本人による回答が難しい場合は、ご家族などがご本人の意志を反映してご記入くださるようお願いいたします。
- 2 回答方法については、郵送かインターネットのいずれか1つをお選びください。

インターネットで回答する場合

下記のホームページからパソコン・スマートフォン・携帯電話で回答することができます。

ご回答の際、下記の整理番号の入力が必要です。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/kusei/tokei/ishiki/r02.html>



整理番号：

※この整理番号は、郵便とインターネットで同一人による二重回答を防ぐための番号です。

どの方にもどの整理番号の調査票を送ったかは一切記録しておりませんので、区役所がこの番号から回答者個人を特定することはできないようになっています。

郵送で回答する場合

ご記入いただいた調査票を同封の返信用封筒にてご返送ください。（切手は不要です。）

調査票や返信用封筒に、ご住所やお名前をご記入いただく必要はありません。

- 3 集計完了後、調査票は安全な方法で全て廃棄処分いたします。
調査結果は、令和2年9月以降に港北区ホームページで公開いたします。

回答期限：令和2年6月17日（水）必着（インターネットは同日23時59分までに送信）



©横浜市港北区ミズキー

【本調査に関するお問い合わせ先】

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町26-1
港北区役所区政推進課企画調整係 担当：田村・矢野
電話：045-540-2229 FAX：045-540-2209

■まず、今のお住まいの様子についておうかがいします。

問1 あなたは、港北区内に何年くらいお住まいですか。(○は1つだけ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 0～2年未満 | 5 20年以上～30年未満 |
| 2 2年以上～5年未満 | 6 30年以上～40年未満 |
| 3 5年以上～10年未満 | 7 40年以上 |
| 4 10年以上～20年未満 | |

問2 あなたは、これからもずっと港北区内に住み続けようと思っていますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|------------|-----------|---------|
| 1 住み続ける | 3 たぶん移転する | 5 わからない |
| 2 たぶん住み続ける | 4 移転する | |

<問2で「1 住み続ける」「2 たぶん住み続ける」とお答えの方におうかがいします。>

問2-1 港北区内に住み続けようと思う理由についてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 住んでいる場所に愛着を感じているから | 7 交通が便利だから |
| 2 地域の間人間関係が良いから | 8 買い物に便利だから |
| 3 治安が良いから | 9 公共施設が充実しているから |
| 4 緑や自然が多いから | 10 病院が近くにあるから |
| 5 街並みなどの景観が良いから | 11 その他(具体的に) |
| 6 子育てや教育環境が良いから | () |

■市の行政などについておうかがいします。

問3-1 あなたが、満足している公共サービスは何ですか。

問3-2 また、あなたが、今後、充実すべきだと思うサービスは何ですか。

以下の1～31の項目の中からそれぞれタテにいくつでも選んで、回答欄の番号に○印をつけてください。

(問3-1、問3-2それぞれ、○はタテにいくつでも)

※「満足はしているが、もっと充実させてほしい」サービスの場合は、両方に○をつけてください。

※問3-1、問3-2それぞれ、右側の回答欄のあてはまる項目の番号を、タテにいくつでもお選びください	問3-1 満足している 公共サービス	問3-2 充実すべきと思う 公共サービス
1 バス・地下鉄などの便	1	1
2 幹線道路や高速道路の整備	2	2
3 通勤・通学・買い物道路や歩道の整備	3	3
4 違法駐車防止や交通安全対策	4	4
5 駐輪場の整備	5	5
6 最寄り駅周辺の整備	6	6
7 観光の振興	7	7
8 商店街の振興	8	8
9 野菜栽培や市民農園などの都市農業の振興	9	9
10 公園の整備	10	10
11 緑の保全と緑化の推進	11	11
12 河川改修と水辺環境の整備	12	12
13 地球温暖化への対策、環境汚染や騒音への対策	13	13
14 ごみの分別収集、リサイクル、ごみの不法投棄対策や街の美化	14	14
15 地震などの災害対策	15	15
16 防犯対策	16	16
17 保育園等の整備や子育て支援、保護を要する児童への援助	17	17
18 学校教育の充実	18	18
19 青少年の健全育成	19	19
20 病院や救急医療など地域医療	20	20
21 高齢者や障害者が移動しやすいまちづくり・環境整備 (駅舎へのエレベーターの設置など)	21	21
22 高齢者福祉サービス	22	22
23 障害者福祉サービス	23	23
24 経済的に困っている人の保護	24	24
25 地区センターやコミュニティハウスなどの整備や 生涯学習・市民活動の振興	25	25
26 区民文化センターの整備や市民文化の振興	26	26
27 図書館・図書の出借取次サービス窓口の整備や読書習慣の推進	27	27
28 スポーツ・レクリエーションの振興や施設の整備	28	28
29 広報や広聴、市民相談、情報公開など市民参加の推進	29	29
30 身近な住民窓口サービス(証明書発行・各種手続きなど)	30	30
31 その他(具体的に：)	31	31

■区役所に関する情報についておうかがいします。

問4 あなたは、区役所に関する情報を主に何から得ていますか。
該当する数字を3つまで記入してください。



--	--	--

- 1 広報よこはま港北区版（毎月発行の区の広報紙）
- 2 市や区のウェブサイト（ホームページ）
- 3 市や区のツイッター
- 4 市や区のメールマガジン
- 5 市や区のスマートフォン等のアプリ
- 6 市が発行しているその他の印刷物（パンフレット、ちらしなど）
- 7 回覧板
- 8 ポスター、掲示板
- 9 タウン情報誌、地域のインターネットメディア
- 10 一般の新聞・テレビ・ラジオ・ウェブサイト
- 11 一般のソーシャルメディア（ツイッター、フェイスブックなど）
- 12 その他（具体的に： _____ ）
- 13 特に情報を得ていない

■地域でのつながり・助け合いなどについておうかがいします。

問5-1 あなたは日頃、隣近所の方とどのような付き合い方をしていますか。

問5-2 あなたは今後の理想として、隣近所の方とどのような付き合い方をしていきたいと思えますか。

（問5-1、問5-2それぞれ、○はヨコに1つずつ）

	顔もよく知らない	顔を見かける程度で、 声をかけることはない	たまに立ち話をする	一緒に買い物にいくなど、 ある程度親しくしている	困ったときはいつも相談 したり助け合ったりする
※問5-1、問5-2ごとに、ヨコに、 あてはまる選択肢の番号1つに○印をつける					
問5-1 日頃の付き合い方	1	2	3	4	5
問5-2 理想として考える付き合い方	1	2	3	4	5

問6 あなたの世帯は、自治会町内会に加入していますか。(○は1つだけ)

1 加入している

2 加入していない

<問6で「2 加入していない」とお答えの方におうかがいします。>

問6-1 自治会町内会に加入していない理由は何ですか。

該当する数字を3つまで記入してください。



--	--	--

- 1 自治会町内会の活動がよくわからないから
- 2 魅力ある活動をしていないから
- 3 必要とされる情報が得られないから
- 4 加入して活動する時間がないから
- 5 加入する必要性を感じないから
- 6 人付き合い・近所付き合いがわずらわしいから
- 7 班長や役員になりたくないから
- 8 加入方法がわからないから・きっかけがないから
- 9 引っ越す予定があるから・今の地域に長く住むつもりがないから
- 10 マンション管理組合など別の組織に加入しているから
- 11 会費を払いたくないから
- 12 現在の自治会町内会の運営に不満があるから
- 13 その他(具体的に： _____)

問7 あなたは、お住まいの地域でどのような活動に参加していますか。(○はいくつでも)

- 1 健康づくりに関する活動
- 2 趣味・教養・スポーツなどのサークル
- 3 お祭りや運動会などのイベント
- 4 防犯・防災・交通安全などの活動
- 5 趣味や特技を活かしたお手伝い
- 6 ごみ拾い・花の手入れなどの清掃・美化活動
- 7 高齢者支援に関すること(ボランティアグループなど)
- 8 障害児者支援に関すること(自主訓練会、余暇支援など)
- 9 子育て支援に関すること(横浜子育てサポートシステムへの協力など)
- 10 その他ボランティア活動
- 11 特に参加していない

問8 今後、あなたが、お住まいの地域（自治会町内会等）で力を入れて欲しいと思う地域活動は何ですか。

（〇はいくつでも）

- 1 住民同士の交流や助け合いの促進に関する活動（親睦会・旅行会などを含む）
- 2 防犯・交通安全に関する活動（防犯パトロールや防犯灯での見守り、交通安全の見守りなど）
- 3 美化・緑化・環境整備に関する活動（道路や公園の清掃、花壇の設置・管理など）
- 4 資源回収やリサイクルに関する活動
- 5 高齢者・障害者支援など福祉に関する活動（サポート・見守り・介護者への支援など）
- 6 子育てや青少年健全育成に関する活動（子供会・教育・保育、青少年への見回り・声掛けなど）
- 7 スポーツや健康増進に関する活動（スポーツ大会・運動教室の開催など）
- 8 芸術文化活動（音楽・演劇・ダンスなど）・伝統芸能の維持保存活動
- 9 地域のイベント（自治会町内会の盆踊りや運動会など）の開催運営
- 10 その他（具体的に： _____）
- 11 特にない

問9 あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで、心配ごとや困っていることがありますか。

以下にあげたことがらについて、心配ごとや困っていることを選択してください。

（〇はいくつでも。「特にない」場合は「12 心配事や困っていることはない」を選択。）

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 自分の病気や老後のこと | 7 失業・倒産や収入減、景気、生活費などの経済的なこと |
| 2 家族の健康や生活上の問題 | 8 近隣からの悪臭・騒音などの環境問題 |
| 3 子どもの保育園や教育のこと | 9 事故や災害のこと |
| 4 子育てのこと | 10 犯罪や防犯のこと |
| 5 仕事や職場のこと | 11 その他の困りごと（具体的に： _____） |
| 6 近所付き合い | 12 心配事や困っていることはない |

問 10-1 日常的に困りごとを感じている高齢者などに対して、
あなたは、どのような支援ができますか。

問 10-2 また、あなた自身が、近所の方から支援してもらいたいことはありますか。

(問 10-1、問 10-2 それぞれ、○はヨコにいくつでも)

※それぞれ「特にない」場合は 「0 (ゼロ)」に○印をつける	特にない	災害時・急病時の手助け	見守り・安否確認	話し相手・相談相手・交流の機会	通院・買い物のお送り・付き添い	ちょっとした力仕事 (家具の移動など)	買い物・ごみ出し・ 草むしり・電球交換など	掃除・洗濯・食事づくり	その他 (具体的に)
問 10-1 自分が支援できること	0	1	2	3	4	5	6	7	8 ()
問 10-2 自分が支援して もらいたいこと	0	1	2	3	4	5	6	7	8 ()

問 11 あなたは、障害のある人が困っているときに、手助けをしたことがありますか。(〇は 1 つだけ)

- 1 ある 2 ない

<問 11 で「1 ある」とお答えの方におうかがいします。>

問 11-1 それはどのような気持ちからでしょうか。(〇はいくつでも)

- 1 身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから
- 2 近所付き合いや親戚付き合いなどで
- 3 困っているときはお互い様という気持ちから
- 4 自分の仕事に関連して
- 5 将来、自分が障害者になるかもしれないから
- 6 障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから
- 7 障害のある人への手助けを求めるキャンペーンなどを見たから
- 8 その他(具体的に：)

<問 11 で「2 ない」とお答えの方におうかがいします。>

問 11-2 なかったのはどうしてでしょうか。(〇はいくつでも)

- 1 自分が何をすればよいかわからなかったから
- 2 どのように接したらよいかわからなかったから
- 3 お節介になるような気がしたから
- 4 専門の人や関係者にまかせた方がよいと思ったから
- 5 自分にとって負担になるような気がしたから
- 6 困っている障害者を見かける機会がなかったから
- 7 その他(具体的に：)
- 8 特に理由はない

■子育てについておうかがいします。

問12 あなたは、地域の子育てにどのような協力をしたことがありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1 地域の子ども向けイベントへの協力 | 5 駅などでベビーカーを持ち上げるなど、場に応じた協力 |
| 2 親の相談にのっている | 6 その他(具体的に:) |
| 3 子どもを預かっている | 7 協力をしたことはない |
| 4 親子に声をかけている | |

問13 あなたは、虐待が疑われる児童に気がついた場合、どのような対応をとりますか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 よこはま子ども虐待ホットラインに連絡する | |
| 2 区役所(福祉保健センター)や児童相談所などに連絡する | |
| 3 警察に連絡する | |
| 4 民生委員や児童委員に連絡する | |
| 5 隣近所や知り合いに相談する | |
| 6 その子に声をかけたり、保護者に声をかけたりする | |
| 7 その他(具体的に:) | |
| 8 どうしてよいかわからない | |
| 9 特に何もしない | |

■学校についておうかがいします。

問14 普段、近隣の学校とどのようなかかわりがありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------------|--|
| 1 お祭りなど地域の行事への参加で | |
| 2 学校行事への参加やクラブ活動の支援で | |
| 3 災害時の避難場所として | |
| 4 地域でのスポーツ活動等の場として | |
| 5 児童生徒の登下校等の見守り活動で | |
| 6 図書や校内の花壇などの環境整備ボランティアとして | |
| 7 児童生徒の課外学習などの交流で | |
| 8 PTAなどへの参画で | |
| 9 その他(具体的に:) | |
| 10 かかわりがない | |

■多文化共生についておうかがいします。

問15 あなたは現在、外国人とどのような交流がありますか。

(外国人の方は、日本人とどのような交流がありますか。)(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 家族、親戚がいる | 5 趣味活動などで交流している |
| 2 友人、知り合いがいる | 6 あいさつを交わしている |
| 3 自治会町内会などの活動をしている | 7 その他(具体的に:) |
| 4 近所付き合いしている | 8 付き合いがない |

■防災についておうかがいします。

問 16 あなたが最も心配だと思う災害や危機は何ですか。(○は1つだけ)

- 1 地震
- 2 風水害
- 3 その他(具体的に:)
- 4 心配な災害や危機はない

問 17 地震についておうかがいします。

あなたは、地震があった場合に備えてどのような準備をしていますか。(○はいくつでも)

- 1 3日分以上の飲料水の備蓄
- 2 3日分以上の食料の備蓄
- 3 3日分以上のトイレパックの備蓄
- 4 携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備
- 5 消火器の準備
- 6 家族との連絡方法の確認
- 7 日用品(医薬品、おむつ等)の準備
- 8 窓ガラスへの飛散防止フィルムの貼付け
- 9 通電火災を防ぐための感震ブレーカー※等の設置
- 10 地域の防災訓練への参加
- 11 避難する場所の確認
- 12 近所で手助けが必要になりそうな人
(自力で避難が困難な高齢者、障害者等)の把握
- 13 その他(具体的に:)
- 14 何も準備はしていない

※感震ブレーカーは、設定値以上の地震発生時に、自動的に電気の供給を遮断するものです。

問 18 風水害についておうかがいします。

あなたは、台風接近時などの防災気象情報、避難情報はどのような方法で情報収集していますか。
(○はいくつでも)

- 1 港北区防災情報アプリ
- 2 テレビのデータ放送(リモコンのdボタンを押下する)
- 3 テレビ・ラジオ
- 4 横浜市防災情報Eメール
- 5 インターネット(スマートフォンのアプリを含む)
- 6 その他(具体的に:)
- 7 何も情報収集していない

問 19 あなたは、次の避難場所や避難所の場所や役割を知っていますか。（それぞれ、○はヨコに1つずつ）

	場所・役割ともに知っている	場所は知っているが役割は知らない	役割は知っているが場所は知らない	場所・役割ともに知らない
いっつき避難場所	1	2	3	4
広域避難場所	1	2	3	4
地域防災拠点 (指定避難所)	1	2	3	4
指定緊急避難場所	1	2	3	4
福祉避難所	1	2	3	4

いっつき避難場所：一時的に避難して様子を見たり、広域避難場所へ避難するために集結する場所

広域避難場所：大地震により発生した火災が拡大した場合、その輻射熱や煙から避難する場所

地域防災拠点（指定避難所）：一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館等

指定緊急避難場所：津波、洪水等による危険が切迫した状況において、緊急に避難する際の避難先

福祉避難所：地域防災拠点や自宅での生活が困難な特別な配慮を必要とする方が避難生活を送る場所

問 20 あなたが、地震や風水害に備えて特に必要だと思う対策は何ですか。

該当する数字を3つまで記入してください。



--	--	--

- 1 各ご家庭での水・食料などの備蓄
- 2 各ご家庭でのトイレパックの備蓄
- 3 各ご家庭での災害時の避難行動計画づくり
- 4 自力で避難することができない人への地域による避難行動の支援
- 5 地域における防災組織（自治会町内会など）の強化
- 6 地域における防災訓練の充実
- 7 避難場所・避難所の増設、収容人員の増加
- 8 避難場所や避難行動の周知・啓発
- 9 避難場所・避難所の環境改善
- 10 緊急時の警報や避難勧告などの伝達手段の充実
- 11 避難場所等におけるペット受入れの充実
- 12 公共交通機関が停止したときの帰宅困難者への対策
- 13 その他（具体的に： _____ ）
- 14 何も必要ない

■健康についておうかがいします。

問21 あなたは、ご自身の健康のために、日頃どのようなことに気をつけていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 ウォーキングを行う | 7 定期的ながん検診を受ける |
| 2 なるべく体を動かしたり運動したりする | 8 定期的に歯科健診を受ける |
| 3 食事に気をつける(飲酒量の調節も含む) | 9 タバコを吸わない、受動喫煙をさける |
| 4 睡眠や休養を十分にとる | 10 その他(具体的に: _____) |
| 5 体重や血圧などをチェックする | 11 特に何も気をつけていない |
| 6 定期的に健康診断を受ける | |

■買い物についておうかがいします。

問22 食料品や日用品など日常的な商品を購入する際、主にどのようなお店を利用していますか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1 身近な個人商店 | 5 コンビニエンスストア |
| 2 大型専門店(ショッピングモール) | 6 宅配 |
| 3 スーパーやドラッグストア | 7 通信販売やオンライン(インターネット)ショップ |
| 4 デパート | 8 その他(具体的に: _____) |

■ペットについておうかがいします。

問23 あなたのご家庭では、ペットを飼っていますか。

また、飼っている場合、どのようなペットを飼っていますか。(〇はいくつでも)

- 1 ペットは飼っていない
- 2 猫
- 3 犬
- 4 その他のペット

<問23で「2 猫」「3 犬」とお答えの方におうかがいします。>

問23-1 次にあげる備えを、日頃から行っていますか。

(1~4 それぞれ、〇はヨコに1つつ)

※1~4 それぞれ、ヨコに、 あてはまる選択肢の番号1つに〇印をつける	している	していない
1 ペットの健康管理(毎年のワクチン・予防接種)	1	2
2 飼い主の明示(名札・首輪の装着、マイクロチップの埋め込み)	1	2
3 災害時の備え(しつけ・備蓄品・持ち出し袋など)	1	2
4 災害時に避難所に同行できない際の預け先(親戚・知人宅など)の確保	1	2

このページからは、お住まいの地域ごとの課題を分析するために必要な情報をおうかがいします。
最後まで必ずご回答くださいますようお願いいたします。

調査結果は統計的に処理されますので、個人が特定されることはありません。

■最後に、あなたご自身についておうかがいします。

次の各項目に関して、該当する番号を選び、○をつけてください。

問24 性別（○は1つだけ）

- 1 男性 2 女性 3 その他

問25 年代（○は1つだけ）

- 1 18・19歳、20歳代 4 50歳代
2 30歳代 5 60歳代
3 40歳代 6 70歳代以上

問26 お住まいの町名（○は1つだけ）

- 1 大倉山 7 新吉田町・新吉田東
2 大曽根・大曽根台 8 高田町・高田東・高田西
3 菊名1丁目～3丁目・篠原町・篠原台町・
 篠原東・篠原西町・仲手原・富士塚 9 樽町
4 菊名4丁目～7丁目・篠原北・新横浜・
 錦が丘・大豆戸町 10 綱島上町・綱島台・綱島東・綱島西
5 岸根町・小机町・鳥山町 11 新羽町・北新横浜
6 下田町・日吉・日吉本町・箕輪町 12 師岡町
13 港北区外に転出した
 （現在、港北区内に住んでいない）

問27-1 あなたのご職業（○は1つだけ）

- 1 会社員・公務員・団体職員など 5 主婦・主夫
2 自営業・自由業 6 就労などはしていない（無職）
3 パート・アルバイトなど 7 その他（具体的に： ）
4 学生

<問27-1で、「1 会社員・公務員・団体職員など」「2 自営業・自由業」

「3 パート・アルバイトなど」「4 学生」のいずれかにお答えの方におうかがいします。>

問27-2 あなたの主な通勤・通学場所はどこですか。（○は1つだけ）

- 1 港北区内 5 東京23区
2 横浜市内（港北区以外） 6 東京都内（23区以外）
3 川崎市 7 その他（具体的に： ）
4 神奈川県内（横浜市・川崎市以外）

問28 配偶者のご職業（○は1つだけ）

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 会社員・公務員・団体職員など | 5 主婦・主夫 |
| 2 自営業・自由業 | 6 就労などはしていない（無職） |
| 3 パート・アルバイトなど | 7 その他（具体的に： _____ ） |
| 4 学生 | 8 配偶者はいない |

問29 以下のA～Eの各交通手段の利用頻度

（A～Eの交通手段それぞれ、○はヨコに1つずつ）

	使用（ほとんど） しない	月数 回数程度	週 2～3日程度	週 4～5日程度	毎日（ほとんど）
A 電車・地下鉄	1	2	3	4	5
B バス	1	2	3	4	5
C タクシー	1	2	3	4	5
D 自転車	1	2	3	4	5
E 自動車（自家用車）	1	2	3	4	5

問30 あなたが、普段最もよくお使いになる駅（○は1つだけ）

- | | | |
|--------|----------|-------------------------------|
| 1 日吉駅 | 6 白楽駅 | 11 日吉本町駅 |
| 2 綱島駅 | 7 新羽駅 | 12 高田駅 |
| 3 大倉山駅 | 8 北新横浜駅 | 13 東山田駅 |
| 4 菊名駅 | 9 新横浜駅 | 14 小机駅 |
| 5 妙蓮寺駅 | 10 岸根公園駅 | 15 その他（駅名を具体的に）
（ _____ 駅） |

問31 お住まいの形態（○は1つだけ）

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1 持ち家（一戸建て） | 4 賃貸住宅（マンションなどの共同住宅） |
| 2 持ち家（マンションなどの共同住宅） | 5 社宅・寮など |
| 3 賃貸住宅（一戸建て） | 6 その他（具体的に： _____ ） |

問32 世帯構成（同居しているご家族など）（○は1つだけ）

- | | |
|------------|--------------------------|
| 1 ひとり暮らし | 4 祖父母と親と子（3世代） |
| 2 夫婦のみ | 5 その他（具体的に）
（ _____ ） |
| 3 親と子（2世代） | |

問33 あなたのご家庭（同居の方）に、次の方はいらっしゃいますか。（〇はいくつでも）

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 未就学児（保育園児・幼稚園児を除く） | 5 中学生 |
| 2 保育園児 | 6 高校生 |
| 3 幼稚園児 | 7 1～6のいずれもない |
| 4 小学生 | |

問34 あなたご本人も含めて、あなたのご家庭（同居の方）に、次の方はいらっしゃいますか。

（〇はいくつでも）

- 1 要介護状態など支援を必要とする方（18歳未満）
- 2 要介護状態など支援を必要とする方（18歳～64歳）
- 3 要介護状態など支援を必要とする方（65歳以上）
- 4 3以外の65歳以上の高齢者
- 5 1～4のいずれもない

問35 港北区役所に対するご意見・ご提案や、お住まいの地域を良くするためのご意見・ご提案がありましたら、ご自由にご記入ください。（任意）

質問は以上です。ご協力誠にありがとうございました。

令和 2 年度 港北区 区民意識調査報告書

令和 2 年（2020 年）11 月

【発行】

横浜市港北区区政推進課

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町 26-1

TEL 045-540-2229

FAX 045-540-2209

E-MAIL ko-kusei@city.yokohama.jp

【調査委託機関】

山路商事株式会社



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。